

383
12

0^m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{18m} 11 12 13 14 15

始



383

12

伯爵田中光顯閣下題字
高知縣知事柿沼竹雄閣下題字
高知縣史編纂主任中城直正君序
佐川町誌校閱擔任伊藤乘興君序
佐川町誌編纂主任西村龜太郎君

佐川町誌

佐川町自治會發刊

蘇

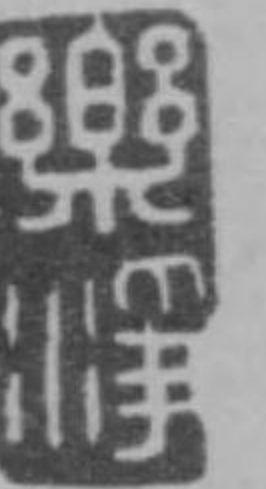
大清宣統元年

正月一日



蘇

稽叢



古今

大正六年九月題

伯壽田中光顯



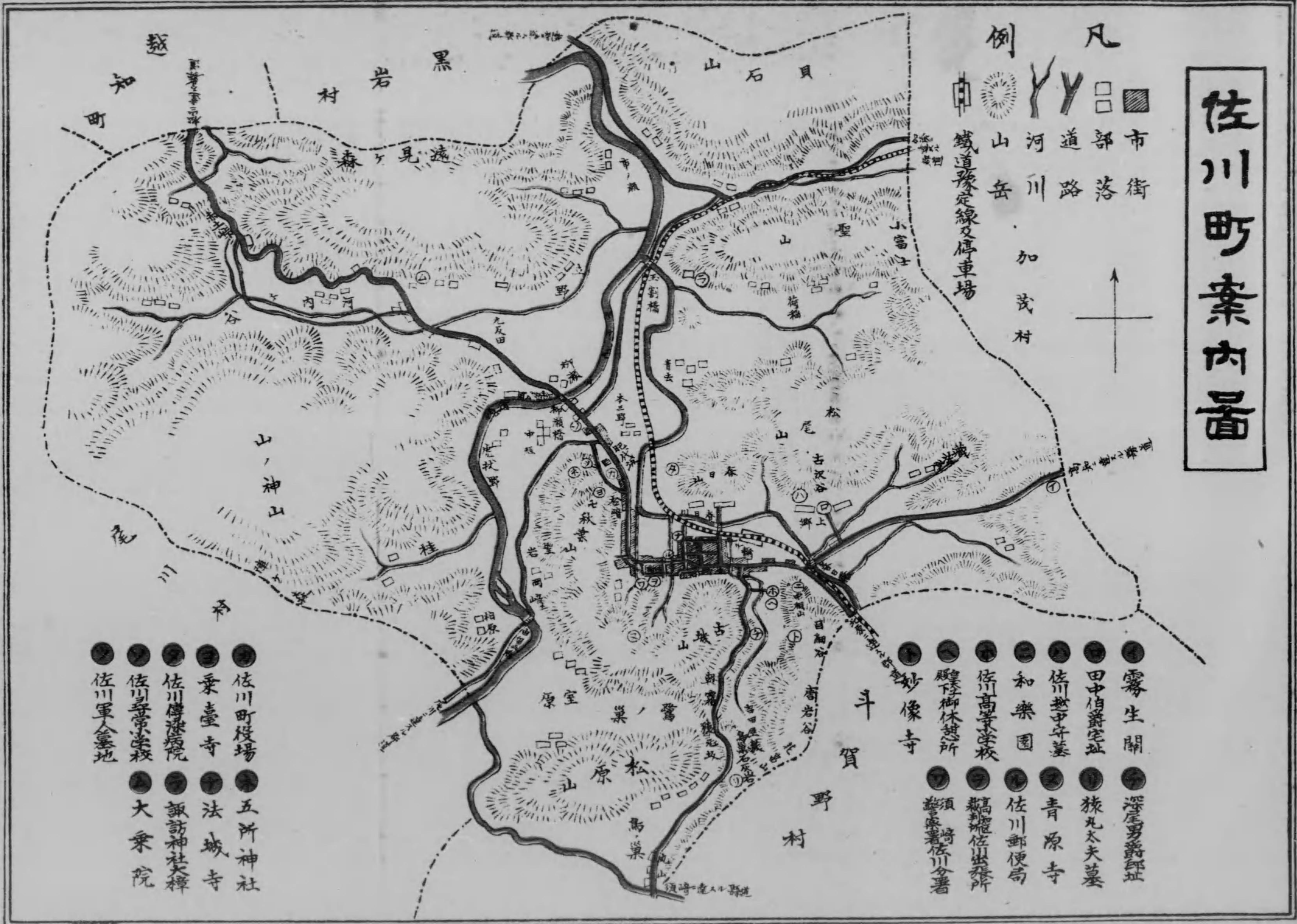
汲古

大正丁巳秋日

竹雄

佐川町案内圖

凡例
 ■ 市街
 □ 部落
 Y Y 道路
 〰 河川
 〇 山岳
 鐵道發定線及停車場
 加茂村



- 依川町役場
- 五所神社
- 乘臺寺
- 法城寺
- 佐川傳澤病院
- 諏訪神社大樟
- 佐川尋常學校
- 大乗院
- 佐川軍人墓地

- 霧生關
- 深尾男爵邸址
- 田中伯爵宅址
- 猿丸大夫墓
- 佐川中寺墓
- 青原寺
- 和樂園
- 佐川郵便局
- 佐川高等學校
- 鶴籠佐川出所
- 磯下御休憩所
- 妙像寺
- 須崎若佐川合著

佐川町市街全景



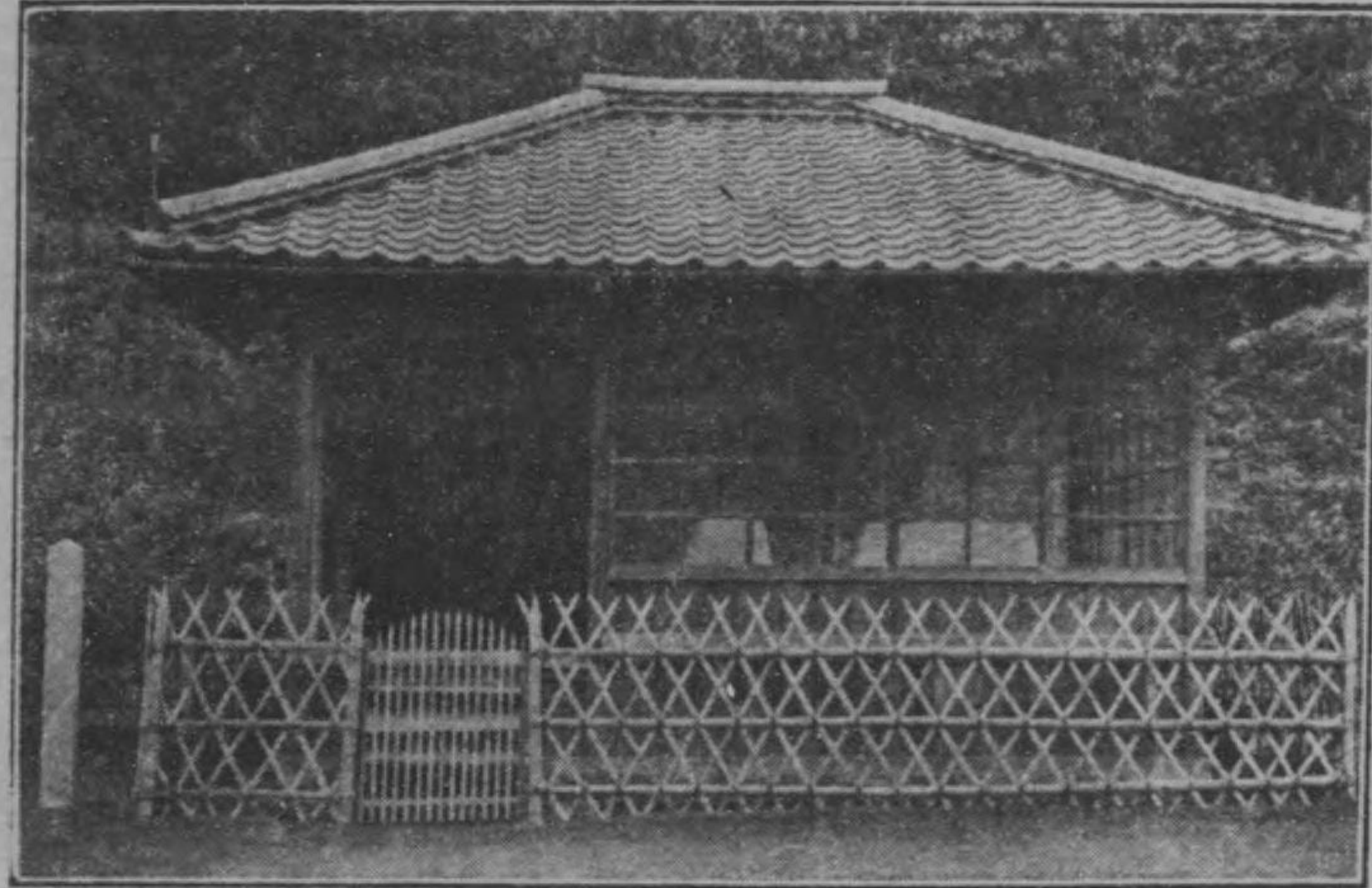
柳瀬公園ヨリ小富士ヲ望ム



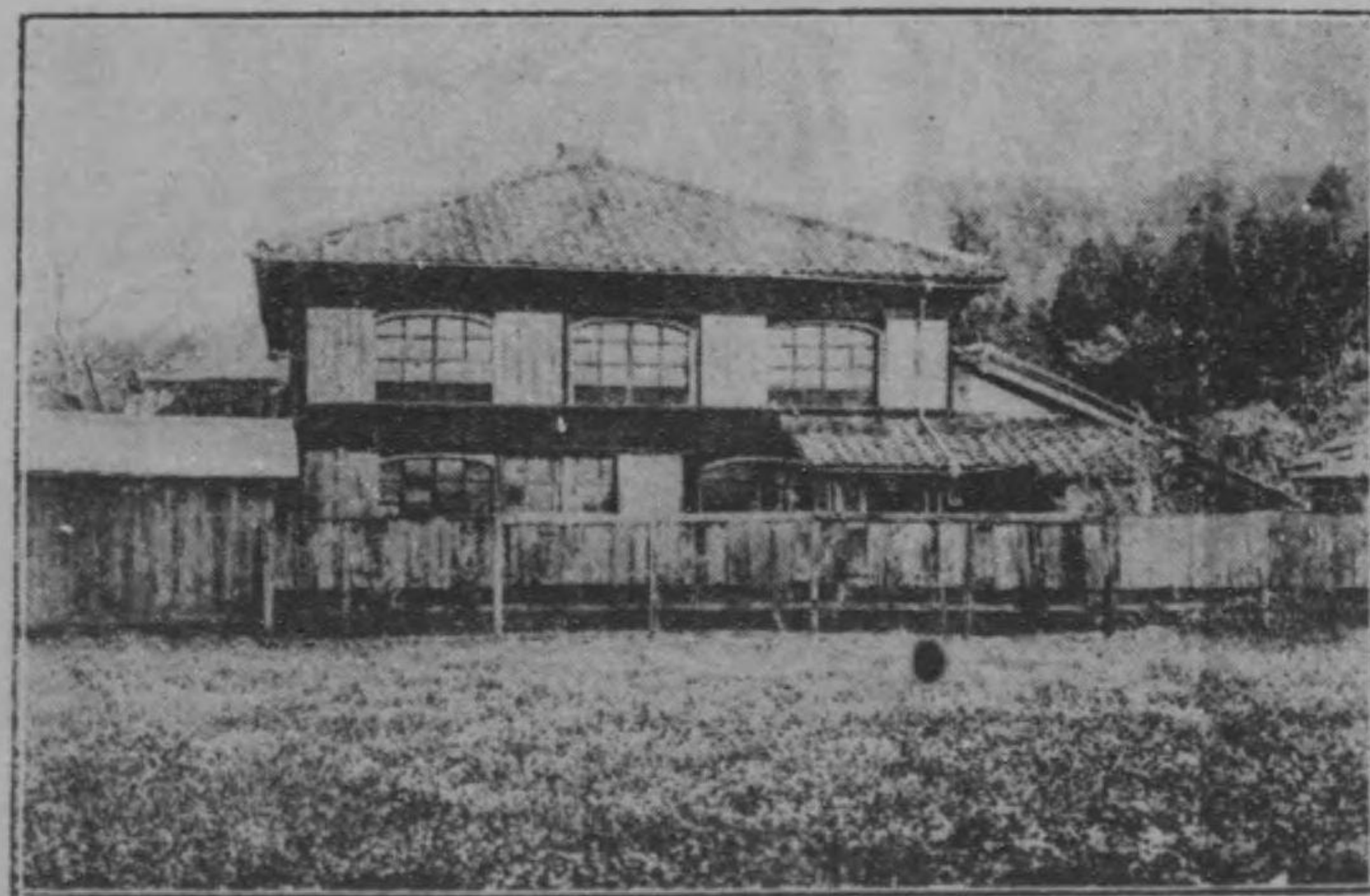
柳瀬公園ヨリ小富士ヲ望ム

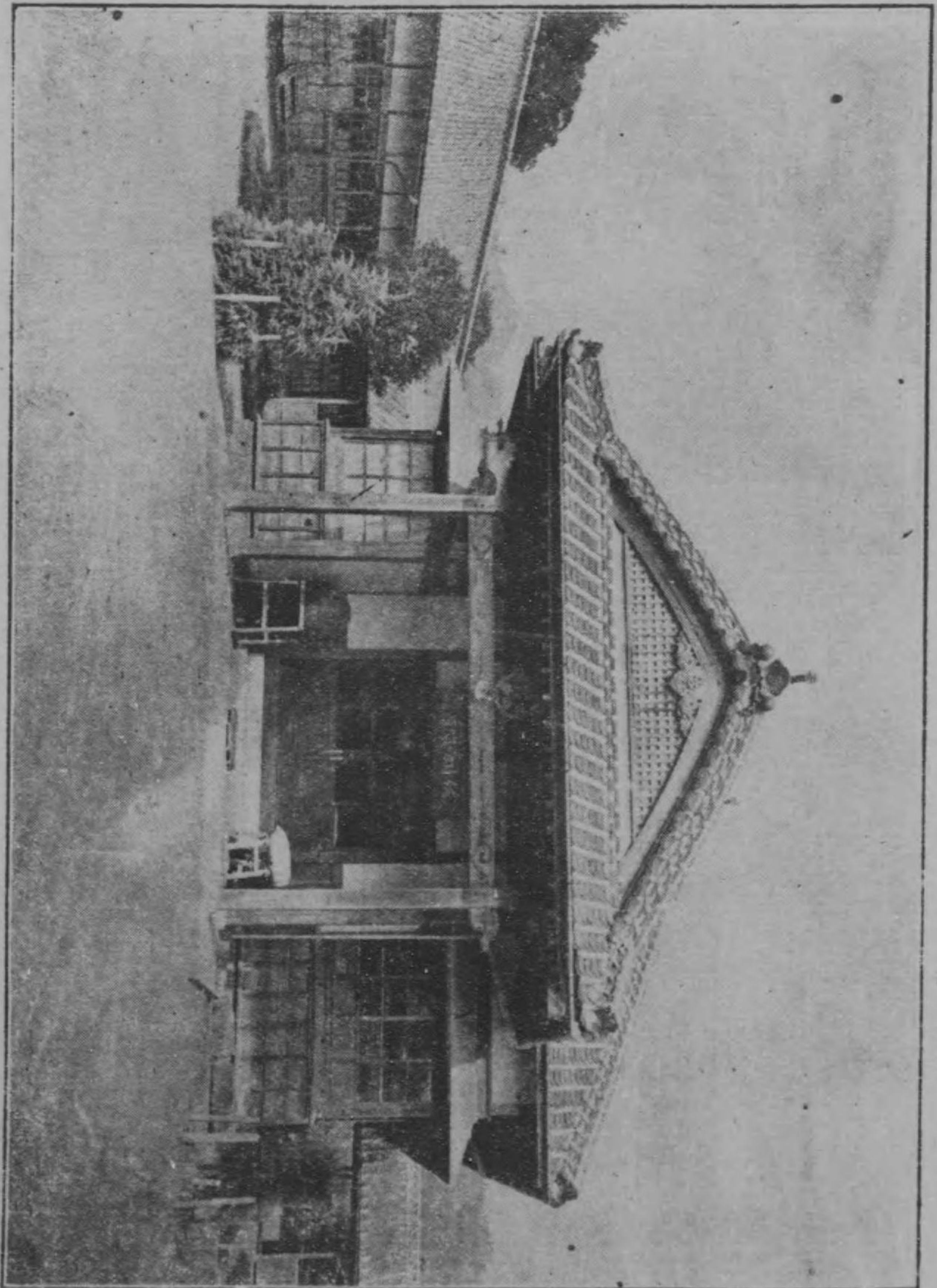
柳瀬公園ヨリ小富士ヲ望ム

行 啓 御 座 所



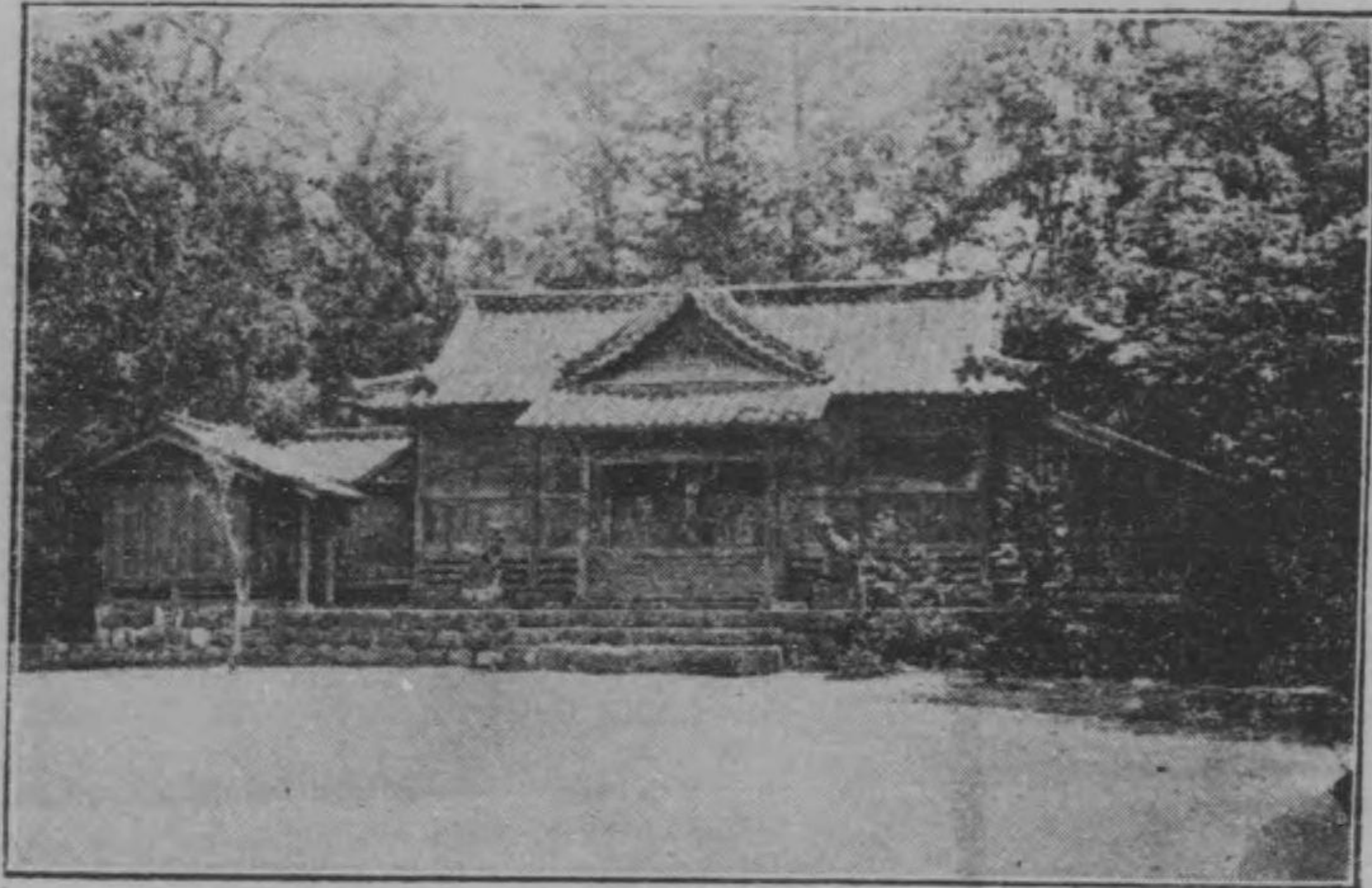
佐 川 町 役 場



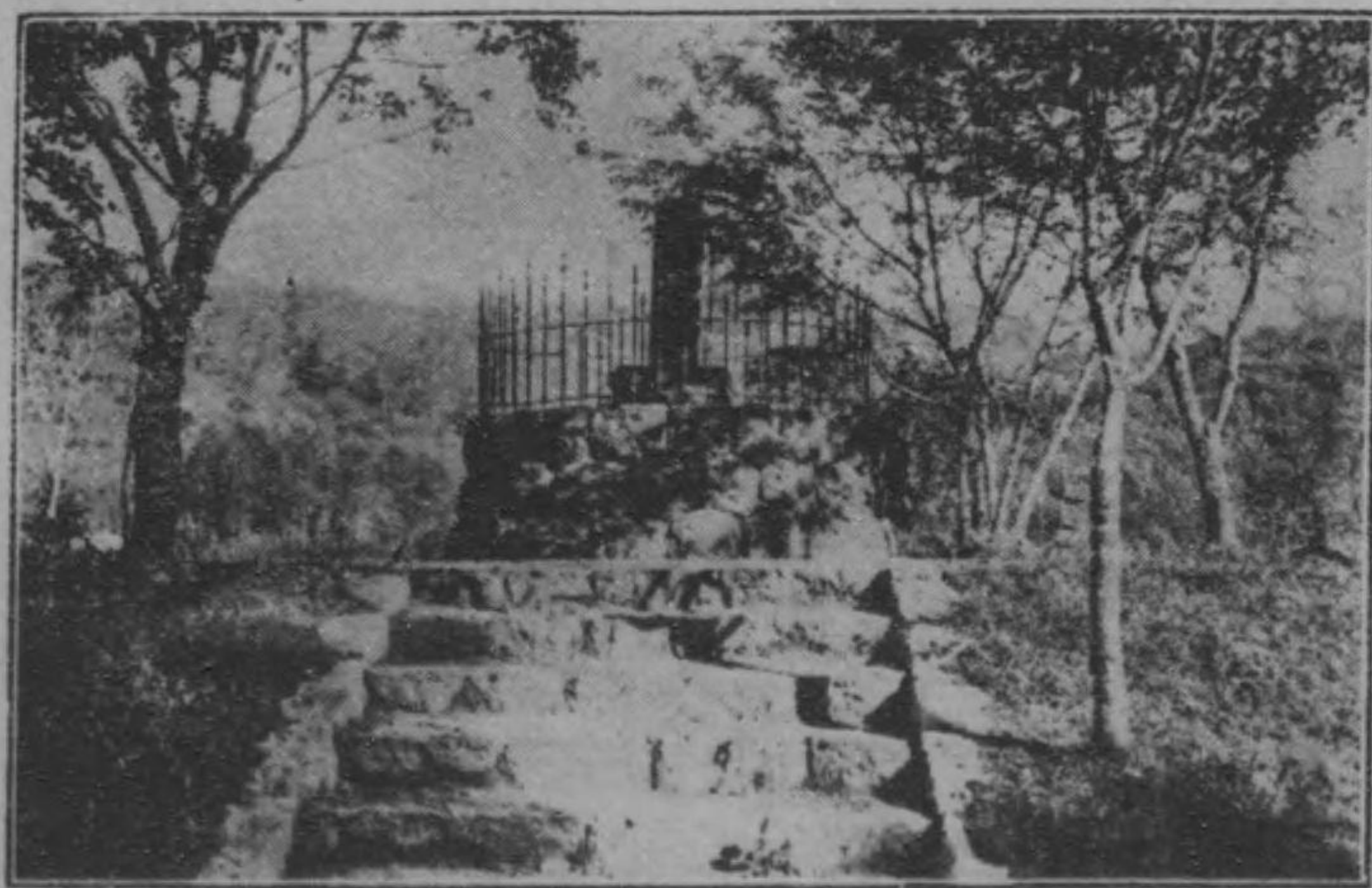


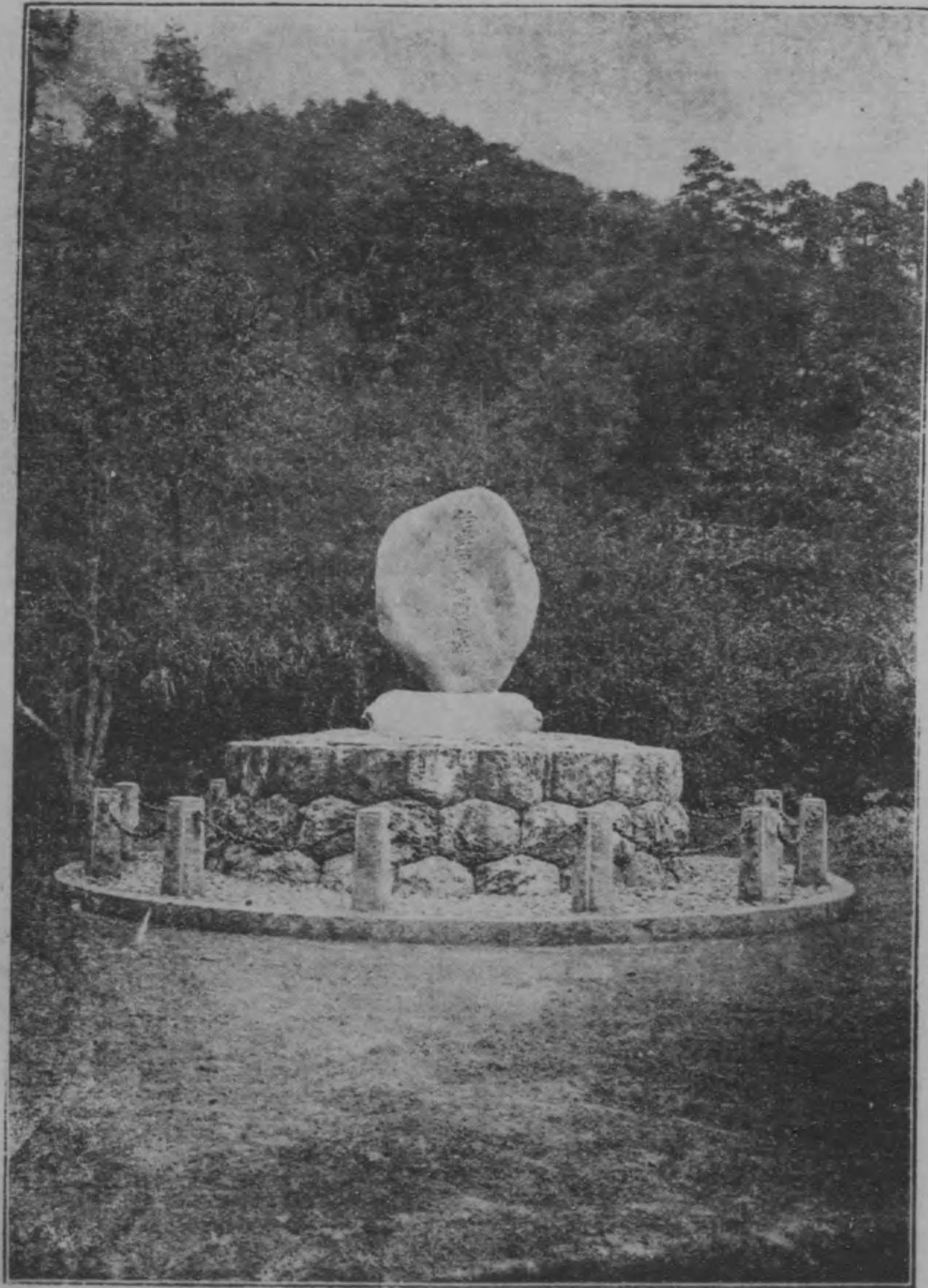
佐川常小學校

郷社五所神社



深尾邸址記念碑

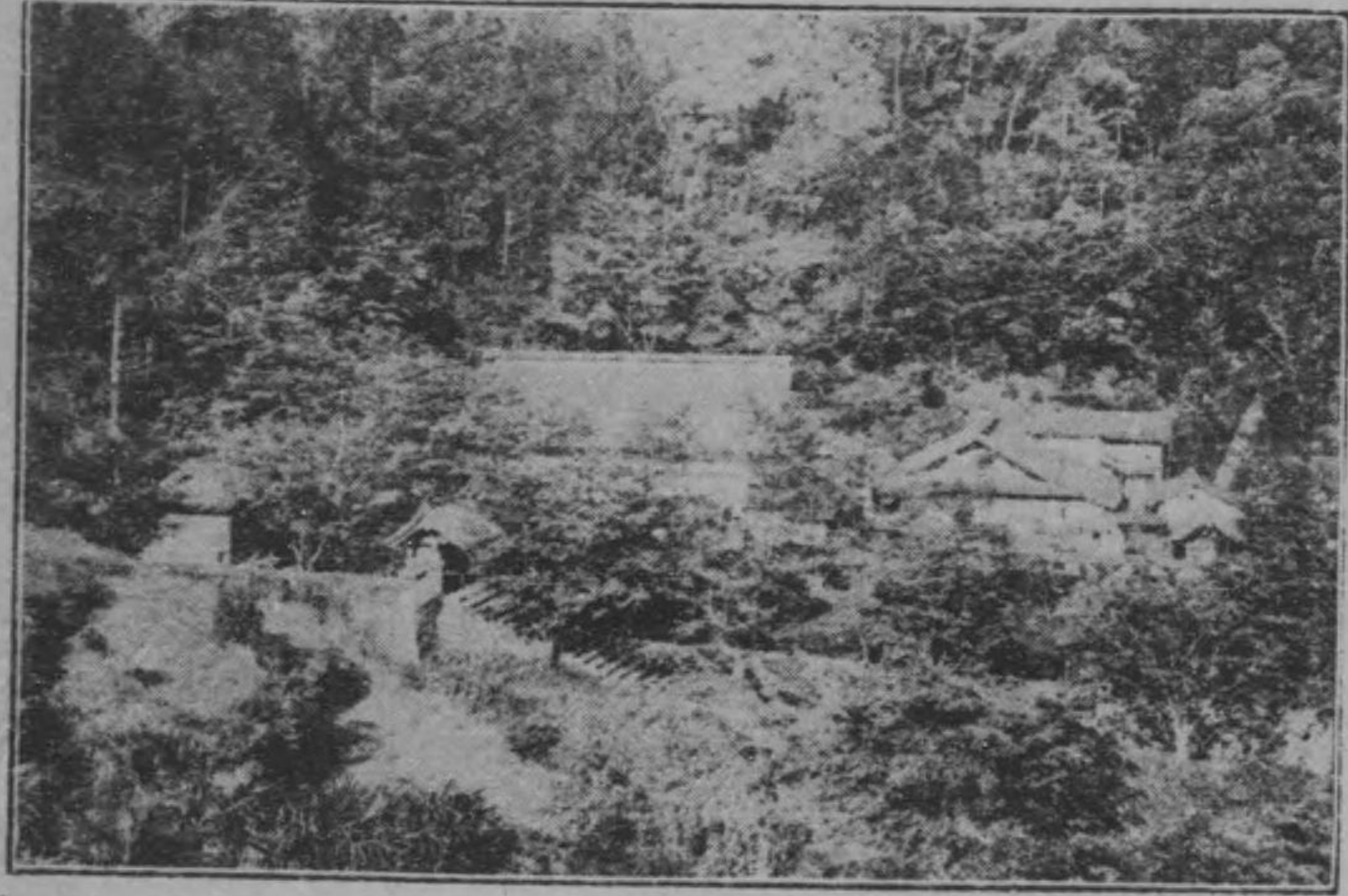




田中伯爵宅址碑



寺 源 青



國寶大乗院藥師如來並脇侍像



序

高城ノ西坦道數里、一邑アリ、佐川ト曰フ。山翠ニ水清ク、

眞ニ小京都ノ名ニ愧チス。而シテ人情淳美、士民恒産アリ

是レ國老泉州君以來、歴世賢宰ノ文ヲ興シ、武ヲ勵マン

積德善政久シキヲ經ルノ餘澤ニ非スヤ。容堂公ノ「溪山正」4

里路相通、到處時々見古風」ノ句洵ニ以アルカナ。宜カリ8

維新ノ際、人材彬々、皇猷ニ獻替シ、從ツテ現代ニ頭角ヲ

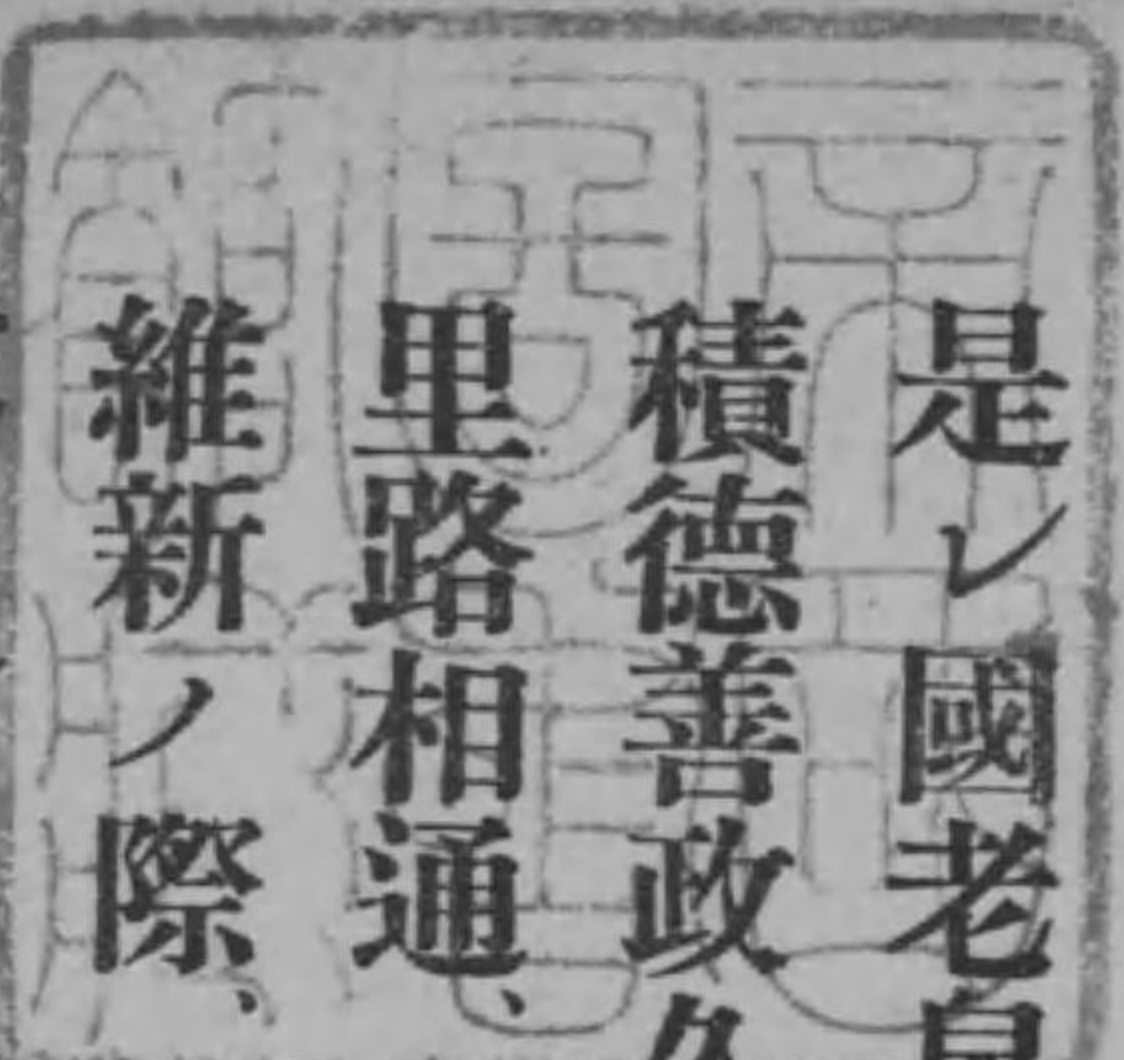
露ハスノ士亦鮮カラサルコト。今ヤ鐵路ノ開通目前ニ迫

リ、文明ノ波濤將ニ澎湃トシテ霧生ノ關門ニ殺到セント

ス。余固ク信ス、佐川人士ノ操守堅確、時弊ニ染マス、克ク

日新ノ一面ニ古風ヲ把持シ、永ク此地ヲシテ名教ノ府々

383-12



溪山正 4
内交

ルニ負カサラシメンコトヲ。佐川町誌編纂ノ舉豈徒爾ナ
ランヤ。余不敏ヲ顧ミス、敢テ所懷ヲ述ヘテ卷頭ヲ汚スト
云爾。

大正六年九月下浣

高知縣史編纂室ニテ

中城直正識

佐川町誌叙

千畦西村子龜、佐川町誌の原稿成れりて、携へ來りて、余が一校を需めらる、余素より郷土歴史、嗜好の癖ありて、往年佐川徵古會雜誌の編せらる、や、佐川教育沿革誌一編を草しぬ、爾後霧生關第廿五、六兩號に涉りて佐川往古歴史に關する愚説をも掲載せり、然りと雖一般に參考に供すへき材料甚寥々たり、先師蘭林翁土佐小史を編し聊か郷土の事にも言ひ及へりと雖、所謂語而不詳の憾あるを免れず、余一篇を草せん欲する事多年、内外多忙未だ其志を果さず茲に大正四年 今上天皇御登極御大典記念事業として郡内各町村誌編纂の計畫あり、此に於て我町は西村子龜専ら其任に當り晝夜鞅掌材料を蒐集し、町内新古百般の事業を網羅して遂に此の盛業完成せり、爾後佐川の山河に對し遺憾なしといふへし、抑明治八年余小學事業に従事し、乏を三野小學校に承く子龜時小學生たり、當時既に萃を群童の間に拔く、余頗る後日の望を屬す、爾來年を追うて進達の境に入り、漢藉を涉獵し、詩歌を修鍊し、其英才同輩中稀に見る所なりき、學就りて吏務に擢んてられ、勤續約二十年治績良好勳等の榮を辱うするに至る、今又此有益の著あり、此に於てか余か此人に對する當初の見の誤らざるを喜ぶものなり、今此稿を検して子龜の功勞を稱歎するの餘遂に往時の概に及へり云爾。

附言 余此稿の卷首を検するに當り、先づ腦裏に浮び來るものは我土佐國上世人民分附の有様なり、各上古史に記するが如く、人民は必ず海濱の地より蕃殖せし事は論

を俟たず、左れば高岡郡に在りては須崎海濱を以て人民蕃殖の起点地と見るへし、當時我佐川近傍は榛莽繁生し、溪流所々其間を横流せる無人境なりしや知るへし、然るに其人民の蕃殖して海濱に溢るゝに至りては、漸々無人境に侵入せざるを得ず、此に於て當時の遠征を企て、或は半山地方に入りしもあらん、或は斗賀野嶺を踰へて北入せしもあらん、其より各所に小聚落を成して、稀疎たる人烟を林樾の梢に見るに至りしならん、斯くして我佐川は人民生息の初幕を開きし事を知らざるへからず、想うて此に至れば、今日電燈の煌々を見、汽車の軋々を聞くに至りしは、天地桑滄の變に愕かざるを得ず、聊か想像の感を記して叙文の後に附す。

大正六年九月一日記於甘泉亭之南軒

錦溪老隱伊藤乘興

緒言

余往年町長ノ職ニ在リシ時既ニ町誌ノ必要ヲ認メ若干ノ町費ヲ投シテ其調査ノ端緒ヲ開キタリシモ兎角複雑ナル資料ニ徴シ編纂ヲ要スルモノナルヲ以テ其進捗ヲ見ル能ハス僅々ノ調査ニ止メ在昔歲月ヲ送リタリ然ルニ大正四年曠古稀有ノ御即位大典ヲ舉行セラル、ニ由リ記念事業トシテ郡ノ補助並町費ヲ以テ町誌ヲ編纂シ地勢住民政治教育殖産工業兵事衛生交通ヨリ人情風俗故人ノ傳記口碑傳説社寺舊蹟歴史ノ沿革等ニ至ル迄悉ク之ヲ網羅シ以テ一冊子ニ纏メ其沿革及現狀ヲ後昆ニ傳ヘントスル計畫アリ余乏ヲ以テ編纂主任ノ囑託ヲ承ケ大正四年六月之ニ着手シ日夜資料ヲ蒐集シ十月ニ至リテ其一部分ヲ起草セシモ尙前途遼遠ニシテ到底四年度ノ經費ヲ以テ完成ヲ期シ難ク爲ニ中止ノ事トナリシカ恰モ是レ九俣ノ功ヲ一篑ニ缺クノ嘆アリ茲ニ於テ本年三月更ニ繼續シテ其調査ニ着手シ前後壹年有餘ノ烏兎ヲ閲シ漸ク其成ヲ得タリ而シテ本誌記載ノ事項中參考資料ノ完全ナルモノハ素ヨリ其正確ヲ記スト雖凡中ニハ其資料ノ亡失シテ記載スルヲ得サルモノ多々アリ是レ其最モ遺憾トスル所ナリ又口碑傳説等ニ由リテ記載シタル事蹟亦尠シトセス故ヲ以テ或ハ事實ト齟齬スル點アルヲ免レスコハ他日大方諸彦ノ斧鉞ヲ加ヘラレ以テ其完備ヲ期スルノ外ナシ且又本誌編纂ニ關シテハ各委員諸氏多大ノ援助ニ依リ斯ノ如ク稿ヲ脱スルヲ得タルハ余ノ深ク感謝スル處ナリ茲ニ一言ヲ叙シ以テ緒言トス

時ニ大正五年丙辰天長節祝日

佐川町誌編纂主任 西村龜太郎誌

附言 本誌ノ記事ハ大正五年六月ヲ以テ筆ヲ止メ直ニ印刷ニ附スル計畫ナリシモ原稿ノ淨寫校閱等ニ意外ノ日子ヲ要シ自然遅延セシヲ以テ更ニ筆ヲ續キ大正六年末迄ノ現狀ヲ記スル事トセリ

佐川町誌編纂委員氏名 (イロハ順)

委員長 堀見 章

委員

伊藤 乘興	西村龜太郎	西田鎌太郎
堀見 熙助	堀見 眞三	小笠原荒水
川田豊太郎	金子丑太郎	川添 亥平
加用 信齋	刈谷 嘉平	田村 貞躬
竹村貞次郎	三宮 正路	水田 虎熊
弘田 流水	廣田 龜壽	森岡八十吉
森 淳太郎	青源寺愚溪	

本誌編纂參考書類

- | | |
|-------------------|----------|
| 一土佐古城傳承記 | 一土佐物語 |
| 一南路誌 | 一土佐古城略史 |
| 一土佐國編年記事略 | 一温故錄 |
| 一佐川徵古會雜誌 | 一霧生關 |
| 一佐川村誌 | 一清良記 |
| 一天正檢地帖 | 一海南ノ譽 |
| 一津野興亡史 | 一土佐勤王史 |
| 一梅の薫 | 一深尾家累代記錄 |
| 一各寺院ノ記錄 | 一神社明細帖 |
| 一各神社堂宇棟札 | 一山内武功 |
| 一長曾我部元親 | 一明治大平記 |
| 一佐川實錄 | 一寺院佛堂明細帖 |
| 一土佐郡書類聚 | 一土佐一覽記 |
| 一佐川町役場保存ノ議事其他重要文書 | |

佐川町誌目錄

第一章 總說	一頁
第一節 位置	一
第二節 沿革ノ大要	一
第二章 區劃	二
第三章 地勢	二
第一節 山林山岳	三
第二節 河流	四
第三節 堰埭溝渠	六
第四節 原野	七
第五節 耕地	七
第六節 宅地	八
第七節 其他雜地	八
第八節 耕地整理	八
第四章 氣象	一〇
第一節 天候	一一
第二節 温度	一二
第三節 雨量	一二
第五章 動植礦物	一三
第一節 動物	一三

第二節 植物	一三
第三節 礦物	一四
第六章 戶籍	一五
第一節 住民戶籍沿革ノ大要	一五
第二節 戶籍諸統計	二二
第七章 政治	二八
第一節 佐川町政治推移ノ狀態	二八
第二節 町治機關	七〇
第三節 諸官衙公署	九八
第八章 教育	一〇一
第一節 佐川町教育沿革	一〇一
第二節 小學教育 <small>(佐川三野松崎各小學校)</small>	一〇五
第三節 學校組合 高等小學校	一一五
第四節 實業教育	一三七
第五節 其他ノ教化	一四七
第九章 兵事	一五六
第一節 兵事沿革	一五六
第二節 戰時ノ事績	一五七
第三節 兵事ニ關スル諸會及兵員	一八三

第十章 警備	一八八
第十一章 衛生	一九〇
第一節 衛生機關	一九〇
第二節 傳染病及其豫防	一九五
第三節 地方病及其他	二〇〇
第四節 墓地管理ノ狀況	二〇一
第十二章 慈善	二〇一
第一節 赤十字社	二〇一
第二節 愛國婦人會	二〇三
第三節 其他救恤事業	二〇三
第十三章 産業及生産	二〇六
第一節 農業	二〇六
第二節 工業	二一九
第三節 商業	二二六
第四節 林業	二二九
第五節 水産業	二三〇
第六節 産業機關及團練	二三〇
第十四章 經濟	二三七
第一節 公經濟	二三七
第二節 私經濟	二四九

第十五章 交通	二五五
第一節 交通機關	二五五
第二節 鐵道	二六四
第三節 通信機關	二六九
第四節 距離	二七一
第十六章 宗教	二七三
第一節 宗教ノ種類	二七三
第二節 宗教ニ關スル諸會	二七三
第十七章 風俗	二七四
第一節 衣食住	二七四
第二節 冠婚葬祭	二七六
第三節 勞働習慣及一般休業制度	二七九
第四節 方言	二八三
第五節 童話歌謠	二八三
第十八章 社寺及名勝舊蹟	二八五
第一節 神社	二八五
第二節 寺院廢寺	三一〇
第三節 佛堂	三一七
第四節 名勝舊蹟	三一九
第十九章 人物	三二九

第一節 故人	三二九
第二節 孝子節婦	三四四
第三節 當町出身現存者	三四五
第二十章 口碑傳説及古文書	三四七
第一節 口碑傳説	三四七
第二節 古文書	三六二
第二十一章 歴史沿革	三六一
第一節 古代史	三六二
第二節 戰國時代史	三六四
第三節 徳川時代史	三六八
第四節 明治時代及現代史	三九二
第五節 佐川勤王史	四二三
第六節 佐川政黨史	四四一

佐川町誌

第一章 總說

第一節 位置

佐川町ハ北緯二十三度二十分東經百三十七度三十分ニ當リ高知縣高岡郡ノ北部ニ位ス連山四境ヲ圍繞シ土地高燥ニシテ水清ク風光雅致ニ富ミ東南ハ加茂斗賀野ノ二村ニ接シ西北ハ尾川越知黒岩ノ各町村ニ堺ス廣袤約一里中央ハ平坦ニシテ田圃多ク柳瀬川春日川其東西ニ流レ下山ニ於テ會合シ西北ニ向ヒ黒岩村ニ入ル水深カラズト雖モ灌漑最モ便利ナリ

第二節 沿革ノ大要

當町ノ起源及土地開拓等ニ關シテハ別ニ信スベキ記錄傳説ナキヲ以テ之ヲ知ルニ由ナシ古書ニ徵スルニ往古寛仁年間ヨリ佐川氏(又ハ中村氏)ナル者アリテ此地ニ領主タリシ如ク降テ慶長六年深尾重良國老トシテ佐川ニ封セラレタル時山内一豊ヨリ拜受ノ領知御朱印書ニ據ルトキハ佐川三野兩村ノ本田反別三百四十町ニ反五

代貳歩ニシテ尙他ニ新田等アリトスルモ之ヲ現時ノ耕地反別七百十九町九反七畝廿九歩ニ比スレバ僅々二分ノ一内外ナリ此ヲ以テ深尾氏受封ノ當時ニ於テハ住民少ク從テ耕地モ狭少ニシテ開墾ノ餘地多ク山林ノ如キハ殆ンド猪狸ノ巢窟ナリシカラ想像スルニ足ルヘシ國老占居ノ後ハ諸般ノ制度ヲ設ケ商業ノ如キハ領知十村五名ノ内佐川以外ニ於テ之ヲ許サズ故ヲ以テ領内物産ノ集散貨物ノ需用供給ハ悉ク佐川ニ於テ扱ハレ爲ニ商業發展シ國內ニ於ケル屈指ノ都會トナレリ而シテ慶應年間調製ノ町圃ニ徵スルニ商賈戸數ハ東西町ノミニシテ二百五十餘戸之レニ侍町及松崎肥代ノ坂ヲ合スレバ殆ンド五百戸アリ其業体ヲ區別スレバ左ノ如クニシテ實ニ旺盛ヲ極メタリ

酒造 醬油製造 蠟燭製造 燈油製造 吳服 小間物 荒物 陶器 菓子製造 其他雜商店
且又現時ノ東町須崎街道分岐点ヨリ石切坂迄ノ間即土居廓中ノミノ戸數明治初年ニハ三十七戸アリ此外名效館木工塲會所馬見所磐井宮等アリテ加フルニ深尾氏邸第ノ大厦高樓ト軒ヲ並べ碧瓦燦爛タリシモノ今ハ只夢ノ如ク舊來ノ家屋ヲ存スルモノハ結城ノ一家アルノミ

大政維新ノ後明治二年十一月四日深尾國老居ヲ高知ニ轉シ諸般ノ制度忽チ一變シ各地方便利ノ地ニ商業ヲ開始スルニ至リ元來佐川ハ地ノ利ニ乏シク之ガ爲商業ノ不振ヲ來シ家ヲ毀テ他町村ニ轉住スルモノ多ク且深尾家ノ臣タリシ者モ各地ニ退轉シ今日ニ至リテハ市街ノ戸數夥シク減少セリ農家ニ於テハ斯ル影響ナカルベシト雖凡中ニハ深尾家ノ祿ヲ食ミ生計ヲ營ミシモノアリ此等ノ如キハ居ヲ轉セシモノアリテ一般戸數ハ明治初年ニ比シ三百戸以上ノ減少ヲ見ルニ至レリ其他ノ沿革ハ更ニ第廿一章ニ於テ詳述スベシ

第二章 區劃

佐川町ハ舊來本村三野村ノ二村ニ分レ共ニ深尾氏ノ采邑タリ本村ハ内原(上郷)東町西町(東上町西上町)新町新出町古市町新市町等ノ細別アリ)松崎肥代ノ坂ノ五部ニ分レ三野村(舊種ニツ野村)ハ鳥ノ巢鷺ノ巢室原柏原岡崎桂杖野本三野青去荷稻市野瀨立野柳瀨九反田川内ヶ谷ノ十五部ニ分レ東西町松崎肥代ノ坂ハ市街ニ屬シ其他ハ農部ニ屬セリ明治六年十一月九日第九十八號縣達ヲ以テ佐川本村ヲ佐川村ト稱ヘ全八年七月佐

川三野ヲ合併シテ佐川村ト稱シ全三十三年一月十日佐川町ト改稱ス明治廿六年七月戶籍改正ノ際柳瀨本三野ノ一部分ヲ裂キ中組ヲ置キ廿一部落トシ更ニ細別シテ廿五區トセリ其面積左表ノ如シ

佐川町面積表 大正六年四月一日現在

地目	反別	備考	地目	反別	備考
田	三五五九〇	有租地	學校敷地	八五七	免租地
宅地	八七五		社地	三五三	天全
畑	三四三〇		墳墓地	七四四	天全
山林	三三八一〇		隔離病舎敷地	一〇五	天全
原野	七〇八		警察用地	七〇〇	天全
雜地	三八〇		溜池	一一三	天全
池沼	一五	天全	計	10460	1110

備考 宅地ハ反別ニ換算シ計上ス

第三章 地勢

當町ノ地勢ハ一帶ニ南ヨリ北ニ傾斜セルヲ以テ河水悉ク西北ニ流ル昔時佐川ヲ逆川ト稱シタルハ此故ナリト曰フ

地質 佐川ハ地質學者ノ所謂佐川盆窪地ノ西端部ヲ占メ秩父古生層上部ニ屬スル紡錘蟲石灰岩ヲ夾メル砂岩粘板岩及石英岩ト三疊紀及白堊紀化石ヲ含メル砂岩頁岩及石英岩ト互層シテ頗ル複雜ナル地質ヲ呈シ而シテ各種ノ動植物化石ヲ産シ本縣ニ於テハ長岡郡領石地方ト共ニ東西相對シテ斯學者ノ最モ注意ヲ惹キ興趣ヲ感スル所ナリ故ニ苟モ本邦ノ地質ヲ研究スル者ニシテ我佐川ノ地名ヲ知ラザルナシ又知名ノ學者ニシテ採取旅行ノ爲ニ我地方ニ足跡ヲ印セザル者蓋シ稀ナリトス隨テ東京東北兩帝國大學及農商務省地質調査所等ニ於ケル各種ノ報文並内外ノ斯學雜誌中我地方ノ地質ニ關係ヲ有スルモノニシテ公ニセラレタルモノ實ニ枚舉ニ遑アラザルナリ故ニ地質學者間ニ於テ白堊紀岩層中領石統ナル名稱ノ公認セラルト共ニ我地方所産ノ石灰岩ヲ標準トシテ鳥ノ巢石灰岩ナル名稱ノ廣ク斯學界ニ用ヒラルニ至リシコト又宜ナリト謂フベシ尙町内各地ニ産スル所ノ化石ノ種類名稱等ハ更ニ第五章ニ詳述ス土壤 當町耕地土壤ノ概況左表ノ如シ

部落大別	表	土	心	土	耕土	深淺
上	郷	粘質壤土	粘質礫交土	三	寸	

第一節 山林山岳

當町ハ四境皆山ナレドモ高峰ナク其最高キモ二百五十米突以内ナリ其中ニテ稍名アルモノ左ノ諸山ナリ一古城山 町ノ東南ニ在リ高サ二百一十米突其山脈蜿蜒シテ南ハ猿九坂ニ連リ山麓ハ市街及室岡崎等ニ至テ

鳥ノ巢	粘質壤土	粘土	三寸
室原	砂質壤土	礫砂土	三寸
柏原	砂質壤土	礫砂土	二寸五分
岡崎	砂壤土	礫質壤土	三寸
桂野	砂質壤土	礫砂土	二寸五分
虎杖野	砂質壤土	礫砂土	二寸五分
本三野	黑色壤土	礫質壤土	三寸五分
青去	粘質壤土	粘土及砂土	三寸五分
荷稻	粘質壤土	粘土及砂土	三寸
下山	砂壤土	礫	三寸
市野瀨	砂質壤土	礫	三寸
柳瀨	壤土	砂壤土	三寸
九反田	砂壤土	礫壤土	二寸五分
川内ヶ谷	壤土	礫土	二寸五分

盡ク此山ハ昔天正ノ頃久武内藏助親直ノ居城ヲ築キシ所ナリ

二松尾山 町ノ東方ニアリ高サ百九十米突其山脈東ニ連リテ加茂村ニ接シ北ニ遠テ小富士山ニ亘ル此地ハ往昔佐川越中守中村越前守等ノ築城セシ所ナリ(南北朝ノ頃佐川四郎左衛門入道ノ居城丸山城ハ或ハ此地ニアラザルカ存疑ノ点アリ)

三小富士山 町ノ東北ニ位シ東ハ加茂村ニ跨リ其山脈西ニ延ビテ下山ニ連ル其形富士山ニ似タリ山麓ハ荷稻部落ニシテ世人稱シテ荷稻ノ小富士ト曰フ其高サ二百十五米突ナリ

四貝石山(紫雲山又ハ紫氣ヶ峰) 町ノ東北隅ニ在リテ加茂黒岩ノ二村ニ跨リ西南麓ハ柳瀬川ニ瞰ム高サ二百米突山上ニ貝類及植物ノ化石アリ故ニ此稱アリ

以上山岳ノ主ナル者ニシテ其他鳥ノ巢ニ松原山桂々山ノ神山アリ西北隅越知尾川ニ境シテ三方山アリ北端ニ遠見ヶ森(鶯ヶ森トモ曰フ)等アリ

山林ハ明治八年ノ調査ニ於テ其反別二百四十八町二反二畝十三歩アリ大正六年調ニテ三百十四町四反一畝歩ニシテ大ニ増加セルハ明治十八年共有山ノ整理ヲナシ

之ヲ分當シテ各個人有ト爲シタル結果丈量ノ精査ニ因ルモノナリ

林況ハ自然林造林アリ造林ハ年ヲ逐テ其面積ヲ増加シ主トシテ杉檜松ヲ栽植ス其施設未ダ年數ヲ經ザルモノ多ク故ヲ以テ巨木少シ自然林ハ雜木繁茂セルモ概シテ年々薪炭ニ輪伐スルヲ以テ大樹少シ現時山林ノ狀況ヲ大別スレバ大凡左表ノ如シ

種別	反別	備考
自然林	一八五、七	雜木混生林竹林等
造林	九五、二	明治二十五年以來ノ植林
萱芝山伐畑	三三、九	伐採後ノ小木林及肥草山等
計	三三三、八	

第二節 河 流

柳瀬川 源ヲ尾川村ニ發シ字高平ニ至テ鳥ノ巢川ヲ合シ西部ヲ貫流シテ桂川ヲ合シ九反田ニ至テ東北ニ流レ字玉割ニ至リ春日川ト合シ北流シテ立野川ト共ニ西北ニ屈曲シ黒岩村庄田ヲ經テ仁淀川ニ注グ其延長一里廿餘町水淺クシテ舟楫ヲ通ゼズト雖モ灌溉ノ便尤多シ川幅五十間乃至二十間ニシテ兩岸ニハ堅固ナル堤防ヲ築

造シ所々ニ水刳ノ設アリ其主ナル堤防ハ室原字細野、エリ、虎杖野字國利、西久保(俗ニヨケト曰フ)柳瀬字柳川原(俗ニ並柳ト曰フ)市野瀬字高川原等ニシテ馬踏ノ廣キ處二間半堤式廣キ所十餘間アリ其他兩岸ノ護岸工事ヲ合シ其延長約七千十三間アリ水刳ノ大ナル者ハ千人刳新刳長刳等ニシテ其他大小十餘ヶ處アリ深淵ニハ由留岐、清鏡、曲リ、等アリテ深キ處ハ壹丈余ナリ藩政時代ニアリテハ何レモ深尾氏遊漁ノ地ニシテ一般人民ノ漁獲ヲ禁ゼシ處ナリ

因ニ長刳ノ築造ハ天保ノ初年沖三左衛門ノ督工ヲ以テ築キシモノナリ

鳥ノ巢川 斗賀野村ヨリ來リ字細野ニ於テ柳瀬川ニ合流ス川幅五間乃至十五間アリ灌溉ノ便少シ兩岸ニハ堤防アリ其延長約千六百六十七間余ニシテ流域延長千七百七十餘間アリ

桂川 溪流ニシテ其幅二間乃至四間水淺ク灌溉ノ利少シ水源ヨリ延長千七百五十餘間ニシテ柳瀬川ニ合ス護岸工事ノ延長約二千四十三間アリ

立野川 其源ヲ川内ヶ谷字奥畑ニ發シ東流シ九反田立野ヲ經テ柳瀬川ニ入ル其延長殆ンド一里川幅三間乃至

五間兩岸ニ堤防アリ大ナル者ハ字小曲リ附近ニシテ其延長貳百餘間堤式約三間馬踏約六七歩ノ處アリ其他護岸堤防延長總計二千四百八十一間餘アリ

丹生ノ川 一溪流ニシテ其延長六百餘間幅一間乃至二間灌溉ノ便少シ護岸堤防ハ延長約六百九十九間アリ春日川 其源ヲ斗賀野村永野ニ發シ屈曲シテ西北ニ流レ字玉割ニ至リ柳瀬川ニ合ス其流域千八百六十餘間川幅拾間乃至二十間アリ兩岸ニ堤防ヲ築クモ大工事少シ急流ナラザルヲ以テ水害少ク灌溉ノ便多大ナリ兩岸ノ堤防及護岸工事ハ延長約三千七百三十八間餘アリ

磐井谷川 小溪流ニシテ其幅廣キ處二間餘アリ灌溉ノ便少シ護岸工事延長約千二百九十三間アリ北流シテ春日ニ至リ春日川ニ入ル其延長六百五十餘間アリ

小谷地川 字小谷地ヨリ出テ西流シテ春日川ニ入ル其延長一千餘間護岸堤防延長約千八百四十四間アリ川幅廣キ所一間半灌溉ノ便アリ支流若枝川モ多少灌溉ニ便アリ其幅一間餘護岸工事延長千四百十五間餘アリ

荷稻川 小富士山ヨリ出テ西流シテ字諏訪ニ至リ春日川ニ合ス其延長八百八十餘間川幅廣キ處一間半ナリ水清カラズ上流ニハ灌溉ノ利アリ

下山川 下山ヨリ發源シ東ニ流レ加茂村ニ入ル延長千二百餘間幅廣キ所三間アリ灌溉ノ利多カラズ護岸工事延長約一千六十二間餘アリ以上幹線支流ノ堤防護岸工事ハ總テ町稅ヲ以テ均一負擔ヲナシ其經費ヲ支辨セリ

第二節 堰埭溝渠

溝渠ノ大ナルモノハ由留岐堰ヨリ引水シ岡崎虎杖野中組本三野ニ通ズルモノニシテ其幹線延長約千三百間餘虎杖野ニ分流スルモノ延長約四百間本三野ニ分流スルモノ一線アリテ其延長約三百餘間アリ尙小溝渠ハ數派ニ分レ延長約三千餘間アリテ灌溉ノ田圃五十八町九畝七歩アリ溝口ニ「シユンカ岩」ト稱スル大岩石アリテ自然水勿ノ形ヲナセシカ明治二十三年洪水ノ際崩潰シ水害ヲ來スヲ以テ明治二十四年度ニ於テ金貳百圓ヲ町費ヨリ補助シ土木委員森龜彌太監督ヲ以テ現時ノ如キ水勿ヲ築造セリ而シテ由留岐堰ハ其延長五十四間（幹川中川原川ノ三堰）アリテ此ノ維持基本財産字保木山ニ山林五反九畝十五歩ヲ有シ現時本三野虎杖野岡崎中組關係者共有地トシ部落有トナレリ其收入ハ井堰及溝渠ノ費用ニ充當ス此井堰及溝渠ヲ管理スル爲地主共同シ

テ岡崎井堰組合ヲ設立シ堀見照助ヲ組合長トシ在任セリ

柳瀨溝 清境堰ヨリ引水シ其幅廣キハ一間半アリ九反田柳瀨ノ水田ニ灌溉ス清境堰ハ其延長六十間アリテ用水反別二十三町九反歩余ナリ尙灌水以外ニ精米用水車四ヶ所ノ設アリ

室原溝 其一ハ字高平（楠ノ木淵トイフ）ニ堰ヲ設ケ引水シ堰ノ延長二十間餘溝ノ延長七百間アリ其二ハ神母堰ニシテ字神母ニ在リ溝渠ノ延長約五百十間堰ノ延長十間ナリ其三ハ内膳堰ト稱シ字内膳ニ在リ延長四十間ニシテ溝渠ハ延長約二百三十間アリ此堰ハ柏原ト兩部落ニ分水シ工事モ亦兩關係者ニ於テ維持修理ス以上三線ヲ合シテ室原部落ノ水田十六町三反餘ニ灌溉セリ而シテ當部落ハ大正二年耕地整理ヲナシ用悪水路ノ設備並ニ耕作里道從テ完備セリ

柏原溝 字内膳ニ於テ堰ヲ設ケ字中井口ヨリ引水ス柏原全部ノ灌溉用ニシテ溝渠ノ延長總計二百六十九間アリテ水田六町六反三畝歩餘ニ灌水ス尙同部落ニ石井堰アリ長六間半溝ノ延長百七間ニシテ灌溉地反別五反五畝歩餘ナリ

市野瀨溝 字柳川原（並柳）ニ於テ柳瀨川ノ水ヲ引キ市野瀨水田ニ灌溉ス堰ノ延長三十間溝渠ノ延長總計九百間アリ北渡瀨堰ハ馬ノ原ニ在リテ市野瀨市坂等ニ灌 Wassers堰ノ延長三十三間溝渠ノ延長六百餘間ニシテ灌溉地反別約十五町五反餘ナリ

青去溝 字伏尾ニ於テ春日川ヲ堰入レ青去部落ノ水田十三町餘ニ灌溉シ尙他ニ水車一ヶ所ヲ設ケ精米ヲナセリ大正二年耕地整理ト共ニ堰埭ヲ改造シ最完全ナル設備トセリ堰ノ延長十一間溝渠ノ延長四百八十間アリ維持基本財産トシテ字湯山ニ畑一畝五歩山林一町四畝廿五歩アリ元部落有ナリシガ現時ハ橋本德重刈谷盛吉刈谷楠繁ノ共有地トナシ其收入米貳斗六升アリ年々本費ニ支辨セリ

其他春日鳥ノ巢九反田立野三郎馬ノ原等ニ小溝渠井堰ノ設アレドモ灌溉區域狹小ニシテ從テ多額ノ經費ヲ要セザルナリ今大正五年末ニ於ケル井堰溝渠ノ經費ヲ計上スレバ左表ノ如クニシテ何レモ關係地主ニ於テ反別又ハ地租ニ負擔シ之ヲ支辨セリ以上溝渠ノ設備ハ完全セルヲ以テ旱魃時ト雖モ渴水ノ害極メテ少シ

大正五年度井堰溝渠費表

區別	井堰溝渠費	雜費	計
室原高平堰	四〇、六二〇	四、一八〇	四四、八〇〇
全 内膳堰	六、三〇〇	一、〇〇〇	七、三〇〇
全 神母堰	二二、三〇〇	三、五〇〇	二六、八〇〇
柏原石井堰	五、五〇〇	五、五〇〇	一一、〇〇〇
全 内膳堰	一一、三〇〇	一、七〇〇	一三、〇〇〇
岡崎由留岐堰	一〇一、九〇〇	七、三〇〇	一〇九、二〇〇
柳瀨清境堰	五九、五〇〇	五、五〇〇	六五、〇〇〇
市野瀨並柳堰	四、六〇〇	五、六〇〇	一〇、二〇〇
青 去 堰	一八、四〇〇	八、〇〇〇	二六、四〇〇
計	三三、五〇〇	九、九〇〇	四四、四〇〇

第四節 原 野

原野ハ僅少ニシテ大正六年四月ノ現在調査反別左ノ如ク聞墾等ノ見込アルモノナシ

反別七畝十八歩 地價金貳圓八錢

第五節 耕 地

耕地ハ年々開墾或ハ整理ヲナスモノ多ク水利交通ノ便ナル處ハ概シテ水田又ハ畑地トナレリ茲ニ明治八年地租改正當時ニ於ケル田畑反別ト大正二年ヨリ大正六年

ニ至ル五ヶ年間ノ田畑反別ヲ表示スレバ左ノ如シ

年次	種別	
	田	畑
明治八年	三五九、一	一三七、一
大正二年	三五四、二	一八〇、三
全 三年	三五四、七	三五九、〇
全 四年	三五五、六	三五四、四
全 五年	三五五、九	三五四、四
全 六年	三五五、九	一八、八〇二
	一四、一九二	一八、八四八
	一四、一九三	三三四、八

備考 本表ハ各年末ノ現在ニシテ反別反以下及地價
圓以下ハ四捨五入トス
以上表示ノ如ク明治八年ニ比シ田面積ノ減少セルハ主
トシテ道路敷地等ニ買収セラレタルモノナリ

第六節 宅地

宅地ハ舊來ニ比シ著シク減少シ大正六年ノ現在坪數八
万四千九百二十坪ト明治八年ノ現在坪數十一万四千六
百七十三坪ニ比シ二万九千七百五十三坪ヲ減ゼリ是レ
明治八年以後ニ於テ住氏ノ多數他町村ニ移住シ其家屋
ヲ毀テタル跡地ノ多クハ畑或ハ田トナリタル結果ナリ

而シテ明治八年及大正二年以降ノ反別坪數左ノ如シ

年別	種別		備考
	反別又ハ坪數	地價	
明治八年	三六二、二三	四三、三六	地價圓以下 ハ四捨五入 トス
大正二年	八八、七五	四三、三六	
大正三年	八七、二〇九	四二、六〇二	
大正四年	八六、七七七	四二、三九九	
大正五年	八五、〇三七	四二、〇一八	
大正六年	八四、九二〇	四二、七七一	

明治四十三年宅地貸賃價格調査ニヨリ明治四十五年度
ヨリ前年ノ地價ニ比シ二万八千八百五十七圓ヲ増加シ
其等位ハ最高三十八級ニシテ久禮町ト同等ナリ

第七節 其他雜地

以上田畑山林宅地原野ノ外尙左ノ雜地アリテ學校式地
社地墳墓地病院式地溜池官有地等總計反別十二町五反
六畝八步アリ其多クハ免租地ナリ(第二章參照)

第八節 耕地整理

明治四十四年四月佐川町農會ハ耕地整理ノ有利ナル事
ヲ唱道シ各部落ニ向テ之ヲ獎勵セシニ室原部落卒先シ

テ實行センコトヲ協議シ發起人中村龜平中村繁吉渡邊
伊勢吉明神兼吉中村益吉中村茂登美ノ斡旋ヲ以テ縣技
手安岡裕造其設計ヲ調査作製シ請願ノ上明治四十五年
一月四日認可トナリ組合總會ヲ開キ組合長ニ堀見眞三
副組長ニ中村龜平田村熊市其他評議員七名會計一名工
事係二名庶務係一名土地評議員五名ヲ付屬役員トシ同
四十五年一月廿七日工事ヲ起シ大正三年三月三十一日
竣工ス之レガ爲耕作通路及用惡水路等完備シ田區ヲ割
正シ濕田ハ乾田トナリ耕耘麥鋤等其利益實ニ多大ナリ
而シテ整理ノ地目反別及其經費ハ左表ノ如シ

地目	整理前ノ反別		整理後ノ反別		増	減
	坪數	坪數	坪數	坪數		
田	三三、五〇〇	一三、六三三	一、二二二			
荒田	三九〇〇	一一一七				二、七〇三
畑	三、〇二〇	二、五九〇				四、四二七
荒畑	三、〇〇五	三、〇〇五				二、六
山林	三、三八二	三、三六二				三、三五
雜地	三、五二二	三、三〇七				
國有地	七、〇一〇	七、八六二				八五二
宅地	一、二〇七	一、二四五				一、二

計

三六、七二七	三七、九二四	一、八〇三	
二、四〇七	二、二四五	一、二	

以上ノ如ク總面積ニ於テ壹町壹反五畝拾五步ヲ増シ内
國有地ニ於テ八反五畝廿六步ノ増加アリ指引二反九畝
十九步ハ田面積ニ於テ増加シタルモノニシテ之レニ對
スル收入ハ全ク該工事施設ノ利益ナリ

整理費總額	地主負擔	縣補助	町補助
八、四六五	七、四六五	五、七〇〇	一、四〇〇

備考 町補助金ハ主トシテ耕作里道費ヲ補助ス其步
合ハ百分ノ十八ナリ

而シテ此經費ハ一時ノ負擔ニ困難ナルヲ以テ組合債ヲ
起シ各年度ニ割リ之ヲ徵收シ支辨セリ其完済ハ十ヶ年
賦ナリ大正四年八月組合長堀見眞三死亡シ同五年三月
改選ヲ行ヒ組合長ニ田村熊市當選シ副組長ハ中村龜平
留任シ一名ハ缺員ナリ
大正元年八月荷稻青去兩部落モ亦耕地整理ノ計畫ヲナ
シ桑名武刈谷茂馬外十二名發起人トナリ東西ニ奔走シ

テ地主ノ同意ヲ得縣技手安岡裕造設計ヲ調製シ請願ノ
 上全年十二月廿六日認可トナリ全二年一月一日地主總
 會ヲ開キ組合ヲ設立シ堀見眞三ヲ組長トシ副組長德弘
 宇彌太徳弘晴吉其他工事係三名會計係一名評議員十名
 附屬役員トナリ經費ヲ議決シ同年一月廿四日工事ニ着
 手ス本工事ハ排水ヲ主トシニ毛作地ニ整理スルモノニ
 シテ之レニ伴フ耕作里道用悪水路ノ施設ハ最モ完全ニ
 全四年五月十日ヲ以テ竣工セリ而シテ整理ニ要スル費
 用ハ組合員一時ノ負擔ニ困ムヲ組テ組合債ヲ起シ年賦
 償還ノ方法ヲ以テ支辨セリ大正四年八月組合長堀見眞
 三死亡ニヨリ改選ヲ行ヒ全年十二月廿四日認可ヲ得テ
 堀見章組合長ニ就任セリ其他役員異動ナシ而シテ其成
 績及經費ハ左ノ如シ

青去荷稻耕地整理組合整理地調

地目	整理前ノ反別	整理後ノ反別	増	減
畑田	三五、八四			
宅地	二元、五二八			
山林	七〇			
原野	一五			

溜池 四〇〇
 國有地 六九、四〇七
 計 四五四、二三

備考 本表宅地ハ反別ニ換算シ計ニ算入ス而シテ整
 理後ノ反別ハ換地處分精算未済ニ付表示シ得
 ス
 全上經費調

整理費總額	地主負擔	縣補助	町補助
七、三九八	六、四四二	一、〇二七	一、七〇〇

備考 町補助金ハ室原ト同一ニシテ歩合モ相同ジ

第四章 氣象

一氣温 觀測統計ニ據ルトキハ前年平均温度ハ十九度
 強ニシテ温度ノ最低キハ一月二月最高キハ七八月ナリ
 一日中ニ於ケル温度ノ差違最大ナルハ四月ニシテ最低
 ハ二十六七度最高ハ三十九度乃至四十度最低氷點下五
 度七分其差四十五度七分ニ達ス而シテ當町ハ其地盤加
 茂日下等ニ比シ高燥ナルヲ以テ冬期ハ稍寒キ感アリ
 二氣壓 調査ノ資料ナキニヨリ確實ニスル能ハズト雖

モ最高ノ時期ハ十一月最低ハ七八月ノ候ナリ
 三風力 當町ハ山間ノ一區タルヲ以テ風力ハ概シテ強
 カラズ風向ハ南西及北多ク夏期ハ南乃至東南ノモノ相
 半ス暴風ノ方向ハ晩春ヨリ初秋ノ間ハ南又ハ南東ニシ
 テ晩秋ヨリ初春ニ至ル間ハ概シテ西又ハ北ナリ
 四湿度 本縣ハ概シテ雨量多ク從テ湿度多シト雖モ當
 町ノ地勢ハ高燥ニシテ湿度多キニアラズ然レドモ夏期
 六七月ノ候ハ多濕ニシテ十一月乃至二月ノ冬期ニ於テ
 ハ少量ナリ
 五晴雨 晴天ノ多キハ七月ニシテ之ニ次クハ十二月八
 月一月三月ナリ曇天及雨天ハ六月ヲ最トシ四月九月之
 レニ次グ雨量ノ最多キモ亦六月ニシテ最少キハ十二月
 乃至二月ナリ降雪ハ一年ニ二三回ニ過ギザリシモ大正
 五年十二月ヨリ六年二月迄及六年十二月末ニハ降雪ノ
 日多ク積雪ノ深キハ約一尺ノ時アリタリ

第一節 天候

月別	大正二年	大正三年	大正四年
一月	晴 二	曇 一〇	雨 一四、五〇
二月	晴 一四	曇 一四	雨 〇二、五七、二〇

月別	三	大	正	六	年	四以上三年間平均天候
三月	二八	二	二	六五、八〇	一八	一一二、八四〇
四月	二〇	九	一〇	二八九、三五	一六	三九四、〇〇
五月	三	六	五	二四〇、〇〇	一九	二八五、二五
六月	三	九	九	三七六、五五	二二	四二一、三〇
七月	二	五	九	二〇九、六〇	二五	六三、九〇
八月	二〇	九	二	二七六、四〇	一六	三三三、七〇
九月	一五	〇	五	一五五、八〇	一三	四〇四、〇〇
十月	二	六	四	九、四〇	一七	五八九、八〇
十一月	二	二	三	八三、九〇	一八	一六三、〇〇
十二月	二〇	七	四	一二、八〇	二二	三三、〇〇
計	二〇八	一〇八	四九	三、九七、三五	二〇二	三二〇、四五

七月	一七	七	二	五	二七	三	一	三	〇	七	〇	三	〇	〇
八月	一四	九	八	一	〇	二	一	四	五	三	〇	〇	〇	〇
九月	二九	三	一	二	二	一	一	三	四	三	七	五	〇	〇
十月	二二	三	六	六	二	二	二	三	四	三	七	五	〇	〇
十一月	一八	六	六	六	二	二	二	三	四	三	七	五	〇	〇
十二月	二〇	九	六	六	二	二	二	三	四	三	七	五	〇	〇
計	一七四	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八

第四平均表ニ依リ見ルトキハ一月ヨリ四月迄ハ曇天多ク五六七月ハ曇天少シ八月ヨリ又曇天多キヲ常トス
降雨日數ハ年々差違アリテ大正二年ニハ降雨四十九日全四年ハ五十六日全六年ハ八十七日ニシテ平均六十四日トナリ大正六年ハ降雪十六日ニシテ平均八日トナレリ

第二節 温度

年別	大正二年	大正四年	大正六年
月別	一月 七、三 最高 一七、五 最低 六、〇 平均 一〇、〇	一月 六、八 最高 一六、〇 最低 五、〇 平均 九、〇	一月 五、八 最高 一四、五 最低 四、五 平均 八、一
二月 七、七 最高 一八、〇 最低 六、七 平均 一〇、七	二月 八、一 最高 一八、五 最低 五、五 平均 一〇、九	二月 七、三 最高 一六、五 最低 四、七 平均 九、五	
三月 一〇、九 最高 二二、五 最低 一〇、五 平均 一三、〇	三月 一〇、九 最高 二二、五 最低 一〇、五 平均 一三、〇	三月 九、九 最高 二〇、五 最低 八、〇 平均 一三、〇	

四月	一五	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五月	二〇	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六月	二五	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
七月	三〇	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八月	三五	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
九月	四〇	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十月	四五	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十一月	五〇	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十二月	五五	五	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

氣温ノ最低ハ一月二月ニシテ零度以下五度七分ニ下リ最高ハ七八月ニシテ三十九度八分ヲ示セルコトアリ大正六年ニ於ケル氣温ノ最高ハ三十六度八分最低ハ氷点下五度七分ニシテ十一月十二月ハ氷點下ノ平均低度四度一分ナリ

第二節 雨量

前項記述セル如ク降雨ハ概シテ夏季ニ多ク冬期ニ少シ特ニ梅雨期ニ於テハ年ニヨリ三週間位降雨ノ續クコトアリ九月之レニ次ギ十二月乃至二月ハ降雨僅少ナリ一降雨量

區別	年次	降雨總量	一月平均降雨
	大正二年	二〇九、三五	一七四、八六
	大正四年	三二〇、四五	二六〇、〇〇
	大正六年	二〇六、二三	一七一、六

區分	年次	降霜終日	降霜終日	降霜終日	降霜終日	降霜終日
	大正二年	四月五日	三月卅一日	四月二日	四月一日	四月五日
	大正四年	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日
	大正六年	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日	三月卅一日

第五章 動植物 第一節 動物

動物ハ獸類鳥類魚類等凡ソ熱帶或ハ寒帶地方ニ在ル特種動物ノ外ハ概シテ分布セリ而シテ深山幽谷ナキヲ以テ猪猿ノ如キモノハ棲息セズ家畜動物ハ馬牛犬猫等ニシテ肉食搾乳用トシテ山羊豚兔等ヲ飼養スルモノアリ大正五年末ニ於ケル家畜統計表左ノ如シ

種別	馬	牛	犬	猫	山羊	豚	兔
計	一四二	六	一六	一六〇	七	〇	六

計	一四二	二	二〇	二五	〇	〇	二五
---	-----	---	----	----	---	---	----

有益家禽ハ鷄鶩鴛等ニシテ鷄最モ多シ其種類ハ雜種多ク在來ノ小鷄ハ極メテ少シ其種類ハ土佐九斤白褐色レグホーン「ブリモースロツク」等多シ娛樂家禽ハ和洋各種アリ地方ニ産スル鳥類ニハ百舌鳥目白鶯家鳩等其主ナルモノナリ猶山野ニ棲息スルモノニハ鶯鳥鷹鳩雀燕等各種ノモノアリ洋種ノ小禽ヲ飼フモノモ亦多クアリ魚類ハ鯉鮒鮎鱒はわごり等多ク産シ何レモ食用トス養魚ニハ鯉金魚多シ

第二節 植物

植物ハ寒熱帶地特種ノモノヲ除ク外大概分布セザルナク顯花植物隱花植物喬木灌木菌芝蘚苔ニ至ル迄其種類ハ實ニ枚擧ニ遑アラズ中ニモ佐川ノ地名ヲ冠シ世界ノ植物學上ニ紹介セラレタルモノ數種アルヲ以テ左ニ之ヲ記載ス可シ
佐川細莖(さかはさいしん) 顯花植物ニシテ西町金峯

神社附近ノ森林中ニ 類ト混リテ生ズ馬兜鈴科ニ屬シ
 通常藥用ニ供スル爲ニ採收スル細辛トハ著シク異ナル
 点アルヲ以テ先年當町出身ノ植物學者牧野富太郎ニ依
 リテ此ノ新名ヲ附スルコト、ナレリ
 ふるらにやさかはな 薺苔類ニシテ岡崎聖神社ノ上方
 巨巖ノ附近ニ産スル著名ノ植物ナリ其他有名ノ珍植物
 名稱所屬科及產地等左ノ如シ
 金梅笹 石蒜科 產地上郷久兵衛坂
 梅花黃連 毛茛科 全 西町金峰神社附近
 鷄尾蘭 百合科 全 岡崎聖山
 岩桐草 苦苣苔科 全 西町西谷
 梅花鐘 小蘗科 全 荷稻
 錫杖 錫杖科 全 東町吉田屋敷
 蜘蛛蘭 蘭科 全 室原長松寺越
 本郷草 本郷草科 全 川内谷赤土峠
 巨木其他
 諏訪神社大樟 荷稻部落ノ全社右側ニ生茂ス其大サ地
 上五尺ノ處ニテ周回二十七尺高サ約二百五十尺アリ樹
 齡大凡七百年ヲ經過セリトイフ
 大先ノ松 川内ヶ谷字西ノ坊谷丙六百九十六番地山林

一畝十二歩ノ地内ニ佐リ周圍一丈五尺餘高約二十五丈
 アリ樹下ニ一祠アリ大先ト云フ山伏ヲ祭リト曰フ該
 地ハ同祠ノ附屬地ニシテ大正二年二月六日汲田作太郎
 岩佐馬吉ノ共有トセリ
 王子宮櫟 岡崎宇笠松谷全社境内ニアリ周圍一丈八尺
 餘樹齡三百年以上ノモノナリ
 東町木犀樹 東町須崎街道ノ西側土橋ノ邊ニ在リ周圍
 七尺餘ニシテ枝葉繁茂シ花時ハ芬香馥郁トシテ四方ニ
 飛散ス往年縣道開鑿ノ際令尹田邊良顯之ヲ愛シ官邸ニ
 移植セントスル計畫アリシモ其事果サズ現今町内ニ於
 ケル稀有ノ名木トナレリ
 四方竹 唐竹ノ一種ニシテ其幹方形ナルヲ以テ此名ア
 リ當町西谷伊藤邸内ニ栽植シアリ筍ノ生ズルコト最モ
 遅ク八九月ノ候多ク生ズ
 第二節 鑛物
 鑛物ハ金屬性ノモノナク唯當町ハ中生代ノ化石ヲ多ク
 産スルヲ以テ地質學者間ニハ夙ニ之レヲ知ラレ特ニ鳥
 ノ巢石灰岩ノ如キハ内外地質研究者間ニ於テ之ヲ知ラ
 ザルモノナシ且各種ノ化石ヲ含有セルヲ以テ之ガ採收
 ノ爲メ獨塊英米等ノ外人及内地ノ理學者等來遊スルモ

ノ多シ其種類所在左ノ如シ
 イ 鳥ノ巢化石 當町ノ南方鳥ノ巢山ノ石灰岩中ニ介
 在セリ

類別	名	稱
有孔類	チクラシナ	テキスチユラリヤブルピヌリナ
珊瑚類	アストレア	チーテトブシス
海膽類	シダリス	ブシユドシダリス
腹足類	ネリネア	ブイスルジス

ロ 吉田屋敷化石 市街ヲ距ル東南七八丁ノ處ニ在リ
 其種類左ノ如シ
 珊瑚類 端形類セルブユラ 羊齒類バコブテリス
 プラウニアナ
 ハ 藏法院化石 市街ノ東方上郷部落ニアリ縣道ヲ北
 ニ距ル四丁餘ナリ其種類ハダヲネラサカワナ等ニシテ
 特有ノ化石ナリ
 ニ 貝石山ノ化石 當町ノ東北下山ニ在リ化石ノ種類
 ハ各種貝類植物類ナリ
 ホ 川内ヶ谷化石 當町ノ西北隅ニ位スル一部落ニシ
 テ松山縣道ニ沿ヒ笠屋谷、猪ノ谷、梅谷、山白谷、供

養堂、掛橋谷等ノ各字ニ産ス其種類ハ「ブシウドノモ
 チス」ナリ
 以上ノ外三疊紀標準化石ノ一ナル「セラチテス」モ當町
 ヨリ出テシ事アレ其產地ノ不明ナル事ハ理學士山崎
 直方佐藤傳藏共編ノ大日本地誌中ニ見ヘタリ

第六章 戶籍

第一節 住民戶籍沿革ノ大要

昔時ノ戶籍制度ハ之ヲ詳ニスルヲ得ザレドモ寛永十四
 年嶋原ノ動亂ヨリ全十六年耶蘇教及外國商船ノ入港ヲ
 停禁セシ頃ヒ(紀元二千三百廿八年明正天皇ノ治世三
 代將軍德川家光時代)切支丹宗(耶蘇教)ヲ禁遏スル爲
 幕府ノ命ヲ以テ宗旨人別改ト稱シ各戶ニ就キ人別帳ヲ
 作り之ニ戶主家族ハ勿論雇人ニ至ル迄ノ氏名生年月日
 生子婚家離退等ノ事項ヲ明記シ且年々左記ノ如キ例文
 ノ届書ヲ作り指出ト稱シ各自ノ押印ヲナシ其家ノ屬ス
 ル壇那寺ヲシテ各其宗旨ニ歸依シアルコトヲ證明セシ
 メ之ヲ代官又ハ庄屋ニ差出シ之ヲ照査シテ其在住者ノ
 管理ヲナセリ當町ノ如キモ此制度ニ依リタルモノニシ
 テ深尾氏ノ重臣及家來一季抱ヘト稱セルモノハ代官ヘ

其以外農工商人等ハ庄屋へ其届出ヲナシ年々加除訂正
ヲ行ヒテ戸口ノ調査ヲナセリ

宗門届出ノ文例（本書ハ安政三年ノモノノ一ヲ記載
セリ）

一札

一男女四人 内男二人 十五才以上 孰モ御國生
右不審ナル者一人モ無御座候此外一人モ抱置不申候
若從他處切支丹宗門ト申出歟或者一人ニテモ隱置由
訴人於有之ハ如何様共可被仰付候
一切支丹之儀不及申宗旨疑敷者有之ヲ致見聞候ハ
ハ早速言上可仕候仍テ一札如件

安政三年辰五月十四日 姓

名 印

代官 何之某殿

右何某家内婦人ニ至迄代々何々宗當寺壇家ニ紛無御
座候ニ付致加判候以上

全日

何々寺 印
花押

又明治元年深尾家ヨリ藩主へ指出シタル戸籍統計表ノ
如キモノヲ記載スレバ左ノ如シ

切支丹宗門就御改指出

合人数上下男女三千二百七十七人 但赤子共

内 男六百七十七人 内四百八十八人 十五歳以上
女六百廿五人 内百七十四人 十四歳以下

但自家内並騎馬以下人数此如

下 男八百廿八人 内六百五十四人 十五歳以上
女六百四十四人 内四百九十六人 十四歳以下
御國者
但下分ノ譜代家來人数此如

下 男十七人 内十六人 十五歳以上
女十九人 内十八人 十四歳以下
御國者

但一季抱ノ者 男百五十二人 内百三十三人 十五歳以上
女百六十二人 内四十九人 十四歳以下
御國者

但御預郷士人数此如
下 男六人 内四人 十五歳以上
女八人 内四人 十四歳以下
御國者

但右下養育人如此
西野 彦四郎殿
全明治二年ノモノ左ノ如シ
合人数上下男女九百七十一人 但赤子共

内 男百一十一人 内八十七人 十五歳以上
女百六十六人 内二十四人 十四歳以下

但自家内並騎馬以下人数此如
男四百三十二人 内三百三十八人 十五歳以上
女三百三十三人 内二百五十七人 十四歳以下
御國者

但下分譜代之家來人数此如
一切支丹云々（前文ノ通ニ付略之）
明治二年己七月廿九日 深尾 鼎 印
重先 花押
深尾 刑部 印
重愛 花押

浅利 繁左衛門殿
小南五郎右衛門殿

明治三年ニアリテモ尙同ジク宗旨ニ由ル届出ヲナサシ
メ而シテ其取扱ハ郷長ニ於テ之ヲ所理セリ此年九月平

右家來之侍共下々並御預之郷士又者ニ至迄悉逐吟味
寺請俗請相改面々一紙指出我等方取置申候不審ナル
者一人モ無御座候若相違之儀於有之ハ如何様共可被
仰聞候
一切支丹ノ儀ハ不及申宗旨疑敷者有之ヲ致見聞候ハ
早速言上可仕旨堅申付候仍如件
在京ニ付留守居 野田太平代判
深尾 鼎 印
深尾 刑部 正 壽
慶應四年辰七月廿九日
高屋友右衛門殿
林 勝兵衛殿
本山 只一郎殿

民ノ苗字ヲ用ユル事ヲ許サレ明治八年二月布告ヲ以テ必ズ苗字ヲ唱フベキ旨ヲ制定セラル
 明治四年四月五日布告ヲ以テ戸籍法並取扱手續ヲ制定シ之レニヨリテ正副戸長ヲ置キ其事務ヲ處理スル事トナリ全時ニ穢多非人ノ稱呼ヲ廢セラレタリ
 明治五年壬申二月一日ヨリ戸籍ノ調査編制ニ着手スル

守札様式(木札)
 三寸

表	土佐國高岡郡第十七區佐川村
二	職業何ノ誰妻(何男)
寸	何々神社氏子 何ノ誰
	何々何年何月何日生

裏

神官	何之誰印
	明治五年壬申十月一日

コト及寄留旅行等ニハ鑑札ヲ受ケ必之ヲ携帶スベキ事ヲ規定セラル七月布達第百四號ヲ以テ寄留旅行ノ鑑札ヲ廢シ氏神守札ヲ發行スル事トナリ左圖ノ如キ木札ヲ各自ニ交付シテ其在籍者タル事ヲ證明シ旅行等ニハ必携帶セシムル事トナレリ

十月左記第一號様式ノ如ク戸籍簿ヲ調製シ戸長之ガ取扱ヲナシ以テ住民ノ生子婚姻死亡送入籍等加除訂正ヲナシ來レリ
 明治十年戸籍改查ヲ行ヒ壬申戸籍ノ錯誤等悉ク訂正ヲ加ヘ第二號様式ノ如ク整頓シ明治廿二年四月一日町村

制實施ノ際村長ニ引續キタリ
 明治廿六年五月二十二日本縣令第廿八號ヲ以テ戸籍改正ノ發令アリ第三號様式ノ如ク調製シ婦女子ノ名ハ假名ヲ廢シ漢字ヲ用ユル事トナリ爲ニ訂正シタルモノ多クナリキ九月郡役所ニ於テ新舊ノ照合ヲナシ精査ノ上

縣郡監督ノ下ニ町村長其取扱ヲナセリ
 明治三十一年七月民法及戸籍法實施ニ際シ更ニ第四號様式ニヨリ漸次改正ヲ加フル事トシ住所ノ如キハ舊來ノ何番屋敷ヲ改メテ地番ヲ附スル事トシ其監督ヲ區裁判所ニ移シ全時ニ町村長ニ戸籍吏ノ名稱ヲ附シ其取扱ヲナサシメタリ
 大正四年一月戸籍法改正實施ノ結果其管轄ハ裁判所ナルモ戸籍吏ノ稱號ハ之ヲ廢止シ町村長ノ扱フ處トナリ戸籍ノ様式ハ第五號ノ如ク改正セラレタリ

戸籍様式 第一號 用紙大半白紙

土佐國高岡郡佐川村何々何番屋敷(所有地ニ住スル者)又ハ何番屋敷借地居住何府縣何郡何村某所地

士族(卒)農(工)(商)(何渡世)某何男
 年月日叙某位 何之某
 壬申年何十何
 某藩士族何某何女 母 某
 年何々
 當縣士族何某姉(妹) 妻 某
 年何々

第二號様式 (用紙美濃野紙)

第何大區何小區何村何々何番屋敷居住(借家)士族(平民)何職業父某亡幾男 何之誰
 生年月日

第何大區何小區何町何番屋敷士族某幾女 母 某
 生年月日
 第何大區何小區何町何番屋敷士族某幾女 妻 某
 生年月日

年月日被任何官 長男 某
 年何々
 大阪府某町某渡世誰方寄留 次男 某
 年何々
 召使 何々何女何之誰
 年何々

氏神何々神社
 寺 何村何宗何々寺

第三號様式 (用紙美濃紙)

高知縣高岡郡佐川町何々々番屋敷

籍本 高知縣高岡郡佐川町何々々番										地									
前主										前主									
士族(平民)										士族(平民)									
何 某										何 某									
某何男										某何男									
何々何年何月何日生										何々何年何月何日生									
主										主									
妻										妻									
長										長									
男										男									
何々何年何月何日生										何々何年何月何日生									
某										某									
前主										前主									
族稱										族稱									
士族										士族									
長男或ハ次男										長男或ハ次男									

第五號様式

籍本
高知縣高岡郡佐川町

籍本 高知縣高岡郡佐川町										籍本 高知縣高岡郡佐川町									
前主										前主									
父 某										父 某									
母 某										母 某									
何々										何々									
何々何年何月何日生										何々何年何月何日生									
主										主									
妻										妻									
何女										何女									
前主										前主									
族稱										族稱									
父										父									
母										母									
何々										何々									
何々何年何月何日生										何々何年何月何日生									
某										某									

三人人口年齢別

年次	人口	出生		死亡		人口千ニ對スル死亡率	婚姻	離婚	婚死	産死
		男	女	男	女					
明治廿二年	五、三七二	七二	五九	五七	五二	二〇一	六二	一四	一六	一六
全 廿七年	五、四一八	七五	五七	五三	五一	一九二	四八	二九	一四	一四
全 卅二年	五、四三二	七六	五八	五三	五一	二〇六	三五	一〇	一六	一六
全 卅七年	五、三六五	八〇	六三	四四	五八	一七七	三五	一〇	一六	一六
全 四十二年	五、八八四	九二	六八	四四	五八	二〇八	四二	三三	一三	一三
全 四十二年	五、九一五	八四	六三	五二	五四	二〇八	四二	三三	一三	一三
全 四十四年	五、九四八	八八	六九	四六	五九	二一九	三九	三三	一六	一六
大正 元年	六、〇四四	一〇八	七九	四九	五八	二〇八	四二	三三	一三	一三
全 二年	六、〇八八	九七	七九	四九	五八	二〇八	四二	三三	一三	一三
全 三年	六、〇八八	八六	七三	四九	五八	二〇八	四二	三三	一三	一三
全 四年	六、一四八	七四	六六	四四	五七	二〇八	四二	三三	一三	一三
全 五年	六、一八八	七四	六六	四四	五七	二〇八	四二	三三	一三	一三

二戸口動態

年次	全	男	女
三年	一、二二二	九九九	二、二一三
四年	一、三三三	一、〇三三	三、一四九
五年	一、三四四	一、〇三四	三、一六七

第二節 戸籍諸統計
一本籍現住戸數人口表

年次	本籍		現住		本籍		現住	
	男	女	男	女	男	女	男	女
明治廿二年	一、三三八	一、三三八	一、三三五	一、三三五	二、八四二	二、五二九	二、八四九	二、五二九
全 廿七年	一、二五八	一、二五八	一、一五〇	一、一五〇	二、八五八	二、五〇〇	二、八二二	二、五〇〇
全 卅二年	一、二二〇	一、二二〇	一、一〇八	一、一〇八	二、七九〇	二、六三二	二、七〇二	二、六三二
全 卅七年	一、二九八	一、二九八	一、〇一九	一、〇一九	二、八九〇	二、七四五	二、四五三	二、五三三
全 四十二年	一、二八四	一、二八四	九九二	九九二	二、九八〇	二、九〇四	二、五五五	二、五八七
全 四十二年	一、三〇六	一、三〇六	九九一	九九一	三、〇〇三	二、九二二	二、五五四	二、五五〇
全 四十四年	一、二六三	一、二六三	九九四	九九四	三、〇一一	二、九三七	二、五五九	二、五八九
大正 元年	一、三三八	一、三三八	九九二	九九二	三、〇六六	二、九七八	二、五五〇	二、五七四
全 二年	一、三三一	一、三三一	九九八	九九八	三、一三三	二、九七五	二、五五六	二、五七〇

主	
出生	年月日

年次	十五歲未滿		六十歲未滿		六十歲以上		計
	男	女	男	女	男	女	
大正六年	一、一三七	九九九	一、七五九	一、七五二	三、二四	三、〇六	六、〇七
大正二年	一、〇八七	九九九	一、七三三	一、六八六	二、九三	三、一一三	六、〇八八
明治四十一年	九九〇	九九五	一、六九三	一、六〇五	二、七二	二、九〇	五、八三一
全卅六年	九〇四	九〇七	一、六八二	一、五五	二、八八	二、八七	五、六三
全卅一年	八三二	八五五	一、六〇二	一、四九二	二、八〇	二、八七	五、六三
全卅七年	八三〇	七八五	一、七〇四	一、五八	二、七九	二、八七	五、六三
全卅二年	七七七	六八四	一、七〇二	一、五八	二、七九	二、八七	五、六三
總計							

四 現住人口職業別

年次	明治卅八年全		卅九年全		四十年全		大正元年全		二年全		三年全		四年全		五年全	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
農業	九六	九四八	九五四	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五
商業	三九〇	四一〇	四七七	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二	四三二
工業	二二二	二二七	二八六	二三三	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七
勞働者	二〇一	一五五	三五	三九	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
無職業	六八	七五	六五八	七二	六四二	七三	七五	七四	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三
官公吏教員	三五	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
其他	四	五	四	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
計	二、四五〇	二、五七二	二、四九二	二、四四二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二	二、四八二

五 出入人員

年別	入寄留		出寄留		臺灣在住		朝鮮在住		外國在住		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
明治二十年	一四三	一三三	一八九	一六〇	一	〇	八	一三	七	五	二八
全二十五年	四九六	四七五	三五二	三六〇	一	〇	八	一三	七	五	三二
全三十年	四七五	四三三	五八	四九〇	一	〇	八	一三	七	五	三五
全三十五年	二二二	二二二	四七	三六〇	一	〇	八	一三	七	五	二二
全四十年	一七六	一七五	五二	四九〇	一	〇	八	一三	七	五	一八
大正元年	一六二	一四二	五八	四九〇	一	〇	八	一三	七	五	一六
全二年	一六〇	一四二	五八	四九〇	一	〇	八	一三	七	五	一六
全三年	一三二	一三五	五八	四九〇	一	〇	八	一三	七	五	一三
全四年	一五〇	一六三	六六	五七二	一	〇	八	一三	七	五	一五
全五年	一六八	一八一	五八	五七四	一	〇	八	一三	七	五	一七
總計											

六 現住者業別戶數

農業	四七
酒造	三
紙漉	四
大工	三〇
左官	五
鍛冶	四
樽屋	六
傘工	三
合羽師	二
墨師	三
染物	六
製絲	三
吳服	二
和洋雜貨	六
木材	三
紙商	四
原料	五
藥舖	三
古物	五
質屋	三
穀物	二
魚商	三
旅舍	一〇

業別 料理屋 飲食店 雜商 陸運業 車夫 理髮 官公吏 教員 醫師 按摩 藝妓
 戶數 計 五 六 五 三 三 五 六 六 七 二 八
 雜業 計 一〇三三

七 有位有功者人員 大正六年四月現在本籍人

位階 從二位以上 從三位以上 從四位以上 從五位以上 從六位以上 正七位 正八位
 人員 一 一 一 一 一 三 一

勳等 勳二等以上 勳三等 勳四等 勳五等 勳六等 勳七等 勳八等
 人員 一 一 一 一 一 一 一

功級別 功一級 功二級 功三級 功四級 功五級 功六級 功七級
 人員 一 一 一 一 一 一 一

八 現住者選舉權資格別表

年別	公民權ヲ有スル者	縣會議員選舉人	衆議院議員選舉人
明治廿二年	六五三		
全 廿五年	四九五	二五	
全 廿八年	五九七		六 六 六

全 卅一年	五九六	二六二	九〇
全 卅四年	六〇〇	二六八	一三四
全 卅七年	六〇〇	二四八	一四八
全 卅十年	四八〇	二八九	二三八
全 卅三年	四八五	二七一	二〇七
大正 二年	五〇〇	二七八	一八八
大正 四年	五二七	二八九	一九五
大正 六年	五三三	二七九	一八二

九 犯罪人累年表

年別	男	女	年別	男	女	年別	男	女
明治十四年	六		廿三年	一八	一	全 四十四年	六	一
全 十五年	九	一	廿四年	二八	一	全 四十二年	八	一
全 十六年	六	一	廿五年	三三	一	全 四十三年	六	一
全 十七年	三	一	廿六年	三三	一	大正 元年	九	二
全 十八年	九	二	廿七年	四	二	全 四十四年	二	二
全 十九年	四	一	廿八年	四	二	計	六	二
全 廿一年	八	一	廿九年	三	二	全 四十四年	一〇	二
全 廿二年	三	一	卅一年	二	三	全 四十四年	六	一

十 犯罪人五ヶ年毎總數及平均數

年次期間	總數		平均		合計平均
	男	女	男	女	
自明治十四年	三五	四	一〇六	〇八	一一四
自全	八二	三	一六二	〇六	一六八
自全	一六四	七	三三八	一四	三四二
自全	二二六	二	二五二	二二	二七四
自全	二八四	一〇	一六八	二〇	一八八
自全	三三九	五	八四	一〇	九四
自全	四一七	一〇	一一二	一七	一二九
自全	四七五	五〇	一七三	一四	一八七
合計	六二七	五〇	一七三	一四	一八七

明治十四年ヨリ大正五年迄三十六年間犯罪ノ通知ヲ受ケタル延人員ハ男六百十七人女五十人ニシテ一ヶ年平均男十七人三四一女一人四ニシテ合計平均ハ十八人七四一トナリ近年ハ著シク減少セリ

第七章 政治

第一節 佐川町政治推移ノ状態

藩政時代ニアリテハ國老深尾氏慶長六年八月入國以來 佐川本村、三野本村、尾川、斗賀野、永野、加茂、岩目地、庄田、瑞應、入澤、三尾越知村舊稱大平、桐見川、野老山、長者、久喜、森、別枝、川渡、高瀬ノ諸村ヲ領知シ其采地ニ對シテハ國守ト同様ノ權力ヲ有シ其施政亦藩制ニ準シ制定シタルモノニシテ其大綱左ノ如シ

深尾氏職別

一老職 重臣(野田上村片岡岩神等)ヲ以テ之ニ任シ領内ノ庶政ヲ總監ス(支配頭)月番トモ曰フ月番トハ老職ノモノ月々交代シテ執務セルヲ以テ此稱アリ

一仕置役 諸行政ノ長ニシテ且預リ郷士ヲ統督ス

一目付役 家士ノ糾彈非違ヲ監察シ兼テ領内人民ノ賞罰ヲ掌リ犯罪ノ輕重ニ從ヒ死刑執行ノ權ヲ有ス

以上ヲ三役ト稱シ其ノ下ニ作事奉行(土木事務)免奉行(貢租事務ヲ掌ル)代官(領内ノ諸村ヲ支配ス)勘定役(物産ノ賣買金穀貸付貨幣ノ發行正金ノ引替等ヲ掌ル)下横目(刑事ヲ掌ル)等ノ職ヲ置キ領内ノ安寧秩序ヲ保持シ領主ハ一般人民ニ對シ生殺與奪實ニ無限ノ權力ヲ有セリ而シテ各村治ニ至リテハ代官支配ノ下ニ庄屋ヲ置キ之ニ附屬シテ年寄組頭等ノ村役人アリテ村内ノ農商工業ヲ獎勵シ交通機關ノ改善治水ノ事業其他公共ノ利害得失及人民賞罰等モ之ヲ處理セリ而シテ當町ハ元佐川本村(明治六年十一月)第九十八號達ニテ佐川村ト唱フ)三野村ノ二村ニ分レ各一行政区劃ヲナス而シテ佐川村ハ種田二藏其先代ヨリ庄屋ヲ勤績シ自宅ニ

於テ其事務ヲ處理シ町年寄ニハ岸屋小左衛門(收野富太郎祖父)入吉屋万平(川田信道父)岸屋辰五郎(和田姓)等庄屋ノ補佐役トナリ東町西町ニ組頭ヲ置ク明治維新ノ後深尾氏領土返還ト共ニ其制度一變シ明治三年五月廿六日郷制ヲ設ケ佐川本村永野斗賀野ヲ斗賀野郷ト稱シ郷正ヲ置キ(郷長トモ云フ)其事務所ヲ西町(文珠堂附近)ニ設置シ吉田才七(仁井田村人)吉村耕藏(加茂村舊庄屋後ニ業廣ト云フ)池上神藏等其職ニ居リ其配下ニ町年寄總組頭等ノ役員ヲ置キタリ

明治四年七月十四日廢藩置縣ノ際高知縣ト改メ同月郡村區別ノ制ニヨリ高岡郡ヲ五十三區ニ分チ佐川本村並永野村ヲ合シテ第十七區トシ郷長ヲ戶長ト改稱スルニ至リ刈谷島(高知ノ人)戶長トナリ吉村耕藏副戶長トナリ水野九郎(後寧人)岡林藤之助(後藤里)村長トシテノ事務ヲ補佐セリ尙他ニ保長ヲ置キ部落ノ統治ヲナシ什長ヲ置キ保長ヲ補佐ス而シテ當時戶長副戶長ノ給料ハ縣ヨリ之ヲ支給スルヲ以テ縣廳ニ於テ定メタル給料標準額ハ其區劃ノ大小ニヨリ左表ノ如ク給與スルコトヲ公布シ村長以下ノ給料ハ庫米ヲ給セス戶口(村民負擔ノ意)ヨリ取立支辨スル旨ヲ規定セリ

戸長給標準大區 上三十石 中區 上廿六石 小區 上廿二石
 副戸長給標準 上廿八石 中區 上廿四石 小區 上二十石
 大區 下廿石 中區 上十八石 小區 上十五石
 下十七石 小區 下十四石

明治五年戸長ノ補佐役タル村長ヲ村用係ト改稱ス
 明治六年乾和民戸長兼學區取締トシテ赴任シ吉村業廣
 副戸長トナリ其他下僚ノ交迭アリテ戸長ハ佐川三野兩
 村ヲ管轄シ役場ヲ集議所ト稱シ此ニ村用係二名ヲ置キ
 諸般ノ事務ヲ掌理セリ七月廿八日地租改正條例ノ發布
 アリ地主ヨリ總代ヲ選定シ該事務ニ着手スルニ當リ戸
 長乾和民及兩村ノ先輩ハ一戸長ノ管下ニシテ兩村分立
 スルハ不利ナル点多キヲ以テ之ガ合併ヲ行ヒ其成立ノ
 上地租改正ノ實行ヲナスハ將來ノ得策ナラント主張シ
 遂ニ此議ヲ容レ其手續ヲナセリ

明治八年三月廿五日亥第百號ヲ以テ區制施行ノ布達ア
 リ縣内ヲ十七大區ニ區劃スルヤ佐川、斗賀野、永野、
 加茂、黒岩、能津、越知、尾川、大平、桐見川、長者
 別枝、森、名野川、池川、用居、大崎、横島等ノ十八
 ケ村ハ第十二大區ノ管轄ニ屬シ區長ヲ置キ其役場ヲ佐
 川町東町(上町四辻東(見付南角))ニ設置シ乾和民戸長
 ヨリ轉ジテ區長トナリ續テ南亮輔麻田反等其職ニ居リ

區内ヲ監督シ特ニ學區取締ヲ置キテ區内ノ教育普及ヲ
 獎勵セリ四月七日亥第百十五號達ヲ以テ大區下ニ小區
 ヲ置クノ制度發布セラル、ヤ十二大區ヲ七小區ニ分チ
 小區毎ニ副區長ヲ置キ從來ノ戸長役場ヲ區務處ト稱シ
 戸長用係等之レニ附屬シテ村治ヲ處理スルニ當リ佐川
 村ハ三野永野ト共ニ一小區ニ屬シ一行政區トナリ副區
 長ニハ萩野耕吉、水野寧人、佐藤侍、前田遊龜、永野
 親亮、川田信道(明治十年二月十二日辭令)等ノ諸氏交
 々其職ニ居リ佐川村專務戸長ニハ前田迪、安部積用係
 ニハ桑名可平、中平金十郎等其職ニ在リ三野ニハ近森
 節神、山崎初子、土居敬己等戸長トナリ執務ス而シテ
 先キニ合村ノ手續ヲナシタル件ハ七月十二日亥第二百
 十一號ノ縣達ヲ以テ佐川村ニ三野村ヲ合併シ佐川村ト
 稱スル旨公布セラレタリ依テ地租改正ニ付テハ舊來ノ
 佐川村ヲ甲トシ三野ハ柳瀬川ノ流域ヲ界シテ其東岸部
 ヲ乙トシ西岸部丙トシ之レヲ以テ地番ノ符號トシ順位
 ヲ立テ甲何番乙何番ト稱ス(世人動モスレバ甲乙ノ稱
 ハ町分農分ノ大別稱呼ノ如ク誤解スルモノアリ其辨妄
 トシテ茲ニ附記ス)當時地租ハ從來ノ貢物ト稱スル米
 納ノ額ニヨリ之レニ一定ノ代金(石代相場ト曰フ)ヲ附

々金納トセリ而シテ明治六年ヨリ地主總代ニ於テ調査
 シタル地租改正ノ事務ハ明治九年ヲ以テ其完済ヲ告ゲ
 地租金高六千二十一圓七十七錢トナリ之レヲ舊租貢米
 二千百三十六石八斗九升二合ノ代納金一万千二百五十
 一圓六十五錢九厘ニ比シ約半額ニ減ジタリ然リ而シテ
 佐川村三野村合併成立スト雖モ村治ノ全部ハ尙統一ス
 ルヲ得ズ唯表面ノミ一村ノ形ヲナシ兩部ニ專務戸長ヲ
 置キ教育衛生勸業土木等ノ費用ハ各別ニ負擔支辨セリ
 上述ノ如ク役場ハ兩方ニアリテ政令二途ニ出ヅルガ如
 ク特ニ農商其狀態ヲ異ニスルヲ以テ合併ノ實ニ乏シク
 物議囂々トシテ時々兩部ヨリ分村ヲ請願スレモノアリ
 然レモ當時ノ區戸長等專ラ調和ノ策ヲ取り其時機ノ到
 來ヲ期待シアリ三野村ハ近代北川覺四郎(後正則ト曰
 ヒ下山ニ住ス)其先代北川貞十郎ヨリ庄屋職ヲ襲キ自
 宅ニ於テ公務ヲ處理シ年寄トシテ北川小平、黒岩權平
 、中村次助、刈谷十平、田村榮吾等アリテ庄屋補佐ノ
 任トナル後故アリテ北川ハ庄屋職ヲ辭シ其後任トシテ
 下村慶吉(高知ノ人)來テ其職ヲ繼ギ維新ノ後明治三年
 五月其制ヲ改メテ郷制トナスニ當リ三野、尾川、越知
 三村ヲ合シテ三野郷ト稱シ役場ヲ字津賀ニ建築シ此ニ

テ管内ノ事務ヲ處理セリ下村慶吉轉ジテ徳久元之丞、
 川淵小藤太、河野越智郎等各交迭シテ郷長トナリ其配
 下ニ年寄總組頭組頭等ノ補佐役員ヲ置キ村務ヲ整理ス
 明治四年七月廢藩置縣ト共ニ郡區ノ制トナルヤ三野村
 ハ其十五區ニ屬シタリ是ヨリ先キ四月五日ヲ以テ戸籍
 編制ノ規定發布セラレ住民ノ年齢等ヲ調査ニ着手スル
 ヤ野老山、池川、名野川等未開ノ民ハ外國人ノ油取準
 備ナリト誤解シ所々ニ徒黨ヲ組テ蜂起シ竹槍蓆旗ヲ携
 ヘ烏合ノ衆ヲ以テ縣廳ニ迫撃セントス本村ノ如キモ之
 ヲ聞キテ其妄說ニ雷同スルモノアリ百餘人役場ニ集リ
 來リ吏員ニ迫害セントシ或ハ棍棒ヲ振ヒ又ハ發砲スル
 モノアリシモ當時ノ戸長河野越智郎及縣廳派遣官濱田
 時郎等ノ懇々説ク所アリ其意ヲ諒シ無事開散スルヲ得
 敢テ暴舉ヲ逞クスルニ至ラズ是レ明治四年十二月ナリ
 明治五年三月十八日各村ニ戸長ヲ置クコトヲ決定セラ
 ル蓋シ郷正ト稱ヘシヨリ此時ニ至ル迄ハ其名稱區々ナ
 リシヲ以テナリ

キ共ニ村治補佐ノ任ニ當ル此年地租改正條例ノ發布アリテ各部落ニ地主總代ヲ設ケ之レニ着手ス

明治七年兩村合併ノ端緒ヲ開キ同八年合併トナリテ佐川村三野ト稱シ近森節神用係ヨリ轉ジテ戸長トナリ明治九年二月近森節神轉任トナリ山崎初子二等戸長(月俸六圓)ヲ拜命シ代リテ三野ニ屬スル事務ヲ專掌セリ明治十年四月土居敬己戸長ヲ拜命シ山崎初子退任ス此間堀見眞三、水野源光、山崎甲斐藏等用係トナリ其事務ヲ補佐セリ

明治十一年七月十二日大政官達第十七號ヲ以テ郡區町村編制法ヲ發布セラレ十二月末日ヲ以テ區制ヲ廢シ郡制トナリ永野ヲ分離シ佐川村ニ一戸長ヲ置クニ當リ毛利直顯(高知ノ人)就任シ午前ハ佐川村役所ニ午後ハ三野村役所ニ交替シテ執務スル事トナル茲ニ於テ村民一般ニ合村ノ事實ナキヲ慨シ分離合併何レカ一決セラレシ事ヲ毛利直顯ニ請フモ其進捗ヲ見ズ毛利氏在職一年餘ニシテ退任シ大野直路其後任トナルヤ大ニ其敏腕ヲ揮ヒ村治ヲ鞏固ニシ共ニ公益ノ増進ヲ主唱シ佐川三野兩部落ニ對シ調停融和ノ法ヲ講ジ明治八年以降五年餘間ノ感情全ク一掃シ明治十三年十一月十六日村會ニ於

テ村役場改築ノ議ヲ決シ建築費用ハ豫算米七十石以内トシ之ヲ二分シテ其一半ヲ地租ニ一半ヲ營業稅及戸別ニ賦課スル事トセリ而シテ其位置ヲ松崎廻リ田(現在ノ土地)ニトシ十四年二月起工セリ

明治十四年三月戸長大野直路郡書記ニ轉任スルヤ麻田反戸長トナル六月村役場新築ノ工竣リ五日落成ノ式ヲ舉ゲ移リテ兩部ノ事務ヲ總轄シ處理スルニ至レリ當時ノ吏員ハ戸長麻田反用係ニハ堀見眞三、山崎甲斐藏、水野安義就任シ其他書記及勸業委員村會常置委員等ヲ置キタリ

明治十五年戸長麻田反學務係トシテ郡書記ニ轉任トナリ三月二日用係堀見眞三戸長兼學務委員ヲ拜命シ其他ハ交迭セズ嶋崎圓、大山文五郎書記トナリ用係水野安義ハ專ラ庶務ニ山崎甲斐藏ハ專ラ會計ノ事務ヲ處理セリ茲ニ於テ益々一村調和ノ域ニ進ミ學事勸業衛生土木恤救等ノ事務經濟ノ整理着々トシテ其緒ニ就ク當時村會議員ハ三十八名ニツテ内川田信道、近藤猶山、川添亥平、森龜彌太、堀見熙助、岡林藤里、田村信厚ノ七名常務委員トシテ時々役場ニ出務セリ
明治十六年一月十五日東町菜園畑ニ校舍ヲ新築シ佐川

中學校ヲ開校ス後高知中學校分校トナリ同十八年分校ヲ廢シ本校ニ合併セラレ遂ニ廢校トナル

明治十七年國道改鑿ノ議起リ戸長堀見眞三有志川田信道、佐枝竹藏、三橋楨助、竹村彌惣太、同虎五郎、下元庄三郎、森岡研策、高根庄七、濱口恒十郎、加用信齋、濱口駒次郎等ノ諸士卒先シテ線路ノ撰擇運動並ニ寄附募集等ニ盡力シ十八年ヨリ向フ五ヶ年間ニ寄附金及人夫共三千百五十餘圓ヲ納附スル旨ヲ請願シ舊來ノ二等道路(下山線)ヲ久兵衛坂通リ變更シ十八年十一月ヨリ改修ニ着手スル事トナレリ

明治十八年七月地主總代ヲ選舉シ明治九年地租改正ノ際調査上誤謬ノ點多々アルヲ以テ法令ノ規定ニ基キ之ガ訂正ヲ行フ地主總代ハ十七名ニシテ森龜彌太取締トナリ矢野蘇作副取締トナリ訂正委員ハ森龜彌太、矢野蘇作、田村豐、刈谷嘉平、東川久太郎ノ五名擔任整理セリ

明治二十年度ニ於テ佐川松崎三野ノ三校ヲ合併シテ一校トシ改築ノ事ヲ議決シ七月十二日校地ヲ肥代ノ坂ニ定メテ起工ス建築委員ハ森龜彌太、川田信道、矢野蘇作ノ三名擔當シ其工ヲ竣リ十二月廿八日ヲ以テ開校ノ

式ヲ行ヒ佐川小學校ト稱セリ同年十月高岡郡第三高等小學校ヲ佐川ニ開校ス

明治廿一年三月戸長堀見眞三在職六年ニシテ大平村戸長ニ轉ジ大野驥其後任トナリ筆生(用係改稱)書記等ハ前任者繼續執務ス四月廿五日市町村制發布セラレ廿二年四月一日ヨリ施行セラル、ヲ以テ當時吏員ハ常務ノ處理以外ニ町村制實施準備事務多端ナリ抑明治初年ヨリ本年ニ至ル二十一年間ニ於テハ漸々文明ノ域ニ進ミ人民自治ノ氣風ヲ涵養シ教育ヲ奨メ農工商業ノ發達ヲ計リ總代會民會區町村會等ノ代議機關ノ設ケアリテ各部落ヨリ總代或ハ議員ヲ選出シ村治ニ關スル諸般ノ事項ハ此機關ニヨリテ決議實行セリ特ニ明治七年小學校令ノ發布以來同十八年頃ニ至ル教育事務ハ學務委員ノ專務ニ屬シ戸長ハ學務委員ヲ兼ネ其監督ノ任ニ當リ經費ノ支辨教員ノ進退並ニ生徒ノ就學督勵ニ干與セリ當時學務委員ニハ佐川小學校下ニ伊藤乘義、川田信道アリ松崎小學校下ニ松木藤六、岡林藤里、三野小學校下ニ近藤猶山、森龜彌太、堀見又次等數年間其職務ニ執掌セリ

明治廿二年町村制實施ニ關シ自治區組織總代人八名ヲ

選舉ス其氏名左ノ如シ

川添 亥平 田村 信厚 森 龜彌太 山崎 徳升
矢野 蘇作 東川久太郎 岩佐 精策 徳弘 勝吾
古代人ハ庄田村ノ飛地交換處分及住民ノ所屬等ヲ調査
シ現今區劃ノ通り佐川村自治体ヲ組織スル事ヲ決シ村
會議員ノ定數ハ其制度ニ準據シテ十八名トシ四月二十
日ヲ以テ第一回ノ議員選舉ヲ執行ス(其議員氏名ハ別
項政治機關ノ部ニ記載ス)五月二日村會ヲ開キ年長者
岩佐精策議長トナリ議事細則及條例第一號ヲ議定ス

佐川村會議事細則

- 第一條 凡會議ノ時間ハ議長ニ於テ議事ノ都合又ハ
議員ノ便宜ヲ圖リ之ヲ定ムベシ
- 第二條 議員着席ノ順序ハ豫メ圖ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 議場ニ於テハ議員互ニ其姓名ヲ稱セズ其番
號ヲ用ユベシ
- 第四條 議事ヲ開クトキハ議長ハ書記ヲシテ議案ヲ
朗讀セシムベシ
- 第五條 會議ハ一回ノ評議ニヨリ決スルモノトス
- 第六條 前條ニヨリ決議スト雖モ議會閉場ニ至ラザ
ルトキ出席議員三分ノ一以上ノ動議ニ依リ請求ス

ルトキハ再議ニ付スルコトヲ得
第七條 議長ノ意見又ハ議員二名以上ノ請求ニ依リ
議案ノ條項ヲ分合シ若クハ其順序ヲ轉換シテ評決
スルコトヲ得

第八條 議員發言セント欲スルキハ議長ノ許諾ヲ得
議長ニ向テ演述スベシ同時ニ二人以上發言セント
スルトキハ議長其一人ヲ指定スベシ

第九條 議論冗長ニ涉リ若クハ無用ノ説ト認ムルキ
ハ議長之ヲ制止スルコトヲ得

第十條 可否ヲ決スルノ法ハ起立舉手投票ノ三種ト
シ議長適宜ニ之ヲ用ユベシ

第十一條 議事録ニ署名スヘキ議員ハ閉會當日出席
ノ者一同連印スルモノトス

但事故アリ閉會前ニ退席シタル者ヲ除ク
第十二條 議員疾病其他ノ事故ニヨリ不參或ハ遲參
スル者ハ開會時刻前其事由ヲ議長ニ届出ツヘシ

第十三條 議事其席ヲ離レ又ハ退場セントスル者
ハ議長ノ許可ヲ受ク可シ

第十四條 第十二條第十三條ニ違背スル者アルトキ
ハ議長ハ之ヲ會議ニ附シ事情ノ輕重ヲ審議セシメ

其決議ヲ以テ貳圓以下ノ過怠金ヲ科スルコトヲ得

條例第一號 村長有給條例

第一條 佐川村ハ制第五十六條ニ據リ村長ヲ有給吏
員トス

五月廿二日村會ニ於テ助役ヲ有給トナスコトヲ決シ左
ノ條例ヲ議決ス

條例第二號 助役有給條例

第一條 佐川村ハ制第五十六條ニヨリ助役ヲ有給吏
員トス

六月八日村會ニ於テ村長ノ選舉ヲ行ヒ安岡眞昌(庄田
ノ人)ヲ選任ス六月十七日助役ニ堀見眞三ヲ選舉ス六
月三十日村會ニ於テ收入役ニ山崎甲斐藏ヲ推薦シ其承
認ヲ得タリ同時ニ書記北川長ヲ推選ス猶役場補助機關
トシテ村内ヲ十六區ニ分チ各區ニ區長ヲ置キ任期ハ一
ケ年トシ諸稅令書ヲ配付シ且税金ノ完納ヲ促シ衛生及
現住者ノ出入調査等ノ事ヲ掌理セシム但市街東町西町
松崎肥代坂ハ區長ヲ置カス役場ニ於テ報酬金額ノ範圍
ヲ以テ適當ノ雇人ヲナシ區長ノ事務ヲ處理セシメタ
リ

區長設置ノ區分及報酬額

區	別	部落別	報 酬 額
一	區	上 郷	五、〇〇〇
二	區	東 町	八、〇〇〇
三	區	西 町	七、五〇〇
四	區	松崎、肥代ノ坂	五、〇〇〇
五	區	鳥ノ巢	三、〇〇〇
六	區	室原、鷺ノ巢	三、八〇〇
七	區	柏原、岡崎	三、〇〇〇
八	區	桂	三、五〇〇
九	區	虎杖野	三、五〇〇
十	區	本三野	四、五〇〇
十一	區	青 玄	二、五〇〇
十二	區	荷 稻	三、二〇〇
十三	區	市野瀬	五、五〇〇
十四	區	立野、柳瀬	三、五〇〇
十五	區	九反田	二、五〇〇
十六	區	川内谷、下郷	五、五〇〇
計			七〇、〇〇〇

如上吏員ハ各選任ヲ了シ村長ハ六月十四日助役ハ同月
二十一日收入役ハ七月三日就任シ戸長大野驥ヨリ其引

繼ヲナシ茲ニ自治林ノ基礎確立シ七月廿六日村會ニ於テ豫算額一千五百九十五圓(廿二年度九ヶ月分)ヲ決議シ區長ノ選舉及左ノ旅費支給規則ヲ制定セリ

縣内旅費規則

- 第一條 縣内旅費ハ村長以下公務ニ依リ本縣内ニ旅行スルトキ旅行中ノ費用ニ充ツル爲之ヲ支給ス
- 第二條 車馬賃ハ一里貳錢日當ハ貳拾錢各其里程日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ
- 第三條 日當ハ三里未滿ハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニヨリ宿泊ヲ要スルモノハ宿泊ノ數ニ應ジテ日當ヲ支給スヘシ
- 第四條 旅行ノ會計年度ニ跨ルトキハ各年度ニ區分シ旅費ヲ計算スヘシ

明治廿三年一月三十日ヨリ二月一日迄三日間村會ヲ開キ廿三年度歳入出豫算ヲ決議シ土木擔當人二名ヲ選舉ス森龜彌太品原久藏當選ス又同日諮問案トシテ縣會議員選舉分會場ニ村役場充用ノ件高知病院長隔月巡回ノ節患者診察場ニ村役場二階ヲ充用ノ件假定縣道松山線々路ハ裏町通リト定ムル事等ヲ答申確定ス九月十一日稀有ノ洪水アリ堤防道路橋梁ノ破壊流失田園ノ荒蕪家

屋人畜ノ失流死傷等其損害多大ニシテ堤防復舊工費豫算ハ實ニ金壹万一千四百七十圓ニ及ヒ本村地價百分ノ三即地租額以上ヲ超過スルヲ以テ十一月六日村會ヲ召集シ補助金交附ヲ縣ニ請願スル事ヲ決議シ且陳情委員森龜彌太川添亥平ヲ選舉シ縣知事及郡長ヘ補助金下附請願ニ付村經濟ノ情況ヲ陳情セシムル事トセリ斯クノ如ク來ル廿四年度土木工費ハ巨額ニシテ人民一時ノ負擔ニ堪ヘサルヲ以テ地租ニハ制限外ノ課稅ヲナシ且村債ヲ起スノ止ヲ得サル状態トナレリ此時ニ當リ第一期選出ノ議員中ニハ吏員トナリ或ハ資格ヲ喪ヒ又ハ事故ノ爲辭任スル者アリ其數減シテ十三名ノ少數タルヲ以テ此難局ニ處スルハ少數議員ノナシ得ヘカラサルモノアリトノ議起リ來廿四年二月廿五日ヲ以テ議員補欠選舉ヲ行フ準備ニ着手セリ

明治廿四年二月廿五日村會議員五名ノ補欠選舉ヲ行フ當選者左ノ如シ

一級	堀見 熙助	下元庄三郎	二級	田村梅太郎
	西村龜太郎	山崎 鐵眞		

三月十六日村會開會廿四年度土木臨時費ハ隨時必要ノ金額ヲ借入ル、事ヲ議決シ借用證書ハ村長借主トナリ

議員二名保證連印スル事トシ堀見熙助竹村虎五郎ハ保證惣代トナレリ全日土木委員ノ選舉ヲ行ヒ品原久藏森龜彌太味元春太郎篠原徳右衛門田村梅太郎徳弘勝吾矢野辻松當選此中ヨリ互選ヲ以テ幹事一名ヲ選舉シ森龜彌太當選セリ茲ニ於テ村長ハ土木幹事ト協議シ虎杖野ニ事務處ヲ設置シ第一ノ大工事タル字國利(ヨケ)ノ堤防工事ニ着手シタリ四月廿日村會ニ於テ郡會議員ノ選舉ヲ行ヒ伊藤徳敦當選ス此日初テ諸收入督促手数料條例ヲ議定シ内務大臣ノ許可ヲ稟請スル事トセリ五月五日村會ニ於テ村債ノ件ヲ附議シ高知市ニ於テ借入ル、

モノハ議員中堀見熙助竹村虎五郎森龜彌太小田伊三郎西村龜太郎徳弘勝吾山崎鐵眞上村貞守上元庄三郎ノ九名個人資格ニテ借入村長ヨリ右九名ニ對シ借用證書ヲ提供シ岩佐精策矢野龜彌川添亥平篠原徳右衛門伊藤徳敦山崎初子田村梅太郎刈谷嘉平矢野蘇作ノ九名ハ保證連署スル事ヲ議定セリ而シテ先キニ出願シタル工費補助金ハ七百廿八圓餘交附ノ許可ヲ得タリ七月十六日左記ノ訓令アリ

高知縣訓令第二百四十三号

高岡郡佐川村役場

其村貫通ノ新道路線撰擇上ニ關シ別紙圖面ノ藍色重線ノ通り春日川堤防ノ改築ヲ要シ候然ルニ右ハ其村營造物ニ關スルモノニ付豫メ村會ノ決議ヲ取リ該改築以後ノ管理方法等具申致スヘシ

明治廿四年七月十六日 高知縣知事調所廣丈
依テ七月廿六日村會ニ於テ左ノ議案ヲ決議シ知事ニ具申セリ

本村貫通ノ新道路線ニ關シ春日川筋字松崎近傍堤防改築後ハ將來本村柳瀬川春日川筋堤防同一ニ管理スルモノトス

明治廿四年七月廿六日提出決議

明治廿五年二月九日村會議員十三名ヨリ衆議院議員臨時總選舉ハ競争激烈ニシテ動モスレハ國民黨ノ暴漢等選舉人ニ危害ヲ加フルノ虞アリ依テ投票處ニ特ニ取締ヲ設クル件ニ付直ニ村會ヲ召集セラレンコトヲ請求ス同日午後緊急事件トシテ議員ヲ召集シ投票取締人二十名ヲ雇ヒ入ル、事ヲ決議ス其費用二十五圓ノ概算ナリ二月十五日衆議院議員臨時總選舉ニ付佐川尋常小學校ニ於テ投票ヲ行フ四月二十日第三回村會議員ノ選舉ヲ行フ

明治廿六年一月十日村會ニ於テ追加縣稅(廿五年度)戶數割各戶賦課額等差議案ヲ左ノ通り決議ス

第一條 明治廿五年縣令第四百十七號縣稅賦課徵收規則第四條ニヨリ村內各戶ニ對スル戶數割ノ課額等差ヲ定ムルコト左表ノ如シ

第二條 地租營業稅ハ戶主及家族ノ分ヲ合算スルモノトス(表ハ略ス)

此レニヨリ資力ヲ定メ等級ハ十七等ニ分チ一等ハ資力二百圓以上ニシテ負擔歩合五個八歩末等即チ十七等ハ資力五十錢未滿ノ者ニテ負擔歩合一個トシ此賦課總額六百十八圓七十錢ニシテ一等ハ壹圓七拾五錢末等ハ三十錢貳厘總戶數ハ一千五百五十戶ナリ六月廿一日村長安岡眞昌滿期退職ス助役堀見眞三全日滿期ナリシモ再選ニテ就任シ村長後任未定ナルヲ以テ助役其引繼ヲ受ケ事務ヲ處理セリ六月廿四日村會ニ於テ村治上ノ功勞者ニ金圓又ハ物品ヲ贈與シ名譽ヲ表彰スルノ條例ヲ設定セシコトヲ決議シ又前村長ヘ銀杯ヲ贈與スルコトヲ決議セリ七月廿一日村會ニ於テ村長ノ選舉ヲ行ヒ西村龜太郎當選シ認可ヲ得テ同月廿六日就任セリ附屬吏員舊ノ如シ七月卅一日村會ヲ招集シ先キニ決議シテ主務省

ニ申請シタル賞與條例ハ其筋ノ照會ニヨリ左ノ通り訂正決議ノ上申請セリ

第一條 村治上特ニ功勞アル者ニ對シ金員又ハ物品ヲ贈與シ其名譽ヲ表彰スル事ヲ得

第二條 前條ノ金員及物品ノ價格ハ金貳拾圓以內トス

第三條 第一條ニ該當スル者アルトキハ村會ノ決議ヲ經テ之ヲ贈與ス

理由書

本村ニハ吏員退職料ノ設ナキヲ以テ其職務ノ功勞ニ酬ヒ且都テ村治上ニ盡力スルモノヲ獎勵スル爲ニ本條例ヲ設クル所以ナリ

九月佐川尋常小學校二階建増築工事ヲ起シ森龜彌太田村梅太郎建築委員トナリ十二月竣工ス

明治廿七年二月十四日村會ニ於テ明治廿七年度歲入出豫算ヲ議決ス八月一日清國ト宣戰ノ詔勅下リ海陸砲火ヲ交フルニ當リ在郷軍人ノ召集アリ赤十字社員ノ募集恤兵家族ノ慰問等ヲナシタリ八月廿四日村會ニ於テ市坂字芝ニ四椀水剝新設ノ決議ヲナスコレ對岸ニ同様ノ工事ヲナシ市坂ニ害ヲ及ホスヲ以テ之カ撤去命令ア

ランコトヲ知事ニ請願スレトモ黒岩村ニ於テハ其命令ヲ實行セサルヲ以テ水防工事新設ノ舉ニ出シナリ直ニ之ヲ出願スレトモ遂ニ許可セラレス黒岩村ニ於テモ之ヲ撤去セサルヲ以テ少シク嵩上工事ヲ施シタリ

明治廿八年三月十一日十二日村會ヲ招集シ廿八年度歲入出豫算ヲ議決ス三月廿一日村會ニ於テ郡會議員ノ選舉ヲ行ヒ森龜彌太當選ス四月廿日第四回村會議員ノ選舉ヲ行フ八月日清ノ役平和克復シ出征兵士凱旋ニ付村長西村龜太郎有志惣代三宮利太郎安原正心三名ハ交代シテ松山ニ出張兵士ヲ歡迎セリ

明治廿九年三月九日村會招集廿九年度歲入出豫算并吏員療治料及扶助料ニ關スル條例ヲ決議ス(條例ハ衛生ノ部參照)十月廿七日村會ニ於テ特別所得稅條例ヲ制定決議シ直ニ內務大臣ニ許可ヲ稟請シ次年度ヨリ施行ノ事トセリ

明治三十年三月十五日村會ヲ招集シ三十一年度歲入出豫算ヲ議決ス四月廿六日村會ニ於テ郡會議員ノ選舉ヲ行フ森龜彌太當選ス六月十四日村長助役收入役ノ選舉ヲ行ヒ村長ニハ西村龜太郎助役堀見眞三收入役山崎甲斐藏各再選トナル

明治三十一年三月十七日村會ヲ招集シ三十一年度歲入出豫算ヲ議決ス四月廿日第五回村會議員ノ選舉ヲ行フ明治三十二年三月廿三日村會ニ於テ卅二年度歲入出豫算ヲ議決ス七月九日洪水アリ堤防ノ決潰多大ナリ九月廿一日再度ノ洪水アリ堤防道路ノ破損益多大トナリ同廿三日急施村會ヲ招集シ土木委員西村國正矢野辻松ヲ選舉シ復舊工事ノ設計及費用ヲ調査セシム九月七日收入役山崎甲斐藏死亡シタルヲ以テ十月廿五日村會ノ決議ニヨリ弔祭料金拾圓ヲ贈ル而シテ其後任ニハ書記田村耕ヲ推薦ス全日村會ニ於テ佐川村ヲ町ニ變更セン事ヲ決議シ十一月四日左記ノ如ク上申書ヲ提出セリ

上申書

佐發第一八七號
本村ハ從來村制ヲ施行候處爾後佐川町トナシ町制施行致度候條至急其御取計相成度村會ノ決議ニヨリ別紙理由書相添此段上申候也

明治卅二年十一月四日
佐川村長 西村龜太郎
高知縣知事谷河尙忠殿
理由書

佐川村ハ本郡北部ノ一小都會ナルヲ以テ町村制實施ノ際町制ヲ布クヘキ處舊來ノ稱呼ヲ保持センガ爲メ村制ヲ施行セリ然ルニ現今各地市街ヲナセル地ハ殆ント町制ヲ布カサルナシ故ヲ以テ獨リ當村ニノミ村制ヲ保持スルトキハ商業上ニ於テ不利ヲ招クコト尠シトセズ依テ村ヲ改メテ町トナス所以ナリ

前記上申書提出スルヤ縣參事會ヨリ左ノ如ク照會アリ直チニ町會ニ於テ意見ヲ決シ報告ス其書面左ノ如シ
參第一三號

明治卅二年十一月十五日

高知縣參事會高知縣知事 谷 河 尙 忠

佐川村會議長西村龜太郎殿

佐甲第二三五八號

報 告

佐川村ヲ佐川町ト變更ノ儀ハ本村會ニ於テモ切望スル處ニ有之候條此段及報告候也

高岡郡佐川村會議長佐川村長 西村龜太郎
高知縣參事會高知縣知事谷河尙忠殿

明治三十三年一月十日左ノ告示ヲ以テ佐川町ト變更ス
高知縣告示第二號
明治三十三年一月十日

高知縣知事 谷 河 尙 忠

二月七日町會ニ於テ上郷ヨリ北原村ニ至ル道路ヲ郡道トシテ改修スル事ヲ郡長ニ請願ノ件ヲ決議ス又昨年九月水害ニヨリ破壊ノ堤防工費土木委員ニ於テ調査ヲ了タルヲ以テ三月二日町會ヲ開キ土木費支出金九千六百拾九圓餘之レニ對スル歲入縣補助金千八百圓町債七千八百十九圓ヲ決議シ直ニ補助請願町債借入ノ手續ヲ了シ農工銀行ヨリ借入ヲナシ土木委員西村國正矢野辻松之ヲ擔當シ公會堂ニ事務處ヲ設ケ工事ヲ監督執行セリ全月廿二日町會ニ於テ三十三年度歲入出豫算ヲ議決ス五月十七日町會ニ於テ災害土木復舊工事費ニ充用ノ爲特別稅荒地元地價割徵收細則ノ條例ヲ制定決議シ直ニ內務大藏兩大臣ニ其許可ヲ申請セリ而シテ該條例ハ將來災害ニヨリ堤防工事費地租額以上ノ町費ヲ要スル場合ハ之ヲ適用シ特別稅ヲ徵收スル事トセリ十二月十七日收入役田村耕事故ニヨリ辭職届ヲ提出ス

明治卅四年二月廿八日町會ヲ開キ田村耕ノ收入役辭職ヲ承認ス後任者ハ書記北川長ヲ推薦シ三月四日知事ノ認可ヲ得テ就職セリ三月廿二日町會ヲ開キ三十四年度歲入出豫算并勸業委員ヲ設置スル事ヲ決議シ西村國正當選ス四月廿日第六回町會議員ノ選舉ヲ行フ六月十二日町長及助役ノ選舉ヲ行ヒ町長ニ堀田孫之助役ニ西村國正當選シ六月廿日ヲ以テ助役堀見眞退職ト同時ニ就任ス七月二十五日町長西村龜太郎滿期退職シ後任堀田孫之就職ス同日町會ニ於テ前町長ヘ慰勞金五拾圓助役ヘ慰勞金三拾圓ヲ贈與スルコトヲ決議シ且傳染病舎新築ノ件ヲ議事ニ附シ建築費及敷地購入費千三百三十六圓ノ追加豫算ヲ決議ス而シテ堀見眞三ヲ建築委員ニ選舉シ工事ヲ擔當セシム十二月廿八日收入役北川長病氣ノ爲辭職シ後任トシテ森岡研策ヲ推選シタリ
明治三十五年一月四日收入役森岡研策就職ス二月廿日町會ニ於テ三十五年度歲入出豫算并佐川尋常小學校基本財產管理規定等ヲ決議セリ同日助役ニ關スル條例改正ノ件ヲ決議シ內務大臣ノ認可ヲ得テ助役二名ヲ置ク事トシ四月廿四日名譽職助役ノ選舉ヲ行ヒ堀見眞三當選就任ス九月廿七日助役堀見眞三事故ニヨリ辭任退職

十一月廿九日町會ニ於テ尾川村ニ通スル道路ヲ郡道トシ改修ノ目的ヲ以テ測量組合ノ設置規定ヲ決議ス同日名譽職助役ニ堀見眞三ヲ再選シ十二月廿四日就職ス
明治三十六年二月十八日町會ニ於テ三十六年度歲入出豫算ヲ決議ス八月二十七日佐川尋常小學校基本財產管理規定設定ノ件ヲ決議ス其條項左ノ如シ

佐川尋常小學校基本財產管理規定

第一條 基本財產ハ土地公債證書及有價證券トシ町長ハ學務委員ノ意見ヲ開キ隨時之ヲ購入スルモノトス

第二條 現金ハ前條財產ノ購入ヲナス迄郵便貯金又ハ確實ナル銀行預金トナシ置クモノトス但預ケ入ヲナス銀行ハ豫メ町會ノ議決ヲ經ヘキモノトス

第三條 基本財產ハ臺帳ヲ設ケ其種類數量價格其他必要ノ事項ハ詳細之ヲ記載スルモノトス

第四條 基本財產ノ利子ハ當分之ヲ費消セサルモノトス

第五條 基本財產ハ毎年度末ニ於テ之ヲ精査シ其情況ヲ町會ニ報告シ承認ヲ得ヘキモノトス

明治三十七年二月廿九日町會ヲ招集シ全年度歲入出豫

算ヲ決議ス全日郡道北原線測量組合解散ヲ決議ス二月十一日露國ト交戦ノ詔勅下リ海陸ノ軍砲火ヲ交フルニ及ヒ充員ノ召集馬匹ノ徵發恤兵ノ事業其他出兵家族ノ救護軍資金ノ募集等非常ノ多忙ヲ極メタリ(本件ハ兵事ノ部ニ詳述ス)四月廿日第七回町會議員ノ選舉ヲ行フ十一月十四日軍人墓地設置ノ件ヲ町會ニ於テ決議ス(兵事ノ部參照)

明治三十八年二月六日佐川町斗賀野村學校組合規定ヲ決議ス同日議員ノ建議ヲ以テ昨年來戰役ニ關シ吏員ノ勤勞多大ナルヲ以テ慰勞金貳拾貳圓ヲ贈與スル事ヲ決議ス三月十八日三十八年度ノ歳入出豫算ヲ決議ス六月二日町會ニ於テ堤防修築基金蓄積規定ノ設定ヲ議決ス六月廿日助役西村國正滿期ニ付退職シ後任ニ西村龜太郎當選就任ス七月三日元助役西村國正ニ慰勞金三拾圓ヲ贈ル十二月廿三日收入役滿期ニ付後任近藤馬之助ヲ推薦ス

明治卅九年一月六日收入役森岡研策退職シ後任近藤馬之助就職ス二月十七日三十九年度ノ歳入出豫算ヲ議決ス同日前收入役へ慰勞金貳拾圓贈與ノ事ヲ決議ス四月廿一日町長堀田孫之朝鮮ニ移住ノ爲職ヲ辭シタルヲ以

テ後任ニ助役西村龜太郎ヲ選舉シ五月十日就職ス前町長堀田孫之へ町會ノ決議ヲ以テ慰勞金百圓ヲ贈與セリ五月廿三日有給助役ノ選舉ヲ行ヒ田村貞躬當選シ六月二日就職ス七月二十七日學校基本財産蓄積條例ヲ制定ス十月中旬宮内大臣子爵田中光顯展墓ノ爲歸町セラレ佐川高等小學校佐川尋常小學校へ基金壹千圓宛寄附セラレタリ十一月二十一日名譽職助役ノ分掌事務ヲ土木勸業ト決定ス全日名譽職助役堀見眞三滿期ナリシモ再選ヲ以テ留任ス又全日屠畜場ヲ町設トナシ改築費及設備品費トシテ金壹千三百五圓ノ追加豫算ヲ決議シ直ニ工事ニ着手セリ蓋シ屠場ハ數年前ヨリ個人ノ經營ヲ以テ上郷ノ南端永野ト相接スル地ニアリシモ設備不完全ニシテ規程ニ適合セス且縣當局ハ各郡ニ一ヶ處ヲ設置スルノ方針ニ出デ町村營トナスヲ獎勵セルヲ以テ將來町ノ收入多大ナルヲ信ジ之ヲ決議シタルナリ此建築ニ要スル經費歳入ハ學校基本財産現金ヲ流用シ三年間ニ利子ヲ附シ償還セリ而シテ屠畜ノ事業ハ本年十二月ヨリ開始スルニ至レリ十二月十五日收入役近藤馬之助辭任シ後任宇賀丑彌當選就職ス

明治四十年三月十二日町會ヲ召集シ四十年年度ノ歳入出

豫算ヲ決議ス全十三日町條例第一号村長ヲ有給トナスノ條例廢止ノ件ヲ決議セリ全月廿七日町會ニ於テ斗賀野村ニ在ル三野斗賀野兩村共有地賣却ノ件ヲ決議ス四月廿日第八回町會議員ノ半數選舉ヲ行フ七月卅一日町會ニ於テ卅九年度ノ歳入出決算報告ヲ認定ス八月廿日町會ニ於テ義勇艦隊義捐金壹千二百九拾圓ヲ明治四十年度ヨリ四十四年度迄繼續支出トナシ兵事會ニ補助シ之ヲ寄附セシムル事ヲ議決シ其支出額ヲ左ノ如ク定メタリ

年 度 別	支 出 額
明治四十年度	二百五十圓
同 四十一年度	二百六十圓
同 四十二年度	二百六十圓
同 四十三年度	二百六十圓
同 四十四年度	二百六十圓
計	千二百九十圓

右決議後四十一年度迄納附シタルカ殘金ハ他町村ニモ負擔額完納ニ至ラサルヲ以テ其納付ヲ中止シタリ九月十二日郡長德永秀實ハ電報ヲ以テ町長ニ出張ヲ命ス仍テ西村町長ハ同十四日出頭シタルニ東宮殿下行啓御道筋變更トナリ御還啓ノ途次ハ佐川御通過トナルヲ以テ

御休憩所ノ設備及供奉員接待ノ事ニ付協議アリ直ニ之ヲ了承シ午後一時町長ハ須崎ヨリ助役堀見眞三へ今夜町會ヲ召集スヘキ旨電報ヲナシ黃昏歸町ス午後七時町長出席町會ヲ開キ佐川高等小學校ヲ以テ御休憩所ニ供シ且供奉員ノ接待ヲナス事ニ付議員ニ諮問ス審議ノ結果御座所ヲ新築シ校舍ヲ以テ供奉員ノ接待室ニ充ツル事并經費一千圓ヲ支出シ佐川町奉迎會ニ補助スル事ヲ決議シ御座所建築委員ニ小田伊三郎岡林德太郎竹村貞次郎ノ三名ヲ選舉シ散會セリ(詳細ノ記事ハ第二十一章ニアリ)十月三日町會開會尋常小學校改築ノ件ヲ議決シ且行啓ニ付奉迎委員ヲ左ノ通り指名推選セリ

接待係 堀見照助 山崎鐵眞 加用信齋 濱口恒十郎 西田鎌太郎

粧飾係 川田豐太郎 竹村安右衛門 田村熊市 井上和之助 金子丑太郎 竹村源十郎

十一月八日東宮殿下須崎ニ御上陸直ニ高知ニ向ハセラシルヲ以テ町長ハ高等小學校長弘田流水ト共ニ高岡町ニ出張奉迎ス而シテ町長ハ猶高知ニ行キ御旅館山内侯爵邸ニ詣リ天機ヲ奉伺セリ十二月日佐川御通過ナルヲ以テ委員一同ハ高等小學校ニ參集シ奉迎ス午後零時發須崎

ニ向ケ還啓遊ハサレタリ十二月廿六日町會ヲ開キ奉迎會補助費ヲ決議シ森榮外八名ノ請願ニ係ル里道改修費補助ノ件ヲ議事ニ附シタリ然ルニ里道補助ハ獨リ虎杖野ノミナラス他ノ部落ニモ全様改修ノ計畫アルマモ知レサルヲ以テ明年一月十日限り各部落計畫ノ有無ヲ徵シ委員ニ附托シテ調査セシメ然ル後決定スル事トシ濱口恒十郎堀見熙助川田豐太郎ヲ委員ニ選舉セリ本年度始テ納稅組合獎勵金豫算額五十五圓ヲ置キ左ノ規定ニヨリ納稅組合各區ニ設置セシメ諸稅ノ完納ヲ獎勵セリ之レニ由リテ成立シタル組合ハ二十三組ニシテ其効果多大ナリ

納稅組合獎勵規程

- 第一條 諸稅ヲ納期內ニ完納シタル納稅組合ニ對シ本規程ニヨリ獎勵金ヲ交附ス
- 第二條 獎勵金ノ交附ヲ受クヘキ組合ハ左ノ資格アルモノニ限ル
 - 一 各區ノ範圍ヲ以テ組織シタル組合
 - 一 組合規約ヲ定メ其規約中ノ組合員ハ相互戒飭ヲ加ヘ滯納セサル旨ノ誓約ヲナセル組合
 - 一 組合ハ永續的ノ組織ニシテ町長ニ於テ永續ノ見

込アリト認メタル組合

- 第三條 獎勵金ハ組合員ニ對シ金五錢ヲ標準トシ組合員ノ總數ニ乘シタル金額ヲ交付ス
 - 第四條 獎勵金ハ納稅了シタル後之ヲ交付ス
 - 第五條 納期後三日以內ニ完納シタル組合ニシテ特別ノ事情アルモノハ納期內完納ノ組合ニ準シ第三條ノ獎勵金若クハ獎勵金ヲ減額シテ交付スルコトアルヘシ
- 且又組合規約モ左ノ準則ヲ作り之ヲ各組合ニ配付シ協議セシメ各組合共ニ準則通り規約ヲ決定セリ

納稅組合規約

- 第一條 本組合ハ何々納稅組合ト稱シ何々部落住民ヲ以テ組織スルモノトス
- 第二條 組合員ハ相互親睦ヲ旨トシ公德ヲ重ンシ諸稅ハ他ノ勸誘ヲ待タズ速ニ完納スルモノトス
- 第三條 本組合內ニ住居スル納稅者ニシテ組合ニ加入セサル者ニ對シテハ組合員ハ社交的ノ交際ヲナサハルモノトス
- 第四條 組合ニ左ノ役員ヲ置ク其任期ハ各一ケ年トス

組合長 一名 世話係 若干名
前項ノ役員中組合長ハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合員ノ納稅ヲ代理スルモノトス

第六條 世話係ハ組合長ヲ補佐シ組合員ノ納稅其他ノ世話ヲナスモノトス

第七條 組合員ハ納期前何日迄ニ自己ノ納稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ組合長若クハ世話係ニ依托スルモノトス

第八條 組合員ニシテ直接收入役ニ納稅了シタル場合ハ其領收證ヲ添ヘ組合長ニ其旨速ニ通知スルモノトス

第九條 納稅組合獎勵規程ニヨリ交付セラレタル獎勵金ハ組合員ノ協議ニ依リ處分スルモノトス

附 則

- 第十條 組合員ハ納稅ノ準備トシテ豫メ收入金アル場合組合長ニ依托シテ貯蓄スルコトヲ得
- 第十一條 組合長前條ノ依托ヲ受ケタルキハ嚴重ニ之ヲ保管シ納稅了シタル場合速ニ精算ヲナシ殘

餘アルトキハ之ヲ本人ニ交付スルカ若クハ本人ノ意見ヲ聞キ次期ノ納稅準備金トシテ保管スルコトヲ得

第十二條 組合長ノ保管金何圓以上ニ上リタルトキハ之ヲ郵便貯金トナスモノトス

明治四十一年二月三日町會ヲ召集シ佐川尋常小學校々地及体操場ヲ本三野宇前屋敷ニ變更ノ件ヲ決議シ該費用ハ町債ヲ起シ且官有林拂下ヲナシテ用材トナス事ヲ決議セリ二月十二日官有林拂下ノ件及低利資金借入等取調ノ爲町長東京ニ出張シ農商務省及勸業銀行等ニ交渉セリ二月廿五日歸町シ直ニ高知大林區署ニ出張シ拂下山林ノ個處調ヲナシタリシガ時日ヲ經ル内經濟界ニ大變動ヲ來タシ物價下落ト共ニ一大不況ニ陥リ而已ナラス町ニテハ郡道北原線ノ改修費ヲ負擔スル場合トナリ其一方ニ於テ建築費ヲ支辨スルハ町ノ經濟上至難ナリト認メ三月十一日町會ヲ開キ諮問シタルニ議員ノ意見モ亦經濟界ニ大變動アル場合ナレハ郡道竣工ノ後建築ニ着手スル方得策ナリトノ說多數ニテ建築延期ノ決議ヲナセリ三月十九日町會ニ於テ四十一年度ノ歳入出豫算其他數件并ニ屠畜場使用料條例設定ノ件ヲ議決ス

同日議員ノ建議ニヨリ町條例第八號諸收入督促及諸證明閱覽等ニ關スル手数料條例第六條ノ手数料金額五錢トアルヲ拾錢ニ變更ノ事ヲ決議ス又議員金子丑太郎ヨリ佐川電話所設置請願ノ件建議アリ滿場異議ナク建議ヲ容レ架設費三百圓ヲ有志ヨリ町ニ寄附スルヲ以テ町ヨリ請願書提出ノ事ヲ議決ス前町會議員森龜彌太ハ數十年間町會議員其他委員ノ職ニ居リ町治ニ裨益スル所多大ナルヲ以テ其功績表彰ノ爲銀盃贈與ノ件ヲ決議セリ七月卅一日町會招集四十年度ノ歳入出決算報告ヲ認定ス同日四十二年度ニ於テ學校ノ増築ヲナスヤ又ハ他ノ方法ニヨルカニ付其施設ヲ諮問ス滿場一致ヲ以テ四十二年度ハ第一第二學年ニ二部教授ヲナス事ニ議決ス組合會議員ノ選舉ヲ行ヒ川田豐太郎堀見熙助當選ス八月十一日洪水ノ爲堤防道路ノ破壊多ク故ヲ以テ復舊工事費支辨ノ爲九月十四日町會ヲ開キ土木費及土木委員ニ要スル費用二千七圓ノ追加豫算ヲ決議シ土木委員小田伊三郎ト外ニ一名ノ増員ヲ選舉シ汲田作太郎當選セリ同日左ノ里道廢止案ヲ決議セリ

佐川町字「サエンバタ」ヨリ石切坂ニ至ル里道ハ廢道トシ作道ヲ造リ殘地ハ町有財産ニ拂下ヲ請願スルモ

ノトス

議員川田豐太郎ノ建議ニヨリ毎年十一月十二日ニ東宮殿下行啓紀念式舉行ノ件ヲ議決シ其式典方法ニ付テハ委員五名ヲ設ケ決定スルコトシ左ノ五名ヲ委員ニ選定セリ

濱口恒十郎 堀見 熙助 岡林德太郎 川田豐太郎 弘田 流水

十一月廿九日町會ニ於テ佐川町外四ヶ村學校組合規約制定ノ件ヲ決議ス其理由ハ明治四十二年度ヨリ學校組合ヲ擴張シ佐川斗賀野尾川加茂北原(谷地)ノ五町村聯合シ高等小學校及女子技藝學校設置ノ約成ルヲ以テナリ又電話架設請願ノ件ハ前會決議ノ如ク三百圓寄附ノ筈ヲ以テ請願シタルモ到底該金額ニテハ採用ナラザル旨回答アリシヲ以テ更ニ費用ノ全部ヲ八百五十圓トシ内百五十圓ハ四十二年度ニ於テ町費ヨリ支出シ残り七百圓ハ有志ノ寄附ヲ以テシ合計金八百五十圓ヲ寄附スルモノトシ更ニ町長ヨリ申請スル事ヲ決議セリ

明治四十二年二月一日郡道越知線ニ關シ町會ヲ招集シ諮問ヲナス其要旨ハ越知町ヨリ加茂村ニ通スル郡道ハ本年郡會ニ於テ當町ニ對シ強制豫算ヲ編制シ其改修費

ヲ提案セル趣ナリ由テ之ヲ決議セラル、ニ於テハ其負擔ヲ受ケサルヘカテス然ルニ該道路ハ先キニ當町ニ於テハ其必要ヲ重大視セス却テ排斥ノ勢ナリシ而已ナラス目下ノ處町經濟ニモ大影響ヲ被ルヘキ問題ナレハ此際郡長ニ向テ其陳情ヲナスノ必要ヲ認ム由テ郡長ニ上申スルノ可否ニ付然ルヘク答申案ノ決定ヲ求ムルニアリ茲ニ於テ町會ハ委員ニ 濱口恒十郎 川田豐太郎 小田伊三郎 西田鎌太郎ノ四名ヲ選舉シ答申案ヲ起草セシメ之ヲ決議シテ郡長ニ對シ無期延期ノ事ヲ陳情スル事トセリ其答申書左ノ如シ

ニ惡例ヲ貽スノ行動ナリトス殊ニ我カ佐川町ハ自然ノ趨勢ニヨリ年々經常費ノ增多ヲ來タシ加之郡道北原線ニ於テモ多額ノ費用ヲ負擔シ夫レカ爲既定ノ教育事業施設ヲモ延期シ不完全ナルニ部教授ヲ敢テスルノ止ヲ得サル場合ニ立至レリ故ニ上記ノ郡道ニ對シテハ吾カ佐川町ハ目下ノ境遇上絕對的ニ加入スルコト克ハス

明治四十二年二月一日

以上ノ答申ニヨリ町長ハ直ニ郡長ニ對シ此答申書ヲ提出シテ負擔ノ不可能ヲ陳情セリ三月五日町會ニ於テ明治四十二年度ハ學校狹隘ナルヲ以テ他ニ家屋ヲ借り受ケ分敷場ヲ設クル事ヲ決議ス三月廿四日町會ヲ招集シ四十二年度歳入出豫算及之ニ伴フ賦課徵收方法等ヲ決議シ吏員旅費支給規定ヲ左ノ如ク改正セリ

佐川町吏員旅費支給規則第九條第十條ヲ左ノ通り改正ス

郡道越知線改修ニ付諮問ニ對スル答申

凡ソ郡道改修ニ就キテハ深ク其關係町村ノ利害ヲ講究シ而テ後郡會ノ決議ヲ經始メテ實行スヘキモノナルニ今回越知町ヨリ加茂村ニ通スル郡道ハ吾カ佐川町ニ對シ郡長ハ何等ノ諮問ヲナサシテ那會ニ提案シ強制制ニ吾カ町ニ其費用ヲ負擔セシメントスルハ實ニ非立憲的ノ行動ニシテ町村ノ自治ヲ蹂躪シ今後

第九條 旅費日當支給金額左表ノ如シ

汽車賃	汽船賃	縣	外	縣	內
一哩	一哩	一車馬里	一宿泊夜料	一車馬里	一宿泊夜料
一日當	一日當	一車馬里	一宿泊夜料	一車馬里	一宿泊夜料
一日當	一日當	一車馬里	一宿泊夜料	一車馬里	一宿泊夜料

四	錢	四	錢	二十	錢	一圓	五十	錢	八十	錢	十三	錢	七十	錢	五十	錢
---	---	---	---	----	---	----	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---

第十條 自轉車ヲ以テ旅行シ其日歸町スルトキハ其里程ニ應シ一里ニ付拾錢ノ計算ヲ以テ日當ヲ支給ス

全日里道改修費補助ニ關スル件ヲ左ノ如ク決議ス
 本年度ニ於テ調査中ナル各部落幹線里道ハ其工費等ニ關スル調査未了ナルモ本町目下ノ經濟上到底補助スヘキ餘地ナキニ由リ郡道北原線越知線改修及學校建築濟年度迄ニ精細調査シ其翌年ヨリ負擔ノ輕重ヲ斟酌シ里道改修ヲ實施スル部落ニ對シ補助スルモノトス

明治四十二年三月二十四日提出

議員濱口恒十郎ノ建議ニヨリ助役堀見眞三カ明治六年以來町治ニ盡瘁シ其功績顯著ナルヲ以テ記念品ヲ贈呈シ其名譽ヲ表彰スル事ヲ決議シタリ郡道尾川線ハ本年度ニ於テ測量ヲナス爲該費用金二十五圓ヲ寄附スル事トシ之ニ附帶シテ線路ノ希望ヲ左ノ如ク決議セリ
 尾川村ヨリ當町ニ達スル郡道線路ハ元ノ測量通り岡崎ヲ經テ肥代ノ坂尋常小學校下ニ達スルコトヲ期ス

又同町會ニ於テ尾川村廣瀨部落ニアル堤防尖端破壞セラルモ其復舊工事費ハ關係地主ノ負擔ナルヲ以テ其利益ヲ受クル土地ノ價格ト工費ト收支相償ハサル關係ヨリ數年間其儘放棄シアリ然ルニ此堤防ハ佐川町ノ造營物ニ危害ヲ及ホスノミナラス室原部落ノ水利ニ關係アルヲ以テ之カ修繕ヲナスニ付町ヨリ補助金ノ下付アラシコトヲ室原部落民ヨリ請願シアリ素ヨリ本工事ハ當町ノ管轄ナラサルモ室原ノ灌溉水路ト當町營造物維持上大ナル關係アル事ハ請願ノ通りナルヲ以テ土木委員ヲシテ充分調査セシメ其結果ニ於テ可然措置センコトヲ決議セリ七月三十日町會ニ於テ明治四十一年度歲入出決算報告ヲ認定シ且前町會ニ於テ調査ニ附シタル堤防費ノ補助ハ廣瀨部落ノ土木組合ニ加入シ修繕シ得ル事トナラハ金拾圓ノ補助ヲ交附スル事ヲ決議セリ昨四十年請願セル電話架設ハ許可セラル、赴ナルヲ以テ町有志ノ寄附金五百六十圓ノ收入ト之ニ伴フ電話架設費指定寄附金五百六十圓ノ支出追加豫算ヲ決議シ總計七百十圓ヲ寄附スル事ト決定セリ十二月廿四日町會ニ於

テ佐川尋常小學校ノ改築ハ四十三年度ニ於テ其幾分ヲ建築スル事トシ其方法ハ五名ノ委員ヲ設ケ調査ヲ委託スルニ決シ川田豐太郎西田鎌太郎堀見眞助小田伊三郎岡林徳太郎ヲ委員ニ選舉セリ
 明治四十三年一月十四日消防組設置ノ件ニ付知事ヨリ意見ヲ徵セラル依テ二十一日町會ヲ開キ四十三年度ニ於テ設置センコトノ答申ヲ決議シ又全日郡道越知線中加茂村ニ於ケル比較線ノ件ニ付左ノ意見書提出ノ事ヲ決議セリ

意見書

凡ソ道路ヲ改修スルニハ其目的ニ途ニアリテ一ハ交通不便ノ地ニ殖産興業ノ發展ヲ圖ルト一ハ殖産發展ノ餘地ナキモ運輸交通上ニノミスルモノトアリ越知東部線ノ如キハ前記第二ノ目的ニヨリテ改修ヲナスモノニシテ初メ本線計畫ノ場合ニ於テハ其費用負擔歩合ヲ越知町五分五厘黒岩村三分五厘加茂村一分ト協定シ其主要目的ハ越知町ト高知間ノ運輸交通ヲ便シ併セテ各町村ノ交通機關タラシムルニ外ナラサルコト明カナリ然ルニ本線中加茂村ニ於ケル査定線ハ其改修ノ距離長ク且縣道ト接續地点ニ於テハ路線ノ

彎曲ヲ免レス工費ニ於テモ多額ヲ要スルハ論ヲ俟タザル處ナリ依テ關係町村ハ加茂村字馬場ヨリ全村字長尾ニ至ル比較線ノ踏査ヲナシ其適當ナルコトヲ認メ路線變更ノ事ヲ陳情シ當局ニ於テハ之ヲ調査セラレタルモ今期郡會ノ提案ハ尙依然トシテ其査定線ナル事ヲ耳ニス果シテ然ラハ我町會ハ比較線ニ變更セラレンコト切望ニ堪ヘサルモノアリ抑比較線ハ加茂村有志ニ於テ詳細調査シタル書類ニ徵スルニ適當ノ線路ヲ取り其距離僅ニ百一十一鎮餘土地平坦工事容易ナルノミナラス起点龍田ニ至ル間交通距離ニ於テモ十餘鎮ノ短縮トナリ之レニ反シ査定線ハ字馬場ヨリ起点龍田迄百八十五鎮路線ハ山脚ニ沿ヒテ直路多キモ山麓出入起伏ノ箇所亦多キヲ以テ多大ノ切取又ハ埋立ヲナスニアラズンバ路面ニ波狀或ハ屈曲ヲ來タシ爲メニ交通ノ不便ヲ感スルヤ必セリ而シテ其工費ヲ比較スルニ査定線ハ六千二百餘圓比較線ハ五千三百餘圓ニシテ此差又尠少ノモノニアラス今ヤ吾町ハ經費多端ニシテ焦眉ノ急ヲ要スル施設等モ繰延ヲナシ居ル場合如上ノ理由ナルニヨリ比較線改修費以上ノ負擔ハ到底民力ニ堪ヘサルノミナラス道路改修

ノ目的ニ於テモ敢テ反セサルモノト認ムルヲ以テ路線ノ變更アラシムコトヲ茲ニ町會ノ決議ヲ以テ意見開申候也

明治四十三年一月廿一日

佐川町會議長佐川町長 西村龜太郎

高岡郡長徳永秀實殿

前記意見書ハ直ニ郡長ニ提出シ且開會中ノ郡會ニ對シ越知黒岩佐川加茂(加茂村ハ二派アリテ比較線主張者ハ南方ノ部落ナリ)ノ町村長有志須崎ニ出張シ比較線ニ變更ノ議ヲ交渉セリ然ルニ加茂村長及同村ノ大部分ハ査定線派ナルヲ以テ之ヲ變更スルコト容易ナラス郡會ニ於テモ之ノ調停ヲナサントシ委員ヲ選テ關係町村ニ交渉協定シ郡提案ニ係ル負擔歩合ノ中加茂村負擔ヲ増加シ其他三町村ノ負擔ヲ輕減スル事トナリ遂ニ左ノ歩合ヲ以テ經費ヲ負擔シ改修スル事ニ決定セリ

越知町 五歩五厘 黒岩村 一步三厘 佐川町 壹歩六厘 加茂村 壹歩六厘

三月二十二日町會ヲ招集シ佐川町會議事細則ノ改正並ニ四十三年度ノ歳入出豫算其他區長委員ノ選舉ヲ行ヒ且町長ハ來ル五月九日滿期ナルヲ以テ議員一同ノ請求

次全部ノ改築ヲナス事

七月三十日町會ハ四十二年度ノ歳入出決算報告認定及學校建築費五千八百四拾圓校地買收費三千二百二拾七圓ノ歳入出追加更正豫算ヲ議決セリ豫定郡道戸波線即チ北原郡道ヨリ分岐シテ戸波ニ通スル線路測量ニ關シ戸波斗賀野兩村ヨリ交渉アリ其結果測量費百二十圓ノ内三十圓ヲ斗賀野村ニ四十圓ヲ戸波村ニ五拾圓ヲ佐川町ニ負擔スル筈トシ佐川負擔ハ商業同盟會ノ寄附ヲ以テ支辨シ若不足スルトキハ三拾五圓ヲ限度トシラ町費ヨリ支辨スルコトヲ十月十日町會ニ於テ協議シ尙左ノ事項ヲ附帶シテ決議セリ

- 一本線測量ノ上本町ガ享受スル利益少キト認ムル時ハ改修組合ニ加入セサル事アル可シ
- 一郡道トシテ改修スル場合ハ左ノ歩合ニヨリ夫役代納金ヲ負擔ス

斗賀野村戸波村 七分 佐川町 三分

拾二月九日町會ニ於テ名譽職助役堀見眞三滿期ニ付後任助役ノ選舉ヲ行ヒ現收入役宇賀丑彌滿場一致ヲ以テ當選セリ收入役宇賀丑彌ハ本月十八日滿期ニ付其後任ニ岩佐猪久衛ヲ推薦シ滿場異議ナク承認セリ學校建築

ニヨリ二十四日其選舉ヲ行フ滿場一致ヲ以テ西村龜太郎ヲ再選セリ三月法律第貳號ヲ以テ地租條例改正及法律第二十七號地方稅制限ニ關スル件改正ニヨリ其賦課額ニ異動ヲ生シタルヲ以テ四月二日緊急町會ヲ開キ豫算ノ一部更正ヲ決議セリ四月二十日第九回町會議員ノ選舉ヲ行フ五月二日町長ハ名古屋市開催ノ關西聯合府縣共進會並ニ遠州掛川町濱松市駿州庵原村杉山ノ各報徳社興津園藝試驗場視察ノ爲出張全十四日歸町ス五月九日町長滿期ナリシモ再選ニヨリ全月十日認可就職ス此ヨリ町長ヲ名譽職トス五月二十日有給助役田村貞躬滿期ニ付助役ノ選舉ヲ行フ爲町會ヲ招集シ滿場一致ヲ以テ田村貞躬ヲ再選シ六月二日知事ノ認可ヲ得テ就職ス七月十三日町會ヲ開キ佐川尋常小學校位置ヲ現在ノ宅地ヨリ擴張シ増築スル事ニ付種々調査ノ結果ヲ報告ス而シテ肥代坂ニ於ケル地主或ハ家主ニ於テ買收價格ノ纏マラサルモノアリ更ニ委員ニ於テ交渉スル事ヲ協定セリ七月二十日學校事件ニ付町會ヲ招集シ從前ノ行掛リニ付報告ノ結果滿場一致左ノ決議ヲナス

一佐川尋常小學校々舍敷地ヲ當町本三野字古市ニ移轉シ敷地ハ之ヲ買收シ本年度ニ於テ一棟ヲ建築シ漸

委員ハ川田豐太郎小田伊三郎ノ二名ナリシガ工事ノ大ナルヲ以テ増員ノ必要ヲ認メ選舉ヲ行ヒ堀見眞三當選ス其他退職助役堀見眞三ハ慰勞金二百圓ヲ給與スル事及佐川町誌編纂ノ事堤防臺帳調製ノ事並ニ佐川生絲乾燥場設置補助費四百五拾圓ヲ四拾四年度ノ豫算ニ計上スル事等ヲ決議セリ十二月十八日收入役宇賀丑彌退職シ廿六日後任岩佐猪久衛就職ス拾二月二拾八日書記刈谷嘉平病氣ニ因リ辭任退職ス

明治四十四年一月十六日町會ニ於テ左ノ事項ヲ決議ス

- 明治四十三年度追加豫算
- 古蹟保存費 拾五圓 町誌編纂費 三拾圓 電
- 話架設寄附金 八拾九圓 吏員退職慰勞金二百三

十圓

右決議ニヨリ元助役堀見眞三ハ金二百圓元書記刈谷嘉平ハ金三拾圓ノ慰勞金ヲ贈ル二月一日町會ニ於テ駒木稔重ヲ書記ニ選任ノ事ヲ報告ス而シテ四十四年度學校改築工事ハ舊校舍ノ移轉改築ヲナス事トシ里道下山線ヲ改修スルカ又ハ校舍新築ヲ先ニシ里道改修ヲ四十五年度ノ事業トナスカニ付諮問シタルニ滿場一致ヲ以テ舊校舍改築ト下山里道改修ヲナス事ノ意見答申アリ依

テ此方針ヲ取り豫算ヲ編制シ三月六日町會ニ於テ四十四年度ノ歳入出豫算縣稅戶數割徵收方法其他町稅不均一賦課ノ件等ヲ決議シタリ又納稅組合獎勵規程ノ改正ヲ左ノ如ク決議ス

第三條 獎勵金ハ組合ニ對シ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス

一等 金四圓以内 年度内指定納期日ニ完納シタル組合

二等 金三圓以内 年度内法定期日内ニ完納シタル組合

第五條ヲ削除ス

里道下山線改修ニ關シテハ左ノ決議ヲナセリ

當町字古市縣道ヨリ分岐シテ同町字岩谷郡道越知線

ニ至ル里道ハ明治四十二年度ニ於テ概測シタル路線

ニヨリ四十四年度ニ於テ改修スルモノトス

但下山終點ハ舊道路線ニ變更ス

明治四十四年三月六日

本線道路改修ニ付青去刈谷裕太郎外十八名ヨリ豫定線路ハ水害ノ虞アルヲ以テ此較線ヲ設ケ之レニ決定セラレンコトノ建議アリシモ其希望線ハ青去ヲ經テ松崎ニ

出ツルモノナルヲ以テ比較線ニアラス寧ろ新線路ト認ムルニヨリ町會ノ意見ヲ聞キ願人へ却下スルコト、セリ各部落ニ通スル里道改修費補助ニ關スル件ハ左ノ通り決議セリ

一各部落ニ通スル幹線里道改修補助費ハ明治四十六年度以降ニ於ケル町經濟ノ狀態ト線路ノ緩急ヲ調査シ工事實費ニ對シ十分ノ三ヲ補助スルモノトス

但既定ノ里道改修又ハ學校建築工費ノ支辨ヲ終ラサルトキハ四十七年度以後トナル事アルヘシ

明治四十四年三月七日提出

四月一日町會ヲ召集シ左ノ決議ヲナリ

尾川村ニ通スル郡道改修費負擔歩合ハ左ノ通りトス

佐川町 四分 尾川村 六分

全日四十四年度ノ學校建築委員ヲ選舉シ川田豐太郎小田伊三郎當選ス八月拾二日町會ヲ開キ明治四十三年度歳入出決算報告ヲ認定ス四十四年度歳入出追加豫算里道下山線橋梁費ニ三百三十一圓校舍建築費ニ三百二十二圓合計六百四十三圓ノ支出ヲ決議ス九月拾一日町會ヲ開キ改修中ノ里道下山線橋梁及道路ノ設計ニ關シ青去荷稻ヨリ水害ノ申出アリシヲ以テ諮問ヲナス議員ノ意

見ニヨリ一同實地ニ出張シテ土橋ノ設計ヲ木橋トシ一
間半ノ暗渠ヲ四間トシ橋ヨリ以南從來水越トナリシ部
分ハ嵩上ケヲナサス原形通り改修スル事ニ協定ス而シ
テ春日川ノ北岸即チ玉割橋ノ北ニ在ル竹藪及岡崎中川
原ニ在ル林藪ハ何レモ水害アルヲ以テ之ヲ買收シ除却
スル事ヲ決議セリ十一月十三日町會ニ於ル左ノ件ヲ議
決ス

里道改修費ノ追加豫算金二百七十圓 教育費及補助

等追加豫算金百二十三圓合計金三百九十三圓

年度内一時借入金ノ件

一金一千五百圓也

右本年度經費支出ニ充ツル爲一ヶ月八厘五毛以内ノ

利率ヲ以テ借入本月末日限元利償還スルモノトス

此理由ハ十月徵收ノ縣稅納期ヲ本月ニ延期セラレシニ

ヨリ町稅ノ徵收モ從テ延期トナリ支出ニ不足ヲ來タス

ヲ以テ此借入ヲナシタルナリ

明治四十五年三月十三日十四日ノ兩日町會ヲ開キ左ノ

各項ヲ決議セリ

明治四十五年度歳入出豫算全部

追加豫算 町稅賦課徵收方法

同四十四年度

町稅不均一賦

課ノ件 學校建築費繼續年期支出方法左ノ通

佐川尋常小學校建築工費繼續年期支出方法

一金九千七百五圓

但校舍并使所建築操場整地

土堤築造門建設等一切ノ工費

右之内

金六千三百五十圓 明治四十五年度支出額

金三千三百五拾五圓 同 四拾六年度支出額

以 上

町債ニ關スル決議ハ左ノ通り

一金三千圓也

明治四十五年度借入金

學校建築費支辨ノ爲一ヶ年利率八厘以内トシ明治四

十六年一月以後ニ於テ教育資金若クハ低利供給資金

ヲ借入四十五年度分利子ハ四十六年三月末日四十六

年度分利子ハ四十七年三月末日迄ニ拂入四十七年七

月末日ニ至リ元利共償還スルモノトス

里道改修ニ關スル件左ノ通決議ス

當町虎杖野字土居ノ内ヨリ肥代ノ坂ニ至ル里道ハ概

測シタル線路ニヨリ明治四十五年度ニ於テ左記條件

ニヨリ改修スルモノトス

一 概測線路中郡道尾川線ノ變更セラレタルトキハ

字樋口ニ於テ路線ノ變更ヲナシ里道下山線ニ接續スルモノトス

二 該工事費中十分ノ七ハ虎杖野森榮外七名ヨリ寄附シ十分ノ三ハ町ノ負擔トス

三 豫算超過ノ虞アリト認メタルトキハ不足工費ノ見込額全部ヲ前記寄附者ヨリ供托スルコト

四 改修後ハ關係部落ヘ引渡シ修繕セシム以上

學校建築委員ニ川田豊太郎小田伊三郎ヲ選舉ス

學校組合委員ニ堀見熙助竹村貞次郎森榮ヲ選舉ス

柳瀬部落民廿一名ノ連署ヲ以テ郡道尾川線架橋ノ位置ハ將來下流ニ災害ヲ及ホス虞アルヲ以テ此際縣ヨリ土木技師ノ出張ヲ請ヒ實地ノ調査ヲナシ水害アリト認メラル、ニ於テハ線路ノ變更ヲ要スヘク害ナシトスレハ豫定通り異議ナキヲ以テ直ニ調査ノ手續アラシコトヲ建議アリ之ヲ採納シ決議セリ

荷稻部落上田亥之助外八名青去部落刈谷盛馬外三名ヨリ三月六日付ヲ以テ荷稻川護岸工事ヲ町營造物ニ編入セラレンコトヲ請願アリシヲ以テ之ヲ町會ニ諮問シタルニ即決シ得サルヲ以テ五名ノ委員ヲ選舉シ

對岸ニ其ノ影響ヲ及スコト此レ又大ナリ故ニ自然河身ヲ失ヒ大洪水ニ及ハスト雖モ水流ヲ停滯セシメ爲ニ數町歩ノ地面ニ氾濫シ浸水ノ害ヲ増大ナラシムルコト月二年ニ大ナリ斯ル状態ニ經過スレハ數歲ヲ出テスシテ獨リ該川ノミハ無堤防ノ如クナリ兩部落民地主其者ノ不利益トシテ疑ヲ容レヌ是レ實ニ町治上不公平ニシテ將來感情ヲ害スル事ハ三尺ノ童子ト雖モ明カナリ聞ク本年度ニ於テ佐川町堤防臺帖ヲ調製セラル、ト果シテ然ラハ前述ノ事業ニヨリ荷稻川下流春日川ニ合流スル川口ヨリ上流ニ於テ分岐シ東ハ字兎田南ハ字田中橋字西川橋ニ至ル延長一千八十六間ト現在井堰悉皆佐川町營堤防ニ編入セラレ宜シク彼我ヲ對照シ町治上公平ノ措置アラシコトヲ謹テ請願候也

附言某等此ヲ古老ノ言ニ聞クニ舊藩時代曾テ大洪水ノ爲村内堤防大ニ破壊シ修繕甚タ困難ヲ極メシ場合荷稻川ノ堤防ハ破損僅少ナリシカハ邑主ハ特ニ米若干ヲ附與シ部落ヲシテ修繕セシメタリ而シテ年ヲ經ルニ從ヒ何時シカ右給與米ヲ廢セラレ之レニ易フルニ荷稻方面ニアル山林草刈場ノ春草刈取ヲ部落民ニ

他ニ同一ノ河流モアリ故ニ同時ニ調査スル事ニ決定シ小田伊三郎、森榮、山縣正雄、川田豊太郎、堀見熙助ヲ選舉セリ而シテ荷稻ヨリ提出セル請願書ハ左ノ如シ

請願書

謹テ佐川町長西村龜太郎殿ニ請願セントス抑モ我カ荷稻川ハ源ヲ東南ノ小丘ニ發シ荷稻青去兩部ノ中間ヲ經テ春日川ニ入ル該川ハ概シテ平坦部ヲ流レ大洪水ト雖モ其損害比較的僅少ナリ然レトモ往昔ハ藩政ノ事業タリシト云フ然ルニ維新後ハ數十年間今日ニ至ル迄關係民ノ負擔トナル爲ニ不完全ナル修繕ヲ加フルニ過キス故ニ近年害ヲ被ルコト甚大ナリ思考スルニ我佐川町ハ河川多クシテ堤防少キニアラスト雖モ到ル處恩惠ヲ受ケサル所ナシ兩部落素ヨリ何レニ於テモ均一ニ負擔シ町ニ對スル義務ハ十分ニ盡セリト雖モ該川ニ限リ一分一厘謂ユル毛頭ノ恩惠ヲ被ラス從テ個人ノ修繕ニ依ラスンハ他ニ途ナク實ニ容易ノ業ニアラサルナリ中ニハ小作人ヨリ地主ニ向テ修繕ヲ要求スルモ等閑視去リ或ハ費用ノ点ヨリシテ其修繕ヲ拋棄セル所往々此レアリ加フルニ川幅狹クシテ

許可シ他部落民ヲシテ刈取ヲ許サス此特典ヲ與ヘラレシカ其後地租改正ト同時ニ該地ハ各部落民ヘ均一ニ分配シ今ヤ其特典ハ自然消滅トナレリ尙昔時堤防ノ修繕ハ邑主深尾家ヨリ修繕セシモノナル事ヲ證セシニ該堤防ノ石垣ニ使用セシ岩石ハ小流ニ在リテハ不釣合ナル石材ヲ使用シ到底個人ノ工事ト見做スヘキ者ニアラス以テ之ヲ證スルニ足ルヘシ

明治四十五年三月六日 連署者略ス

四月十六日 町長ハ佐川商工會ノ推薦ニヨリ福岡縣八女郡福岡町ニ於ケル提燈製造業視察ノ爲出發シ同十九日福岡ニ着シ縣廳ニ至リ同縣產業ノ大体ヲ調査シ翌日福岡町ニ行キ調査ヲ了シ同月廿八日歸廳ス七月二十日天皇 御不豫ノ報アリ臣民恐懼シテ措ク處ヲ知ラス同月廿五日宮内大臣ニ宛テ天機奉伺ノ電報ヲ發ス同日五所神社ニ於テ 陛下御不例御回復祈念ノ爲社司三宮正路ヲ聘シ大祭典ヲ行ヒ町民ノ參拜スル者數百人何レモ熱誠ヲ以テ祈願セリ而シテ日々宮内省ヨリ發表セラルル御客体書ハ土陽新聞社ニ交渉シ同社ニテ號外ヲ發スル毎ニ電話ニテ通信ヲ受ケ各揭示場ニ掲載シテ一般ニ報道セリ同三十日零時四十三分崩御アラセラレタル旨

全日午前八時公報ニ接シ直ニ其旨ヲ一般ニ通知シ且宮内省へ奉悼ノ電報ヲ發ス午後二時佐川尋常小學校ニ於テ奉悼ノ式ヲ舉行ス官公吏學校職員兒童町民一般ニテ千餘人參列シ三宮正路奉悼ノ詞ヲ奏シ西村町長玉串ヲ捧ケテ奉悼文ヲ朗讀シ一同禮拜ヲ以テ式ヲ終ル而シテ五日間吊旗ヲ掲ケ歌舞音曲停止トナル全三十一日ハ一般ノ事業ヲ休止シ哀悼ノ意ヲ表シ且蝶形結ノ喪章ヲ附シテ國喪ニ服スヘキ旨及御十日祭ヨリ百日迄各十日ノ御祭日毎ニ吊旗ヲ奉揚スル事ヲ一般ニ示達セリ 皇太子位ニ即キ給ヒ大正ト改元セラルル九月十一日大正元年度歳入出追加豫算ヲ決議ス全月十三日午後八時 明治天皇ノ御大葬ヲ行ハセラル、ヲ以テ同時ニ尋常校庭ニ祭壇ヲ設ケ遙拜ノ式ヲ舉行ス全月廿八日町長西村龜太郎助役宇賀丑彌或事情ノ爲辭任退職シ助役田村貞躬一切ノ事務ヲ掌理セリ十月十日土佐鐵道敷設ノ件ニ關シ有志總代トシテ西村龜太郎上京シ鐵道院ニ出頭シテ土佐鐵道敷設ノ速成及北線有利ノ要点トヲ陳情セシメタリ全十二日町會ヲ開キ郡道尾川線ノ架橋工事變更ノ件(變更ノ要点ハ四間ヲ延長シ釣橋モ全シク延長スルコト)ヲ協議シ森榮、矢野辻松ヲ委員トシテ尾川村ニ交渉

セシメ其結末ハ書面ヲ以テ議員へ通知スル事ヲモ併テ決定セリ全月十三日助役田村貞躬、委員森榮、矢野辻松ト共ニ尾川村長ト由留岐ニ會見シ橋梁延長ノ事ヲ協議シタルモ尾川村ニ於テハ今日ノ場合延長ノ費用ヲ負擔スル事能ハサルヲ以テ橋柱ノ足堅ヲ鞏固ニナサシムルコトヲ郡當局者ニ相談スル事トナシ此旨ヲ十五日付ヲ以テ各議員ニ通牒セリ十一月十一日町會ヲ開キ町長ノ選舉ヲ行ヒ出席議員十五名ノ満点ヲ以テ西村龜太郎當選シ同十九日認可就職セリ十二月廿三日助役田村貞躬辭任退職ス

大正二年一月八日 町會ヲ招集ス決議事項左ノ如シ

- 一 學校敷地及付屬町有地六拾坪ヲ郡道尾川線敷地ニ寄附ノ件
- 二 大正元年度追加縣稅戶數割ニ對シ町稅ヲ賦課セサル件
- 三 町稅戶別割第四期ノ二月ニ延期ノ件
- 四 佐川尋常小學校舊校舍(二階造一棟)不用トナリタルトキハ佐川町外四ヶ村學校組合若クハ町公會堂ニ特賣ノ件 豫定價格金五百圓
- 五 佐川生産組合ニ於テ設立ノ計畫中ナル「ビータ

一 工場補助申請ハ之ヲ採用シ大正二年度ニ於テ百圓以内ノ補助ヲ與フル事

六 田村貞躬ヲ有給助役ニ推薦シ滿場一致ヲ以テ之ヲ承認ス

三月廿七日 町會開會大正二年度ノ豫算ヲ議事ニ附シ且室原荷稻青去桂川内谷上郷ノ里道改修費及補助金ノ繼續年支方法ヲ左ノ如ク決議セリ

里道改修ニ付キテハ線路其他ノ調査ヲ要スルヲ以テ左ノ五名ヲ委員トシ議案ノ調査ヲ附托スル事

委員 森 榮 小田伊之助 川田豐太郎 矢野辻松 廣瀬長彌

同廿八日大正二年度豫算全部ヲ議了ス全廿九日町會ニ於テ里道改修補助費交付ノ件ニ付委員會ノ調査報告ニヨリ左ノ通り補助スル事ヲ決議ス

- 一 室原線ハ鷺ノ巢縣道ヨリ分岐シテ室原字曲リノ下迄ヲ幹線トシ其延長千四百四十間ニテ工費豫算金一千二百七拾二圓
- 二 荷稻線ハ字下夷木ヨリ字神母ノ木ニ至ル延長八百間ニシテ工費豫算金九百九十圓
- 三 青去線ハ荷稻字細工屋敷ヨリ分岐シ青去ヲ經テ

本三野境ニ至ル迄延長五百四十間ニシテ工費豫算金四百八十八圓

- 四 桂線ハ九反田縣道ヨリ分岐シ川ノ坂ヲ經テ桂南谷口ビータ工場ノ上迄延長九百四十二間ニシテ工費豫算金壹千八百八十圓
- 五 川内谷線ハ縣道ヨリ分岐シ舊道路線ノ通りニテ字家石谷川限リトシ其延長八百四十二間工費豫算金壹千五百圓
- 六 上郷線ハ春日石橋渡リ上リヲ基点トシ舊道通り字長田ヲ經テ縣道ニ接續シ其延長五百五十間工費豫算金參百五拾圓

此ノ如ク延長及工費ヲ査定シ其中室原荷稻青去ノ三線ハ耕地整理ニ伴ウテ改修スルモノ延長合計二千七百八十間工費貳千七百五拾圓ニ對シ四百九十五圓ヲ補助シ其他ノ里道三線延長合計二千三百三十四間工費參千三百拾圓ニ對シ九百九圓ヲ補助シ補助金合計千四百四圓ヲ繼續支出トシ其金額ヲ左ノ如ク決議セリ

年度	大正二年	同三年	同四年	同五年	計
金額	115,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000

下夷木ニアル竹藪ハ水害ノ憂アルヲ以テ之カ伐採方ニ付キ下山里道改修ノ場合ヨリ宿題トナリシカ地主トノ交渉纏マラサルヲ以テ其顛末ヲ町會ニ報告シタルニ町會ニ於テハ更ニ交渉委員ニ川田豊太郎岡林徳太郎矢野辻松ノ三名ヲ選定シ買収ノ交渉ヲナサシメ若協定ノ出來サルトキハ河川法ヲ準用シ土地收用法ニヨリ處分スル事ヲ協議シタリ同日町長旅行ニ要スル費用辨償ノ件ヲ左ノ如ク決議ス

一 町長旅行ニ要スル費用辨償額ハ吏員旅費支給額ニ依ルモノトス

昨年九月退職シタル助役宇賀丑彌ニ對シ慰勞金七拾圓ヲ贈與ス四月一日町會計規程及里道改修費補助規程ヲ制定決議ス(本文ハ條例規程ノ部ニ載ス)四月二十日第十回町會議員ノ總選舉ヲ行フ町制改正ニヨリ半數改選ノ制ヲ廢セラレ單記投票ニヨリ總選舉トナリシハ蓋シ此時ヲ以テ始メトス七月廿五日町會ニ於テ特別所得稅條例ノ改正ヲ決議シ主務省ニ申請シタリ全日田中伯爵邸址ノ土地(伯ヨリ寄附セラレタル學校基本財産編入地)畑二筆反別七畝十六歩ヲ宅址碑建設地域トナス事ヲ決議シ其工費ハ有志ノ寄附及町ノ補助金百五十

圓ヲ以テ自治會之ヲ擔任シ建設スル事トセリ九月五日町會ニ於テ學校醫一名増員ノ事ヲ建議可決シタリ十月廿七日町會ニ於テ學校建築委員川田豊太郎小田伊三郎ニ對シ功勞表彰ノ爲銀杯贈與ノ件ヲ決議シ且伯爵田中光顯古稀ノ賀典ヲ來ル十一月一日東京ニ於テ舉行スルニ付町ヨリ祝詞祝品ヲ贈呈スル事ヲ決議シ直ニ左ノ祝詞ニ當町特産ノ眞綿一包ヲ添へ之ヲ贈呈セリ

祝詞

壯ナル哉青山公健ナル哉田中伯閣下寶壽茲ニ七旬ヲ算セラレ同郷ノ士相謀リテ壽觴ヲ獻ス郷黨相率ヒテ此盛典ニ列セントスルモ僻陬ノ地以テ意ノ如クナラス、深ク之ヲ遺憾トシ茲ニ一言ヲ呈シ閣下ノ高壽ヲ奉祝セントス閣下鵬志ヲ抱キ郷關ヲ出テラレシヨリ五十有餘年其間勤王ノ大義ヲ唱へ若心慘澹維新ノ大業ヲ翼成セラレ蛟龍忽チ雲雨ノ時ヲ得大志就リ陸軍少將宮内次官ヨリ進ンテ宮内大臣ノ顯職ヲ奉セラレ至尊ノ信任厚ク位勳殆ント人臣ヲ極メラル吾町ノ光榮宇内ニ赫々タリ然リ而シテ閣下ノ郷閭ヲ愛顧セラハ、ノ厚キハ又言語ニ絶スルモノニシテ其恩惠ニヨリテ著シク教育ノ發展ヲ見ルモノハ其賜亦多大ナリ

ト謂フヘシ今ヤ閣下冠ヲ挂ケ鶴髮童顏以テ富士ノ山川ニ長嘯セラル、モノ決シテ偶然ニアラスシテ恰モ陶朱公五湖ニ閑日月ヲ送ラル、モノト全ク其軌ヲ同クス希クハ閣下益々壯康ニ鑠鑠トシテ壽美ヲ重ネラレンコトヲ生等欣喜ノ情禁スル能ハス茲ニ閭町ヲ代表シ謹ンテ祝詞ヲ呈ス

十月三十日 佐川尋常小學校落成式ヲ舉行シ知事代理事務官松原權四郎郡長水野岩出郡視學垣内繁直其他近接町村長ノ來臨アリ式終リテ建築委員功勞表彰ノ爲銀盃贈呈式ヲ行ヒソレヨリ祝賀ノ宴會ヲ舉行セリ而シテ建築委員ニ授與シタル表彰狀左ノ如シ

(各通) 佐川尋常小學校建築委員 川田豊太郎 小田伊三郎 同

里道改修各線別延長及工費并起終點表

線別	延長	道幅	工費	基點	終點	備考
桂線	九四二	七尺二寸	一、一八〇	縣反田	桂南谷口	全部改修ハ大正五年迄トス
川内谷線	八四二	七尺二寸	一、四一七	縣道	字家石 谷川迄	全
室原線	二三一、五	七尺二寸	二九七	曲リノ道	鳥瀧ノ鼻	全部改修ハ大正六年度迄トス

明治四十三年三月廿一日 第一期建築委員ニ當選爾來四年間全委員ニ再三當選シ工事經營其宜シキヲ得茲ニ本校ノ完整ヲ見ル其功績多大ナリトス依テ町會ノ決議ヲ經銀杯壹個ヲ贈呈シ其功勞ヲ表彰ス

大正二年十月卅日 佐川町長勳八等西村龜太郎大正三年一月三十日 町會ヲ召集シ里道改修費補助金繼續年期支出方法ノ廢止ヲ決議ス其理由ハ里道改修ハ部落ニ於テ補助ヲ受クヘキ權能ナク故ニ町營トシテ改修スルヲ妥當トスル旨郡役所ノ注意アリシニ由ル然レモ耕地整理組合ノ起工セル里道改修ハ補助ヲ要スルヲ以テ既定ノ補助規程ハ之ヲ改正シ(條例規程ノ部參照)更ニ左記ノ各線里道ヲ町ノ事業トシテ改修スル事ヲ決議セリ

上郷線	五五〇	七尺二寸	三五〇	縣道	春日石橋	全部改修ハ大正五年度迄トス
-----	-----	------	-----	----	------	---------------

六〇

同支線ノ分

線別	延長	道幅	工費	工費財源	基終点
桂線支道ノ一	一〇一 ^四	六尺	一六四 ^四	寄附	ピーター工場上ヨリ土橋迄
全ノ二	八四	六尺	一四五	全	桂口幹線ヨリ分岐シ谷川尻迄
全ノ三	一三七、五	六尺	二〇三	全	桂北谷口ヨリ分岐シ北谷奥ニ至ル
計	三二二、五		五一二		

右支線ハ廣田龜壽外四名ノ寄附ヲ以テ大正二年度改修スルモノトス
幹線里道改修費支出方法ハ左表ノ通り決定セリ

線別	町工		改修ノ年度別
	税	寄附金	
桂線	三五四 ^四	八二六 ^四	寄附ニ對スル工事ハ大正二年度ニ町税支出ノ分ハ全三年度ヨリ五年度ニ改修
川内谷線	四二五	九九二	全右
室原線	八九	二〇八	寄附ニ對スル工事ハ全上ニシテ町税支出ノ分ハ大正六年度ニ改修
上郷線	一〇五	二四五	大正三年度ヨリ全五年度迄ニ改修

尙本件工費ハ町村制ノ規定ニヨリ繼續年支度支出方法ヲ設ケ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキモノナルヲ以テ二月六日更

ニ町會ニ於テ左案ヲ決議シ各其手續ヲ履行シタリ
自大正二年度
至大正六年度
佐川町里道改修費繼續年支度支出方法

年度別	大正二年度	全三年度	全四年度	全五年度	全六年度	計
金額	二〇二六	二四九	二五〇	二八〇	八九	二千八百九十四圓

補助費ノ支出額及年度別

年度別	大正二年度	全三年度	全四年度	全五年度	計
金額	一一四 ^四	一四五 ^四	一四六 ^四	九〇 ^四	四九五 ^四

如上ノ手續完了ノ上町營トシ競争入札ニ附シ請負者ヲ定メ工事ニ着手セリ三月廿六日ヨリ廿九日迄町會ヲ開キ左ノ諸件ヲ決議ス

- 一 佐川町會規則及傍聽人取締規則
 - 二 大正三年度歳入出豫算
 - 三 兵事會補助戻入ノ件
 - 四 學校基本財産蓄積條例改正并佐川町公告式條例制定ノ件
 - 五 大正元年度歳入出決算報告
 - 六 其他豫算ニ關係アル徵收方法等數件
- 本議事中 皇太子殿下啓記念碑建設ノ件ハ郡費ノ補助ヲ受ケ之ヲ建設スヘク豫算ヲ提案セシニ兼テ永久保存ノ筈ナル行啓御座所ヲ取毀チ記念碑ヲ建設スルノ議論出テ山田瑞穂川田豐太郎堀見照助濱口恒十郎ノ五名ヲ委員トシ豫算調査ヲ附託シ委員會ハ審査ノ上川田豐太郎ヲ委員長トシ委員會ノ調査決議ニ依左ノ主旨ヲ演說シタルニ滿場委員會決議ノ通記念碑建設ハ之ヲ否決シ御座所ニハ一大修繕ヲ加ヘ永久保存ノ事ニ確定セリ
- 演說ノ要旨
- 抑モ記念碑建設ノ件ハ恐レ多クモ 皇室ニ關係ヲ有セル事柄ニシテ甚重要ナル議案ナレハ委員ニ於テモ最モ慎重ニ審議シ滿場一致ヲ以テ之ヲ否決シタリ其

六一

理由ハ郡内ノ須崎吾桑高岡斗賀野ノ四ヶ町村ニハ何
レモ其時ノ行啓ヲ記念スヘキ物現存セス故ニ碑石ヲ
樹テ、永久之ヲ記念シ奉ラントスルノテアリマス然
ルニ吾佐川町ニ於テハ畏クモ、今上陛下即チ其當時
ノ皇太子殿下カ親シク玉趾ヲ印シ給ヒシ尊キ御座
所カ其儘保存セラレ毎年十一月十二日ノ行啓記念日
ニハ此所ニ御 眞影ヲ奉置シ其御前ニ於テ嚴肅ナル
記念式ヲ舉行シツ、アリテ之カ爲兒童ニ對シ訓育上
如何ニ偉大ナル感化ヲ與ヘツ、アルカハ申迄モナク
吾町民ノ尊皇思想ヲ喚起セシムルモノハ實ニ重大ノ
モノテアリマシテ縣下ニ於テ他ニ比類ナキ美舉ト自
信スルノテアリマス彼ノ近江聖人中江藤樹先生ノ居
宅ハ星霜二百六十餘年ノ今日ニ至ル迄江州ノ一寒村
タル小川村ニ於テ保存セラレ近世勤王家ノ偉人タル
吉田松陰先生ノ學塾松下村塾ノ所在地タル長州萩ニ
於テハ最モ誇ルヘキ記念物トシテ其建物ハ申ニ及ハ
ス先生カ毎朝讀書シツ、使用セラレタル米搗臼ニ至
ル迄其當時ノ儘完全ニ保存セラレテアリマス又近ク
ハ乃木將軍ノ舊邸ノ如キモ將軍在世當時ノマ、町重
ニ保存セラレ何レモ日本帝國ノ絶大ナル誇リトセラ

レテ居リマスカラ一朝此等ノ建物ニ對スルトキハ人
ヲシテ眼ノアタリ藤樹先生ヤ松陰先生ヤ又ハ乃木將
軍ニ親灸スルノ想ヒアラシメ實ニ謂フヘカサル偉
大ノ感化ヲ受クルノテ御座リマス況シテ、今上陛下
ノ御座所ノ嚴然トシテ保存セラル、ニ於テハ其受ク
ル處ノ感化ノ偉大ナルコトハ敢テ喋々ヲ待タサル所
テアリマス故ニ吾町ニ縣下無比ノ此尊キ記念建物ヲ
存スル限リ何ヲ苦シンテカ別ニ記念碑ヲ建設スルノ
要アラシヤ若又此御座所ヲ取毀テ記念碑ニ代フルト
云フカ如キ議論カ起ルト假定シタナラハ吾町ハ實ニ
輕重本末ヲ謬ルノ譏リハ永久免ル、コトハ出來ナイ
ト信シマス依テ吾々委員會ニ於テハ吾町ノ存在スル
限リ飽ク迄モ永遠ニ保存シ奉リ將來再ヒ今上陛下又
ハ皇族方ノ御來町ノ場合ハ是非トモ此所ニ迎ヘ奉リ
一層吾町ノ光輝ヲ發揚センコトヲ期待シテ止マナイ
ノテ御座リマス而シテ郡ニ向テハ今回ノ記念碑建設
補助額百圓ハ更メテ保存基金ニ交付セラレンコトヲ
出願致シタキ考テアリマス尙願意ノ容否ニ拘ハラズ
本町ニ於テハ相當ノ費用ヲ支出シ永久ノニ保存シ得
ラル、様本年度内ニ於テ最モ完全ナル修繕ヲ施スコ

トニ決議シタル次第テアリマス

又同町會ニ於テ三月廿四日組織シタル佐川町一致會ノ
産業視察事業ニ對シ町費四百四十圓ノ補助ヲ與フル事
ヲ決議セリ四月九日兼テ御不例中ナリシ皇太后陛下遯
カニ御危篤ニ瀕シ給ヒ臣民恐懼措ク處ヲ知ラス十日宮
内大臣ニ宛テ天機奉伺ノ電報ヲ發ス全十一日午前二時
十分御登遐ノ悲報來ル直ニ町民一般ニ對シ吊旗ヲ掲ケ
謹慎ヲ表シ蝶形結ヒノ喪章ヲ附スル事ヲ示達シ宮内大
臣渡邊千秋子ニ宛テ奉悼ノ電報ヲ發シ十二日佐川尋常
小學校ニ於テ官公吏學校職員兒童及町民一千餘名參列
シ午前九時奉悼式ヲ舉行シ神職三宮正路奉悼詞ヲ奏シ
町長西村龜太郎參列員代表ニテ奉悼文ヲ朗讀シ玉串ヲ
捧ケ一同最敬禮ヲ行ヒ赤誠ヲ表シテ散會セリ而シテ當
日ハ一般ニ事業ヲ休止シ以テ國喪ニ服セリ五月二日町
長ハ東京ニ於テ開催ノ大正博覽會視察ノ爲上京ス全四
日佐川一致會産業視察員川田豐太郎東京靜岡愛知ノ各
府縣ニ出張ス全廿五日昭憲皇太后ノ御大葬儀舉行サレ
一般人民ハ事業ヲ休止シ歌舞音曲停止トナル全日午後
七時官民佐川尋常小學校ニ集合シ同八時靈柩青山御所
御發引ノ時ヲ以テ遙拜式ヲ執行シ三宮神職ノ祭詞ニ次

テ西村町長玉串ヲ捧ケ一同東都ノ天ヲ拜シ全九時散會
ス六月廿一日町長西村龜太郎辭任退職ス九月五日町會
ヲ開キ町長ノ選舉ヲ行ヒ堀見章當選ス全日收入役代理
者ニ書記駒本稔重ヲ推薦セリ又全日前町長ノ功勞表彰
式ヲ行ヒ町會議員參列シ助役田村貞躬ハ左ノ表彰文ヲ
授與セリ

元高岡郡佐川町長勳八等 西村龜太郎
明治廿六年佐川村長就職以來或ハ町長ニ或ハ助役ニ
前後通算十有八年恪勤一日ノ如ク殊ニ意ヲ勸業教育
ニ注キ里道改修學校改築等町治ニ貢獻スル所尠シト
セス茲ニ町會ノ決議ニヨリ金三百圓ヲ贈呈シ其功績
ヲ表彰ス

大正三年九月五日
高岡郡佐川町助役勳八等 田村貞躬
九月十日 町長堀見章就職ス十二月廿一日町會ヲ召集
シ大正二年度ノ歳入出決算報告認定學校組合規程改正
室原耕地整理施行ノ土地字名稱及區域變更ノ件并收入
役ノ推薦ヲナシ現任岩佐猪久衛ヲ再薦承認セリ而シテ
全廿六日認可就職ス
大正四年二月五日 町會ヲ召集シ里道桂線ノ改修工事

豫算ヲ決議シ直ニ町營ヲ以テ工事ヲ施行セリ三月十二日ヨリ十四日迄三日間町會開會其決議事項左ノ如シ

- 一 縣稅雜種稅ニ町稅不均一賦課ノ件
- 二 屠畜場使用料條例改正ノ件
- 三 學校基本財産蓄積條例改正ノ件
- 四 下山ニ在ル廢道處分ノ件
- 五 大正四年度歲入出豫算
- 六 里道改修ニ關スル諮問ノ件

本會ニ於ケル諮問ノ里道ハ市瀬字柿ノ本丙三千九百四十七番地ヨリ同部落ヲ經テ字北屋敷丙四千五百六十三番地ニ至ル延長三百七十間幅員六尺ニシテ谷脇惣馬外二名ノ出願ニヨリ里道トシテ改修スル者ニシテ異議ナキ事ヲ答申セリ三月二十六日町會ニ於テ左ノ件ヲ議決ス

- 一 大正三年度更正豫算
- 一 納稅組合獎勵規程改正ノ件

四月十三日附ヲ以テ伯爵田中光顯ヨリ佐川尋常小學校講堂建築費ニ指定シ金二千三百圓ヲ大正八年度迄ニ納入ノ條件ヲ以テ寄附セラル五月十四日町會ニ於テ大正四年度歲出追加更正豫算ヲ附議シ金百五十圓ヲ可決シ訓導種田多三郎三十餘年勤績ノ慰勞金ニ贈呈セリ而シテ高知區裁判所佐川出張處改築ノ件ハ數年ノ宿題ナリシカ

學校改築道路改修モ粗完備セルヲ以テ其設計等ニ關シ調査ノ件ヲ建議シ決議ノ上川田豐太郎森榮北川楠治ノ三名ヲ委員トシ調査スル事ニ決定セリ九月廿四日町會ヲ召集シ傳染病豫防救治ニ關スル吏員醫師看護婦雇人番人及患者費支給規定ヲ議決シ全時ニ東町里道改修ニ關スル左ノ決議ヲナセリ

- 一 幹線里道東町線 延長九十六間四分 道幅二間七分

東町縣道ヨリ分岐シ西町四辻ニ至ル工費豫算金一千五百五十八圓

右工費ハ竹村貞次郎外二名ノ寄附金ヲ以テ改修ス

右工事實施ニ際シ費用ニ増減アルトキハ寄附金ヲ増減ス改修後ハ關係者ニ引渡シ修繕セシムルモノトス

十一月十日 今上陛下御即位ノ大典ヲ行ハセラル、ヲ以テ堀見町長ハ豫メ左記ノ事項ヲ一般人民ニ示達セリ

- 一 十一月十日十四日十六日ハ一般ニ休業シ奉祝ノ誠意ヲ表スルコト

十一月十日ヨリ十七日迄各門戸ニ注連繩ヲ張り國旗ヲ掲揚シ夜間ハ祝燈ヲ點スルコト但奉祝旗萬歲旗等ヲ併用スルハ隨意タルヘシ

一 十一月十日及十四日ニハ各自神棚靈屋等ヲ清メ供物ヲ供シ酒肴赤飯等ヲ調へ一家團樂シテ 聖壽ノ萬歲ヲ祝シ奉ルコト尙氏神ニ參詣シ墓前ニ展スルモノナリ

一 各式典ニ參列スル時及神社參詣等ノ場合ハ男女共禮服用ヲ希望ス

一 右期間ハ特ニ火ノ用心ヲナス事

全日午前八時三十分郷社ニ於テ御即位祭典ヲ舉行シ全十時町役場ニ於テ高齢者御下賜品(木杯及酒饌料)奉授式ヲ舉行シ町ヨリ記念ノ扇子及菓子ヲ添ヘテ之ヲ授與セリ全十四日午前九時郷社ニ於テ大嘗祭典ヲ舉行セリ當町施設ノ記念事業ハ柿苗一千餘本ヲ購入シ町内各戸希望者ニ配付シ明年適當ノ時期ニ於テ栽植セシメ柿ノ生産増殖ヲ圖レリ又百年据置記念貯金ヲ計畫シ町費ヨリ金百圓有志寄附金二百五十四圓合計金三百五十四圓ヲ大正五年度ヨリ向フ百年間据置キ其利殖ヲ合シテ基金トシ以後町費ノ負擔ヲ減センコトヲ企劃セリ

大正五年二月一日 町會議員補欠選舉ヲ行フ一級二名二級二名ニシテ一級選舉ハ當選者確定セシモ二級選舉ハ被選舉人ノ得點成規ノ數ニ充タサルヲ以テ當選者確

定ニ至ラス更ニ全月十六日午後一時ヨリ選舉會ヲ開キ投票數成規ノ數ニ達シ當選者確定セリ二月十四日町會ヲ召集シ町長ノ產業視察費支出ノ件及部落有財產處分ノ件ヲ決議セリ全月六日町長堀見章大阪愛知静岡東京等ノ各府縣へ產業視察ノ爲出張ス二月廿六日ヨリ三月一日迄町會ヲ召集シ大正五年度ノ歲入出豫算大正三年度歲入出決算并里道下山線及ヒノ口ヨリ縣道迄ノ里道ヲ郡道尾川線ニ編入請願ノ件其他數件ヲ議決セリ三月一日町長堀見章東京市飯田町麗澤舎ニ於テ病氣ニ罹リシトノ電報アリ直ニ其病狀ヲ問合セタルニ重症ノ返電アリシヲ以テ同日有志惣代西村龜太郎上京ス全六日病勢益重態ノ報アリ全十日急施町會ヲ召集シ町長ニ對シ特別慰勞金一百圓贈與ノ件ヲ決議シ直ニ左ノ電報ト共ニ送金セリ

佐川町ハ貴下ノ御病氣ニ對シ深同情ヲ表シ只今町會ニ於テ御見舞金一百圓贈與ノ決議ヲナス切ニ御加養ノ上御全快ノ速カナランコトヲ祈ル

大正五年三月十日午後九時 佐川町助役田村貞躬町長堀見章殿

後日ヲ經テ漸次輕快ノ報アリト雖トモ歸町ノ程度ニ至ラス飯田町ニアリテ加療中ナリ四月九日町會ニ於テ佐

川町表彰規程及大正五年度ノ豫算更正ヲ以テ表彰費二十五圓ノ支出ヲ決議シ且今般本縣知事ヨリ選奨セラレタル川田豊太郎ノ町治ニ對スル功勞ヲ表彰シ銀製花瓶贈呈ノ件ヲ併セテ決議セリ四月十七日町役場ニテ表彰式ヲ行ヒ記念ノ物品目錄ヲ贈與シタリ當日助役田村貞躬ノ贈與セル表彰狀左ノ如シ

表彰狀

川田 豊太郎

資性温良志操堅實ニシテ劇務ノ傍ラ公共事業ニ熱誠盡瘁シ町ノ公職ニ在ルコト二十有餘年事縣知事ノ聞ニ達シ選奨セラルコレ唯一己ノ名譽ノミナラス實ニ一町ノ光榮ナリ佐川町ハ町會ノ決議ヲ以テ花瓶一個ヲ贈呈シ其篤行ヲ表彰ス

大正五年四月十七日 佐川町長代理助役田村貞躬
五月廿二日鐵道院技師大谷重次來町アリ技手工工夫等一行十四名ニテ花月ヲ事務所トシ全家ニ宿泊シテ全日ヨリ鐵道線路ノ實測ヲナシ六月十六日當地ノ調査結了シ日下村ニ事務所ヲ轉セリ八月四日町會ニ於テ郡道尾川線ヨリ分岐セル里道ト里道下山線ヲ郡道ニ編入シ更ニ郡道越知線ヨリ分岐シ庄田ヨリ黒岩村黒原ニ至ル

村ニ於テ負擔スルコト

三 改修後ノ修繕費ハ總延長ヲ標準トシ其ノ負擔歩

合ヲ左ノ通り定ムルコト但橋梁架設費ハ其地籍町村

ノ負擔トス 佐川町 五分 黒岩村 五分

右決議ニヨリ黒岩村ト交渉シ郡當局ニ對シ郡道トシテ

急速改修セラレンコトヲ請願セリ

大正六年一月十四日 町會ニ於テ大正五年度歲入出豫算更正案ヲ議決ス其理由ハ區裁判處出張所ノ建築ヲ繰延トシ勸業視察費ノ不足ヲ補填スルコト及屠畜場ノ修繕ヲ要スルニ在リ同日助役ノ推選ヲナシ現助役田村貞躬ヲ名譽職助役ニ選任ス又同日市町村義務教育費國庫分擔ノ件ヲ町長ヨリ請願スルコトヲ決議セリ
一月廿八日 當町納稅ノ成績佳良ナルヲ以テ郡長ヨリ左ノ表彰狀ヲ交付セラル

表彰狀

佐川町

町民能ク納稅ノ義務ヲ重シ當局者ノ督勵亦宜シキヲ得縣稅及町稅納付ノ成績良好ナリ依テ之ヲ表彰ス
大正六年一月廿八日
高岡郡長從六位勳六等 中嶋 和 三
二月廿七日ヨリ左記ノ件ニ付町會ヲ招集ス

里道ヲ合シ郡道黒岩線トシ黒岩村ト聯合シテ改修ノ請願ヲナス事ヲ決議セリ全日堀見町長病氣ニ付本月ヨリ報酬ヲ辭退スル旨申出アリタル事ヲ助役ヨリ報告セリ
全月十八日町會ヲ招集シ大正五年度ノ豫算更正并ニ吏員ノ報酬俸給支給規定旅費支給規則等ヲ改正決議セリ而シテ佐川町一致會ニ對シ實業ノ調査ヲナサシムル爲補助金六百圓交付ノ件ヲモ議決ス其條件ハ農家ニ適當ノ副業并ニ一般ニ適應ノ工業商業ニ關シ調査ヲ遂ケテ當町ノ事業發展ヲ計劃スル事等ナリ十月六日町會ニ於テ勸業視察員二名派遣ノ事ヲ決議ス其旅費手當ハ日數十五日間ニシテ一人ニ對シ百二十五圓トセリ
十月九日 町會ニ於テ勸業視察員二名増派ノ件ヲ議決シ十二日間ノ旅行トシ一人手當八十四圓雜費廿四圓ヲ支給スル者トセリ

十一月十八日 町會ニ於テ町有財産賣却ノ件並郡道黒岩線改修ニ關スル協定案ヲ左ノ如ク決定セリ

一 佐川町ヨリ黒岩村ニ通スル道路ハ別紙圖面ノ通改修スルコト(圖面略)

二 改修費ハ兩町村ニ於テ地籍ニ應シ負擔スルコト但佐川町下山直線ノ部分改修費ノ内八拾圓ハ黒岩

一 大正四年度歲入出決算報告認定并全年度特別會計歲入出決算認定ノ件

二 大正六年度歲入出豫算及全年度特別會計歲入出

豫算決議ノ件

三 縣稅營業稅雜種稅ニ不均一町稅賦課ノ件

四 區長及區長代理者ノ選舉

五 縣稅戶數割賦課方法改正ノ件

六 町稅賦課法及各委員ノ選舉

三月一日 町會ニ於テ大正六年度ノ豫算ニ議セントスルニ當リ議長(田村助役)ハ議案撤回ヲ宣告シ爲ニ議場ニ於テ其理由ノ質問アリ應答中事務溢滞且不信任ノ彈劾說起リ議場騷然議事進捗セス翌日ニ移ル 三月二日休會 三月三日開會一日ノ議事ニ關シ議員ト協議ノ爲郡書記乾光暉出張アリ爲ニ議事ヲ開カス午後二時ヨリ休會ス 三月四日開會シタルモ前日來ノ行掛リヲ以テ議事ヲ開クニ至ラス休會五日モ亦休會ス 三月六日休會 三月七日午後三時三十分開會議長田村助役ハ豫算案ノ撤回ヲ取消シ更ニ議事ニ付シ未了ノ儘明八日午前十時ヨリ開會ヲ宣シ午後九時半散會ス 八日午後一時開會昨日ニ續キ豫算案ヲ附議シ全部議了ニ至ラス明

九日午前十時ヨリ開會ヲ宣シ散會ス時ニ午後六時三十分ナリ 九日午前十時廿分開會前日未了ノ豫算案ヲ附議シ役場費報酬ヲ議スルニ當リ議員森淳太郎ハ議員ノ一部反省ヲ請フトテ過日來助役不信任彈劾ニ付キ數度ノ陳辯ニヨリ辭職ノ決心ヲ表明セラレタリ其原因ハ事務ノ滯滞及不公平ノ處置此二点ニアリ多數議員ノ信任ヲ欠クモノ、如シ然ルニ助役ノ行動ハ至正至公ニシテ毫モ不公平ノ点ヲ認メス事務ノ滯滞ニ至リテハ些少ノ事ニシテ敢テ呼號スルハ大人氣無キ事ニテ寬恕スヘキ点多クナリト思考ス願ミルニ町長ハ昨年三月ヨリ病氣執務スル能ハス加之鐵道南北線ノ採擇ニ付キ兩線ノ實測ヲ施行セラル、ヲ以テ比較考查ニ要スル諸種ノ資料統計ノ調査蒐集等平年ニ倍スルノ事務アリ之カ爲東馳西奔殆ント席ヲ暖ムルコトナキ狀態ニテ此勤勞ニ對シテハ吾人ハ滿腔ノ熱誠ヲ以テ感謝スヘキ次第ナリ如此ニシテ事務ノ倍加セル以上ハ多少ノ滯滞ハ又止ヲ得サルコトニテ恕スヘキ点ナキニアラス特ニ田村助役ハ在職十二年ニシテ其功績顯著ナルモノトシ一月滿期ノ際ニ於テハ滿場一致ヲ以テ名譽職助役ニ選任シ末タ幾干ナラサルニ其信任ヲ欠ク云々ハ予等斷シテ之ニ與ミス

ルコトヲ得ス此等ハ議員トシテ自ラ其不明ノ罪ヲ辭スルコト能ハサルモノナリ故ニ議員諸士ノ反省ヲ促シ助役報酬ニ對シテハ滿場一致ヲ以テ原案ヲ賛成セラレ議員反省ノ意ヲ表白セラレンコトヲ切望ス此レ當ニ助役一個ノ名譽ヲ保持スルノミナラス實ニ吾佐川町治ノ圓滿ナルコトヲ希望スル次第ナリト述ヘテ報酬削減ノ意見ニ反對ス議員山縣弘道ハ前説ニ反對シテ左ノ意見ヲ述フ唯一部議員ノ反省ヲ求ムルトテ森君ノ演說アリシカ御説ノ如ク助役ハ十數年間町治ニ盡瘁シ其功績ハ決シテ尠シトセス然ルニ既ニ多數議員ノ意見ヲ耳ニシ辭意ノ決心ヲ明白ニセラレシ以上ハ今後ノ助役ニ支給スル報酬額ヲ決定スルヲ妥當ナリト思考スルヲ以テ削減ヲナス所以ナリト議長田村助役ハ述ヘテ曰ク唯今ノ説ハ既ニ辭職ヲ表明セルヲ以テ自後下級ノ者ヲ助役ニ採用スルヲ以テ削減スル云々ハ稍不穩當ノ感アリ然レトモ自分ハ辭任ヲ決意シアレハ敢テ原案ノ維持ニ勉メス只諸君ノ公平ナル議決アラント希望シテ止マズト如此甲論乙駁ノ結果終ニ修正削減ニ多數ヲ以テ決定セリ此時町長ノ辭職届ヲ發表ス而シテ豫算ニ對スル附帶ノ件ヲ決議シ終ニ臨ンテ田村助役ハ左ノ挨拶ヲナシ閉會

セリ

不肖貞躬ハ明治卅九年以來茲ニ十有二年諸君ノ御同情ニヨリ助役ノ席ヲ汚シ當町ノ爲ニ盡瘁セリ然ルニ今回多數ノ議員ヨリ不信任ノ意思ヲ表明セラレタルハ終生ノ恨事ニシテ慚愧ニ堪ヘサル處其終リヲ全フセザリシハ甚遺憾トスル處ナリ然レトモ事此ニ至ルハ全ク自分カ不徳ノ致ス處ナルヲ以テ不日潔ク處決スル考ナリ就テハ既往十二ヶ年間ノ久シキ諸君ノ温キ御同情ヲ感謝スルト共ニ茲ニ本日ヲ以テ公人トシテ袂別申上ル次第ナリ諸君益御健全ニ町治ノ爲ニ盡サレンコトヲ切望スト述ヘ茲ニ閉會ヲ宣告セリ時ニ午後四時ナリ

二月廿八日 町長堀見章辭任退職ス 三月十七日助役田村貞躬辭任退職ス全十九日佐川町長職務管掌者郡書記松岡悦次出張執務ス全廿五日解任全日須崎町前田龍二佐川町長臨時代理者ニ選任就職ス 三月三十一日書記田村熊市ヲ任命ス 四月五日書記駒木稔重辭任ス 四月十六日町會ヲ開キ前町長堀見章へ金五十圓前助役田村貞躬へ金二百圓前校長森岡八十吉へ金百五十圓ノ慰勞金ヲ贈與スルコトヲ決議ス 四月十八日駒木稔重町

會議員ヨリ再任ヲ勸告シ全日書記ニ復職ス 四月十九日町會ニ於テ助役選任ノ件ヲ附議ス時ニ候補者ニ就テ議員ノ意見一致セス延期説ト否延期ノ二派ニ分レ半途退席スルモノアリ遂ニ選舉ヲ行フニ決シ山崎保巳九票ヲ以テ當選ス而シテ報酬額ハ年額二百十六圓ト決議セリ 全月二十日衆議院議員ノ總選舉ヲ行フ 四月三十日當選助役山崎保巳病氣ニヨリ辭任ス 五月三日西村龜太郎助役臨時代理者ニ任命サレ全五日就職ス 五月二十日町會議員ノ總選舉ヲ行フ是ヨリ先キ議員ハ四月十九日悉ク滿期トナリシモ定期日ニ於テ選舉人名簿ノ確定セサルヲ以テ選舉ヲ行フ事能ハス三十日間議員全ク無カリシナリ 六月廿三日町會ヲ開キ町長助役銜衛委員ニ左ノ五名ヲ置クコトヲ承認ス

竹村源十郎 宇賀 丑彌 堀見 熙助
廣瀬 長彌 山崎 保巳
又全日佐川尋常小學校兒童トラホーム患者二百六十四名ニ對シ治療ヲ施ス爲メ小學校費臨時部ニ於テ二百九十圓ノ追加豫算ヲ決議シ眼科專門醫黒岩壽内ヲ二ヶ月間招聘スル事トス而シテ歳入補足ノ爲患者父兄ヨリ一日ノ治療料三錢ヲ寄附セシムルコトヲ附帶決議ス 八

月二日黒岩壽内就任學校ニ於テ虎眼治療ヲ開始ス 八月十六日町長銓衡協議并出納検査立會人選舉ノ爲メ町會ヲ開キ立會人ニ山崎保己竹村源十郎宇賀丑彌當選セリ 全月二十日町長有給條例設定ニ付町會ヲ招集シ左ノ議案ヲ可決セリ

第一條 佐川町ハ制第六十一條第二項ニ依リ町長ヲ有給トス

理由書

當町現時ノ狀況ニ對シ名譽職ニテ町公民ヲ限リテハ適任者ヲ得難キニ由リ町ノ内外ヲ問スハ廣ク之ヲ選擇センカ爲有給制ヲ必要ト爲ス所以ナリ

八月廿九日 町會ニ於テ六年度豫算ノ追加更正并眼病患者治療ヲ校醫ノ任命セラル、迄醫師山川玄洋ニ囑託スルコト及黒岩醫師へ慰勞金ヲ贈與スル事ヲ決議セリ又市野瀬部落里道改修ノ件ヲ附議シ惣工費ノ十分ノ七八關係者ノ寄附トシ十分ノ三ハ町費ヲ以テ改修シ落成後ハ關係部落へ引渡シ修繕セムシル條件ニテ滿場異議ナク決定セリ 九月六日町會ヲ招集シ町長給料月額ヲ四十圓ト決定ス次テ町長ノ選舉ヲ行ヒ小笠原荒水大多數ヲ以テ當選ス 九月十二日町長小笠原荒水認可トナリ

全十七日就職ス全十五日町長臨時代理者前田龍二用済解職トナリ全二十日事務引繼ヲ了セリ 十月四日書記得能通教就任ス全五日書記片岡登辭任退職ス 十月六日町會ニ於テ元書記片岡登へ慰勞金七十圓贈與スルニト及經費ノ追加更正等ヲ決議セリ 十月廿五日山崎鶴彌書記ニ就任ス 十一月九日書記得能通教辭任退職ス 十二月三日町會ヲ開キ本年度歳入出豫算追加更正ヲナス其要旨ハ吏員及學校教員ニ對シ物價暴騰ノ關係ヲ以テ特別手当ヲ支給セントスルニ在リ依テ教員ニ對シテハ一時金額十二圓吏員ハ六月以前ヨリ在職スルモノニ對シ金額十二圓ヲ支給スルコトニ決議セリ 十二月六日安原正一ヲ書記ニ任命シ全日就職ス而シテ當時町事務ノ概況ハ大正五年三月ヨリ一ヶ年町長堀見章病氣缺勤シ傍ラ鐵道測量班ノ來町ニヨリ事務多端ニシテ中ニハ澁滞シタルモノナキニアラス其後吏員ノ交迭最頻繁ニシテ六月頃迄ノ事務成績ハ頗ル不良ナリシモ漸々整理ノ緒ニ就キ將ニ舊來ノ面目ヲ一掃スヘキ時期ニ到來シツ、アリ

第二節 町治機關 一 町役場ノ位置沿革

當町役場ハ前章ニ記述セシ如ク明治十四年六月ノ建築ニ係リ字廻リ田甲千七百五十番地上ニアリ其建坪三十三坪(二棟)ニシテ瓦葺二階造ナリ初メ南口ニ正門アリシモ縣道開通ノ爲不便ヲ來シ明治卅四年六月現在ノ如ク東門ニ變更セリ

二 町會議員ノ數并人名

議員ノ數ハ町村制實施ノ時ヨリ十八名トス明治廿二年四月二十日第一回村會議員ノ選舉ヲ行フコレヨリ以後毎回現在ノ再選新選ノ議員氏名左ノ如シ

- 第一回 選舉村會議員
- | | | | |
|----|-------|-------|--------|
| 一級 | 上村 貞守 | 竹村虎五郎 | 森 龜彌太 |
| | 矢野 龜彌 | 山崎甲斐藏 | 矢野 蘇作 |
| | 小田伊三郎 | 東川久太郎 | 刈谷 嘉平 |
| 二級 | 川添 亥平 | 伊藤 德敦 | 田村 信厚 |
| | 西村 國正 | 德弘 勝吾 | 北川喜代七 |
| | 山崎 初子 | 岩佐 精策 | 篠原德右衛門 |
- 明治廿四年二月廿五日補缺選舉後現在議員
- | | | | |
|----|-------|-------|-------|
| 一級 | 矢野 蘇作 | 刈谷 嘉平 | 矢野 龜彌 |
| | 小田伊三郎 | 上村 貞守 | 森 龜彌太 |
| | 竹村虎五郎 | 下元庄三郎 | 堀見 照助 |

- | | | | |
|----|-------|-------|--------|
| 二級 | 藤 德敦 | 德弘 勝吾 | 岩佐 精策 |
| | 川添 亥平 | 山崎 初子 | 篠原德右衛門 |
| | 田村梅太郎 | 西村龜太郎 | 山崎 鐵真 |
- 明治廿五年四月第三回半数改選後現在議員
- | | | | |
|----|-------|-------|--------|
| 一級 | 矢野 蘇作 | 森 龜彌太 | 下元庄三郎 |
| | 堀見 照助 | 刈谷 嘉平 | 小田伊三郎 |
| 二級 | 伊藤 德敦 | 德弘 勝吾 | 岩佐 精策 |
| | 西村龜太郎 | 山崎 初子 | 篠原德右衛門 |
| | 田村梅太郎 | 三宮利太郎 | 廣瀬 猶治 |
- 明治廿八年四月第四回半数改選後現在議員
- | | | | |
|----|-------|-------|-------|
| 一級 | 刈谷 嘉平 | 小田伊三郎 | 刈谷 茂義 |
| | 山崎 鐵真 | 森 龜彌太 | 堀見 照助 |
| | 矢野 辻松 | 川田豐太郎 | 竹村貞次郎 |
| 二級 | 三宮利太郎 | 廣瀬 猶治 | 岩佐 精策 |
| | 德弘 勝吾 | 田村梅太郎 | 上村豐太郎 |
| | 水野福太郎 | 矢野右龜彌 | 中村 龜平 |
- 明治卅一年四月第五回半数改選後現在議員
- | | | | |
|----|-------|-------|-------|
| 一級 | 森 龜彌太 | 堀見 照助 | 矢野 辻松 |
| | 川田豐太郎 | 山崎 鐵真 | 小田伊三郎 |

西村 國正 竹村貞次郎 劉谷 茂義
 二級 上村豐太郎 水野福太郎 矢野右龜彌
 中村 龜平 岡林德太郎 野波 岩吉
 北添 信宜 加用 信齋 藪田銀馬太
 明治三十四年四月第六回半数改選後現在職員
 一級 山崎 鐵真 小田伊三郎 竹村貞次郎
 劉谷 茂義 西村 國正 森 龜彌太
 堀見 熙助 川田豐太郎 濱口恒十郎
 二級 岡林德太郎 野波 岩吉 加用 信齋
 藪田銀馬太 田村 茂實 矢野 辻松
 味元 清藏 宇賀 丑彌 山崎案山子
 明治卅七年四月第七回半数改選後現在職員
 一級 森 龜彌太 堀見 熙助 濱口恒十郎
 川田豐太郎 山崎 鐵真 汲田作太郎
 二級 西村龜太郎 竹村貞次郎 劉谷伊勢吉
 味元 清藏 宇賀 丑彌 矢野 辻松
 山崎案山子 小田伊三郎 北川 祐馬
 金子丑太郎 山崎 春吉 西田鎌太郎
 明治四十年四月第八回半数改選後現在職員
 一級 汲田作太郎 山崎 鐵真 竹村貞次郎

劉谷伊勢吉 廣瀬 長彌 濱口恒十郎
 堀見 熙助 森 龜彌太 川田豐太郎
 二級 小田伊三郎 北川 祐馬 金子丑太郎
 山崎 春吉 西田鎌太郎 水野 平治
 矢野 辻松 岡林德太郎 渡邊伊勢吉
 明治四十三年四月第九回半数改選後現在職員
 一級 濱口恒十郎 堀見 熙助 川田豐太郎
 竹村貞次郎 黑田 龍起 堀見熊太郎
 金子丑太郎 森 榮 山崎 春吉
 二級 水野 平治 矢野 辻松 岡林德太郎
 渡邊伊勢吉 小田伊三郎 渡邊 金馬
 廣瀬 長彌 北川 楠治 山縣 正雄
 大正二年四月町村制改正ニヨリ總選舉(第十回)
 後現在職員
 一級 濱口恒十郎 堀見 熙助 岡林德太郎
 川田豐太郎 金子丑太郎 竹村貞次郎
 北川 楠治 廣瀬 長彌 森 榮
 二級 乾 長定 西田鎌太郎 德弘宇彌太
 岡林 雄策 渡邊 金馬 山縣 正雄
 山田 瑞穂 山崎案山子 柳瀬 良吾

大正五年二月一日第十一回補欠選舉後現在職員
 一級 堀見 熙助 岡林德太郎 金子丑太郎
 竹村貞次郎 北川 楠治 廣瀬 長彌
 森 榮 高根 因平 竹村源十郎
 二級 乾 長定 西田鎌太郎 德引宇彌太
 渡邊 金馬 山縣 弘道 山崎案山子
 柳瀬 良吾 吉富虎太郎 山川 楠吉
 大正六年四月二十日第十二回改選期日ナリシモ則長助
 役ノ欠員等ニテ選舉ノ準備整頓セス故ヲ以テ五月廿日
 總選舉ヲ行ヒ左ノ通り當選セリ

一級 西田鎌太郎 岡林德太郎 吉富虎太郎
 竹村貞次郎 山崎 保巳 山崎恒三郎
 三宮利太郎 北川 楠治 廣瀬 長彌
 二級 堀見 熙助 渡邊 金馬 渡邊 修三
 竹村源十郎 宇賀 丑彌 桑名 初吉
 山川 楠吉 柳瀬 良吾 山縣 弘道
 明治廿二年四月町村制實施ヨリ大正六年四月ニ至ル二
 十八年間議員在職十二年以上ノ勤績年數比較及期間表
 左ノ如シ

勤績年數

十八年余	自明治廿二年四月至四十年九月
二十四年	自全廿二年四月至大正二年四月
廿六年二ヶ月	自全廿四年二月至大正六年四月
十八年余	自全廿四年二月至全四十二年四月
十二年	自全廿五年四月至全卅七年四月
十年	自全廿八年四月至大正二年四月
廿八年八ヶ月	自全廿八年四月至大正四年十二月
二十二年	自全廿八年四月至大正六年四月
十四年八ヶ月	自全卅四年四月至大正四年十二月

住所氏名

虎杖野	森 龜彌太
荷稻	小田伊三郎
中組	堀見 熙助
肥代ノ坂	山崎 鐵真
柳代ノ坂	劉谷 茂義
肥代ノ坂	矢野 辻松
西町	川田豐太郎
東町	竹村貞次郎
西町	濱口恒十郎

十三年一自全卅七年四月至大正六年四月

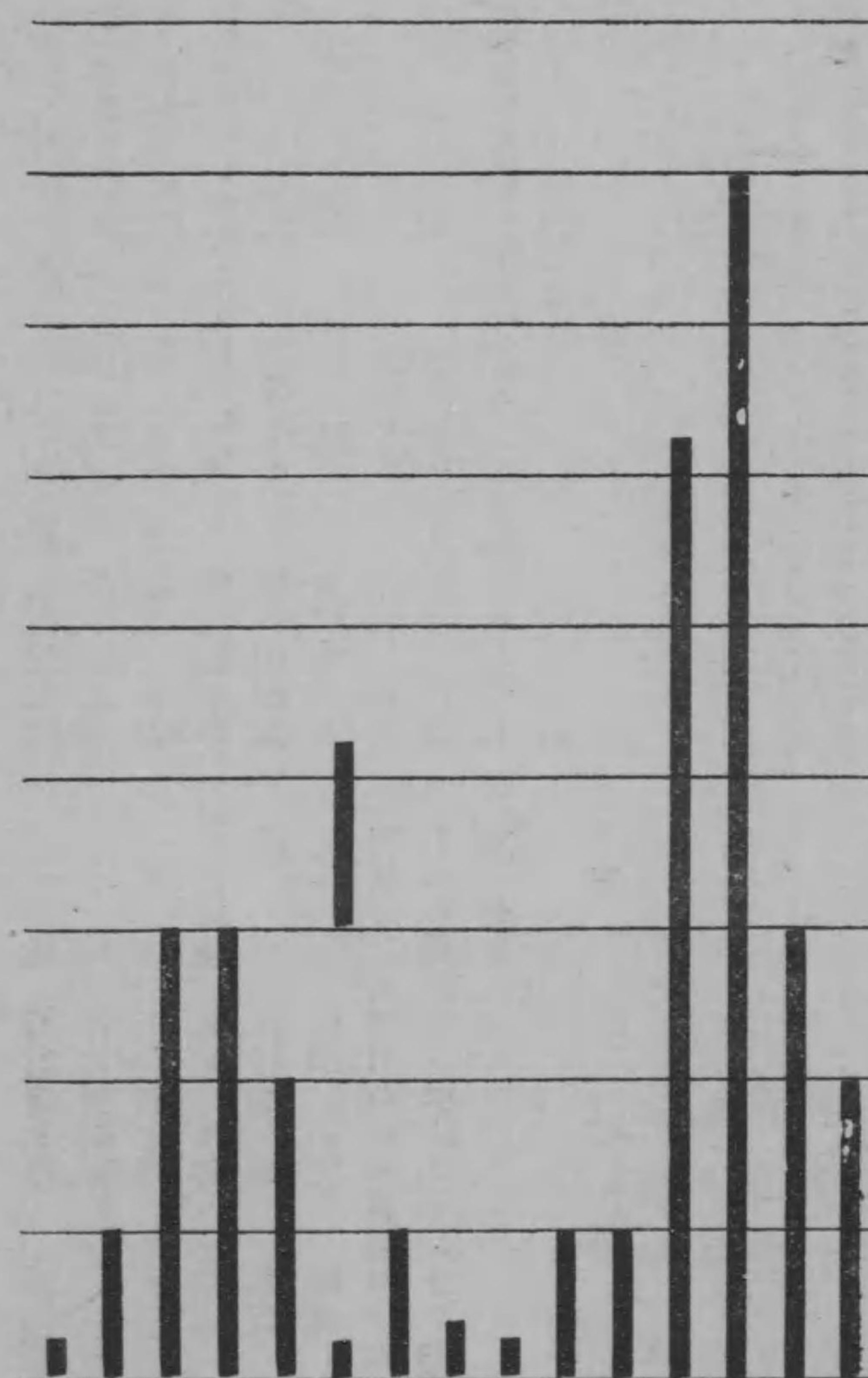
町會議員就職年表

(明治廿二年四月ヨリ)

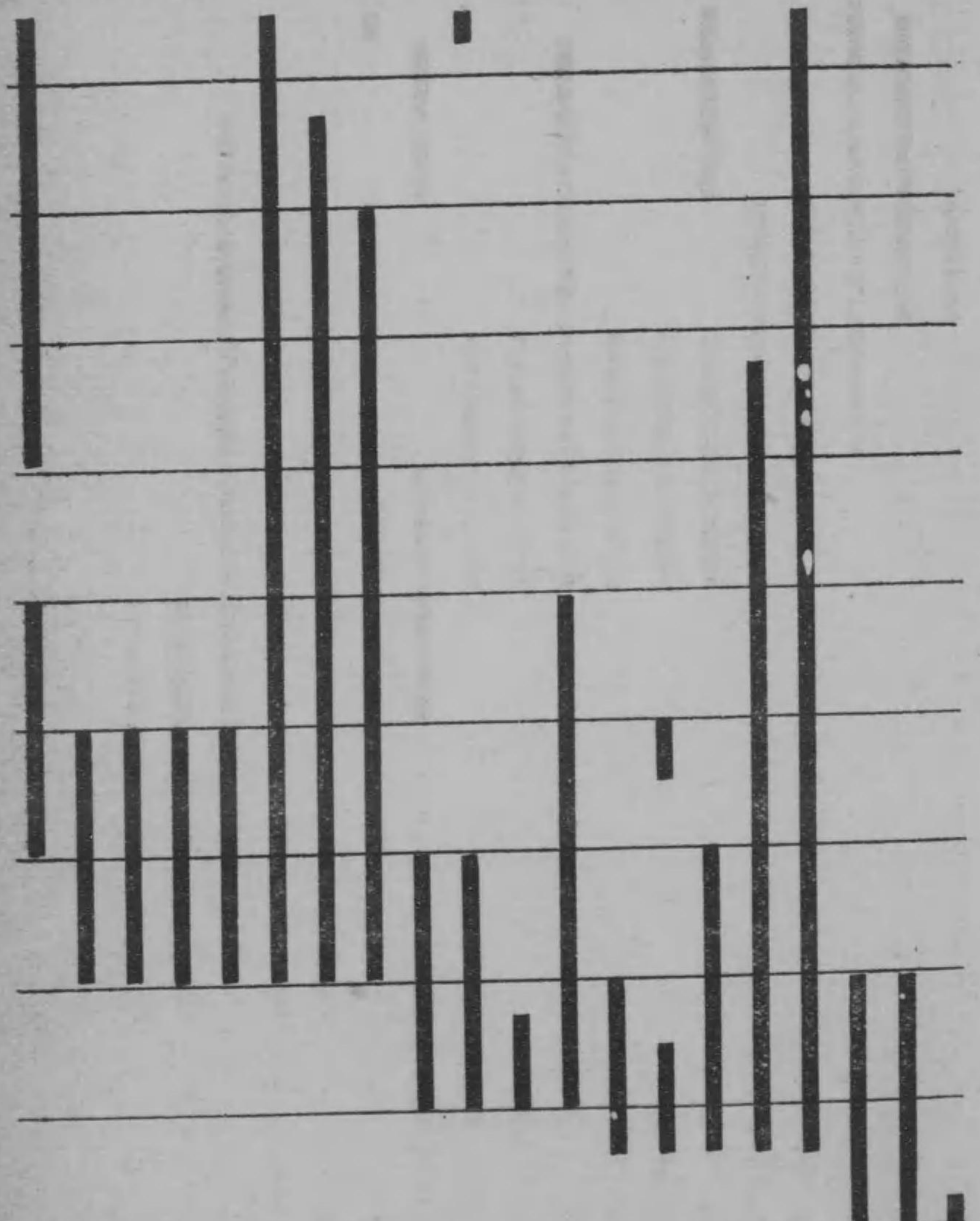
一全 金子丑太郎

七四

大正六年自大正二年自十四年自四十年自卅七年自卅四年自卅一年自廿八年自廿五年自廿二年
五月ヨリ至全六年至大正二年至卅三年至四十年至卅七年至卅四年至卅一年至廿八年至廿五年



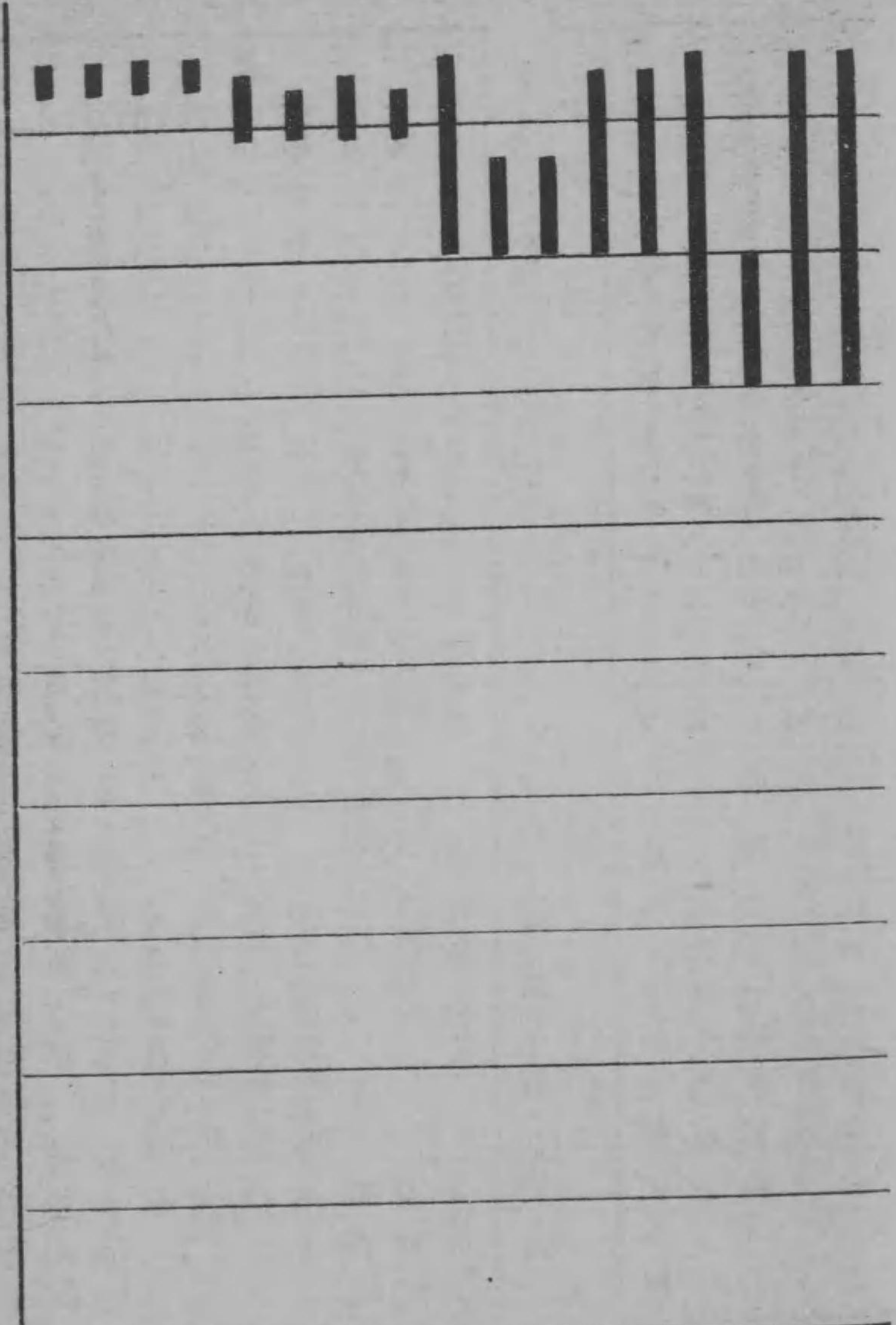
氏名
 北川喜代七
 川添亥平
 岩佐精策
 徳弘勝吾
 伊藤徳敦
 西村國正
 矢野龜彌
 東川久太郎
 山崎甲斐藏
 上村貞守
 竹村虎五郎
 森龜彌太
 小田伊三郎
 刈谷嘉平
 矢野蘇作
 氏名



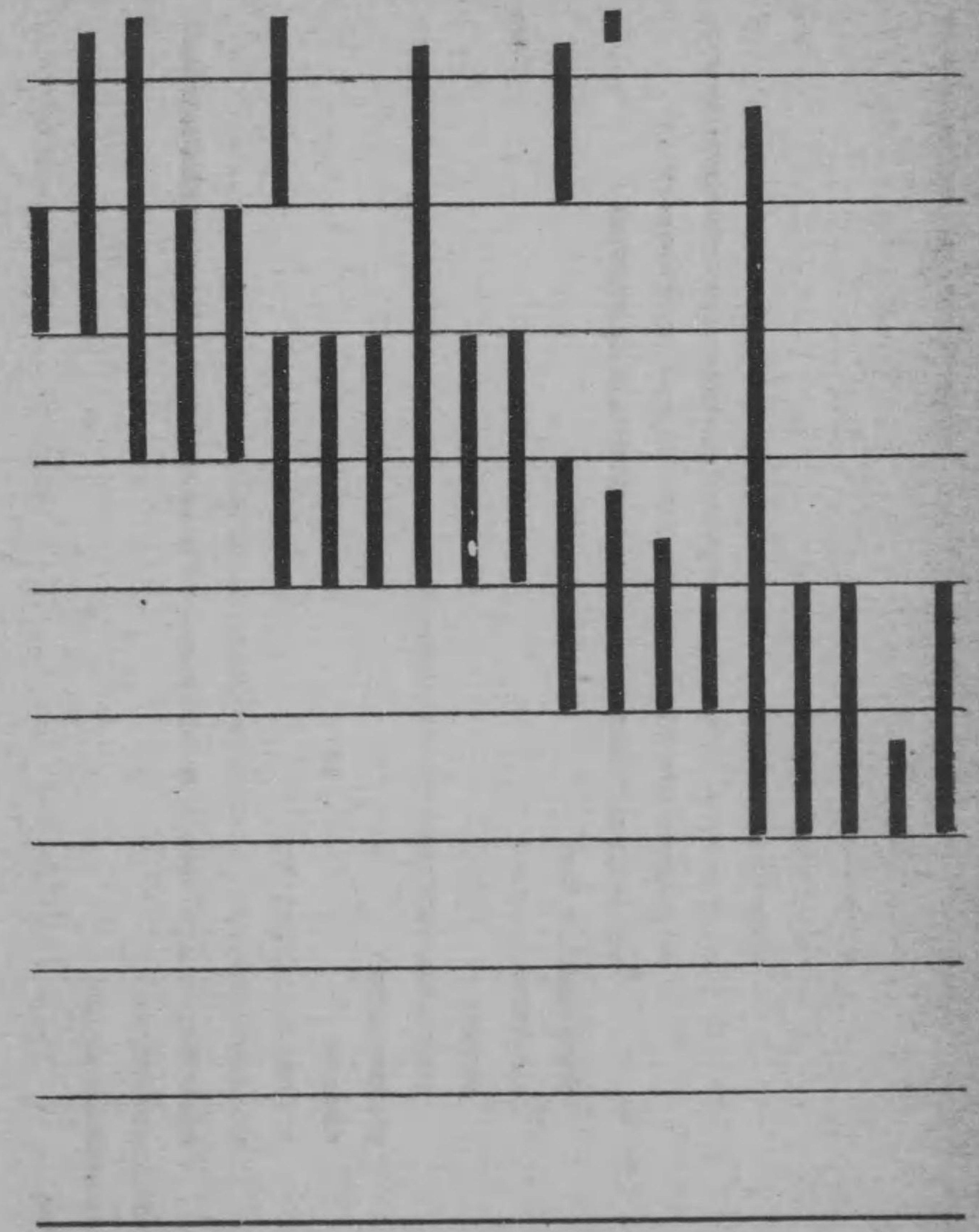
七五
 岡林徳太郎
 中村龜平
 矢野右龜彌
 水野福太郎
 上村豊太郎
 竹村貞次郎
 川田豊太郎
 矢野辻松
 廣瀬猶治
 三宮利太郎
 森岡研榮
 刈谷茂義
 下元庄三郎
 西村龜太郎
 田村梅太郎
 山崎鐵眞
 堀見熙助
 篠原徳右衛門
 山崎初子
 田村信厚

三町長(村長)以下吏員及其異動

町長



渡邊金馬
北川楠治
堀見熊太郎
山縣正雄
乾長定
德弘宇彌太
岡林雄策
山田瑞穂
柳瀬良吾
高根周平
竹村源十郎
山川楠吉
吉富虎太郎
山崎保巳
渡邊修三
桑名初吉
山崎恒三郎



野波岩吉
北添信宜
加用信齋
藪田銀馬太
濱口恒十郎
田村茂實
味元清藏
宇賀丑彌
山崎案山子
汲田作太郎
刈谷伊勢吉
金子丑太郎
山崎春吉
北川祐馬
西田鎌太郎
水野平治
渡邊伊勢吉
廣瀬長彌
森榮
黑田龍起

就職年月日	退職年月日	有給名譽區別	俸給報酬額	住所	氏名
明治廿二年六月十四日全	廿六年六月十三日	有給	拾參圓拾參圓	黑岩村	安岡真昌
全 廿六年七月廿六日全	卅四年七月廿五日	全	拾貳圓拾八圓	佐川町	西村龜太郎
全 卅四年七月廿六日全	卅九年四月廿一日	全	拾八圓貳拾圓	全	堀田孫之
全 卅九年五月十日全	四十二年五月九日	全	貳拾圓貳拾五圓	全	西村龜太郎
全 四十二年五月十日全	大正元年九月廿八日	名譽職	貳拾五圓貳拾七圓	全	全 人
大正元年十一月十九日全	三年六月廿一日	全	貳拾七圓貳拾八圓	全	全 人
全 三年九月十日全	六年二月廿八日	全	參拾五圓參拾五圓	郡書記	堀見 章
全 六年三月十九日全	年三月廿五日	町長事務管掌	參拾五圓	須崎町	松岡悅次
全 六年三月廿五日全	年九月十五日	町長臨時代理	參拾五圓	土佐郡旭村	前田龍二
全 六年九月十二日		有給	四拾圓	全	小笠原荒水

備考 俸給報酬額ハ就任退職ノ時ノ月額ニヨリ記入ス上欄ハ就任下欄ハ退職ノ時ナリ以下全シ

就職年月日	退職年月日	有給名譽區別	俸給報酬額	住所	氏名
明治廿二年六月廿一日全	卅四年六月二十日	有給	八圓拾六圓	佐川町	堀見真三
全 卅四年六月廿一日全	卅八年六月二十日	全	拾六圓拾六圓	全	堀見真三
全 卅五年四月廿四日全	卅五年九月廿七日	名譽職	拾五圓拾五圓	全	堀見真三
全 卅五年五月廿四日全	大正三年十二月廿三日	全	拾五圓拾八圓	全	全 人
全 卅八年六月廿三日全	卅九年五月十日	有給	拾六圓拾六圓	全	西村龜太郎

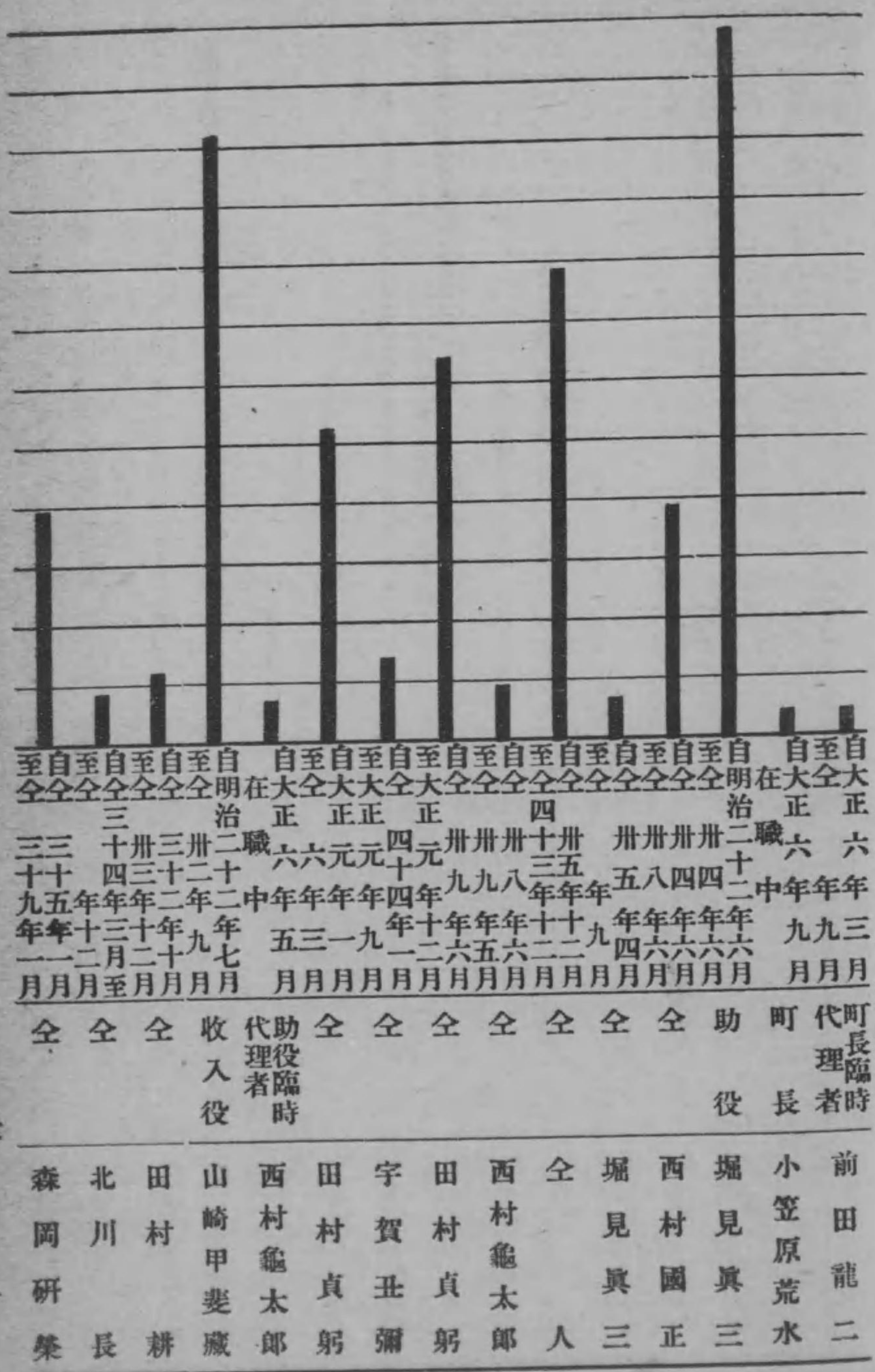
就職年月日	退職年月日	有給名譽區別	俸給報酬額	住所	氏名
全 卅九年六月二日	大正元年十二月廿三日	全	拾參圓拾九圓	全	田村貞躬
全 大正四年一月十三日	大正元年九月廿八日	名譽職	拾八圓拾九圓	全	宇賀丑彌
全 大正二年一月廿四日	大正六年三月十七日	有給	貳拾圓貳拾壹圓	全	田村貞躬
全 大正六年五月三日		助役臨時時代	貳拾貳圓	全	西村龜太郎

ハ 収入役

就職年月日	退職年月日	有給名譽區別	俸給報酬額	住所	氏名
明治廿二年七月三日全	卅二年九月七日	八	拾壹圓	佐川町	山崎甲斐藏
全 卅二年十月三十日全	卅三年十二月十七日	拾壹	拾貳圓	全	田村 耕
全 卅四年三月四日全	卅四年十二月廿八日	拾貳	拾四圓	全	北川 長
全 卅五年一月四日全	卅九年一月三日	拾四	拾五圓	全	森岡研榮
全 卅九年一月四日全	卅九年十二月十五日	拾五	拾五圓	全	近藤馬之助
全 卅九年十二月十九日全	四十二年十二月十八日	拾五	拾七圓	全	宇賀丑彌
全 四十二年十二月廿六日	在職中	拾六	拾七圓	全	岩佐猪久衛

ニ 書記

就職年月日	退職年月日	有給名譽區別	俸給報酬額	住所	氏名
明治廿二年六月卅日全	卅四年二月廿八日	五	拾壹圓	佐川町	北川 長
全 三十年四月一日全	卅二年十月廿五日	七	拾壹圓	全	田村 耕
全 卅三年四月十一日全	卅五年六月三十日	八	拾壹圓	全	安原正心
全 卅三年四月十一日全	大正二年十二月廿八日	七	拾四圓	全	刘谷嘉平
全 卅四年三月八日	大正元年十月一日	拾貳	拾七圓	全	片岡 登



八二

吏員在職年數表

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六	全大正六
六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月	六年二月
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
堀見章	全人	全人	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎	堀田孫之	西村龜太郎

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
拾四圓	拾五圓	拾五圓	拾六圓	拾五圓	拾四圓	拾參圓	拾六圓	拾五圓	拾四圓	拾參圓	拾六圓	拾五圓	拾四圓	拾參圓	拾六圓	拾五圓	拾四圓	拾參圓	拾六圓
安原正一	山崎鶴彌	得能通教	駒木稔重	駒木純一	田村稔	片岡登	駒木稔重	駒木純一	田村稔	片岡登	駒木稔重	駒木純一	田村稔	片岡登	駒木稔重	駒木純一	田村稔	片岡登	駒木稔重

八〇

四條例及諸規程

	自全 大正 六年 十二月 全	自全 大正 六年 十一月 全	自全 大正 六年 十月 全	自全 大正 六年 九月 全	自全 大正 六年 八月 全	自全 大正 六年 七月 全	自全 大正 六年 六月 全	自全 大正 六年 五月 全	自全 大正 六年 四月 全	自全 大正 六年 三月 全	自全 大正 六年 二月 全	自全 大正 六年 一月 全	自全 大正 六年 十二月 全	自全 大正 六年 十一月 全	自全 大正 六年 十月 全	自全 大正 六年 九月 全	自全 大正 六年 八月 全	自全 大正 六年 七月 全	自全 大正 六年 六月 全	自全 大正 六年 五月 全	自全 大正 六年 四月 全	自全 大正 六年 三月 全	自全 大正 六年 二月 全	自全 大正 六年 一月 全
記																								
安原正一	山崎鶴彌	得能通教	駒木稔重	片岡登	駒木稔重	片岡登	刈谷嘉平	安原正心	田村耕長	北川	岩佐猪久術	宇賀丑彌	近藤馬之助											

條例規則ハ自治制施行以來制定シタルモノニシテ其中
ニハ數回改正シタルモノアレ其沿革ハ之ヲ省略シ現
時施行セルモノ而已記載セリ而シテ他ノ各章ニ關係ヲ
有スル土木衛生兵事等ノ如キ條例規則等ハ其章中ニ記
入スルモノアリ

イ 條 例

吏員療治料及救助料ニ關スル條例 全文第十二章衛

生ノ部ニアリ明治二十九年七月十五日許可全年七
月二十六日發布

特別稅荒地元地價割徵收條例

第一條 町村制第九十壹條ニヨリ本町ニ於テ荒地元
地價割ニ關スル細則ヲ規定ス

第二條 本稅ハ荒地ニシテ堤防修築工事ニ依リ利益
ヲ受クル地所ニ限り其元地租ニ賦課スルモノトス

第三條 本稅ヲ賦課スヘキ荒地ハ町長ニ於テ調査ス
ルモノトス

第四條 本稅ノ課率ハ荒地元地租金壹圓ニ付八拾錢
以內トス

右明治三十三年九月十九日許可全年二十九日發布
佐川町助役ニ關スル條例

第一條 佐川町ハ制第五十二條ニヨリ助役二名ヲ置
キ其一名ヲ制第五十六條ニヨリ有給吏員トス
但名譽職助役ヲ以テ上席トス

右明治三十五年四月一日許可全年九月九日發布

吏員功勞者ヘ金員物品贈與ニ關スル條例

第一條 町吏員ニシテ職務上特ニ功勞アル者ヘ金員
又ハ物品ヲ贈與シ其名譽功勞ヲ賞スルコトヲ得

第二條 贈與ノ金員又ハ物品ノ價格ハ町會ノ議決ニ
依ルモノトス

第三條 第一條ニ該當スル者アルトキハ町會ノ決議
ヲ以テ之ヲ贈與ス

右明治三十九年六月十九日改正許可全年廿七日發
布

町長有給條例廢止ニ關スル條例

第一條 本町長有給條例ハ次期ノ改選期ヨリ之ヲ廢
止ス

右明治四十年十二月十八日許可全年二十六日發布
諸收入督促及諸証明閱覽等ニ關スル手数料條例

第一條 本條例ハ町村制第八十九條第九十一條第百
二條ニヨリ徵收スル手数料ヲ規定ス

第二條 本町ニ於テ徵收スル町税其他ノ諸收入金ヲ定期内ニ完納セサルモノアルトキハ納期後直ニ督促令狀ヲ發スヘシ

第三條 督促令狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ一通ニ付金拾錢ヲ徵收スヘシ

本町外ニアル者ニ對シテハ前項ノ外脚夫ヲ以テスル場合ニハ其里程ニ應シ一里毎ニ金拾錢郵便ヲ以テスル場合ハ其實費ヲ増手数料トシテ徵收スヘシ

第四條 督促手数料ハ滯納金ト同時ニ徵收スヘシ

第五條 督促令狀ヲ交付シタル日ヨリ五日ヲ過キ尙ホ完納セザルトキハ國稅徵收法ニヨリ處分スヘシ

第六條 左記各項ニ關シ證明照査等ヲ請求スルモノハ一件毎ニ手数料金拾錢ヲ徵收ス

但法律命令ノ規定ニヨリ取扱フ者ハ此ノ限りニアラス

一 印鑑 二 營業及職業 三 土地 四 納稅
五 寄留 六 受刑ノ有無 七 雇人 八 兵役關係ノ有無 九 狩獵免狀願ニ關スル証明
第七條 左記公簿ノ閱覽ヲ請フモノハ一種ニ付手数料金五錢ヲ徵收ス

土地臺帳 地租名寄帳 營業臺帳 諸税金徵收簿 寄留簿 印鑑簿 土地圖面

第八條 一人ニシテ數人ノ依頼ヲ受ケ諸証明及公簿ノ閱覽ヲ請求スルモノハ一人毎ニ手数料ヲ徵收ス但閱覽ハ吏員ノ面前ニ於テシ閱覽數日ニ涉ルモノハ一日ヲ以テ一件ト見做スヘシ

第九條 左記事項ノ一ニ該當スルモノハ手数料ヲ徵收セス

一 陸海軍兵役中ノモノニシテ陸海軍ニ關シ要スルモノ

一本町住民ニシテ公費ヲ以テ現ニ救助ヲ受ル者

一天災地變ニ關シ要スル者

第十條 證明照査閱覽ヲ請フ者ハ左記ノ事項ヲ具シ書面又ハ口頭ヲ以テ請求スヘシ

一 照査證明スヘキ事項又ハ簿冊ノ種類

二 請求者ノ住所氏名

第十一條 手数料ハ證明閱覽等請求ノ際之ヲ徵收ス

第十二條 請求事件不分明若クハ憑據ナキモノハ之ヲ拒絕シ手数料ハ直ニ返付スルモノトス

附 則

價種苗肥料費營業用ノ場所物件ノ借入料修繕料雇人料等必要ナル費用ヲ控除シタルモノヲ以テ所得トス

第四 其ノ他ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費控除シタルモノヲ以テ所得トス

第五 第三號第四號ノ所得ハ前三ケ年間所得ノ平均ヲ以テ算出スヘシ

但所得收入未タ三ケ年ニ滿タサルモノハ他ニ標準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニヨリ之ヲ賦課ス

一 所得金三百五十圓以上 千分ノ十四、五

二 全 三百圓以上 千分ノ十四

三 全 二百五十圓以上 千分ノ十二

四 全 二百圓以上 千分ノ十

五 全 百五十圓以上 千分ノ七、五

六 全 百圓以上 千分ノ五

第十三條 本條例ハ許可日付ノ翌月ヨリ施行ス

第十四條 明治二十四年六月一日許可條例第三號督促手数料ニ關スル件ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

右明治四十一年五月二日改正許可同月八日發布特別所得稅條例

第一條 本町内ニ於テ一ケ年百圓以上ノ所得アル者ニシテ所得稅法ニヨリ所得稅ヲ納ムル者ノ外ハ本條例ニヨリ所得稅ヲ納ムヘシ

同居家族ノ所得ハ戶主ノ所得ニ算入ス
戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキハ世帯主ノ所得ニ合算ス

第二條 所得ハ左記各號ニヨリ算出ス

第一 俸給々料報酬手當金歳費ハ其豫算年額十分ノ八年金恩給金退隱料ハ其年額ヲ以テ所得トス

第二 營業ニアラサル貸金ノ利子預金ノ利子及配當金賞與金ハ其收入豫算年額ヲ以テ直ニ其所得トス

第三 資産又ハ營業ヨリ生スル所得ハ其種類ニ應シ總收入金ヨリ税金製造品ノ原料代金販賣品ノ原

料代金製造品ノ原料代金販賣品ノ原

料代金製造品ノ原料代金販賣品ノ原

年五月末日迄ニ町長ニ申告スヘシ

第六條 町長ハ第五條ノ申告ニヨリ所得金高下調査ヲ製シ申告書ト共ニ調査會ニ附シ審査ヲ遂ケ九月末日迄ニ所得金ヲ決定スヘシ

第七條 調査委員四名ヲ置キ毎年九月五日迄ニ調査會ヲ開キ所得ニ關スル調査ヲナスモノトス

第八條 調査委員ハ町會ニ於テ町會議員ノ選舉權ヲ有スル公民中ヨリ選舉スルモノトシ其任期ハ二ケ年トス

第九條 町長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ申告ヲナサ、ルモノアルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ調査會ニ附スヘシ

第十條 第五條ノ申告期間ヲ過キ新ニ納稅義務ノ生シタル者ハ其都度申告スヘシ此場合第六條ノ所得決定前ナルトキハ調査會ノ審査ニ附シ決定後ニ於テハ町長其所得金額ヲ定メ直ニ賦課スルコトヲ得
第十一條 調査會ハ町長又ハ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ會長トス會長ハ調査及議事ノ順序ヲ指揮シ其日ノ會議ヲ開閉ス

第十二條 調査會ハ委員半數以上出席スルニアラサ

レハ會議ヲ開ク事ヲ得ス會議ハ出席員過半數ノ同意ヲ得テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決定ス

但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ參與スルコトヲ得ス

第十三條 町長ハ調査會ノ決議ニヨリ各納稅者ノ所得金額ヲ定メ議決ノ日ヨリ三週間内ニ之ヲ納稅者ニ通知スヘシ

第十四條 前條ノ決定額ニ對シ異議アル者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ町長ニ申立ツルコトヲ得

納稅者其收入豫算年額十分ノ五以上ヲ減シタルトキハ町長ニ對シ其稅額ノ減免ヲ申請スルコトヲ得前二項ノ申立ニ付テハ之ヲ調査會ノ決定ニ附スヘシ但町長ハ調査會ノ決議ニヨリ其處分ヲ專行スルコトヲ得

第十五條 町長及調査會ハ此規定ニ關シ調査ノ必要アルトキハ納稅者ト認ムル者ニ對シ質問シ又ハ其所得仕譯書ヲ徵スルコトヲ得

第十六條 所得調査ニ關係アル者ハ納稅者ノ資産又

ハ所得ニ係ル事項ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第十七條 所得金高ヲ隱蔽シテ逋稅シタルモノハ金

貳圓以下ノ過料ニ處シ逋稅ノ金額ヲ追徵スルモノトス

第十八條 第十六條ニ違背シタルモノハ金壹圓五拾錢以上貳圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條 過料金ハ處分確定ノ後五日以内ニ納付スヘシ

附 則

第二十條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二十一條 現今施行ノ特別所得稅細則ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十二條 第五條第六條第七條第十條及第四條ノ前半分徵收期日ハ大正二年度ニ限り町長ニ於テ適宜之ヲ定メ告示スルモノトス

右大正三年二月十日許可全月十九日發布

佐川町公告式條例

第一條 條例規則其他公告スヘキ事項ハ本町揭示場ニ揭示スルヲ以テ公告式トス

第二條 條例規則其他施行ヲ要スルモノハ發布ノ日

ヨリ起算シ七日ヲ經テ施行ス但特ニ施行ノ期日ヲ定メタルモノハ此限りニアラス

第三條 條例規則其他公告ハ發布ノ年月日ヲ記載シ町長之ニ署名ス

附 則

第四條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

右大正三年四月十一日許可全月十六日發布

學校基本財産蓄積條例

第一條 本町ハ此條例ノ規定ニヨリ學校基本財産ヲ蓄積スルモノトス

第二條 本條例ニヨリ蓄積シタル基本財産ノ收入及第三條ノ金額ハ當町教育費ニ於テ不要公課ノ年期迄蓄積スルモノトス

第三條 臨時ニ收入シタル金錢ノ外左記ノ金額ハ之ヲ蓄積スルモノトス

- 一 國庫交付金ノ十分ノ七
- 二 縣交付金ノ全部
- 三 手数料收入ノ全部

第四條 前條收入金ノ内基本財産ニ編入シタルモノハ郵便貯金又ハ確實ナル銀行預金トシ若クハ記名

公債又ハ債券確實ナル株券ニ替ヘ管理スルモノトス

第五條 町債ヲ起ス年度ニアリテハ第三條ノ蓄積ヲ停止ス

但臨時ニ收入シタル金錢ハ此限リニアラス

第六條 基本財産トシテ蓄積スヘキモノハ總テ豫算ニ編入スヘシ

第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

右大正四年四月六日許可全月十日發布

屠畜場使用料條例

第一條 本町屠畜場ハ屠殺出願者ニ對シ本條例ノ規定ニヨリ屠殺料ヲ徵收ス

第二條 屠殺ヲ出願セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ

本町役場ニ願出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

一屠殺出願者ノ住所氏名

二屠殺ノ年月日

三屠殺獸畜ノ種類及頭數

第三條 屠殺料ハ左ノ定額ニヨリ出願ノ時之ヲ徵收ス

一牛馬 各一頭ニ付 金貳圓

一羊、山羊、豚、各頭ニ付 金八拾錢

但山羊豚ハ其体量二十貫以下ノモノニ限リ各一頭ニ付金七十錢

第四條 既ニ徵收シタル屠殺料ハ其ノ屠殺ヲ廢シタル場合ト雖トモ之ヲ還附セス

第五條 第二條ノ承認ヲ受ケスシテ屠殺シタル者ハ金參圓以下ノ過料ニ處シ其連脫ニ係ル屠殺料ハ之ヲ追收ス

附 則

第六條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行シ現行屠畜場使用料條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

右大正四年四月九日許可全月十三日發布

町長有給給條例

第一條 佐川町ハ制第六十一條第二項ニ依リ町長ヲ有給トス

大正六年八月二十日決議全月二十九日許可九月一日發布

日發布

諸 規 定

一 佐川町堤防修築基金蓄積規定

第一條 本町ノ經營スヘキ堤防非常破壊ニ際シ其ノ

修築費支辨ノ爲此規則ニヨリ基金ヲ蓄積ス

第二條 堤防修築基金ハ町費ヨリ年々貳百圓以上ヲ蓄積シ元利合セテ壹萬圓ニ達スルヲ以テ止ム

第三條 堤防臨時修築ノ爲多額ノ費用ヲ要スルトキハ町會ノ議決ヲ以テ一時基金ノ蓄積ヲ停止シ又ハ基金ノ一部或ハ全部ヲ修築費ニ使用スルコトヲ得

第四條 基金ハ當分ノ確實ナル銀行又ハ郵便局ニ預ケ入ル、モノトス

第五條 基金ノ利子ハ其儘之ヲ基金ニ編入ス

右明治三十八年六月二日制定發布

二里道改修費補助規程

第一條 明治四十四年三月七日町會ノ決議ニ基キ各部落ニ於テ耕地整理ヲナシ之ニ伴ヒテ幹線里道ヲ改修スル向ニ對シ左ノ條項ニヨリ總工費百分ノ十八ノ補助金ヲ交付スルモノトス

第二條 本規程ニヨリ補助ヲ受クヘキ里道ハ左ノ各項ニ適合スルモノニ限ル

一幅員六尺以上九尺以下ニシテ貨車ヲ通スルニ足ルヘキモノ

二道路ノ一端ハ縣郡道又ハ幅員六尺以上ニシテ貨

車ヲ通スヘキ里道ニ接續スルモノ

三改修後ハ關係部落ニ於テ完全ニ修繕ヲナスモノ

第三條 大正元年度以後ニ起シシ補助ヲ受ケントスルモノハ起工及竣工ノ年月日並ニ設計書ヲ又大正元年度ニ於テ竣工セルモノハ決算書ヲ添付シタル補助請求書ヲ提出スヘシ

第四條 補助請求書ヲ受理シタルトキハ町長ニ於テ精細調査シ調査會ノ決定ニ附シ工費額ヲ査定シ補助金額及支出年度ヲ確定ス

第五條 補助金ハ竣工後調査會ノ實地調査ヲ經テ交付ス若シ設計書ニ違フモノアルトキハ補助ヲ取消シ又ハ減額スルコトアルヘシ

第六條 調査會員ハ五名トシ町會議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム其任期ハ二ケ年トス

附 則

第七條 大正元年四月二日決議ノ補助規定ハ本規定發布ノ日ヨリ廢止ス

右大正二年一月三十一日發布

三佐川町會議規則

第一條 會議ハ午前九時ニ始メ午後四時ニ閉ツルモ

八九

ノトス

但事宜ニヨリ議長ニ於テ伸縮スルコトアルヘシ

第二條 議員ノ席次ハ番號順トシ定期改選毎ニ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但補欠選舉ニヨリ當選シタル議員ノ席次ハ前任者ノ番號ニ依ル

町長及其委任又ハ囑託ヲ受ケタル吏員ノ着席ハ議員ノ席次以外トス

第三條 議案ハ三次會ヲ經テ之ヲ議決ス但議事ノ都合ニヨリ三次會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第四條 第一次會ニ於テハ議案ヲ朗讀シ大體ニ付討論シ第二次會ヲ開クヤ否ヤヲ決スヘシ

第五條 第二次會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ議決スヘシ

議長ハ前項逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ附スルコトヲ得但議員ニ於テ異議ヲ提出スルモノアルトキハ討論ヲ用ヒスシテ之ヲ決スヘシ

第六條 議長ハ第一次會第二次會ニ於ケル議案ノ朗讀ヲ便宜省略スルコトヲ得

九〇

第七條 第三次會ニ於テハ議案全体ニ付キ終局ノ可否ヲ議決スヘシ

第八條 議長ハ其日ノ會議ヲ閉ントスル時ハ翌日ノ會議ニ附スヘキ議題及議事ノ順序ヲ宣告スヘシ

第九條 議員發言セントスルトキハ起立シテ議長ニ向ヒ自己ノ番號ヲ唱ヘ議長ノ回呼ヲ待テ發言スヘシ全時ニ發言ヲ求ムルモノ二名以上アルトキハ議長ノ指定スル處ニ依ル

第十條 會議中議員ヲ指スハ必ス席次ノ番號ヲ呼フヘシ

第十一條 議員ハ全一議題ニ付發言二回ニ及フコトヲ得ス但質疑應答又ハ前論ノ足ラサルヲ補フハ此限ニアラス

第十二條 發言者未タ盡キスト雖モ議員ハ討論終局ノ動議ヲ提出スルコトヲ得此場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用ヒスシテ之ヲ決スヘシ

第十三條 原案ニ對シ修正案提出アリタル場合ニ於テハ其評決ノ順序ハ修正案ヲ先ニシ又數個ノ修正案アリタルトキハ其原案ニ最モ遠キモノヨリ採決スヘシ

第十四條 採決ノ方法ハ起立舉手投票ノ三種トシ議長ニ於テ適宜之ヲ用フルコトヲ得

第十五條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ一人以上ノ賛成者アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス其ノ修正ノ動議成立セサル間ハ他ヨリ論議スルコトヲ得ス

但第三次會ニ於ケル動議ハ三名以上ノ賛成者アルヲ要ス

第十六條 建議ニ於ケル動議ハ三名以上ノ賛成者アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

第十七條 議案ニ對スル修正ノ動議及建議ハ書面ヲ以テ議長ニ提出スヘシ其輕易ナルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十八條 會議録ニ署名スヘキ議員ハ三名トシ會議前議員ニ於テ互選ス

第十九條 會議録ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 議會開會及議事開始ノ年月日時
二 出席議員及議事ニ參與シタル吏員并欠席議員ノ氏名

三 會議ニ附シタル議案ノ題目

四 議事ノ概要及決議ノ事項

五 選舉ノ顛末

六 散會及閉會ノ年月日時

七 其他議會ニ於テ必要ト認メタル事項

第二十條 病氣又ハ止ヲ得サル事故ニヨリ欠席又ハ遲參セントスル議員ハ開會時刻迄ニ其旨議長ニ届出ツヘシ其議事中議席ニ着キ又ハ議席ヲ退カントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

右大正三年三月二十六日議決制定

四 傍聽人取締規則

第一條 傍聽人ハ受付ニ名刺ヲ差出シ之カ指揮ヲ受クヘシ

第二條 傍聽席ニアルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 飲食又ハ吸煙ヲナスヘカラス
二 帽子又ハ外套ヲ着シ又ハ無禮ノ服裝ヲナスヘカラス

三 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表シ若クハ喧擾ニ涉リ議事ノ妨害ヲナスヘカラス

第三條 兇器其ノ他必要ナキモノヲ携帯シタルモノ

九一

又ハ酌量シタル者ハ榜聽席ニ入ルコトヲ許サス
第四條 秘密會議ヲ開クノ通知アルトキハ直ニ退席
スヘシ

右大正三年三月廿六日議決決定

五佐川町財産管理規程

第一條 財産ノ管理ハ別ニ規定アル場合ノ外本規程
ニ依ルヘシ

第二條 財産ヲ管理スルニハ維持保存ヲ確實ニシ利
用及改良ニ怠ラサルト同時ニ増殖ヲ計ルコトニ留
意スヘシ

第三條 現金ハ公債證書若クハ確實ナル有價證券ニ
換ヘ又ハ郵便貯金若クハ確實ナル銀行預金ト爲シ
又ハ之ヲ以テ收益ノ確實ナル土地ヲ購入スヘシ

第四條 穀類ハ之ヲ賣却シテ現金ニ換ヘ前條ノ方法
ニヨリ管理スヘシ

第五條 公債證書其他有價證券ニシテ國債規則ニ依
リ登録シ又ハ郵便官署ニ保管スルコトヲ得ヘキモ
ノハ登録ヲ受ケ又ハ保管ヲ寄託シ其ノ之レニ依リ
難キモノハ堅固ナル金庫内ニ藏置スヘシ

第六條 不動産ハ相當ノ貸附料ヲ徴收シテ之ヲ望人

ニ貸與ス可シ但左ノ場合ニ於テハ貸附料ヲ徴收セ
サルコトヲ得

一 精勤小作人選奨ノ爲貸附ヲナストキ

一 農事奨励上試作又ハ模範作ノ爲貸附ヲナス時

三 其他公用又ハ公共ノ用ニ供スルカ爲貸附ヲナス
トキ

第七條 不動産ノ貸附ヲ爲ストキハ前條但書ノ場合
ヲ除ク外身元確實ナル保證人ヲ立テシムヘシ但貸
附期間一ヶ月ヲ超ヘサル場合ニ在リテハ保證人ヲ
立テシメサルコトヲ得

第八條 不動産ノ貸附ヲナストキハ左ノ事項ヲ具備
シタル契約書ヲ徴スヘシ但シ貸附期間一ヶ月ヲ超
ヘサル場合ニ在リテハ之ヲ徴收セサルコトヲ得

一 不動産ノ名稱數量并其所在地名

二 貸附期間貸附料及貸附料ノ納期

三 貸附ヲ受ケタル不動産ハ貸附ノ目的以外ニ使用
セサルコト及濫リニ原形ヲ變更セサルコト

四 貸付ヲ受ケタル不動産ハ何時ニテモ町村ノ要求
ニ應ジ返還スルコト及町村ノ必要ニヨリ隨時契約
事項ヲ變更セラルルモ異議ナキ事

五前條ノ場合ニ於テ借受人ニ損害アルモ町ハ賠償

ノ責ニ任セサルニ異議ナキコト

六借受人ノ契約ニ違背シタルニ因テ生シタル損害

賠償ニ關スル事項

七保證人ノ連署

八其他必要ノ事項

第九條 貸付料ハ之ヲ前納セシムヘシ但シ前納セシ

メ難キモノハ特ニ納期ヲ定メ又ハ普通町稅徵收期

毎ニ之ヲ徴收スヘシ

第十條 貸附ノ田畑ニシテ災害等ノ爲收穫減少シ若

クハ皆無トナリ借受人ヨリ貸附料ノ减免若クハ猶

豫ノ申請アリタルトキハ被害事實ヲ調査シ减免又

ハ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニアリテハ貸附契約ヲ解キ之ヲ

返還セシムヘシ

一 町村ニ於テ使用ノ必要生シタルトキ

二 納期ヲ過キ貸附料ヲ納付セサルニ因リ督促ヲ加

フルモ猶其ノ指定期限内ニ納附セサルトキ

三 特殊ノ目的ヲ達センカ爲貸附シタル場合ニアリ

テハ其目的ヲ達シ難シト認メタルトキ

四 保證人死亡シ若クハ行衛不明トナリ其他保證人

ノ更改ヲ要求セシニモ拘ラス一ヶ月以内ニ新ニ

保證人ヲ立テサルトキ

第十二條 財産ハ附録第一號乃至第三號様式ニ依ル

帖簿ニ登記シ異動アル毎ニ加除スヘシ

附 財

第十三條 本規程ハ部落財産及水利組合財産ノ管理

ニ之ヲ準用ス

本規程ハ大正三年十月一日ヨリ施行ス

右大正三年九月五日改正決議

六納稅組合獎勵規程

第一條 國縣稅及町稅其他町役場ニ納付スヘキ公課

金ヲ指定納期内ニ完納シタル納稅組合ニ對シ本規

程ニヨリ納稅獎勵金ヲ交付ス

第二條 納稅獎勵金ハ部落内ニ於ケル納稅義務者全

部ヲ以テ組織スル組合ニ限リ交付スルモノトス

第三條 納稅獎勵金ハ左ノ標準ニヨリ交付ス

一金貳圓 組合均等交付額

二 納稅組合員一人ニ付金拾錢ノ割合ヲ以テ組合員

總數ニ乘シタル金額

第四條 納稅獎勵金ハ其年度内ニ於ケル公課金ヲ完納シタル後之ヲ交付ス

附 則

第五條 本規程ハ大正四年度ヨリ之ヲ施行ス
右大正四年三月卅日改正決議

七佐川町役場處務規程

第一章 總 則

第一條 事務ノ處理ハ特別ノ規定アル場合ノ外此ノ規程ニ據ルモノトス

第二條 事務ハ町長ノ決裁ヲ經テ施行スヘシ但シ助役分掌事務ニ就テハ助役ノ決裁ヲ經ヘシ
前項但書ノ場合ニアリテハ決裁後町長ノ閱覽ニ供スヘシ

第二章 處務方法

第三條 役場ニ到達シタル文書ハ町長之ヲ受ケ文書件名簿ニ登記シ其文書ニハ收受ノ日附印ヲ捺捺スヘシ但官報縣公報圖書雜誌ノ類ハ登記ヲ要セズ
文書ニ金錢物品ヲ添付セルトキハ文書件名簿ニ其員數ヲ登記スヘシ
口頭申立ハ文書件名簿ニ其要旨ヲ登記シ上部欄外

ニ口頭ノ二字ヲ表記スヘシ

第四條 文書ノ處理ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一 特ニ調査ヲ要スルモノヲ除ク外ハ收受當日之ヲ處理スヘシ

二 處分ヲ要スルモノハ立案用紙ニ起案スヘシ但定例アルモノ又ハ輕易ナルモノハ其文書ノ餘白ニ處分案ヲ記載スルモ妨ケナシ

三 處分ヲ要セサル文書ハ町長ノ閱覽ニ供スヘシ
第五條 文書ヲ發送スルトキハ文書件名簿ニ登記スヘシ

淨書シタル文書ヲ發送スルトキハ之レニ文書件名簿ノ番號ヲ附シ職印又ハ役場印ヲ捺捺スヘシ

第三章 公文例

第六條 公文例ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 告示
佐川町告示第何號

何々條例內務大臣(知事)ノ許可ヲ請ケ(何々規則町會ノ決議ヲ經)左ノ通之ヲ定ム
年月日 佐川町長 氏 名

二 住復文

申請報告等(監督官廳ニ對スルトキ)
第何號 年月日 佐川町長 氏 名

官職氏名宛
何々ノ件申請(報告)
何々此段及申請(報告)候
照會回答等

第何號 年月日 町長(役場) 印

官職(官公署)宛
何々相成度候(何月何日第號御問合ノ件左之通ニ候)

第四章 文書ノ編纂及保存

第七條 完結文書ハ其ノ完結月日ノ順ニヨリ類別シテ編纂スヘシ
編纂文書ハ曆年又ハ會計年度毎ニ製冊シ十年保存以上ハ卷首ニ索引ヲ設クヘシ但シ紙數少キトキハ數年分ヲ連綴スルモ妨ケナシ製冊シタル編纂文書ニハ保存年限年號書目冊數等ヲ記載シタル標目ヲ附スヘシ

第八條 文書及帖簿ノ保存期限ヲ分テ左ノ三種トス
但シ官報選舉人名簿投票錄選舉錄及出納ニ關スル證憑書類中收入原符ハ五年保存トナスコトヲ得

第一類 永久保存
一 令達並町條例諸規則
二 重要ナル申請報告並ニ往復文書
三 吏員ノ進退ニ關スル文書

四 事務引繼ニ關スル文書
五 町ノ分合學校ノ廢置殖産興業ノ消長其ノ他町治ノ沿革ヲ見ルニ足ルヘキ文書

六 統計歲入出豫算決算會議錄其ノ他重要ナル簿冊
七 前各号ノ外永久保存ノ必要アリト認ムル文書

第二類 十年保存

一 官報
二 選舉人名簿 投票錄 選舉錄
三 文書件名簿

四 出納ニ關スル簿冊並ニ證憑書類
五 土地異動並所有權移轉ニ關スル文書
六 前各号ノ外永久保存ニ屬セサル文書及帖簿
第三類 二年保存

一 一時ノ處弁ニ屬スル文書並帳簿

保存年限ハ處分結了ノ翌年ヨリ起算ス但會計年度

ニ依ルモノハ其ノ年度ノ翌年度ヨリ起算ス

第九條 編纂文書及帳簿ハ文書臺帳ニ登録シ異動ア

ル毎ニ加除スヘシ

第十條 保存年限ヲ終リタル編纂文書及帳簿ハ町長

ノ決裁ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第五章 服務心得

第十一條 吏員ハ職務時限迄ニ出勤シ自ラ出勤簿ニ

捺印スヘシ

町長ハ日々出勤簿ヲ點檢シ出張疾病忌服早退遲參

等ヲ記入スヘシ

第十二條 出張先ヨリ歸廳シタルトキハ速ニ書面又

ハ口頭ニテ復命スヘシ

第十三條 退出ノ際ハ各自管守ニ屬スル文書物品ヲ

收藏スヘシ

第十四條 公文書類ハ町長ノ承認ヲ經ズシテ他人ニ

示シ又ハ贖本ヲ與フルコトヲ得ス

第十五條 出火其他風水震災等非常變災アルトキハ

直ニ役場ニ出頭シ應急ノ處置ヲ爲スヘシ

第六章 當直心得

第十六條 當直ハ吏員一名順番ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 當直中到達シタル文書並金錢物品ハ當直

日誌ニ登記シ至急ヲ要スト認ムルモノハ町長ノ指

揮ヲ受ケ當直員ニ於テ之ヲ處理スヘシ

第十八條 當直員ハ構内ノ警戒ヲ爲シ事故アルトキ

ハ適當ノ措置ヲ爲スヘシ

第七章 簿書ノ様式

第十九條 本規程ニ必要ナル簿書ノ様式ヲ定ムルコ

ト左ノ如シ(様式略ス)

附 則

本規程ハ大正五年一月一日ヨリ施行ス

右大正四年十二月八日許可同月十二日發布

八佐川町表彰規程

第一條 本町在住者ニシテ左記各項ノ一ニ該當スル

行爲アルモノハ之ヲ表彰ス

一 業務ニ精勵シ操行端正他ノ模範タルモノ

一 公共ノ事ニ盡瘁シ特ニ功勞アルモノ

一 慈善的行爲ノ顯著ナルモノ

一 孝子節婦義僕等

第二條 前條ニ該當スルモノニハ町會ノ議決ヲ以テ

賞狀又ハ金員物品ヲ授與ス

附 則

第三條 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

右大正五年四月九日議決全十日發布

九吏員報酬俸給等支給規程

第一條 町長以下吏員使丁報酬俸給ハ毎月二十五日

ヲ以テ支給ス

但當日休日ナルトキハ前日トス

第二條 町吏員ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ

欠勤六十日ヲ超ユルトキハ支給ヲ停止ス

第三條 縣外出張中ノ疾病又ハ傷痍ニ因ル欠勤ハ百

二十日ヲ限度トシ以後支給ヲ停止ス

第四條 町吏員ニシテ公務ニ基因シ傷痍ヲ受ケ又ハ

疾病ニ罹リ欠勤百八十日ヲ過クル時ハ支給ヲ停止

第五條 新任又ハ増減俸等ノ場合ハ認下又ハ發令ノ

翌日ヨリ日割ヲ以テ支給ス

第六條 滿期並ニ傷痍疾病ニ依リ退職ノ場合ハ其月

分全額ヲ支給シ事故退職ノ場合ハ日割ヲ以テ支給

ス

第七條 事務引繼ノ爲メ出務シタルトキハ在職當時

ノ額ニヨリ日割ヲ以テ支給ス

第八條 旅費及實費辨償等ハ其都度之ヲ支給ス

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

大正五年八月十八日改正決議全月十九日發布

十佐川町旅費支給規則

第一條 公務ヲ以テ旅行スルトキハ順路ノ里程ニヨ

リ左表ノ金額ヲ支給ス但一里未滿ノ路程ニハ之ヲ

交付セス

汽車賃		汽船賃		縣		外		縣		内	
一哩ニ付	一哩ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	四錢	四錢	貳拾錢	壹圓五拾錢
四錢	四錢	貳拾錢	壹圓五拾錢	八拾錢	拾五錢	七拾錢	五拾錢				

第二條 旅費ハ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス
但單位未滿ハ之ヲ切捨ツ

第三條 急行ノ場合又ハ天候若クハ道路險惡ノ爲メ
規定ノ旅費ヲ以テ支辨シ難キトキハ特ニ實費ヲ支
給ス

第四條 日當ハ往復三里未滿ノ旅行ニハ支給セス
但事務ノ都合ニヨリ滞在スル場合ハ其日數ニ應ジ
日當宿泊料ヲ支給ス

第五條 疾病若クハ天災等ニヨリ滞在セシ時ハ其日
數ニ應ジ日當及宿泊料ヲ支給ス但滞在二十日ヲ超
ユルトキハ支給ヲ停止ス

第六條 特ニ定メタル旅費ヲ以テ旅行シタル時ハ本
則ヲ適用セス

附 則
本則ハ大正五年九月一日ヨリ施行ス
大正五年八月十八日決議全月十九日發布
第三節 其他ノ官公署

一 佐川警察分署
明治十一年五月廿九日丙第百二號縣達ヲ以テ六月十一
日初メテ佐川分署ヲ設置サレ新市ニ於テ執務ス後西上

舎ナリ全二十年四月三野ニ駐在所ヲ設ケ佐川村郷部一
圓黒岩村ノ一部分加茂村ヲ管轄セリ全廿二年四月一日
須崎警察ノ分署トナリ其管轄區域ヲ變更シ佐川加茂黒
岩能津越知別府長者尾川大桐斗賀野ノ十ヶ村トナリ大
正二年九月一日更ニ管轄區域ノ變更アリテ右十ヶ町村
ノ外ニ吾川郡横島大崎池川名野川富岡ノ五村ヲ合併セ
リ

署長氏名	就任年月日	退任年月日
北原 保重	明治十四年二月三日	明治十五年七月五日
桑名 俊男	全十六年一月十二日	全十六年十一月七日
土居 定晃	全十一年十一月七日	全廿三年五月十二日
八里 理新	全廿三年五月十二日	全廿四年十月五日
井上 作郎	全廿四年十月五日	全廿五年十月十五日
岸田 稻美	全廿五年十月十五日	全廿九年二月十四日
齋藤 文吾	全廿九年二月十四日	全三十年二月十三日
公家 伴	全三十年二月十三日	全三十二年八月十四日
栗生 正直	全三十二年八月十四日	全三十四年八月廿四日
大石 清平	全三十四年八月廿四日	全三十五年八月廿七日
林 直吉	全三十五年八月廿七日	全卅三年四月十九日

町ニ移轉ス一等巡查北川盈亮其長タリ是ヨリ以前ハ區
詰ト稱シ三野佐川兩村ニ配置セラレ捕亡或ハ運卒ト稱
シ後巡查ト改稱ス明治十四年一月一日佐川警察署ヲ設
置セラレ村役所ヲ以テ之レニ充テ即裏町(現在ノ川田
文庫運動場)ニ移テ事務ヲ處理シ高吾二郡ノ北部ヲ管
轄セリ明治十九年五月十五日廳舎新築寄附金ノ徵集ニ
着手シ十月末日ニ至リ佐川ヨリ納付シタルモノ七百九
十五圓餘ニシテ其他管内各村ヨリ左ノ如ク寄附アリ

吾川郡横島村 十九圓 土居村 四拾圓 狩山
村二十五圓 下名野川村三十三圓 用居村九圓
大崎村三十圓
高岡郡斗賀野村五十三圓 黒岩村三十一圓 尾
川村四十九圓 永野村三十五圓 森村五十九圓
野老山村三十九圓 別枝村三十二圓 長者村二
十三圓 大平村三十八圓 加茂村二十六圓
能津村十一圓 越知村八十六圓 合計金六百三
十八圓

其他官吏ヨリノ寄附金二十六圓合計金千四百五十九圓
餘ヲ寄附シ明治十九年七月十四日改築ノ工ヲ起シ全年
十一月二十日落成式ヲ行ヒ移テ茲ニ執務ス即現在ノ廳

姓名	就任年月日	退任年月日
鳴崎 久壽彌	全三十三年五月九日	全 年六月三十日
奥田 巳之助	全三十三年六月三日	全卅六年十一月二日
横田 清太郎	全卅六年十一月二日	全卅九年一月四日
池 正章	全三十九年一月四日	全 年十月四日
佐々木 公義	全 年十月四日	全卅三年三月卅一日
町田 茂	全卅三年三月卅一日	全 年五月十日
尾崎 三郎	全 年五月十日	全四十四年二月七日
野田 茂	全四十四年二月七日	全 年二月廿七日
大方 勇	全 年二月廿七日	全四十五年五月五日
田村 清憲	全四十五年五月五日	全 年四月一日
野老山 定	全 年四月一日	全 年八月二十二日
小笠原 荒水	全 年八月二十二日	全 年四月五日
森本 義近	全 年四月五日	全 年九月十二日
梶原 秋生	全 年九月十二日	全 年九月十二日

二裁判所出張所
明治十九年八月十一日不動産登記法ノ發布アリ全廿年
二月一日實施トナリ當初ノ事務ハ各戸長ニ於テ之ヲ兼
務處理シ登記處ト稱シ當時ノ如キハ當時ノ戸長堀見眞
三大野驥其職ニアリ
明治廿一年同法改正ノ爲高知治安裁判處佐川出張處ト

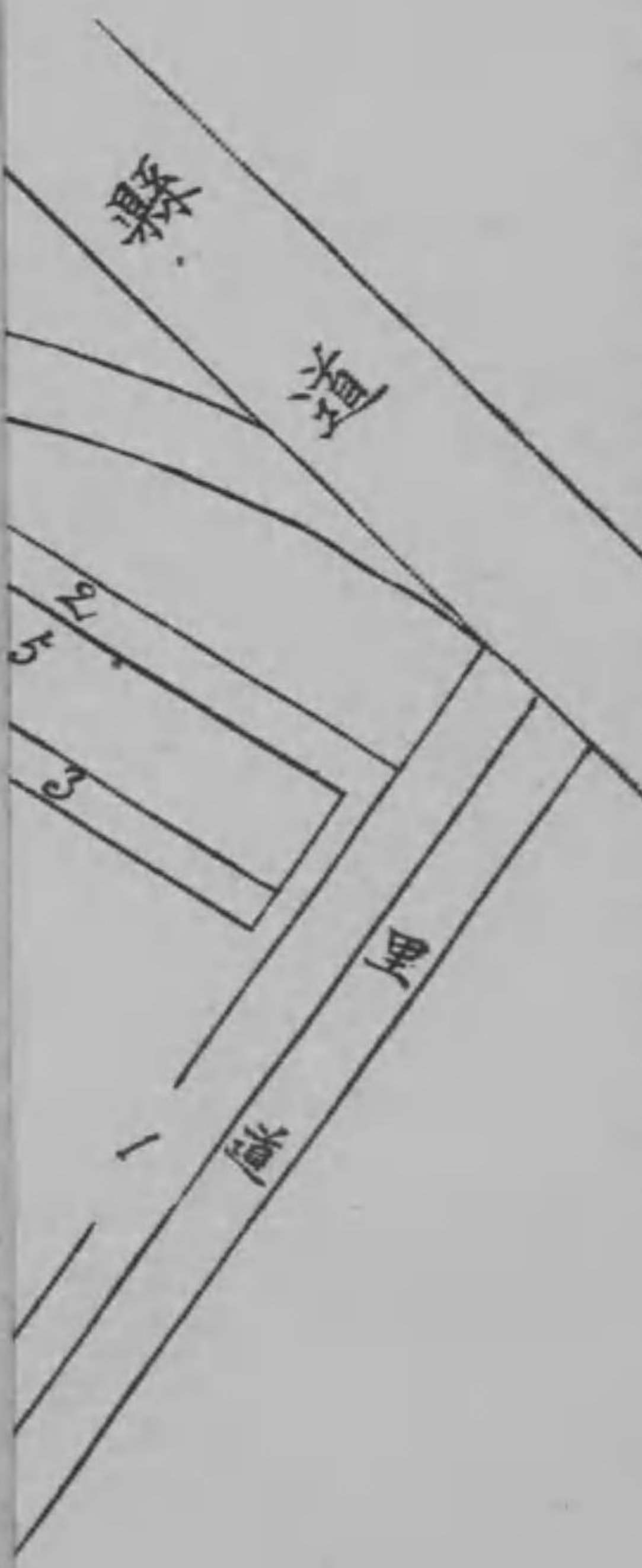
稱シ別ニ主任書記ヲ配置スルコト、ナリ其廳舎ヲ新築スヘク有志川田信道外六十三名ヨリ高知始審裁判所長水尾訓和ニ對シ敷地及廳舎四棟ノ寄附ヲ請願ス十月二日許可ヲ得左ノ如ク管轄區内ヨリ寄附金ヲ募集ス

町村	金額	町村	金額	町村	金額
尾川	一、九四〇	能津	八、五〇三	瀬	三、一七〇
斗賀野	一、六〇〇	黒岩	九、二七〇	永野	一、〇〇〇
佐川	七、三三〇	加茂	一、八〇〇	大桐	七、〇〇〇

計金八百三十四圓六十錢

前表ノ如ク寄附ノ募集ヲ了シ字古市(文珠堂ノ北)ニ於テ敷地一反二十三歩(代金百二十九圓廿錢)建物四棟(代金七百五圓二十錢)ヲ献納シ十一月一日開廳ス全月十三日裁判所書記堀内正路就任シ戸長大野驥ヨリ其引繼ヲ受ケ事務ヲ掌理セリ
 明治廿三年一月十六日ヨリ全月三十一日迄及全年五月十五日ヨリ全月三十一日迄ノ二回高知治安裁判所判事 中川靜記出張シテ民事訴訟勸解等ノ取扱ヲナセリ此年九月大洪水アリ書類ノ浸水スルモノ多ク爲ニ移轉ノ必要ヲ訴フ

明治二十二年二階増築全三十四年溜席増設



- 1 校門
- 2 土堤
- 3 通り廊下
- 4 玄關
- 5 教室及職員室

明治三十五年十一月佐川ニ於テ再ヒ寄附金四百二十八圓餘ヲ募集シ西町ニ廳舎移轉ノ工ヲ起シ翌三十六年三月十日竣成シ移テ此處ニ執務ス(現在ノ廳舎)其名稱ハ須崎區裁判處出張ト稱シ後高知區裁判所出張所ト稱セリ又明治三十五年改築中ハ松崎ニ於テ民家ヲ借り入レ執務セリ其現在ノ管轄區域ハ佐川斗賀野尾川加茂日下ノ五町村ナリ

明治二十一年開設以來ノ登記官氏名左ノ如シ

氏名 就任年月日 轉免年月日

堀内 正路 明治二十一年七月三日 明治二十二年九月二十八日
 桑田 重治 全二十二年九月二十八日 全二十三年十月二十三日
 隅田 稔 全二十三年十月二十三日 全二十五年四月二十一日
 葦原 重壽 全二十五年四月二十一日 全二十九年十月十五日
 大野 哲夫 全二十九年十月十五日 大正元年十月二十一日
 田中 寅術 大正元年十月二十一日 全二十三年三月三十一日
 水田 虎熊 全二十三年三月三十一日
 而シテ本廳舎ハ位置ノ宜シカラサルト建物不完全ナルヲ以テ町ニ於テ新築シ之ニ充用スル事ヲ計畫セリ

第六代深尾湯右衛門茂澄明和年間材本清助ヲ高知ヨリ聘シ諸臣ニ讀書及筆道ヲ教授ス清助ハ中山高陽ノ門人

不揉而自直滄澤之運不濯而自清則無論矣後世士大夫

稱シ別ニ主任書記ヲ配置スルコト、ナリ其廳舎ヲ新築スヘク有志川田信道外六十三名ヨリ高知始審裁判所長水尾訓和ニ對シ敷地及廳舎四棟ノ寄附ヲ請願ス十月二日許可ヲ得左ノ如ク管轄區内ヨリ寄附金ヲ募集ス

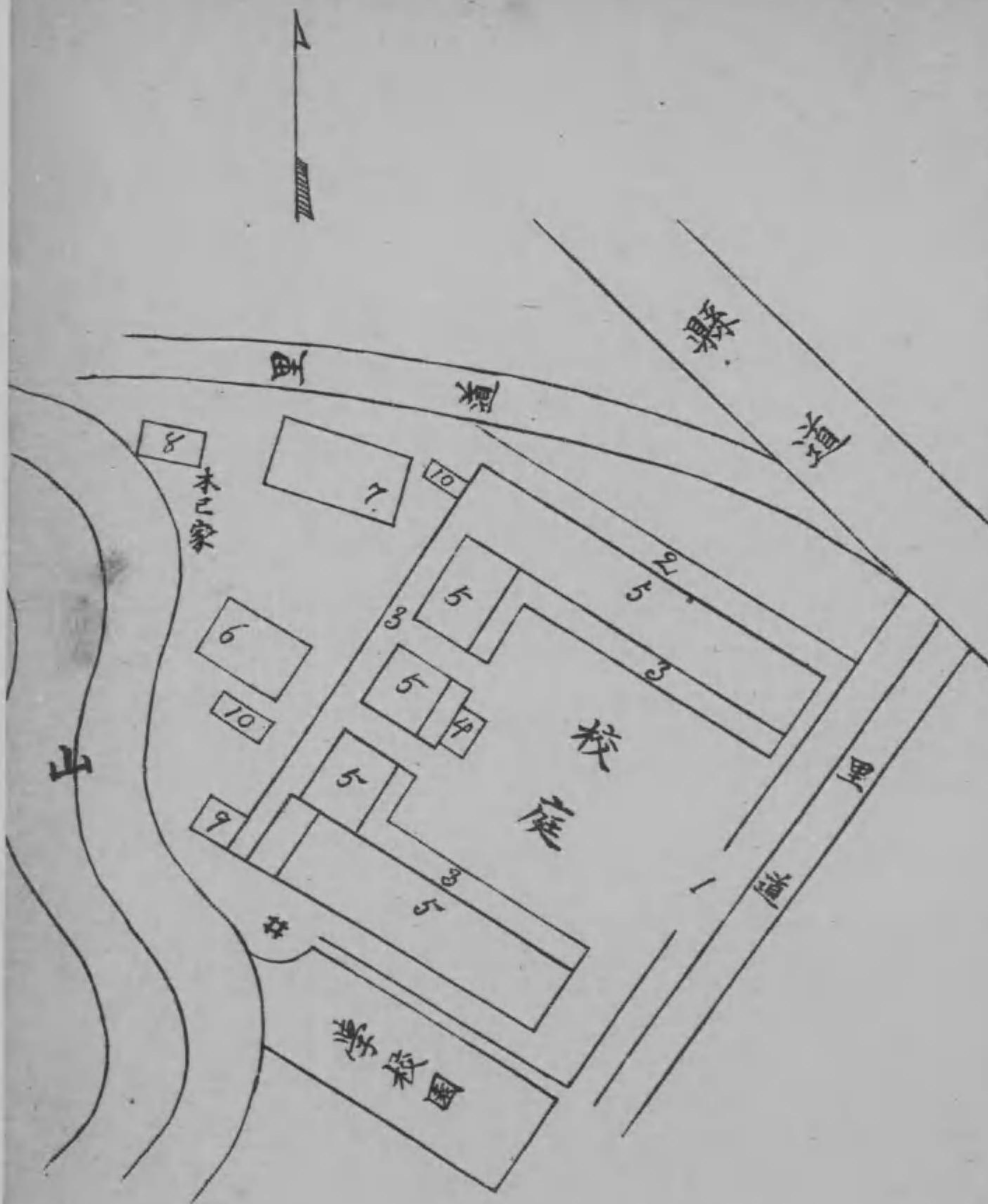
町村	金額	町村	金額	町村	金額
佐川	七四三〇加	茂	一八〇〇大	桐	七〇〇
斗賀野	一六〇〇黒	岩	九二七〇永	野	一〇〇〇
尾川	一九四〇能	津	八五〇三	瀬	三二七〇

計金八百三十四圓六十錢

前表ノ如ク寄附ノ募集ヲ了シ字古市(文珠堂ノ北)ニ於テ敷地一反二十三歩(代金百二十九圓廿錢)建物四棟(代金七百五圓二十錢)ヲ献納シ十一月一日開廳ス全月十三日裁判所書記堀内正路就任シ戸長大野磯ヨリ其引繼ヲ受ケ事務ヲ掌理セリ

明治廿三年一月十六日ヨリ全月三十一日迄及全年五月十五日ヨリ全月三十一日迄ノ二回高知治安裁判所判事申川靜記出張シテ民事訴訟勸解等ノ取扱ヲナセリ此年九月大洪水アリ書類ノ浸水スルモノ多ク爲ニ移轉ノ必要ヲ訴フ

明治二十二年二階増築全三十四年溜席増設



- 1 校門
- 2 土堤
- 3 通り廊下
- 4 玄関
- 5 教室及職員室
- 6 教室
- 7 二階造教室
- 8 木已家
- 9 番人室
- 10 便所

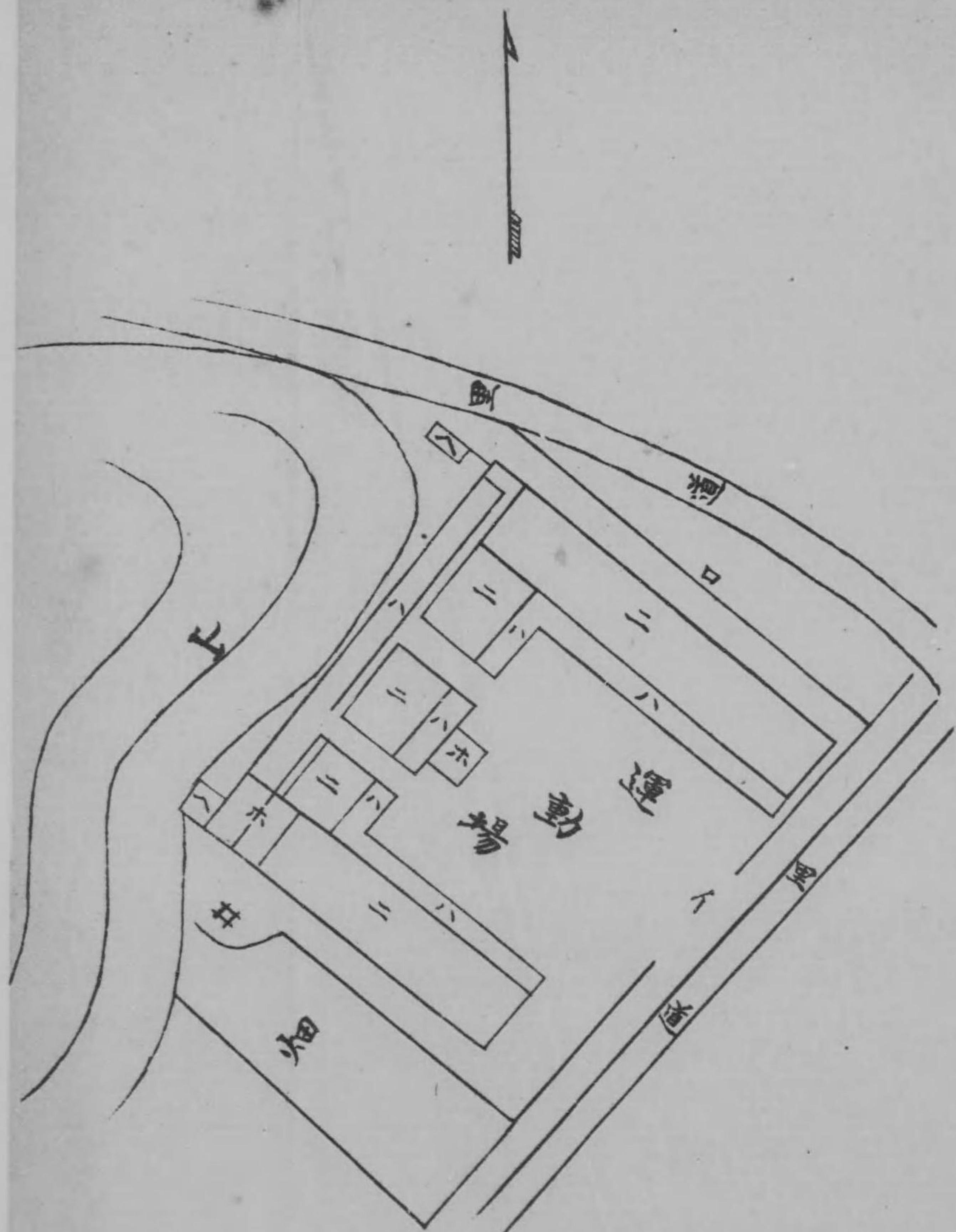
明治三十五年十一月佐川ニ於テ再ヒ寄附金四百二十八圓餘ヲ募集シ西町ニ廳舎移轉ノ工ヲ起シ翌三十六年三月十日竣成シ移テ此處ニ執務ス(現在ノ廳舎)其名稱ハ須崎區裁判處出張ト稱シ後高知區裁判所出張所ト稱セリ又明治三十五年改築中ハ松崎ニ於テ民家ヲ借リ入レ執務セリ其現在ノ管轄區域ハ佐川斗賀野尾川加茂日下ノ五町村ナリ

明治二十一年開設以來ノ登記官氏名左ノ如シ

氏名	就任年月日	轉免年月日
堀内 正路	明治二十一年七月三日	明治二十二年九月二十六日
桑田 重治	全二十二年九月二十八日	全二十三年十月二十三日
隅田 稔	全二十三年十月二十三日	全二十五年四月二十一日
葦原 重壽	全二十五年四月二十一日	全二十九年十月十五日
大野 哲夫	全二十九年十月十五日	大正元年十月二十一日
田中 寅衛	大正元年十月二十一日	全二十三年三月三十一日
水田 虎熊	全二十三年三月三十一日	

而シテ本廳舎ハ位置ノ宜シカラサルト建物不完全ナルヲ以テ町ニ於テ新築シ之ニ充用スル事ヲ計畫セリ

明治二十年三校合併建築校舍



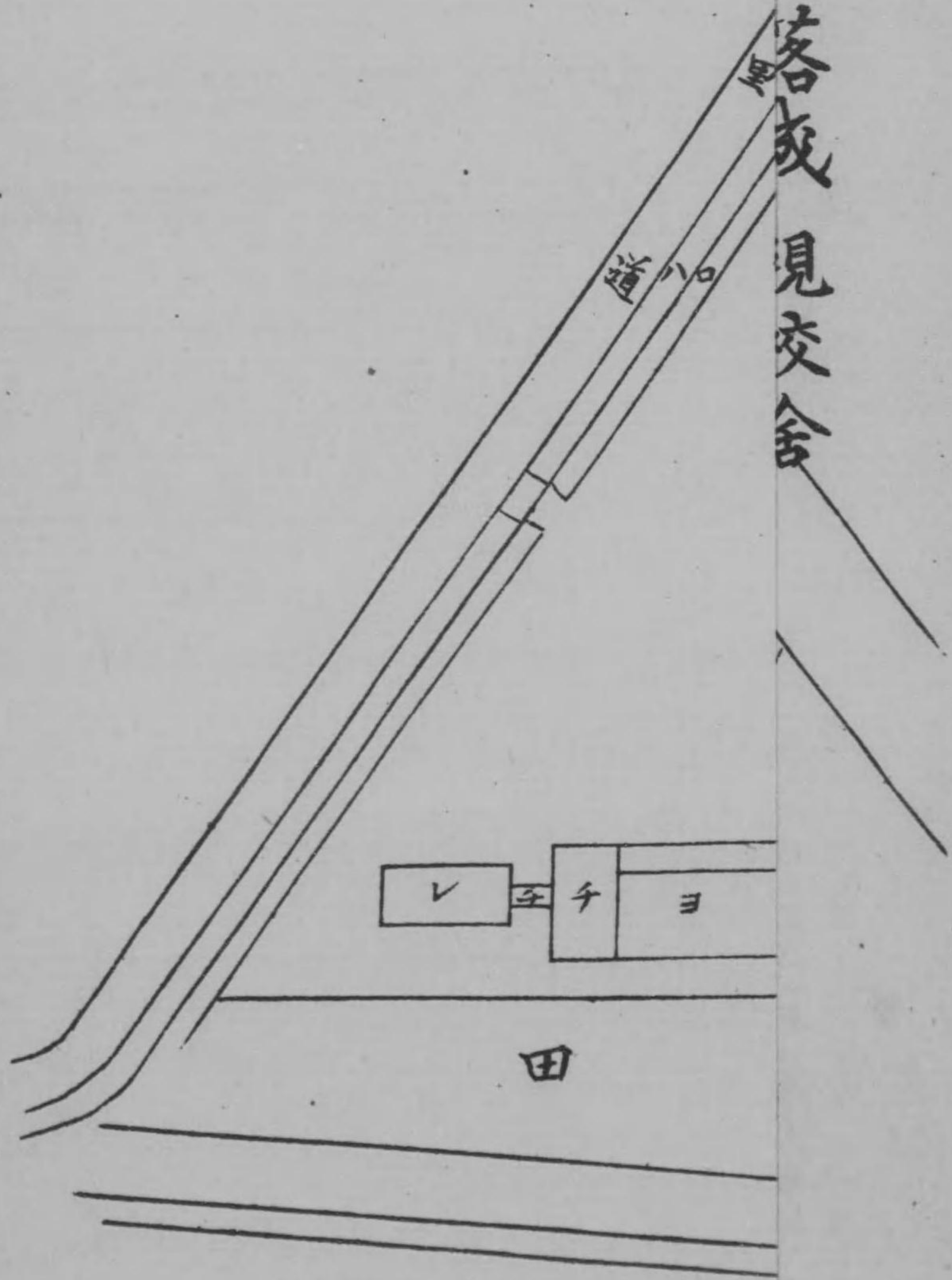
イ 校門
 口 土堤
 八 通り廊下
 二 教室及職員室
 水 番人室
 一 便所



大正二十年三月廿九日



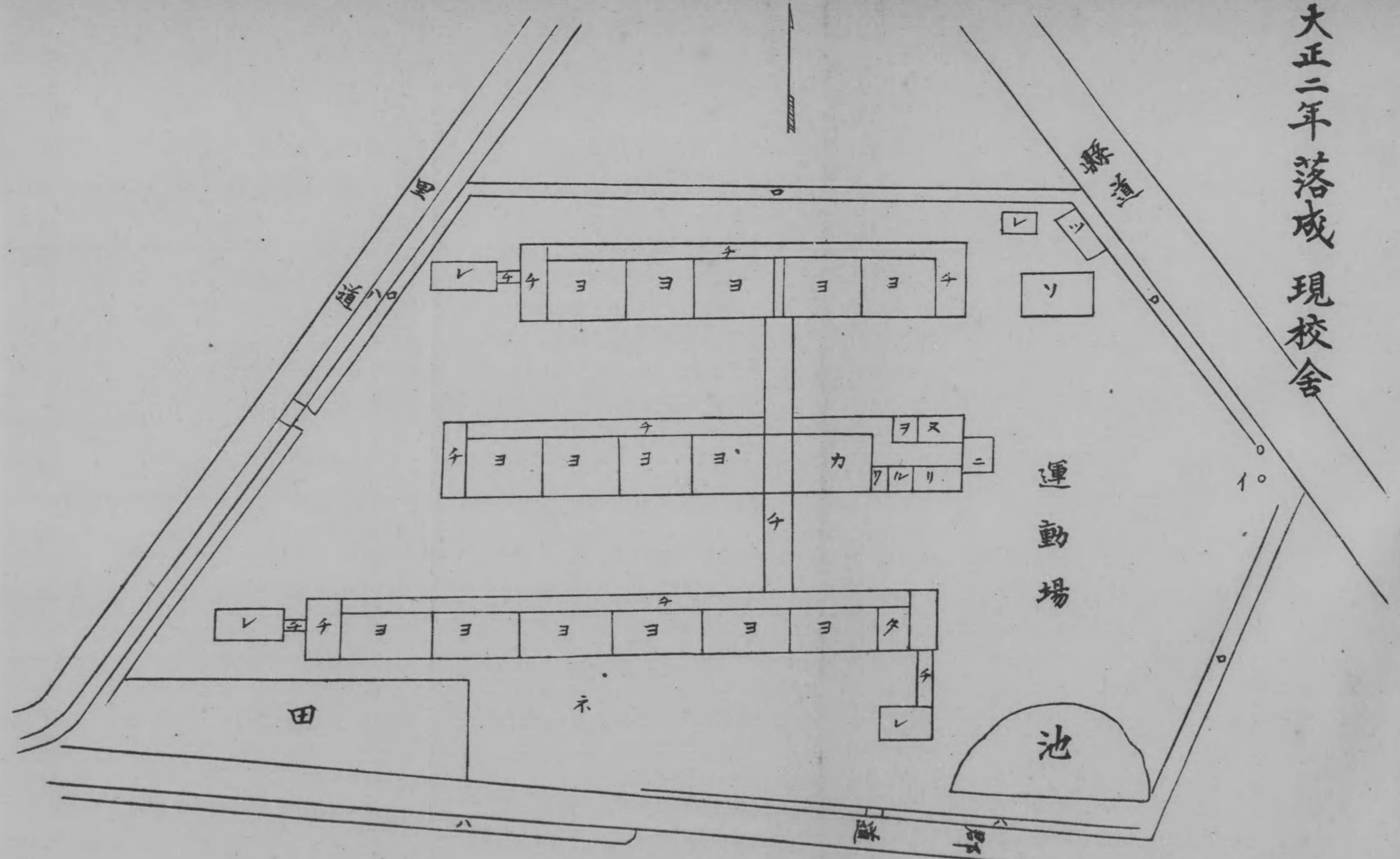
大正二年落成見交舎



第六代深尾湯右衛門茂澄明和年間松本清助ヲ高知ヨリ
 聘シ諸臣ニ讀書及筆道ヲ教授ス清助ハ中山高陽ノ門人

筆墨ノ道至老至剛自然自然者不屈不矯率性所禀
 而不拘禮法者是也若夫率性成德不失其彝如南山之竹
 不揉而自直沔澤之蓮不濯而自清則無論矣後世士大夫

大正二年落成 現校舍



イ 校門
 口 土堤
 ハ 溝
 ニ 玄関
 チ 廊下通
 リ 應接室
 リ 陳列室
 ル 宿直室
 フ 衛生室
 フ 事務室
 カ 職員室
 ヨ 教室
 タ 校具室
 レ 便所
 ソ 番人室
 ツ 木已屋
 木 學校園

第八章 教育

第一節 佐川町教育沿革

佐川ノ領主第四代深尾若狹稠方ハ天資英敏ニシテ武ヲ講ズルノ側夙ニ文學ヲ振興セントシ元祿八年二百二十三年前伊藤東涯ノ門ニアリテ篤學勤勉ノ聞ヘアル江田成章（京師ノ人俗稱文藏謙齋ト號ス）ヲ聘シテ儒臣トナシ主公及諸臣ニ侍講教授シ大ニ復古學ヲ主張ス寶永四年故アリテ職ヲ辭シ京師ニ歸還ス當時又谷重遠（丹三郎秦山）ヲ召シテ儒書ヲ講セシメ且家臣武藤宇右衛門高田仁助堀田伊六ヲシテ此ニ就學セシム稠方故アリテ草庵ニ閉居シ其子弟五代平右衛門繁峰其職ヲ繼キ正徳五年二百四小川貞之丞ヲ舉用シテ儒臣トシ成章ノ遺業ヲ紹カシメ享保年間富永惟安ヲ舉ケテ儒臣トシ嗣子稠濟ノ侍讀タラシム惟安俗稱文平深尾氏ニ仕ヘ幼ニシテ京師ニ遊學シ西依成齋ニ師事シ朱子學ヲ修ム元文五年百七十八年七月稠濟歿後職ヲ辭シ高知ニ出テ藩侯ニ仕ヘテ儒臣トナリ其身ヲ終ル

第六代深尾湯右衛門茂澄明和年間松本清助ヲ高知ヨリ聘シ諸臣ニ讀書及筆道ヲ教授ス清助ハ中山高陽ノ門人

ニシテ朱子學ヲ講シ筆道ハ關鳳岡ノ流義ヲ傳フ以上元祿八年ヨリ安永ニ至ル七十七年間ハ深尾氏邸内客舎ヲ以テ學校ニ充ツト云フ

安永九年百三十茂澄山本仙藏ヲ高知ヨリ招聘シ家塾ヲ建設シテ名教館ト名ク仙藏ハ徂徠ノ學派ヲ信シ朱子學ヲ墨守セス論語私考ヲ著シテ諸生ニ授ク是ヨリ山本氏ハ世々深尾家ノ儒臣トナル

第七代深尾因幡繁寬ニ至リ大ニ學事ヲ獎勵シ享和二年百十六家塾ヲ改メテ郷校トシ舊號名教館ヲ襲用シ自ラ扁額ヲ書シテ之ヲ掲ケ又賴春水ニ囑シテ本立而道生ノ五字ヲ書セシメ之ヲ掲ケ（扁額及書軸ハ尋常校ニ現存ス）山本文之進ヲ以テ學頭トシ每歲仲春釋菜ノ式典ヲ行ヒ上壇ニ聖像ヲ掲ケ親臨シテ之ヲ祭り且仙藏自筆ノ論語私考ヲ卓上ニ置キテ配享ス又仲秋毎ニ必親臨シテ諸臣ノ學事ヲ獎勵ス文化四年時ノ博士清岡從三位菅原長親卿ニ請ヒテ館ノ記ヲ選シ亦之ヲ掲ク其記ニ曰ク

名教館記

嘗聞聖人貴名教老莊明自然自然者不屈不矯率性所稟而不拘禮法者是也若夫率性成德不失其彝如南山之竹不揉而自直滄澤之蓮不濯而自清則無論矣後世士大夫

或慕老莊之學做嵇阮劉畢之迹非毀禮法遺落世事以頑率為真輕蕩為和任放為達頗僻為義淫嫖戲慢天妄怪誕小則殞身大則敗俗與禽獸將無擇矣豈不痛哉蓋先聖預知其弊如此也故推本人情立之節目使尊卑長幼皆有秩序設司徒之職以親百姓遜五品置典樂之官以諧聲律和神人五教三物四術八音之制家塾黨序術序國學之典於是乎備上自王公下至兆民皆無不學而後父子之親君臣之義夫婦之別長幼之序朋友之信無行不得其宜是以上無暴虐之政下有忠順之行異端虛無之說不得由而入遂致教化隆盛風俗淳美也故歷代明主必先詳審學制其名雖以代變而其實則同在昔我 皇朝亦皆因之其盛不讓堯舜之國者讀史冊而可知也及兵燹比起兇徒爭雄其制頗廢方今 皇帝盛宗儒術屢開書閣旁命博士講習經義傳稱上有好者下必有甚焉者信哉及至近世諸州往々競建學館以招致名儒教育士民為己之任於是文教方行土佐深尾鳳陽子世食邑於佐川亦能好古道以享和壬戌歲創建學館於邑中號曰名教蓋明其所執非異端虛無之言而在聖教名教之義也館中藏經史諸子之書命儒臣山本文翼以為教授文翼及其子文進代之又至天文算律醫藥等各置其師乃課邑中子弟十一歲以上者日就學館脩其

所業已牌而入未牌而出鳳陽子率其適子庶子身自督促之其別篤志勤學者許以夜繼日其費皆仰給於學館每歲春秋二仲鳳陽子率教授以下學生等行釋菜之禮命教授講經事終福飲入學者皆預焉因式勅怠慢褒賞篤學於是邑中子弟皆知義方無敢作非者教化頗行傍郡邑聞之慕倣者亦不為少矣豈不亦美事乎今茲三月文進游學于京師因介陸奧別駕景柄來謁予見其容止謹肅寡言及聞其談論往々警拔警人予深好之一日從容諸曰寡君志業之厚如此蓋賜片言以寵光敞邑乎予以父祖之任從事於翰墨豈可不揚其善乎因記其事以與云

文化四年秋九月二十有八日

從三位勘解由長官菅原長親撰

文之進嘗于京師ニ遊學シ猪飼敬所ノ門人タリ其他入交卷藏ハ山本仙藏ニ經學ヲ受ケ川谷菊山ニ算法ヲ受修セ

ルヲ以テ同シク儒臣トシ諸臣ヲ教授ス

第八代深尾左京重世ハ先代ニ次キテ學事ヲ獎勵スト雖モ其事績ノ著ハル、ニ至ラスシテ早世ス

第九代深尾相模重教ハ天保元年八十八年前長門國明倫館ノ構造ヲ模シ校舍ヲ字菜園畑ニ改築シ其規模ヲ宏大ニシ釋菜ノ間神厨講釋席教學席算術席領主居間其他習字塲

軍學室射術槍劍ノ塲及書庫番人室等皆完備シ猶名教館ノ号ヲ用ユ而シテ當時大阪ニ於テ有名ナル儒家篠崎小竹ニ囑シテ館ノ記文ヲ撰ミ遍額トシテ之ヲ掲ク(此紀文卷物トシテ尋常小學校ニ藏ス)其文ニ曰ク

鶴阜深尾君土佐之世鄉也其祖樂山君創建學館於其采邑佐川延山本文翼為師講論經史以教士民考鳳陽君兄鳴陽君皆能承繼其志至君乃更修而拓之講堂之外書數及射術劍槍講武之舍咸備仍用樂山君所名號曰名教館惟文政十三年庚寅冬釋菜禮畢命 儒員黑巖順千里來書屬記於碑以為聖人之教名實兼備非獨以名而已也故名教之稱出老莊者流而經無明文彼特自其尙虛無而視我教之有名目耳然教必先名焉而實從之矣蓋由本而言之有實而後有名有仁而後有仁之名有義而後有義之名有禮智而後有禮智之名所謂天命之謂性率性之謂道是也由學者而言之明其名而後其實可行矣故明親之名而後父子之道行矣明義之名而後君臣之道行矣明別序信之名而後夫婦長幼朋友之道行矣所謂不明乎善則不誠乎身是也凡學校之設師之所授弟子之所受皆在明其名也已至於其實則事有先後務有緩急身之所在隨分踐行故曰教必明名焉而實從之矣樂山君之意蓋在于此乎若夫

有名而無實謂之虛名名是而實非謂之誣名宋襄有仁之名而無其實矣滅紂有聖之名而無其實矣若楊雄著書擬易論語王安石為政譎張周官皆誣其名而失其實也苟失其實則雖書數弓劍之藝亦無所成其名而況於道乎此館之為師為弟子者可不思先君之所以紹述務明其名而副其實哉彌於順有麗澤之契故不辭不敏釋館名之義以為之記文翼名鸞々子英英子敬世傳家學為館學頭君追念文翼教導之功釋菜之日並祀于館云

天保二年辛卯春正月 浪華 篠崎弼謹撰並書

當時學頭ハ山本祐之進(号霞嶽) 儒臣ニハ黑岩順之進(号龍谿) 金澤慶次(号松溪) 廣井喜十郎(号遊冥) 等アリ金澤廣井ハ入交卷藏ノ門ヨリ出テ兼テ算法ヲ授ケ伊藤善左衛門(号方齊) ハ仙石九腕ノ門ニ學ヒ筆道ヲ教授セリ

第十代深尾鼎重先(康臣ト革ム) 嘉永六年六十五年前十一月家ヲ襲キ先君ノ遺志ヲ繼キテ學事ヲ獎勵ス當時學頭ハ山本仙藏(号澹齋) ニシテ其長子讓太郎(号竹園) 又迂齊) 次子轍(号竹溪) アリ學館ノ餘暇尙家塾ヲ開キテ教授ヲナス伊藤隆助(号蘭林) ハ家業ヲ紹テ筆道ヲ授ケ且隆助ハ廣井遊冥ノ門弟タルヲ以テ算術文學ヲ兼

ネ授ク其他文學ニハ黒岩俊平吉永良菴筆道ニハ恩田淳平岡田彌惣次中村耕作アリ讀書算術筆道ニハ茨木文藏(号皆山)前後相繼テ教授ノ職ニ在リ
 第十一代深尾刑部重愛明治二年王政維新ノ時ニ當リ校舎書庫ヲ併セテ之ヲ藩廳ニ献納ス開校一年餘ニシテ藩廳更ニ學則ヲ制定シ山本謙ヲ大得業生伊藤德裕茨木定興ヲ中得業生ニ任シ三等士族以上ヲ教授シ黒岩文吾(維顯)大野猪之作(直路)永野亮吉(親亮)ヲ小得業生ニ任シ四等士族以下ニ對シ專ラ讀書算術習字ノ三科ヲ教授ス

廢藩置縣ノ改革ニヨリ明治五年一旦閉校トナルヤ永野亮吉麻田反之進(反)等諸生學業ノ中絶ヲ補フ爲周旋シテ義校ヲ開キ且同時ニ青年有志協議シテ高知ヨリ長尾梅軒(後北川長)矢野初吉ヲ招聘シ縣廳ニ英書ノ貸與ヲ請ヒ別ニ英語ノ一科ヲ修メ和漢洋ノ三科ヲ以テ爾後二年間學制ノ頒布ニ至ル迄繼續セリ
 明治六年十一月廿九日三野村ニ學校ヲ設置シ成美學舎ト稱シ借家ヲ以テ之ニ充テ山崎正寛(初名甚太郎)教員タリ
 明治七年小學校學制ヲ發布セラレ乃チ元ノ校舎ヲ用ヒ

舊号ヲ襲キテ名教學舎ト稱ス茨木定貞伊藤德敦(仲術)永野親亮麻田反等之カ教員タリ

明治十二年ニ至リ通學不便且佐川三野兩校共狹隘ヲ告ケ生徒入學ノ餘地ナキニ至リ更ニ松崎小學校ヲ建設シ井上實教員トナリ授業セリ同年四月教員傳習ノ爲佐川傳習所ヲ設置セラレ茨木定興之カ教導ノ係リトナリ幾干モナクシテ廢止トナル

明治十五年須崎中學校ヲ佐川ニ移シ當分傳習所建物ヲ以テ之レニ充テ後菜園畑ニ新築落成シ同拾六年一月拾五日開校ス後高知縣中學校分校トナリ茨木定興伊藤德裕弘田流水野口秀並田村秀堅長尾長遺澤直幸早川清司西村躍等相踵テ在勤教鞭ヲ取ル明治十八年高知中學校ニ合併セラレ廢校トナリ其校舎ハ明治廿年十月佐川村外九ヶ村聯合ヲ以テ設置ノ高岡郡第三高等小學校々舎ニ拂下ヲナシ延テ今日ニ至レリ而シテ佐川三野松崎三校ハ明治廿年學區ノ改正ニヨリ合併シテ肥代ノ坂ニ校舎ヲ新築シ拾二月廿八日其工事ヲ竣リ移リテ授業ス之レヨリ村内ニ一校トナレリ此ノ如ク佐川教育ノ進歩發達ハ貳百餘年前ヨリ其沿革ヲ有スト雖モ維新前迄ハ主トシテ士族ノ教育ニ止マリ農工商ノ子弟ハ寺子屋教育

ヲ受ケ教科トシテハ習字ヲ主トシ先ツ平假名ヨリ數字村名苗字人名等ノ楷行書體ヲ習ヒ土佐國產往來商賣往來實語教千字文等ノ楷行草躰ヲ書スルヲ以テ普通トシ其傍ラ小謠ヲ教ヘ之レニ加フルニ庭訓往來今川消息往來東遊稿與遊西人書等ノ素讀ヲ學ヒ八算見一ノ算法ヲ習得シタルモノハ高等ノ教育ヲ受ケタルモノニシテ此レ等ノ人員ハ極メテ少ク其多クハ一二年ノ間ニ習字ノ一部分ヲ修業スルノミ女子ニ至リテハ教育ノ恩澤ヲ受クルモノ極メテ少ク殆ンド無學文盲ニシテ眼ニ一丁字ナク一生ヲ終ルヲ普通トセリ故ヲ以テ男子ト雖トモ一丁字ナキモノ多數アリシナリ明治維新ノ後文武ノ常職ヲ解キ四民一般ニ教育ノ普及ニ勉メ現今ニ至リテハ男女共ニ眼ニ一丁字ナキモノハ不具者以外ニ之ヲ見ル事ナキニ至レリ

第二節 小學教育

佐川尋常小學校ノ前身ハ教育沿革ニ於テ既ニ述ヘタル如ク佐川松崎三野ノ三校ニ分レタルヲ以テ明治二十年合併ニ至ル迄ハ三校ニ就テ之ヲ略述スヘシ

一 佐川小學校

明治七年一月小學制度ヲ新定セラレ乃チ元ノ名教館ヲ

用ヒテ小學校舎トシ子弟ノ義務教育ヲ行フ舊號ヲ襲キテ名教學舎ト稱シ後佐川小學ト改ム當時生徒ノ數ハ約百八十四人ニシテ茨木定興、伊藤德敦、永野親亮、麻田反等教員ノ職ニアリ當時ノ學年ハ上下二等ニ分チ各等八級トシ定期試験ハ一ヶ年二回六月十二月ニ於テ之ヲ行ヒ八年ヲ以テ小學教育ヲ卒ルノ規定ナリ而シテ成績ノ良好ナルモノハ三月九月ニ於テ臨時試験ヲ行ヒ進級セシムルノ特典アリタリ

明治八年校下ノ士族家祿分献米ト稱シ三年或ハ五年賦ヲ以テ寄附金二百八十餘圓を募集シ小學校ノ資金ヲ造成シ以テ之ヲ利殖シ教育費ヲ補足スル目的ナリシモ當時理事者其方法ヲ誤リ貸附ニ於テ損失ヲ來シ豫期ノ如ク好果ヲ收メサリシハ甚遺憾ナリ然レモ近年ニ至リ學校基本財産トシテ多額ノ蓄積ヲナスモノ其根源ハ此寄附金ヲ以テ基礎トセリ

明治十三年生徒ノ數増加シ校舎狹隘ナルヲ以テ大ニ修理ヲ加ヘ二階造トシ七月廿五日起工十月六日落成ノ式ヲ行フ其費用金四百七十餘圓悉皆校下有志ノ寄附金ヲ以テ支辨セリ

明治十七年三月文部省ヨリ二等獎勵品トシテ理科器械

及庶物標品等ヲ下賜セラル當時全校ノ狀況左ノ如シ

一校舎 建坪百六坪二合五勺

内譯 男生徒教場 四十七坪二合五勺

全 溜席 十五坪

女生徒教場溜席 三十坪

番入室 十一坪

書庫 三坪

二校地 一反九畝十五步 校舎式地及躰操場

三學級 學年ハ初等六級中等六級ニシテ十二級ニ

分チ男女席ヲ區分シ之ヲ十二學級ニ編制

ス生徒ノ數二百二十人教員十二名ナリ

四經費 一ケ年約八百五十圓生徒授業料三百十五

圓一人一ケ月金十五錢ヲ徵收セリ

二、三野小學校

三野村各部落ハ名教學舎ト遠隔セルヲ以テ通學不便ナルニ由リ最初中組ナル西村國正ノ控家ヲ借り受ケ校舎トナシ明治六年十一月廿九日開校シ成美學舎ト稱ス時ニ生徒僅ニ十八名アリ山崎正寬教員タリ其他鳥ノ巢荷稻ニ分校ヲ置キ高木篤弘、森岡貞利各其自宅ヲ教場ニ充テ教職ニ從事ス然レモ一年余ニシテ之ヲ廢止セリ開

校當時ノ教科書ニハ單語編三冊農業往來世界商賣往來等ノ寫本ニシテ之ヲ讀修シ外ニ習字珠算ヲ授ケ寺小屋ト大同小異ナリキ明治七年小學制度ノ發布ニヨリ教科書ヲ改定セラレ小學讀本地理修身歴史等各級ニ應シテ使用スルコト、ナリ教育刷新ノ緒ニ就ケリ此時ニ當リ生徒ノ數男女共ニ増加シ且女子ニハ裁縫科ヲ加授スルニ至リ山崎佳也(正寬母)女教員トナリ母子二人ニテ教授ノ任ニ當レリ

明治八年四月十四日西村國正宅失火全燒ニ及ヒ學舎ヲ引拂ハサル可カラサルニ至リ假リニ衆議所(村役場ノ名稱)ニ於テ授業ス而シテ全年新築ノ工ヲ起シ津賀衆議所ノ西隣ニ二階造校舎ヲ建築シ全年十二月竣工移轉ス

明治九年四月校名ヲ改メテ三野小學ト稱ス

明治十三年十一月運動場ヲ設ケ十四年九月教員室ヲ村役場ノ一部ニ設ケ此時佐川三野兩村合併ノ實成リ村役所ハ不用トナリ校舎ハ生徒増加ノ爲狹隘ヲ告グルニ至リ全十五年十月村役所全部ヲ修繕シテ教場及教員室ニ充用ス全十六年八月裁縫室及教員室ヲ増築ス開校ヨリ明治廿年合併ニ至ル迄十四年間前後相續キテ教員タリ

シ者山崎正寬ヲ初メトシ伊藤乘興、西村惇、河野仁助通遠山田嘉儀乾長完、西村躰、北川長、外山賴寬、土居縣(後通寬)吉永悅郷、堀見章、外山三枝等ナリ本校當時ノ概況左ノ如シ

一校舎 百三十五坪

內譯 教室二階造上下共 九十四坪

全 平家造教員室共廿六坪

溜席全 十坪

番入室全 五坪

二校地 七畝廿一步

三學級 六學級ニ編制シ生徒數百八十人ニシテ教員六名ヲ配置ス(明治十五年以後)

四經費 明治二十年度ノ經費六百三十餘圓授業料

收入百五十四圓餘生徒一人月額十錢ナリ

三、松崎小學校

松崎肥代ノ坂兩部落ハ佐川三野ノ兩小學ニ通學セシカ漸々兩校共ニ狹隘トナリ且通學ノ不便ヲ唱ヘ明治十二年ニ至リ別ニ校舎ヲ乘臺寺庭前ニ新築シ同部落ノ兒童ハ此ニ入學スル事トナレリ而シテ教員ニハ井上實ヲ初メ土居縣、大塚光正、松本銀太郎等相繼テ奉職セリ

校舎ハ瓦葺平家造ニシテ建坪二十二坪五合アリ學級及生徒數經費等ハ資料ナキヲ以テ記スルコトヲ得ス

四、佐川尋常小學校

明治二十年學區ノ改正ニ當リ佐川、三野、松崎三小學校ヲ合併シ校地ヲ肥代ノ坂ニ定メ校舎ヲ新築ス全年七月十二日ヲ以テ工ヲ起シ十二月廿八日竣工落成式ヲ舉行ス當時戶長堀見眞三學校ヲ管理シ工事ハ建築委員森龜彌太、川田信道、矢野蘇作ノ三名監督ス其構造第一圖ノ如クニシテ其當時ハ縣下有數ノ完全ナル校舎ト稱セラル建築工費ハ一千七百五十餘圓ニシテ内三百七十餘圓ハ寄附金ナリ此時生徒男二百廿二人女子百四十一人合計三百六十三人ニシテ日々ノ出席平均數ハ二百七十五人餘ナリ

明治廿二年生徒ノ數増加シ校舎狹隘ヲ告グルニ至リ本校舎ノ西方ニ二階造一棟ヲ増築ス(二圖參照)桁行五間半梁行三間ニシテ建坪上下共ニ三十三坪アリ此工費二百六十餘圓ニシテ建築委員森龜彌太工事ヲ監督ス明治廿四年二月十八日教育 勅語ヲ賜フ全八月校舎ノ西方裏庭ニ溜席平家一棟ヲ建築ス其建坪七坪ナリ(二圖ニ在リ)

明治廿六年三月八日明治天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラレ全日奉迎ノ式ヲ行フ此ヨリ先キ明治廿二年五月八日佐川高等小學校ニ御影ノ下賜アリ此時複寫ヲ請願シ其許可ヲ得テ本校ニ拜戴セルモノナリ當時生徒ノ數逐年増加シ教室不足ナルヲ以テ二階造校舍ニ再ヒ増築セントシ今年十月起工建築委員森龜彌太田村梅太郎其工ヲ董シ翌年三月九日明治天皇銀婚御式祝日ヲ以テ落成式ヲ舉行ス此増築建坪上下三十六坪ニシテ其工費六百餘圓ナリ(第二圖)

明治廿八年溜席ヲ増築修繕シテ十三坪五合トス
明治廿九年四月体操場狹隘ナルヲ以テ校地ノ東方ニ二百二十餘坪ノ運動場ヲ設置シ全時ニ有志ノ寄附ヲ仰キ鐵棒等ノ運動具ヲ附設ス爾來十餘年間校舍ノ不完全且狹隘ヲ感シ之レカ改築ヲ企劃スト雖トモ經費負擔ノ餘地ナク荏苒歲月ヲ送ル

明治四十一年ニ至リ義務教育年限延長ニヨリ第五學年ヲ置クニヨリ教室忽チ不足ヲ告ク依テ溜席ヲ廢シ之ヲ教室ニ充用シ授業ヲ爲セリ

明治四十二年第六學年ヲ置クニ當リ舍内教室ニ餘裕ナク爲ニ川田豐太郎控家(現在川田文庫)ヲ借リテ分教室

トシ茲ニ第六學年男女兒童ヲ收容シ爾後二ケ年間教授セリ

明治四十三年七月二十日町會ニ於テ校地變更校舍改築并ニ學校基本財産積立金ヲ以テ校地買收ノ議ヲ決シ全月三十日更ニ追加豫算ヲ決議ス其金額左ノ如シ

一校地買收費 金三千二百二十七圓
一校舍改築費 金五千八百四十圓

而シテ買收ノ土地ハ八反七畝四步ニシテ校舍式地及体操場學校園ニ使用シ尙其一部ハ貸地トス

明治四十四年一月二日工事ニ着手四月十五日ヲ以テ其上棟式ヲ行フ則現今ノ北舍ニシテ桁行三十間梁行五間建坪百五十坪アリ之ト全時ニ番人室一棟建坪十五坪便所一棟九坪ヲ建築ス此レ改築第一期工事ニシテ建築委員川田豐太郎、小田伊三郎、堀見眞三ノ三名工事ヲ督シ經費實ニ五千八百七十五圓ヲ要セリ

明治四十四年ニ於ケル第二期工事ハ舊校舍ノ移轉改築ニシテ七月十一日起工ス則現今ノ南舍ニシテ舊校舍四字形ノモノヲ一字形ニ改造ス桁行四十二間梁行四間建坪百六十八坪アリ全時ニ便所二棟建坪十五坪ヲ新築シ十月廿三日工事ヲ竣リ十一月四日落成ノ式ヲ行フ其工

費二千三百三十二圓ニシテ建築委員ハ川田豐太郎、小田伊三郎二名工事ヲ監督セリ而シテ本年度ハ舊校舍取毀チ等ノ爲教室ニ不足ヲ告ケ凡半年間第一二學年ニ二部教授ヲ行フ

大正元年度及二年度ニ跨ル第三期繼續工事ハ現今ノ中舍及南北兩舍ニ通スル廊下及便所一棟ノ新築ニシテ大正二年二月廿六日工事ヲ起ス桁行三十四間梁行五間ニシテ百七十坪アリ之レニ玄關ヲ附設シ七月末日ヲ以テ工事全ク竣ル舍内ハ寄贈品陳列室應接室宿直室兒童衛生室御眞影奉置處教員室校具室裁縫室唱歌室等ニ區劃ス其工費ハ八千八百三十餘圓ニシテ工事ハ委員川田豐太郎、小田伊三郎擔當監督ス以上三期間ニ要シタル工費ハ合計實ニ一万七千三十七圓土地買收費三千二百廿六圓合計二万二千六百三十三圓ヲ要シ最モ完備ノ校舍トナレリ十月三十一日 今上陛下御登極第二ノ天長節祝日ヲトシ落成式ヲ舉行ス午前十時屋上ノ祭壇ニ於テ町長校長建築委員列座大工棟梁山崎勝吉上棟ノ祭式ヲ行ヒ供進ノ餅ヲ投撒シ式ヲ終ル斯クテ午後一時落成式ヲ舉行シ來賓一同着席スルヤ君ケ代ノ奏樂ニ次テ校長森岡八十吉勅語ヲ奉讀シ町長西村龜太郎ノ式辭道讀終テ建

築委員川田豐太郎ノ工事報告アリ夫レヨリ知事永井金次郎代理々事官松原權四郎、高岡郡長水野岩出、高岡郡教育會長岡林起盛、尾川村長西村陽、佐川高等小學校長弘田流水、町會議員總代森榮、高知新聞社員片山繁隆諸氏ノ祝詞演說アリ助役田村貞躬ハ各地ヨリノ祝電數十通ヲ朗讀シ西村町長ノ答辭ニテ式ヲ終リ續テ建築委員川田豐太郎、小田伊三郎ニ對シ功勞表彰式ヲ舉ケ各銀盃一個ヲ贈與セリ當日餘興ニハ書畫、盆栽、學藝品、滑稽、教育展覽會アリ校庭ニハ町内各部落ヨリ挽キ出シタル紅紫燦爛タル花臺並花車等數十臺ニテ投餅ヲ寄贈シ之ヲ二ヶ處ノ高臺ニテ撒布スルヤ校ノ内外人ヲ以テ埋メラレ雜沓更ニ甚シキヲ加フ又高知新聞寄贈ノ寶拾ヒアリ夜ニ入りテハ狂火煙火提灯行列等アリ中ニモ土陽新聞寄贈ノ狂火ハ校ノ東方田畝ノ間ニ爆々響中金銀紅線ノ珠玉ト共ニ土陽新聞ノ四字ヲ綴リテ光彩陸離タリ本日參集ノ見物人ハ一萬餘人ト註セラレ實ニ稀有ノ盛況ナリキ全年有志ノ寄附ニヨリ庭内ニ各種ノ運動器具及築山栽樹等ヲナシ池ヲ掘リテ養魚ヲナシ校園ヲ設ケテ花卉蔬菜ヲ栽培シ四邊ハ杉垣土堤等ニテ之ヲ圍ミ以テ現時ノ美觀ヲ放テリ

大正六年十月十日 天皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラレ町長小笠原荒水、校長近藤清馬ハ奉迎ノ爲須崎ニ出張拜戴セリ而シテ其設備及教員兒童等ノ現況左ノ如シ

イ設備ノ大要

一校地 二千五百六十六坪 内七百八十坪 運動場 百二十坪 學校園
 二校舎 五百廿一坪 内一坪弱 御眞影奉置所
 二十坪 職員室 四百二十坪 教室 二十坪
 校具室 五坪二五 寄贈品陳列室 四坪三七五
 應接室 四坪三五 宿直室 二坪六二五 衛生室 十五坪 使丁番人室 廿八坪 便所及浴室
 ロ加設教科目
 唱歌 明治二十年四月ヨリ裁縫 全二十二年四月ヨリ 手工 全四十年四月ヨリ
 ハ學級編制並教員配置

全 卅八年	全 卅九年	全 四十年	全 四十二年	全 四十四年	全 四十五年	大正 二年	全 三年	全 四年	全 五年	全 六年
八	八	八	二〇	三	三	三	三	三	三	三
四〇	四七	五二	五九	六六	七三	八〇	八七	九四	一〇一	一〇八
八	八	九	九	九	九	九	九	九	九	九

明治二十年合併ヨリ現今ニ至ル迄本校奉職ノ教員ハ百二十餘人ニシテ其内校長及首席教員ノ氏名在職期間等左表ノ如シ

明治卅五年	明治卅六年	明治卅七年
八	八	八
四〇	三九	四五
九	八	八

一 校長

任命年月日	退職年月日	在職年數	任命當時俸給	氏名
明治廿一年十二月一日	明治廿四年三月十六日	二年四ヶ月	十圓	田所可敬
全 廿五年四月一日	全 廿八年十月十六日	三年七ヶ月	十圓	弘田流
全 廿八年十月十六日	全 卅二年三月卅一日	三年六ヶ月	十圓	中屋彌馬
全 卅二年四月十四日	全 卅五年一月十四日	二年十ヶ月	十圓	高木正善
全 卅四年一月十四日	全 卅八年四月十三日	三年四ヶ月	十圓	森田秀樹
全 卅八年四月十三日	大正 六年三月卅一日	十二年	十圓	森岡八十吉
大正 六年四月七日			五圓	近藤清馬

二 首席教員

任命年月日	在勤期間	在職年數	任命當時俸給	氏名
明治廿年七月廿三日	四ヶ月	自廿年初期至二十年度初	八圓	伊藤德敦
全 年十二月一日	四年六ヶ月	自二十年度初至廿五年度初	七圓	伊藤乘興
全 廿五年四月一日	二ヶ月	自廿五年度初至廿七年度初	八圓	高木正善
全 年八月廿五日	七ヶ年	自廿七年度初至卅一年度	七圓	井上虎馬
全 廿九年四月九日	六ヶ年	自卅一年度至卅四年度	八圓	戸田益巽
全 卅八年六月十五日	四年十一ヶ月	自卅四年度至四十二年	十圓	山崎正形

全 卅八年三月卅一日	二ケ年	自四十四年度	十九圓	嶋崎來
全 四十四年三月卅一日	一ケ年	至四十四年度	二十圓	吉永熊治
全 二十年七月廿日	一ケ年	大正元年度	二十圓	種田多三郎
大正三年三月卅一日	二ケ年	大正二年	二十四圓	岡村延年
全 五年三月卅一日	二ケ年	大正三年度	二十四圓	杉田登利

附校長異動ノ状態

本校ニ校長ヲ置キシハ明治廿一年十二月ニシテ田所可敬ハ師範學校書記ヨリ轉任シ全廿四年三月依願退職トナリ弘田流水ハ長岡郡介良組合高等小學校ヨリ轉任シ全廿八年十月十六日佐川實業補習學校長ニ轉シ中屋彌馬ハ師範學校附屬小學校ヨリ轉任シ全卅二年三月卅一日高岡郡視學ニ榮轉シ高木正善ハ佐川高等小學校ヨリ轉任シ全三十四年一月十四日須崎尋常小學校長ニ轉任シ森田秀樹ハ須崎尋常小學校ヨリ轉シ全卅八年四月十三日土佐郡布師田小學校長ニ轉任シ森岡八十吉ハ明治三十八年四月尾川尋常小學校長ヨリ轉任シ大正六年三月三十一日依願退職シ後任近藤清馬ハ大正六年四月七日高知縣立高等女學校教諭ヨリ轉シ在職中ナリ

ホ 學校醫

明治廿九年學校醫ヲ設ク其氏名在任期間ハ左ノ如シ
 自明治廿九年四月一日至全卅一年三月卅一日 黒田龍起
 自全卅一年四月一日至全卅七年三月卅一日 田村茂實
 自全卅七年四月一日至大正六年五月十一日 黒田龍起
 自大正四年四月一日至大正六年五月十一日 山川楠吉
 自大正六年八月三十日 山川玄洋
 ~ 學事關係吏員
 明治廿年以來ノ管理町村長學務委員氏名左ノ如シ
 明治廿一年三月迄 戸長 堀見 眞三
 自明治廿一年四月一日 全 大野 驥
 至全廿二年三月卅一日

年 度	入 學 兒 童	卒 業 兒 童	在 職 中
自全卅二年六月廿五日	村 長 安岡 眞昌	全 卅九年	學務委員 明治廿年以後學務委員ニ舉選セラレタル者
自全卅六年七月廿六日	全 卅四年	全 卅五年	森龜彌太、堀見熙助、刈谷茂義、川田豐太郎
自全卅四年七月廿六日	全 卅二年	全 卅三年	竹村貞次郎
自全卅三年七月廿六日	町 長 堀田 孫之	全 卅一年	現在學務委員 堀見熙助、川田豐太郎、杉田登利
自全卅二年七月廿六日	全 卅一年	全 卅二年	入學及卒業兒童數
自全卅一年七月廿六日	全 卅年	全 卅一年	
自全卅年七月廿六日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	
自全卅年六月廿九日	全 卅年	全 卅年	

年 次	男	女	合 計
全 卅九年	五	五	十
全 卅十年	五	五	十
全 卅十一年	五	五	十
全 卅十二年	五	五	十
全 卅十三年	五	五	十
全 卅十四年	五	五	十
全 卅十五年	五	五	十
大正一二年	五	五	十
全 卅三年	五	五	十
全 卅四年	五	五	十
全 卅五年	五	五	十
全 卅六年	五	五	十

チ 就學ノ狀況

明治三十六年四月ヨリ大正六年四月ニ至ル十五ケ年間ノ就學ノ狀況左表ノ如シ

年 次	男	女	合 計
明治卅六年	三	三	六
明治卅七年	五	五	十
明治卅八年	三	三	六

全	卅七年	四〇三七一	二九	二〇六	一八二	一四九	〇〇、〇〇	九、六九
全	卅八年	四〇三九二	二二	二〇四	一八一	一四七	〇〇、〇〇	九、六九
全	卅九年	四〇三九一	二三	二〇三	一八一	一四七	〇〇、〇〇	九、六九
全	四十年	四七四四三	二三	二〇四	一八一	一四七	〇〇、〇〇	九、六九
全	四十二年	四七三九四	二四	二〇三	一八一	一四七	〇〇、〇〇	九、六九
全	四十四年	四〇四六二	二三	二〇四	一八一	一四七	〇〇、〇〇	九、六九
全	四十四年	四〇四六二	二三	二〇四	一八一	一四七	〇〇、〇〇	九、六九
全	四十五年	四四一五三	三〇	二一七	一八〇	一五九	九、七三	九、八九
大正	一一年	四八四〇一	三六	二二八	二〇一	一八〇	九、七三	九、八九
全	三三年	三三七三二	二五	二〇七	一五五	一四〇	九、八三	九、九〇
全	四四年	三九三五四	二八	二一〇	一五九	一四四	九、九四	九、九四
全	五五年	三七四三〇	二七	二〇九	一五九	一四四	九、九四	九、九四
全	六六年	三〇三四七	二三	二〇五	一五九	一四四	九、九四	九、九四

備考本表ハ各年共四月末日ノ現在ヲ記入ス
 就學獎勵ニ關スル施設

就學獎勵ニ關シテハ學校ニ學用品衣服傘等ヲ備ヘ置キ
 貧困ナル家庭ノ兒童ニ對シ其必要ナル物品ヲ貸與シ或
 ハ之ヲ給與シ又時宜ニヨリ食費ノ補給ヲモナシテ不就
 學ナカラシメンコトヲ希圖セリ

又 義務教育修了者ノ狀況

年次	男	女	男	女	計
明治三十六年	三五	一九	一八	二四	五三
全三十七年	三五	一九	一八	二四	五三
全三十八年	三三	二〇	一七	二二	四九
全三十九年	三三	二〇	一七	二二	四九
全四十年	三三	二〇	一七	二二	四九
全四十一年	三三	二〇	一七	二二	四九
全四十二年	三三	二〇	一七	二二	四九
全四十四年	三三	二〇	一七	二二	四九
全四十五年	三三	二〇	一七	二二	四九
大正一一年	三三	二〇	一七	二二	四九
全三三年	三三	二〇	一七	二二	四九
全四四年	三三	二〇	一七	二二	四九
全六六年	三三	二〇	一七	二二	四九

入學ノ學校ニ家業ニ就キタルモノ

佐川幼稚園

本園ハ明治二十四年四月佐川尋常小學校ニ附設シ其成
 績ハ見ルヘキモノアリシモ漸々本校兒童ノ増加スルニ
 從ヒ校舍ノ狹隘ヲ告ケ爲ニ明治三十二年五月閉園セリ
 此間保姆タリシモノ濱田蘭、有澤春喜、吉本兎喜世、
 門田瑞等ナリ而シテ入園兒童ハ年々約四十名ナリ

第三節 學校組合

佐川町ハ四圍ノ隣接町村ト其距離遠キモ僅々二三里ニ
 過キス其間高山巨流ノ以テ通學ヲ遮ルモノナク況ンヤ
 現今縣郡里道ノ縱横ニ貫通スルアリテ來往ノ便最モ宜
 シキヲ加フルニ土地ノ高燥閑靜ハ學生ノ健康學問ノ
 研究ニ好適地トシ眞ニ天受ノ一大良學區ナリ
 昔時深尾氏ノ邑治ヲ此地ニ占メ爾來三百年間ノ德化ハ
 高北ノ政治及文化ノ中心トナリテ四隣ノ常ニ模範トス
 ル所ナリ嘗テ本縣廳カ須崎中學校ヲ茲ニ移シ一時ハ高
 吾兩郡教育ノ中樞地トナリ遠ク笈ヲ負テ來リ學フ者少
 カラス此レ即チ地理ノ利教育ノ來因アル蓋シ他郷ニ其
 比ヲ見サル所以ナリ而シテ明治十九年小學校令改正ア
 リ全二十年六月佐川ヲ中心トシ四圍町村聯合シテ佐川
 高等小學校ヲ設立ス其沿革等ハ今之ヲ三次ニ區分シ詳
 述セン

一 佐川高等小學校

第一次 高岡郡第三高等小學校
 一組合設立 明治二十年六月四日高知縣知事ノ發シタ
 ル左記ノ縣令ニ基キ學校組合ヲ設立ス

高知縣令第三百二十四號
 高岡郡佐川村永野村 谷地村 尾川村 斗賀
 野村 加茂村 瑞應村 庄田村 中野村 越
 知村
 右村會ヲ併セ町村會規則第八條ニヨリ聯合村會ヲ開
 會ス

明治廿年六月廿日 高知縣知事時任 爲基
 二聯合村會議員ノ選舉及議員氏名
 高知縣令第三百二十四號ニ基キ明治二十年六月組合各村
 會議員ヨリ互選ヲ以テ選舉シタル議員左ノ如シ

- | | | |
|------|-------|-------|
| 佐川村 | 森 龜彌太 | 川田 信道 |
| 永野村 | 田村 則謙 | 田村 常吉 |
| 谷地村 | 海路 源吉 | 野中兼太郎 |
| 尾川村 | 土居松太郎 | 和田柳太郎 |
| 斗賀野村 | 秋澤 丁士 | 片岡伊三郎 |
| 加茂村 | 吉村 富次 | 青木嘉十郎 |

瑞應村 千頭 久吉 細木彌五郎
 庄田村 岡本 親朝 鎌倉 熊吉
 中野村 西 一顯 山本楠次郎
 越知村 岡林 起孝 武内 勇造

三 管理者
 イ 高岡郡長 自明治廿六年六月四日至全廿三年三月廿九日
 ロ 佐川村長 自明治廿三年三月廿九日至全廿五年三月卅一日

四 第一回組合村會
 會日 明治廿年七月八日 會場 佐川村戸長役場
 會名 高岡郡佐川村外九ヶ村聯合村會
 議長 高岡郡長 大西 正義
 説明員 高岡郡書記 窪添 之助
 出席議員 十六名 永野加茂兩村欠席
 決議事項

イ 佐川村外九ヶ村學校組合會議事細則
 ロ 明治二十年度自十月至翌學校組合教育費
 金六百九十九圓六十錢
 內譯六百八十七圓五十八錢 教育補助費
 會議費 七圓二錢

ハ 經費負擔歩合

村別	種別	地租割	戸數割	營業稅割
佐川村		〇、二	〇、三	〇、三
外九ヶ村		〇、八	〇、七	〇、七

ニ 其他校舍購入費教授用機械器具費校舍修繕費等ハ一切組合村ノ寄附金ヲ以テ支辨スルモノトシ其寄附分賦額ヲ左ノ通決議ス

村別	金額
佐川斗賀野尾川永野瑞應加茂	二〇〇 ^円
斗賀野尾川永野瑞應加茂	五五 ^円
尾川永野瑞應加茂	三八 ^円
永野瑞應加茂	一八 ^円
瑞應加茂	二〇 ^円
加茂	一七 ^円

前記決議ノ寄附金合計三百四十八圓ハ豫定ノ如ク募集シ之ヲ以テ其設備ヲ完全セリ

五 開校 明治二十年十月十日
 六 學級及生徒數

學級	學年別				計
	一學年	二學年	三學年	四學年	
男	五七	二九	一七	五一	一〇八
女	八	五	一	一	一五
計	六五	三四	一八	六	一二三

七 修業年限 四ヶ年
 八 教員配置 校長一名 訓導三名 專科授業生二名(內一名英語科一名裁縫科)

九 開校當時職員氏名

任命年月日	退任年月日	資格	住所	氏名
明治廿年十月六日	明治廿一年三月卅一日	校長	佐川村	伊藤 敦
全日	全廿四年十一月十一日	訓導	佐川村	下元 兼
全日	全廿四年二月四日	全	佐川村	吉永 悅
全日	全廿五年三月卅一日	全	佐川村	高木 正
全日	全廿一年五月九日	授業生	全	森岡 善
全日	全廿三年一月十五日	全	全	滿田 富

十 組合存續 明治廿二年四月町村制實施ニヨリ町村ノ併合ヲ行ヒ佐川村外六ヶ村トナルモ左記縣令ニヨリ其組合ハ從前ノ通存續ス
 高知縣令第五十七號

高岡郡佐川村 斗賀野村 北原村 尾川村
 加茂村 黒岩村 越知村

明治廿年六月高知縣令第三百二十四號ヲ以テ開設セル聯合村會當分存續シ從前ノ通管理セシム
 明治廿二年五月九日 高知縣知事時任爲基

十一 特別記事 明治廿二年五月八日明治天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラレ全廿四年二月廿三日教育ニ關スル勅語ヲ拜戴ス

十二 組合ノ解散 明治廿三年勅令第二百十五號ヲ以テ小學校令改正アリシモ實施ニ付テハ猶豫期間アリテ一時存續セシモ全廿五年三月ニ至リ其期間滿了トナリ其組織ヲ變更セサルヘカラサルヲ以テ三月廿五日組合會ヲ召集スコレ本組合最終ノ會議ニシテ組合村ノ分離及財產處分ノ件ヲ左ノ如ク決議セリ當日ノ出席議員左

ノ如シ

佐川村 森 龜彌太 伊藤 德敦
 尾川村 西森 祐保 土居 松太郎
 越知村 竹内 勇造
 黒岩村 鎌倉 熊吉 片岡 初次

一 越知町北原村ハ明治廿四年度限り組合ヲ分離スル事

一 組合ノ財産即チ校舍並書籍什器等ノ評價金額三百二十六圓八十九錢六厘ハ明治廿年度乃至全廿四年度ニ於テ元佐川村外九ヶ村聯合各村ヨリ實收シタル組合村費高千四百六十四圓六十錢四厘ヲ以テ之ヲ除シ實收入金十圓ニ付二圓二十九錢五厘五五ノ率ヲ以テ計算シ割戻スモノトス

一 明治廿四年度歳入出假決算ヲ承認シ且全年度未收入金ハ財産處分當額ヨリ差引ヲ以テ收入シ精算後ノ決算報告ハ會議ヲ招集セス報告表ヲ調製シ各議員ヘ配付スルコト

以上ノ決議ヲナシ茲ニ從前ノ學校組合ハ解散シタリ嗚呼古城山下ニ於テ呱呱ノ聲ヲ揚ケ漸ク成人タラント

セシ高岡郡第三高等小學校ハ其齡僅々四年六月ヲ一期トシテ解散ノ悲運ニ遭遇セリ

第二次 佐川高等小學校

一 組合ノ成立 高岡郡第三高等小學校ハ小學校令ノ改正ニヨリ組合解散ノ悲運ニ遭遇セシヲ以テ更ニ高等小學校設置ノ爲學校組合ヲ設立スヘク明治廿五年二月十九日左ノ手續ヲナシ全時ニ佐川高等小學校ノ設置ヲ申請ス

小學校令第三十七條ニ據リ別紙協議ノ通り町村學校組合ヲ組織ス依テ許可ヲ請フ

明治廿五年二月十九日高岡郡佐川町長 安岡 眞昌

全 郡尾川村長 和田柳太郎

全 郡斗賀野村長 千頭 喜三

全 郡加茂村長 片岡 儀藏

全 郡黒岩村長 中内 良三

高岡郡長 中摩速衛殿

佐川村外四ヶ村學校組合同規約

第一條 高岡郡佐川村尾川村斗賀野村加茂村黒岩村

ヲ以テ一區域トナシ學校組合ヲ組織スルモノトス

第二條 組合會及組合高等小學校ニ關スル事務ハ法

律命令ニ從ヒ佐川村長ニ於テ之ヲ管理スルモノトス

第三條 組合會議員ハ議員六分ノ一ノ割合ヲ以テ各村會議員中ヨリ之ヲ互選ス其定員左ノ通りトス

村別	佐川村	尾川村	斗賀野村	加茂村	黒岩村	計
議員數	三	二	二	二	二	二

第四條 議員ノ任期ハ三ヶ年トシ各村會議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス

第五條 議員中缺員アルトキハ其缺員アル村ノ村會議員ニ於テ補缺議員ヲ互選ス其任期ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第六條 議員選舉ヲ執行スルハ組合各村長ニ於テ之ヲ行ヒ其當選者ヲ管理者ニ報告スルモノトス

第七條 學校組合會ハ町村ヲ代表シ法律命令ニ準據シ組合高等小學校ニ關スル一切ノ事件ヲ議決スルモノトス其會議則ハ總テ町村會ノ例ニヨル

第八條 學校組合ニ屬スル一切ノ費用賦課徵收及息納處分等ハ町村税ノ例ニ準據シ組合各村長ニ於テ執行スルモノトス

第九條 前條ニ掲クル費用ハ組合會ノ議決ニヨリ各村ノ分賦額ヲ定メ其賦課徵收ノ方法ハ組合ノ各村

村會ニ於テ議定セシムル事ヲ得

之レト同時ニ佐川高等小學校設置ニ關スル手續ヲナシ監督官廳ヨリ左ノ指令ヲ收受ス

學甲第四五二號

高岡郡佐川村 尾川村 斗賀野村 加茂村

黒岩村役場

明治廿五年二月十九日付佐川高等小學校設置ニ關スル許可伺ノ件開届ク

明治二十五年二月二十日 高知縣知事 調所廣丈 指令甲第九號

高岡郡佐川 尾川斗賀野加茂黒岩各村長

明治二十五年二月十九日附佐川高等小學校設置ノ爲佐川村外四ヶ村學校組合組織ノ件許可ス

明治二十五年二月二十二日 高岡郡長 中摩速衛

前記ノ如ク許可ヲ得テ管理者佐川村長ヨリ更ニ佐川高等小學校設置伺ヲ提出シ知事ヨリ左ノ如ク許可セラレタリ

學甲第四五三號 高岡郡佐川村役場

明治二十五年二月二十五日付佐川高等小學校設置同ノ件開届ク

- 一 明治二十五年三月十日 高知縣知事 調所 廣文
- 二 組合會議員 前記組合規約許可ノ上組合成立シ第一期ニ於テ各組合村ヨリ選出シタル議員氏名左ノ如シ
 - 佐川村 森 龜彌太 伊藤 德敦 西村龜太郎
 - 斗賀野村 秋澤 貞經 谷 岩太郎
 - 尾川村 西森 祐保 土居松太郎
 - 黒岩村 織田 莊輔 岡本 親朝
 - 加茂村 岡添和三郎 森下 新吾
- 三 區域 佐川村 斗賀野村 尾川村 加茂村 黒岩村ノ内(庄田中野瑞應ニツ野)
- 四 管理者 佐川村長 安岡眞昌
- 五 第一回組合會
 - 會名 佐川村外四ヶ村學校組合會
 - 會場 佐川村役場 會日 明治二十五年四月十三日
 - 出席議員 八名 缺席三名
 - 決議事項
- イ 組合會議事細則 (本文略)

明治二十五年年度歳入出豫算 金額左表ノ如シ

教育費經常部	教育費臨時部	會議費	計
七四	二〇	九三	七〇
			二二
			八〇〇
			八四九
			六九〇

六 開校當時ノ學級數及學年別生徒數

學級數	學年別				計	
	男女別	第一學年	第二學年	第三學年		第四學年
五	計	五〇	四七	三三	二〇	一五〇
	男	四三	三八	二九	一九	一三〇
女	計	七	八	四	一	二〇
	男	三	三	一	〇	七

- 備考 男子ヲ四學級トシ女子全部ヲ一學級トス
- 七 教員配置 正教員四名 授業生一名
- 八 修業年限 四ヶ年
- 九 組合村異動 明治二十七年十二月十二日組合會ニ於テ黒岩村尾川村ハ左ノ理由ニヨリ組合ヲ分離シタキ旨申出ニヨリ之ヲ附議ス
 - イ 尾川村分離ノ理由 頻年水害ヲ被リ村民非常ニ疲弊シ自然入學生徒モ減少シ且負擔ニ困難ナルコト
 - ロ 黒岩村分離ノ理由 明治二十七年十一月十六日付ヲ

以テ黒岩村ハ土地遠隔ニシテ通學困難ナル爲入學生徒少キヲ以テ分離シタキ旨關係部落民ヨリ請願アリ

以上ノ理由ニ由リ組合會ハ事情止ヲ得サルモノト認メ全會一致ヲ以テ其要求ヲ容レ明治二十七年年度限リ分離スルコトニ決セリ而シテ兩村共本校ニ關スル財産ノ分配ハ要求セサルモノトシ決定ス其手續左ノ如シ

- 第一條 佐川高等小學校區域變更之儀ニ付稟請
- 第二條 當佐川村外四ヶ村組合佐川高等小學校區域中黒岩尾川兩村ヨリ分離ノ請求有之組合會ニ於テ別紙ノ通り決議致シ候ニ付分離ノ御許可相成度此段稟請候也
- 第三條 明治二十八年一月九日 高岡郡佐川村外四ヶ村學校組合管理者佐川村長 西村龜太郎
- 第四條 高岡郡長 濱田 時郎殿
- 第五條 組合會決議寫

明治二十七年十二月十二日佐川村四ヶ村學校組合會決議錄
 一 當組合中黒岩村尾川村ヨリ請求シタル組合分離ノ件ハ正當ノ理由ト認メ許容スルモノトス
 指令甲第十三號

高岡郡佐川村役場

明治二十八年一月九日付其村外四ヶ村學校組合分離ノ件開届ク

- 第一條 明治二十八年一月十五日 高岡郡長 濱田 時郎
- 第二條 如上ノ手續ニヨリ明治二十八年四月一日ヨリ佐川村外二ヶ村組合トナリ其規定ヲ左ノ通更正ス
 - 第一條 佐川村外二ヶ村學校組合規定
 - 第二條 爲佐川斗賀野加茂三ヶ村組合ヲ設ク
 - 第三條 組合會議員ハ佐川村ヨリ四名斗賀野村加茂村ヨリ各三名宛ヲ出スモノトス
 - 第四條 組合會ハ組合ヲ代表シ本規定ニヨリ組合ニ係ル一切ノ事件ヲ議決スルモノトス
 - 第五條 議員ノ任期ハ六ヶ年トシ毎三年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ改選セシム
 - 第六條 初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第七條 第五條 組合會議員ハ組合村ノ公民中被選舉權ヲ有スルモノヨリ各村會議員投票ヲ以テ選舉ス得点同數ナルトキハ抽籤ヲ以テ當選者ヲ定ム

議員任期中公民權ヲ失スルトキハ自然解任ス

第六條 改選又ハ補欠選舉ヲナシタル場合ハ各其ノ村長ヨリ管理村長ニ當選者ヲ通知スルモノトス

第七條 組合會ハ管理村長之ヲ開閉ス

第八條 組合會ハ議員三分ノ二以上出席スルニアラザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

但シ同一ノ議事ニツキ召集再回ニ至ルモ議員尙三分ノ二ニ滿タサルキハ此限ニアラス

第九條 組合會ニ於テ議決スヘキ概目左ノ如シ

一 組合歳入出豫算ヲ定メ及豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

二 決算報告ヲ認定スル事

三 建造物其他ノ財産管理方法ヲ議定スルコト

四 前各項ノ外組合ニ係ル總テノ事件ヲ議定スルコト

第十條 會議ノ議長ハ管理村長ヲ以テ之レニ充ツ若故障アルキハ管理助役之ヲ代理ス

第十一條 管理村長ハ佐川村長ヲ以テ之レニ充ツ

第十二條 管理村長ハ組合ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ其組合費用支拂及會計事務ハ佐川村收入役ヲ以

テ之ヲ取扱ハシム

第十三條 組合ニ關スル費用ハ各村ノ戸數及地租金營業税金ニ應シ其負擔額ヲ定ム

第十四條 前條負擔金額ハ管理村長ノ通知ニヨリ各村長ニ於テ期日前ニ徵收シ其期日迄ニ管理村長ニ送附スルモノトス

第十五條 組合内ニ於テ徵收スル組合ノ費用徵收期限及ビ負擔額ハ組合長ニ於テ之ヲ議定ス

第十六條 組合學校教育ニ關スル一切ノ事項諮問ノ爲メ各村ニ一名宛組合學務委員ヲ選舉シ置クモノトス其選舉方法ハ議員選舉ノ例ニ依ル

第十七條 組合學校ニ關シ諸般ノ事項諮問ノ爲商議員ヲ置ク其選舉方法ハ學務委員ノ例ニ由リ其人員ヲ左ノ通りトス

佐川村 三名 斗賀野村 二名 加茂村 二名

組合規定ノ改正ニヨリ選舉シタル議員ニシテ明治廿八年四月一日現在議員氏名左ノ如シ

佐川村 伊藤 德敦 堀見 照助 刈谷 茂義 森 龜彌太

斗賀野村 中野鹿之助 明神 會平 戸梶亥之助

加茂村 森下 新吾 岡部 醇乎 片岡 敬吉

十一 第一回組合會 會日 明治廿八年一月廿七日 會場 佐川村役場

會名 佐川村外二ヶ村學校組合會 出席議員 七名 欠席 三名

決議事項 一 組合會議事細則 二 明治廿八年度歳入出豫算

三 高等小學校修業年限二ヶ年ニ短縮シテ中等學校ニ入ルノ階梯トナスコト 四 實業補習學校ヲ設置

シ戦後ノ經營ニ伴ヒ實業思想ヲ喚起シ以テ時勢ノ必要ニ應センコトヲ努ムルコト

以上ノ決議ニヨリ明治廿八年度ヨリ高等小學校ノ學年ヲ短縮シ且實業補習學校ヲ附設セリ(補習教育参照)

十二 學級編制教員配置並在學生徒數

學級數	教員配置		學年別		計
	男女別	學年第一	學年第二		
二	正教員二	男	五	七	計
	專科教員一	女	七	二	
		計	三三	三九	一〇二

十三 修業年限ノ變更 明治廿九年度ヨリ高等小學校修業年限ヲ四ヶ年ニ復活ス其理由ハ校下一般ノ希望多キヲ以テナリ明治卅四年度ニ至リ實業補習學校ハ國庫補助ノ年限滿了シタルモ其基礎確立セサルヲ以テ止ラ得ス之ヲ廢止シ生徒ハ高等小學校ニ收容シ而シテ農業科ヲ加設シ以テ實業教育ノ普及ニ努ム

十四 組合村ノ異動 加茂村ハ生徒少數ニシテ負擔ニ困難ナルヲ以テ三十六年限リ分離センコトヲ請求セルモ組合會ニ於テ協定ノ結果三十七年度加茂村負擔ヲ百圓ト限定シ三十八年三月卅一日限リ分離スルノ條件ヲ以テ決議シ三十八年度ヨリ佐川斗賀野兩町村ノ組合區域トナレリ而シテ明治四十二年ニ至リ小學校令改正ニ依リ義務教育年限延長トナリ高等小學校ニモ大ニ其影響ヲ受ケ改革ヲ要スル事アルヲ以テ更ニ其組合ヲ擴張センコトヲ努メ其結果明治四十二年度ヨリ新ニ組合ノ成立スル事トナリシヲ以テ其手續ヲ了シ佐川町外一ヶ村組合ハ四十二年三月十六日付解散ヲ認可セラレ佐川高等小學校ハ全年三月末日限リ廢止ノ件五月五日付ヲ以テ認可セラレタリ

十五 其他ノ事項

一明治廿八年度ヨリ男子部ニ手工科ヲ設ク
二明治四十年年度ヨリ小學校令改正ノ爲修業年限ヲ二ケ年トス

三明治四十年十一月十二日 今上陛下東宮ニ在マス時本校ニ行啓遊ハサレ御眞影ヲ下賜セララル

四明治四十一年度ヨリ修業年限ヲ三ケ年ニ延長シ英語科ヲ加設ス

十六 組合經費ノ決算 明治四十一年度ニ於ケル歳入出決算收支差引殘金ハ二百十九圓十七錢八厘ニシテ此内ヨリ金二十六圓十四錢ヲ支出シ行啓紀念道路式地(高等小學校正門縣道ヨリ門前迄)二十四坪ヲ購入シテ校地ニ増設シ四圓六十錢ハ議員實費辨償金ニ十五圓ヲ校長弘田流水へ慰勞金トシテ贈與シ其殘金百七十三圓四十三錢八厘及三十八年度ヨリ四十年迄毎年決算殘金ヲ以テ學校建築基金ニ充テ積ミ立タル元利金四百九十四圓二十三錢九厘ト合計六百六十八圓八十七錢七厘ハ佐川斗賀野兩組合町村負擔歩合ニヨリ左記ノ通分配シ寄附ニ係ル建築費指定積立元利金一千二百四十八圓五十五錢ハ佐川町外四ヶ村學校組合ニ引繼キタリ

分配金

ヲ設置シ高等小學校及女子技藝學校ニ關スル事務ヲ共同處理致度ニ付學校組合設置御認可相成度別紙町村會ノ決議ヲ經タル組合規定相添申請候也

明治四十二年一月十五日

高岡郡斗賀野村長 門脇 颯
全 郡尾川 村長 和田喜馬太
全 郡加茂 村長 森野 信清
全 郡北原 村長 横飛富五郎
全 郡佐川 町長 西村龜太郎

高岡郡長徳永秀實殿

高岡郡佐川町外四ヶ村學校組合規定

第一條 佐川高等小學校佐川女子技藝學校ニ關スル事務ヲ共同處分スル爲佐川町斗賀野村尾川村加茂村北原村學校組合ヲ設ク

第二條 組合會議員ハ十二名トシ左記ノ割合ニヨリ各町村ヨリ選出スルモノトス

佐川町四名 斗賀野村三名 尾川村二名 加茂村二名 北原村一名

第三條 議員ノ任期ハ六ケ年トシ毎三年各町村ニ於テ半數ヲ改選ス初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定

金四百五十三圓四十九錢八厘 佐川町
金二百十五圓三十七錢九厘 斗賀野村

第三次 佐川高等小學校
一沿革

本項ハ前項ニ於テ詳述シタル如ク初メ本郡第三高等小學校ヨリ變遷シテ組合村ノ増減再三アリ其理由ハ各村ニ高等科ヲ附設スル等ノ希望ヲ有セシモノアリシモ佐川町斗賀野村ハ組合ノ有益ナルヲ認メ存續ス故ヲ以テ通學ノ兒童ハ當町其主位ヲ占メ斗賀野村之ニ次キ尾川加茂、北原等ハ數年間通學スル兒童敢テ増減ナク共ニ本校ノ訓育ヲ受クルモノ絶ユル事ナカリキ明治四十二年度ヨリ義務教育年限延長シタルヲ以テ各村ニ附設セントセル高等小學校モ經費ノ關係上之ヲ實施スル能ハサルニ至リ組合擴張ノ必要ヲ認メ元組合ニシテ分離シタル尾川加茂北原(谷地部)ノ三村ニ向ツテ勸誘シ同意ヲ得タルヲ以テ更ニ佐川町外四ヶ村學校組合ヲ設置セントシ其ノ組合規定ヲ各町村會ニ於テ決議シ左記手續ヲ以テ組合設置ヲ郡長ニ申請セリ

申請書

高岡郡佐川町斗賀野村加茂村尾川村北原村學校組合

ム

第四條 議員ハ組合町村ノ公民中被選舉權ヲ有スルモノヨリ各町村會投票ヲ以テ選舉ス

第五條 組合ヲ管理スル爲佐川町長ヲ以テ組合管理

者トス

第六條 議員選舉ヲ終リタルキハ各町村長ヨリ其當選者ヲ組合管理者ニ通知スルモノトス

第七條 前數條ノ外議員ノ選舉ニ關スル事項ハ都テ町村會議員ノ例ニ依ル

第八條 組合會ハ組合管理者之ヲ開閉ス

第九條 組合會ハ議員半數以上出席スルニアラサレハ議決スル事ヲ得ス

但同一ノ事項ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニアラス

第十條 組合會ニ於テ議決スヘキ概目左ノ如シ
一組合歳入出豫算及豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

二決算報告ヲ認定スル事
三財産ノ管理及處分ニ關スル事

四組合條例及規定ヲ設ケ并ニ改正スルコト

五歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲナシ及權利ノ棄却ヲナス事

六其他法律命令ニヨリ組合會ノ權限ニ屬スル事項

第十一條 組合會ハ組合管理者ヲ以テ議長トス若シ管理者事故アルトキハ佐川町助役之ヲ代理ス

第十二條 組合管理者ハ組合ニ係ル一切ノ事務ヲ管

掌シ組合費用ノ收支及會計ノ事務ハ佐川町收入役之ヲ取扱フモノトス

第十三條 組合費用ハ各町村左記ノ歩合ニヨリ負擔スルモノトス但個位以下ノ端數ハ四捨五入シテ計算ス

町村別	佐川町	斗賀野村	尾川村	加茂村	北原村
歩合	百分ノ七、三	百分ノ二七、〇〇	百分ノ六、五〇	百分ノ六、五〇	百分ノ二、一七

第十四條 組合費負擔額ハ組合管理者ノ通知ニヨリ各町村長之ヲ組合管理者ニ送附スルモノトス

右ノ申請ニ對シ郡長ヨリ左ノ指令ヲ得タリ

高岡郡佐川町斗賀野村尾川村加茂村北原村(谷地)學

校組合設置ノ件許可ス

明治四十二年三月二日 高岡郡長 徳永 秀實

此ニ於テ組合成立シ各町村ヨリ議員ヲ選出ス其氏名左ノ如シ

町村	佐川町	斗賀野村	加茂村	尾川村	北原村
氏名	堀見 照助 川田 豊太郎 竹村 貞次郎 濱口 恒十郎	明神猪之助 秋澤 貞次 戸梶 亥之助	吉村 明治 北添 兼五郎	和田 六松 和田 喜馬太	野中 熊太郎

明治四十二年三月十八日組合會ヲ招集シ組合會議事規則授業料徴收規則組合學務委員條例組合費徴收規則管理費旅費支給規定及四十二年度歳入出豫算ヲ決議ス前項ノ如ク豫算成立ニヨリ組合管理者佐川町長ヨリ佐川高等小學校佐川女子技藝學校設置ノ件ヲ申請シ四十二年三月三十日付ヲ以テ知事石原健三ヨリ認可ヲ受ケ四月一日ヨリ開校ス而シテ修業年限ヲ三ヶ年トシ兒童男女總數百九十六人ヲ四學級ニ編制シ正教員四名専科教員二名(内一名ハ兼務)ヲ配置シ英語農業科ヲ加設科目トシ教授セリ後大正二年ニ至リ兒童ノ數多少ノ増加アリ且技藝學校ハ年ヲ逐ウテ成績良好ナルモ校舍不完全ノ点多ク爲ニ光彩ヲ發揮シ得サルノ感アリ因テ今年七月十七日組合會ニ於テ佐川尋常小學校舊校舍二階造二棟ヲ購入シ改築ノ議ヲ決シ八月暑中休暇ヲ利用シ改築ノ工ヲ起ス建築委員川田豊太郎吉村明治其工事ヲ監督シ十月ニ至リ竣工十一月十二日 東宮殿下行啓紀念式日ヲトシ落成ノ式ヲ行フ此レト全時ニ實習地ヲ購入シ且寄附金ヲ募集シテ飲料水用ノ竈ヲ設ケ其餘水ヲ以テ池ヲ穿テ火災防禦ノ設備トセリ而シテ今回ノ改築及土地購入ニ要シタル費用總額ハ金一千五百六十圓ナリシモ組

合村ニ於テハ毫モ負擔セズ此完備ヲ見ルニ至リシモノハ曩ニ佐川町先輩ヨリ校舍改築費ノ指定寄附金ニ依ルモノニシテ特ニ明治三十九年十月時ノ宮内大臣田中光顯子ヨリ金壹千圓ヲ寄贈セラレシモノ其主ニシテ川田豊太郎森榮伊藤徳定植田甚太郎等ノ諸氏ヨリ寄贈セラレタル分モ含有シ以テ今日ノ如ク完全ナルモノトナレリ

イ 設備ノ概要

- 校地 千六百八十八坪
- 内校舍敷地 二百十坪 運動場 六百六十六坪
- 實習地 八百十二坪
- 校舎 二百七坪二合五勺
- 内御眞影奉置所 五合 職員室 十五坪七合五勺
- 教室 百二十六坪 校具室 十四坪
- 兒童溜席 六坪 應接室 九坪
- 宿直室 三坪 寄宿舎 三坪
- 使丁番人室 三坪 便所 三坪
- 物置其他 二十一坪五合
- 學級編制并教員配置

年 度	兒 童 數	學 級 數	教 員 配 置
明治四十二年	一九七	四	五
全 四十二年	一四五	四	五
全 四十三年	一五八	四	五
全 四十四年	一五〇	四	五
全 四十五年	一五三	四	五
大正二年	一三九	四	五
全 三年	一六三	四	五
全 四年	一七五	四	五
全 五年	一七四	四	五
全 六年	一七四	四	五

備考本表ハ各年度四月一日ノ現在ナリ

ハ 教員 明治二十年佐川高等小學校創立ヨリ現今ニ至ル本校奉職ノ教員ハ九十二人ニシテ其内校長及首席教員ノ氏名在職期間等左ノ如シ

一校 長

任 命 年 月 日	退 任 年 月 日	在 職 年 數	任 命 當 時 俸 給	氏 名
明治廿年十月六日	明治廿一年三月卅一日	六ヶ月	拾圓	伊藤 德敦
全廿一年四月十九日	全廿八年四月廿日	七 年	拾圓	大槻 延世
全廿八年四月廿日	全三十年三月卅一日	二 年	兼務月手當貳圓	弘田 流水

全 三十年十月卅日	全 卅二年三月卅一日	二年六ヶ月	拾四圓	高木 正善
全 卅二年四月廿日			拾七圓	弘田 流水

二首席教員

任 命 年 月 日	退 任 年 月 日	在 職 年 數	任 命 當 時 俸 給	氏 名
明治廿年十月六日	明治廿四年十一月十二日	四年	八圓	下元 兼彦
全廿四年十一月十二日	全廿七年六月廿七日	二年七ヶ月	九圓	秋澤 壽氣
全廿七年六月廿七日	全三十年六月三十日	三年	九圓	堀見 久則
全卅一年八月十九日	全卅一年四月五日	八ヶ月	一圓	種田 豐馬
全卅一年四月五日	全卅五年一月十三日	三年十ヶ月	十圓	井上 虎馬
全卅九年三月卅一日	全四十二年三月卅一日	二年	十圓	永野 達男
全四十二年三月卅一日	全四十二年二月廿七日	二ヶ月	十圓	秋野 善明
全四十二年三月廿七日	全四十二年三月卅一日	一ヶ月	十圓	野中 善治
全四十二年三月卅一日	大正二年三月卅一日	三 年	廿一圓	山崎 正策
大正二年三月卅一日	全三年三月卅一日	一 年	十八圓	岡村 益吉
全三年三月卅一日	全五年三月卅一日	二 年	貳拾參圓	岡林 清茂
全五年三月卅一日			參拾圓	吉本 徳治

附校長異動ノ状態
本校々長ハ明治二十年十月六日伊藤徳敦初テ就任シ全

廿一年三月卅一日退職シ全年四月十九日大槻延世土佐郡江ノ口村ヨリ赴任シ全廿八年四月廿日退職其後任弘

田流水ハ全年四月二十日佐川尋常小學校長ヨリ轉シテ
 補習學校々長トナリ本校長ヲ兼務ス全三十年三月補習
 學校ヲ中桐ニ建築シ全校擴張ノ必要ニヨリ全年十月三
 十日高等小學校長ノ兼務ヲ解キ……………全日高木
 正善尾川尋常小學校長ヨリ轉シテ校長トナリ全三十二
 年三月三十一日佐川尋常小學校長ニ轉スルヤ全年四月
 二十日弘田流水補習學校長ヨリ轉シテ校長トナリ爾後

今日ニ至ル迄勤績シ組合學校ノ爲ニ鞠躬盡瘁セラレツ
 、アリ
 ホ 學校醫
 校醫ハ規程發布ノ時ヨリ設置シ學校衛生ニ就テハ其遺
 憾ナキヲ期セリ然レトモ數次組合ノ變更ニヨリ其時々
 解任アリ明治四十二年現組合ヲ組織シ技藝學校兼務ヲ
 以テ設置セル校醫左ノ如シ

氏名	資格	任命年月日	手當
西田鎌太郎	試驗及第	明治四十二年五月十四日	出務日當壹圓

へ 入學及卒業兒童數

年 度	入 學		卒 業	
	男	女	男	女
明治四十二年	六	六	二五	一四
全 四十四三年	五〇	三三	二二	一四
全 四十四四年	三〇	二四	二二	一四
全 四十四五年	五	三	三〇	二二
大 正 二 年	七	三	三〇	二二
全 三 年	六	三	二七	一〇

全 六 年	三	三	二	二
全 五 年	四	四	三	三
全 四 年	四	四	三	三
全 三 年	三	三	二	二
全 二 年	三	三	二	二
全 一 年	三	三	二	二
全 計	三	三	二	二

ト 入學兒童町村別調

年 次	佐 川		斗 賀 野 尾		川 加		茂 北 原 其 他		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
明治四十二年	三五	一七	一七	一四	八	八	一	一	六九
全 四十四三年	二八	一九	八	四	二	二	一	一	五〇
全 四十四四年	一五	八	八	四	三	三	一	一	三〇
全 四十四五年	二九	一三	九	三	五	三	二	一	四三
大 正 二 年	四	三	一	一	一	一	一	一	七
全 三 年	三	一	一	一	一	一	一	一	五
全 四 年	三	一	一	一	一	一	一	一	四
全 五 年	三	一	一	一	一	一	一	一	三
全 六 年	二	一	一	一	一	一	一	一	二
全 計	二九	一七	一四	一四	四	四	一	一	六三

チ 卒業兒童方向調

年 度	卒業兒童	男ノ部		其他ノ學校ニ入ルモノ	實業ニ就クモノ
		中學校ニ入ルモノ	師範學校ニ入ルモノ		
明治四十二年	一四	一	一	〇	一〇
全 三 年	一	一	一	〇	一
全 四 年	一	一	一	〇	一
全 五 年	一	一	一	〇	一
全 六 年	一	一	一	〇	一
全 計	一四	一	一	〇	一〇

町村別	佐川	斗賀野	尾川	加茂	北原
氏名	竹村源十郎 竹村貞次郎 森榮 廣瀬長彌	野並久太郎 片田伊三郎 明神喜六	片岡達吉 和田六松	北添兼五郎 吉村岑吾	矢野丑吾 野中房吉

ニ 組合會議事規則

- 第一條 凡ソ會議ノ時間ハ議事ノ都合ニヨリ議長ニ於テ之ヲ定ム
- 第二條 議員ノ着席順序ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 議場ニ於テハ議員互ニ姓名ヲ呼ハス其番号ヲ用ユヘシ
- 第四條 議事ヲ開クトキハ議長ハ書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシム
- 第五條 會議ノ議決ハ一回ニテ確定スルモノトス
- 第六條 議長ノ意見又ハ議員二名以上ノ請求ニヨリ議案ノ各項ヲ分合シ議決スル事ヲ得
- 第七條 議員發言セントスルトキハ自己ノ番号ヲ呼ビ議長ノ回呼ヲ待テ發言ス可シ
- 第八條 議論冗長ニ涉リ若クハ無用ノ説ト認ムルキハ議長ハ之ヲ制止スルコトアルベシ
- 第九條 可否ヲ決スルハ起立舉手投票ノ三種トシ議長適宜之ヲ定ム
- 第十條 議事録ニハ閉會ノ際議長及出席議員三名以上署名スルモノトス
- 第十一條 議員疾病事故等ニヨリ不參又ハ遲參スルモノハ開會時間迄ニ其事由ヲ議長ニ届出ツヘシ
- 第十二條 議事中其席ヲ放レ又ハ退場セントスルモノハ議長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十三條 第十一條ニ違背シ無届不參スルモノハ三十錢無届遲參スルモノハ一時間毎ニ金拾錢ノ過怠金ヲ徴收シ三時間ニ至リテ止ム
- 第十四條 前條ノ過怠金ハ組合會ノ議決ニヨリ之ヲ處分ス

ホ 佐川高等小學校及女子技藝學校授業料徴收規則

第一條 授業料ハ一ヶ月金三十錢トシ一戸ヨリ二名以上ノ入學アルトキハ其一名ヲ三十錢トシ其他ハ壹名ニ付金拾五錢トス

第二條 貧困ニシテ減免ノ必要アルトキハ各町村長ノ証明ニヨリ適宜管理者ニ於テ減免スルコトヲ得

第三條 組合外ヨリ入學スルモノハ一ヶ月金五拾錢ト 佐川町外四ヶ村學校組合歳入出決算累年表

ヲ徴收ス

第四條 全月欠席ノ者ハ授業料ヲ徴收セス

ハ 管理者旅費支給規程

佐川町外四ヶ村學校組合管理者助役收入役ノ旅行ニ要スル費用ハ佐川町吏員旅費支給規程ニ依リ支辨スルモノトス

年 度	歳 入	歳出經常費	同 臨 時 費	備 考
明治四十二年度	二、〇〇一、八〇〇	一、九七二、〇五九	三〇六、六〇〇	臨時費ハ開校式費
全 四十三年度	二、一三七、七〇一	二、〇七四、三三四	一三七、四四六	臨時費ハ追拂金視察費
全 四十四年度	二、五〇三、四四一	二、三八二、三八四	九三、二四五	臨時費ハ需用費
大正元年度	二、五一九、三三二	二、五八〇、五三三		
大正二年度	四、〇五九、五五九	二、四三〇、九六三	一、五二〇、四九九	臨時費ハ建築費ナリ
大正三年度	二、七四七、〇九七	二、六三三、四一五	八一〇、〇〇〇	臨時費全上
大正四年度	二、七五五、四六二	二、五九三、三九九	一一四、四六〇	臨時費ハ修繕費雜費
大正五年度	二、八六一、七二三	二、七三二、四一〇	〇	

チ 同組合負擔額累年表

年 度	佐 川 町	斗 賀 野 村	尾 川 村	加 茂 村	北 原 村
明治四十二年度	八二六	三六六	九三	九三	三二
全 四十三年度	九四	四七	一〇三	一〇三	三四
全 四十四年度	九三	四二	一〇四	一〇四	三五
全 四十五年度	九三	四二	一〇四	一〇四	三五
大正二年度	九五	四七	一〇五	一〇五	三五
全 三年度	九七	四九	一〇九	一〇九	三六
全 四年度	一、〇〇六	四九	一一三	一一三	三八
全 五年度	一、二一八	五三	一二六	一二六	四二

授業料徴収額表

年 度	高 等 小 學 校	技 藝 學 校	計
明治四十二年度	五、六六〇〇	一、〇六五〇	五、六六〇〇
全 四十三年度	四、五八二〇〇	一、三三〇〇	五、四七五〇
全 四十四年度	五、〇九八〇〇	一、三〇〇〇	六、三二八〇〇
大正元年度	五、三五一五〇	一、三〇〇〇	六、六五一五〇
大正二年度	四、九六五〇	一、三六〇〇	六、三六〇〇
全 三年度	五、六二〇〇	一、三六五〇	七、〇二七五〇
全 四年度	五、二四五〇	一、五二〇〇	六、七三九五〇

全五年度 六〇、四〇〇 一三、八二五〇 七三、九六五〇

備考 四十二年度ノ技藝學校授業料ハ高等ノ分ニ算入ス
又 實業教育費郡補助金額表

年 度 別	明 治 四 十 四 年 度	大 正 元 年 度	全 二 年 度	全 三 年 度	全 四 年 度	全 五 年 度
金 額	二七、九九〇	一四、三六〇	一三、四四〇	一九、二一〇	二〇、四七〇	一五、〇〇〇

ル 組合ノ財産

一土地 佐川町甲一、二三五番ノ七、八、九字紫園
元宅地 二十四坪

右土地ハ明治四拾四年十二月十五日許可ヲ得テ校地ニ増設ス現時ノ高等小學校正門ノ道路式地ニシテ明治四十年十一月 皇太子殿下啓ノ時改修シタルモノナリ該土地ハ明治四十二年七月佐川町斗賀野村組合明治四十一年度決算殘金ノ内二十六圓十四錢ヲ支出シ購入シタルモノナリ

二建物 五棟 建坪二百七坪二合五勺
三積立金百十三圓九十三錢二厘大正六年四月一日現在

第四節 實業教育

一 實業補習學校
佐川實業補習學校ハ明治廿六年法律第廿一號實業教育費國庫補助法發布ヲ機トシ佐川加茂斗賀野三ヶ村學校組合ヲ組織シ左記規定ニヨリ郡長ノ認可ヲ得テ設置セリ

佐川町甲一、二三九番ノロ 畑壹反十四歩
右土地ハ大正二年ノ購入ニシテ學校ノ實習地トナセリ此購入代金ハ壹百拾圓ニシテ組合積立金ヲ以テ支辨セリ

高知縣高岡郡佐川村斗賀野村加茂村學校組合規定
第一條 佐川實業補習學校ニ關スル事務ヲ共同處分
スル爲佐川村斗賀野村加茂村三ヶ村學校組合ヲ設

- 第二條 組合會議員ハ佐川村四名斗賀野加茂兩村ヨリ各三名ヲ出スモノトス
- 第三條 議員ノ任期ハ六年トシ每三年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 組合會議員ハ組合村ノ公民中被選舉權ヲ有スルモノヨリ各村會ニ於テ選舉ス
- 第五條 議員選舉ヲ終リタルトキハ各村長ヨリ其當選者ヲ組合長ニ通知スルモノトス
- 第六條 前數條ノ外組合會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ渾テ町村會議員選舉ノ例ニ依ル
- 第七條 組合會ハ組合長之レヲ開閉ス
- 第八條 組合會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非レハ會議ヲ開ク事ヲ得ス但シ同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員尙定數ニ滿タザルキハ此限ニ非ス
- 第九條 組合會ニ於テ議決スヘキ概目左ノ如シ
 - 一 組合歲入出豫算ヲ定メ及豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
 - 一 決算報告ヲ認定スル事
 - 一 建造物其他ノ財産管理方法ヲ議定スル事
 - 一 前各項ノ外組合ニ係ル渾テノ事件ヲ議決スル事

- 第十條 會議ノ議長ハ組合長ヲ以テ之レニ充ツ
- 第十一條 組合長ハ佐川村長ヲ以テ之レニ充ツ
- 第十二條 組合長ハ組合ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ其組合費用收支及會計事務ハ佐川村收入役ヲ以テ取扱ハシム
- 第十三條 組合ノ費用ハ戶數及地租額營業稅雜種稅ニ應シ左ノ歩合ヲ以テ組合村ニ分賦ス
 - 戶數割三分四厘
 - 地租割五分八厘
 - 營業稅雜種稅割八厘
- 第十四條 前條分賦額ハ組合長ノ通知ニヨリ各村長ニ於テ期日前ニ徵收シ其期日迄ニ組合長ニ送付スルモノトス
- 第十五條 組合内ニ於テ徵收スル組合ノ費用徵收期日ハ組合會ニ之テ之ヲ議定ス
 - 前記規定ニヨリ組合成立セルヲ以テ直ニ議員ノ選舉ヲ行ヒ明治廿八年一月廿七日組合會ヲ開キ實業補習學校ノ設置ヲ決議シ組合長ヨリ左記ノ申請ヲナス時ノ縣參事官青木定謙多大ノ同情ヲ以テ本校設置ニ盡力セラレタリ其設置順序左ノ如シ

佐川實業補習學校學則及授業料徵收規則並其經費

國庫補助之儀ニ付申請

當組合村ノ儀ハ農業養蠶製絲機械等ノ地方ニ有之就中蠶業製糸ノ如キハ頻年盛大ニ赴キ候ヲ以テ機械工業ハ漸次隆盛ヲ期スヘキ時ニ相成候ニ付前年來簡易ナル實業教育ヲ施サント欲シ其計畫スル所既ニ數回ニ亘ルモ何分村稅ノ負擔夥多ニシテ之レガ完全ナル設備ヲナスノ餘地ナク遺憾ナガラ在再ニ打過キ來リ其機會を相待居候處幸ニ一昨年法律第廿一號ノ御發布有之候ニ付當組合村ニ於テハ非常ノ奮發致シ民力ノ及ブ限リ村費ノ負擔ヲ増シ傍ラ國庫補助ノ恩典ヲ仰ギ以テ積年計畫セシ目付達セン爲別紙第一號調書ノ通り實業補習學校設置致シ度候處之レニ要スル經費豫算ハ別紙第二號調書ノ通り五百九十二圓九十八錢五厘其内雜收入ヲ除去シ純粹組合稅トシテ負擔スルモノハ實ニ四百三十五圓三十八錢五厘ノ巨額ニ有之尙將來ニ於テモ之レカ改良擴張ヲ計ラン爲幾多ノ臨時費ヲ要スル次第ニ有之目下村費ノ多端ナル到底支辨ノ餘力無之何分遺憾ノ次第ニ付キ止ラ得ス經常費ノ内へ金壹百五拾圓國庫ノ補助ヲ仰ク見込ニテ豫算編制致シ候間右事情御洞察ノ上明治廿六年文部

省令第十四號ニヨリ明治廿八年度ヨリ向五ヶ年間壹ヶ年金百五拾圓以上國庫ヨリ御補助相成度且第三號學則第四號授業料徵收規則ヲモ同時ニ御認可相成度此段申請候也

明治廿八年二月十五日

高知縣高岡郡佐川村外二ヶ村學校組合長佐川村長 西村龜太郎

文部大臣侯爵西園寺公望殿

(第一號乃至第四號添付ノ書類ハ之ヲ略ス)

右申請ニ對シ明治廿八年三月十五日左ノ許可ヲ得タリ
文部省文書課未普甲第二四三號

高知縣高岡郡佐川町外二ヶ村學校組合

本年二月申請其村學校組合立佐川實業補習學校學則及授業料徵收規則ヲ認可シ實業教育費國庫補助法ニヨリ本年四月ヨリ向五ヶ年間一年金百五十圓交附ス
明治廿八年三月十五日

文部大臣 侯爵 西園寺公望

以上ノ如ク國庫補助ノ恩典ヲ得テ明治廿八年四月一日ヨリ開校シ校舍ハ佐川高等小學校ノ一部ヲ充用シ弘田流水兼務校長トナリ他ハ別項ノ如ク實業ニ關スル教員

ヲ聘用シ農業機械裁縫等專ヲ教授セリ而シテ開校當時ノ生徒人員左ノ如シ

男女別	學年別			計
	第一學年	第二學年	第三學年	
男	二	一〇	五	二七
女	二五	一五	一〇	五〇

明治二十九年二月組合學務委員設置ニ關スル條例ヲ議決シ内務文部兩大臣ノ許可ヲ得テ左ノ如ク制定シ組合學事獎勵ノ機關トセリ其條例左ノ如シ

高岡郡佐川村外二ヶ村學校組合學務委員條例

第一條 佐川村斗賀野村加茂村學校組合教育事務ノ爲小學校令第八十六條ニヨリ該組合ニ學務委員ヲ

置ク

第二條 學務委員ハ其定員ヲ五名トシ内三名ハ組合各村ノ公民中被選舉權ヲ有スルモノヨリ各村會ニ於テ一名ツ、選舉シ他二名ハ佐川實業補習學校佐川高等小學校男教員各壹名ヲ以テ之レニ充ツ委員中教員ヨリ出ヅルモノハ組合長之ヲ任免ス

第三條 學務委員ノ任期ハ四年トス

第四條 學務委員ハ名譽職トシ報酬ヲ給セズ

理由

佐川村外二ヶ村學校組合ニ學務委員ヲ置クハ佐川實業補習學校佐川高等小學校ニ關スル諸般ノ事項ヲ諮詢シ及生徒ノ入學ヲ獎勵セシメンカ爲ナリ其人員ヲ五名トセシハ組合ノ各村ト兩學校ヨリ平等ニ選出セシカ爲ナリ委員中教員ヨリ出ツルモノ、任免ヲ組合長ニ於テスルハ小學校令町村學務委員任免ノ規定ニ準スルモノナリ委員ノ任期ヲ四年トセシハ專ラ町村吏員ノ年限ニ基キタルモノナリ其無報酬ハ委員ノ事務閑ナルニ由ル

右條例許可指令左ノ如シ

內務省許丁第四三號

明治廿九年二月七日稟請送第二七六號高知縣高岡郡佐川村外二ヶ村組合條例學務委員ニ關スル件
右町村制第百廿五條及地方學事通則第十二條ニヨリ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス

明治廿九年七月三十日 內務大臣伯爵板垣 退助

而シテ補習學校ハ生徒數漸次増加シ且前年短縮シタル

高等小學校修業年限ハ廿九年度ヨリ延長復活セシヲ以テ全校モ自然生徒ノ數ヲ増シ教室ニ不足ヲ告クルヲ以テ同年十月十二日組合會ニ於テ本校建築ノ議ヲ決シ校

地ヲ字中桐ニトシ古家ヲ購入シ工費五百十五圓ヲ投シ建築委員森龜彌太監督ヲ以テ工事ヲ起ス二階共ニ建坪六十七坪餘ニシテ三十年三月工ヲ竣ヘ四月一日ヨリ開校ス創立ヨリ廿九年度末迄校長弘田流水ハ高等ト兼務ナリシモ三十年度ヨリ専任校長トシ益本校ノ發展ヲ希圖セリ明治三十二年度ニ至リ補助期間滿了スルヲ以テ更ニ補助ノ繼續ヲ出願セントシ組合會ニ附議シタルニ兩校ヲ存立スルハ負擔ノ困難ヲ叫ブモノアリテ其議一決セス遺憾ナカラ三十二年度限り廢校スルコト、ナリ其設備ノ器具ハ佐川町ニ借り入レ三十三年度ヨリ佐川尋常小學校ニ實業補習學校ヲ附設シ實業教育ヲ續行セリ而シテ明治四十年度ニ至リ生徒ノ數減少シ其功果佳良ナラザルヲ以テ休校トナシタリシガ全四十二年度ニ至リ學校組合ノ擴張成立スルニ當リ佐川女子技藝學校ヲ創設ス前記補習學校ハ恰モ其前身ナルカ如シ

二 佐川女子技藝學校

本校ハ明治四十二年三月三十日付ヲ以テ知事ヨリ其設

置ヲ認可セラレ四月六日ヨリ開校ス其ノ學校規則左ノ如シ

佐川町外四ヶ村組合立佐川女子技藝學校規則

第一條 本校ハ女子ニ須要ナル普通教育及ヒ技藝教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二條 本校ハ佐川町外四ヶ村學校組合立佐川高等小學校ニ附設ス

第三條 本校ハ本科專科特別專科及隨意科ヲ置キ其修業年限ヲ本科專科隨意科各三ヶ年特別專科二ヶ年トシ各科共一ヶ年ノ温習科ヲ置キテ隨意ニ專攻セシムルモノトス

第四條 本校入學ノ資格ハ本科專科隨意科ハ義務教育ヲ卒タル者特別專科ハ高等科二學年修了以上又ハ之レト同等以上ノ學力ヲ有スルモノトス

第五條 本校ノ教科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
本科ハ修身國語算術家事裁縫手藝農業機械唱歌体操トス

專科ハ修身家事裁縫手藝農業唱歌体操トス
特別專科ハ修身家事裁縫手藝農業唱歌体操トス
隨意科ハ修身家事裁縫手藝トス

第六條 各學年教科目教授ノ程度毎週教授時數左ノ如シ 但專科ノ唱歌体操ハ隨意トス

本 科		學科目	每週教	授時間	第一學年	第二學年	第三學年
修身	國語	道徳ノ要旨及ヒ普通作法	二	二	全	全	全
算術	書方	日常須知ノ文字普通文ノ	四	四	全	全	全
家事	整數及小數ノ四則諸比例		二	二	全	全	全
裁縫	家事ノ大要		一	一	全	全	全
手藝	普通衣服ノ裁縫及器械裁		一	一	全	全	全
農業	縫取編物組紐		二	二	全	全	全
機械	普通作物ノ栽培農産製造		二	二	全	全	全
唱歌	普通布帛小拵織方		二	二	全	全	全
体操	單音唱歌		一	一	全	全	全
計	普通体操遊戯		三六	三六	全	全	全

專 科		學科目	每週教	授時間	第一學年	第二學年	第三學年
修身	法道徳ノ要旨及ヒ普通ノ作		二	二	全	全	全

特別專科		學科目	每週教	授時間	第一學年	第二學年
家事	家事ノ大要		一	一	全	全
裁縫	普通衣服ノ裁縫及器械裁		二七	二七	全	全
手藝	縫取編物組紐		二	二	全	全
農業	普通作物ノ栽培及養蠶農		二	二	全	全
唱歌	單音唱歌		一	一	全	全
体操	普通体操遊戯		三六	三六	全	全

隨意科		學科目	每週教	授時間	第一學年	第二學年
修身	道徳ノ要旨及作法		二	二	全	全
家事	家事ノ大要割烹教育		六	六	全	全
裁縫	普通衣服ノ裁縫及ヒ器械裁縫		二二	二二	全	全
手藝	袋物造花		二	二	全	全
農業	普通作物栽培及養蠶農産製造		二	二	全	全
唱歌	單音唱歌		一	一	全	全
体操	普通体操及遊戯		三六	三六	全	全

學科目	授每 時週 間教	第一學 年	授每 時週 間教	第二學 年
修身	二	道德ノ要旨及普通作法	二	全
裁縫	二	普通衣服ノ裁縫及器械裁縫	一	全
家事	一	家事大要	一	全
手藝	二	縫取編物	二	全
計	三六		三六	

但シ希望ニヨリ何レノ學科ヲモ專攻スルコトヲ得

受クルモノトス

備考 農業實習ハ各教科時間外トス

養蠶期中ハ適宜他ノ教科教授時數ヲトリテ之ニ充ツルモノトス

第七條 學年ノ始終及休業日ニ關スル規程ハ本縣小學校規定ヲ準用ス

第八條 各科ノ課程ヲ全ク終了シタル者ハ卒業証書ヲ授與ス其學年ノ課程ヲ終了シタル者ニハ修業証書ヲ授與ス

第九條 學科ノ卒業又ハ修業ヲ判定スルニハ考查ニヨル

第十條 生徒ノ入退學ハ其ノ旨ヲ届出校長ノ承認ヲ

而シテ開校當時ノ生徒ハ一學年三十五名二學年二十五名專修科十名合計七十名ニシテ二學級ニ編制シ裁縫技藝ノ專科教員一名ヲ置キ校長ハ高等小學校校長兼務シ正

而シテ開校當時ノ生徒ハ一學年三十五名二學年二十五名專修科十名合計七十名ニシテ二學級ニ編制シ裁縫技藝ノ專科教員一名ヲ置キ校長ハ高等小學校校長兼務シ正

而シテ開校當時ノ生徒ハ一學年三十五名二學年二十五名專修科十名合計七十名ニシテ二學級ニ編制シ裁縫技藝ノ專科教員一名ヲ置キ校長ハ高等小學校校長兼務シ正

而シテ開校當時ノ生徒ハ一學年三十五名二學年二十五名專修科十名合計七十名ニシテ二學級ニ編制シ裁縫技藝ノ專科教員一名ヲ置キ校長ハ高等小學校校長兼務シ正

教員ハ高等科ノ訓導ヨリ兼務ヲ以テ學科ヲ教授セリ
一設備ノ大要 高等小學校兼用ニ付略ス
學級編制及教員配置

年 度	生 徒 數	學 級 數	教 員 配 置	
			專 任	兼 務
明治四十二年	二七	二	二	三
全 四十四年	五	二	二	三
全 四十五年	八	二	二	三
大 正 二 年	九	二	二	三
全 三 年	二四	二	二	五
全 四 年	一七	二	二	五
全 五 年	一〇	二	二	五
全 六 年	一四	二	二	四
全 六 年	一六	二	二	四

校長 弘田流水 明治四十二年三月卅一日校長兼務月手當金貳圓
教員 裁縫手藝科專務

氏 名	資 格	俸 給	任 命 年 月 日	退 職 年 月 日
大久保清井	雇	十六圓	明治四十二年三月卅一日	明治四十三年三月卅一日

トシ農業關係ノ雜誌ヲ購讀シ時々相會合シテ共ニ智能ノ啓發ニ努メタリ爾來歲月移リ會員モ新陳代謝シテ明治三十九年七月青年農會ナル名ノ下ニ組織シ戰後ニ於ケル青年奢侈ノ風潮矯正ヲ圖ル等幾多ノ變遷アリテ或ハ起リ或ハ衰へ後又佐川農事講習會ト改メ町農會ノ事業ヲ補佐シ益農事ノ改善發達ヲ圖レリ全四十二年ニ至リ農商部ノ青年相議シ教育勅語申詔書ノ御趣旨ニ基キ更ニ青年會ノ組織改善ヲ計畫シ九月四日ヲ以テ其發會式ヲ舉行シ當時會員百五十餘名ヲ有シ稍發展シツ、アリシカ一年有餘ニシテ萎靡又振ハサルニ至ル然レモ夜學會ノミハ少數會員ニテ持續セリ而シテ大正四年内務文部兩大臣ノ訓令ニヨリ會員ヲ勸誘シ更ニ青年會ヲ組織シ全五年一月廿四日其發會式ヲ舉行シ會長ニハ弘田流水副會長ニハ森岡八十吉ヲ推戴シ會員百五十五人ヲ有シ逐日活動ノ域ニ進ミツ、アリ大正六年五月副會長近藤清馬ト交迭セリ

ホ佐川町青年會々則

第一條 本會ハ教育勅語申詔書ノ聖旨ヲ奉戴シ風紀ノ振肅智德ノ修養心身ノ鍛練ニ努メ實業ノ獎勵勤勉貯蓄其ノ他公共の事業ニ盡力シ兼テ會員相互

ノ交誼ヲ厚ウスルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ佐川町青年會ト稱シ本町ニ居住シ義務教育ヲ修了セル男子ニシテ二十五歳以下ノモノヲ以テ組織シ其事務所ヲ佐川尋常小學校内ニ置ク
第三條 本會ニ名譽會員ヲ置ク名譽會員ハ名望アルモノ本會ニ功勞アルモノ及ヒ本會規定ノ年限ヲ超ヘタルモノヨリ會長之ヲ推薦スルモノトス
第四條 本會ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ政黨政派ニ干與スルコトヲ得ス

第五條 本會ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一本會ハ夜學會ヲ開キ會員ニ對シ普通教育ノ補習ヲナスコト
- 二道德實業衛生其他學術ニ關スル講習會及講演會ヲ開催スルコト
- 三角力劍道柔道銃槍游泳其他體育上有益ナル會合ヲ催ス事
- 四農工商等適切ナル事業ニ就キ共同一致シテ改善ヲ發展ヲ圖ルコト
- 五各種事業調査ノ爲視察員ヲ派遣スルコト

六軍人送迎慰問及後援ニ關シ相當援助スルコト
七其他青年ニ適當スル事項

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ其ノ任期ヲ二ケ年トシ滿期再選スルコトヲ得

會長 一名 副會長 一名 幹事 若干名
顧問 若干名

會長ハ本會一切ノ事務ヲ統督シ外部ニ對シ本會ヲ代表ス副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ庶務會計ヲ掌ル顧問ハ會長ノ諮問ニ應シテ會務ニ關スル事項ヲ審議ス

第七條 正副會長ハ名譽會員中ヨリ推薦シ幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定メ顧問ハ名譽會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第八條 會議ヲ分チテ左ノ三種トス
役員會 定期總會 臨時總會
役員會ハ毎月定日ニ集會シテ重要ナル會務ヲ決議ス
定期總會ハ毎年春秋二回トシ會務ノ報告會計決算ノ認否收支豫算及重要ナル案件ヲ決議ス

臨時總會ハ緊急事項アルニ當リ會長之ヲ招集シ又ハ會員半数以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的事項ヲ示シテ請求アリタルトキニ於テ之ヲ開クモノトス

第九條 會員中吉凶アルトキハ相當ノ方法ヲ以テ之ヲ慶弔ス

第十條 會員ニシテ操行善良勇敢義俠慈仁等賞ハヘキ行爲アルモノ及本會ノ事業ニ對シ功勞アルモノハ相當ノ方法ニヨリ之ヲ表彰ス

第十一條 本會ニ要スル費用ハ會費金及會員ノ餘業ニ依リ得タル收益金寄附金並ニ本町補助金ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 會長ハ本則ニ關シ役員會ノ同意ヲ得テ細則ヲ設クルコトヲ得

二 青年夜學會
イ 沿革

明治三十三年佐川夜學會ヲ設立シ中組ナル公會堂ヲ以テ會場トシ雜誌ノ購讀其他ノ書籍ヲ會讀シテ智識ノ研究ニ資セリ全三十六年ニ至リ會場ノ不便ヲ感ジ尋常小學校ニ移シ學校職員ノ指導有志ノ獎勵及會員ノ奮勵ニ依リテ漸々進歩發達シ其成績佳良ナルニ至リ明治四十

年ハ町費十五圓ノ補助ヲ仰キ以後年々町ノ補助ヲ受ケ
 一六ノ夜ヲ以テ定會日トシ教員輪番ヲ以テ授業セリ全
 四十四年ニ至リ會員七十名ヲ有セリ全年十月女子部ヲ
 置キ校長森岡八十吉之ヲ監督シ會員五十余名アリテ好
 成績ヲ擧ケシカ後事情ニヨリ女子部ハ之ヲ廢止シ男子
 部ハ前日ノ如ク繼續シ會員中特ニ成績良好ナルモノハ
 本郡教育會ヨリ選賞ヲ受タルモノアリ而シテ大正五年
 ニ至リ一月青年會ノ組織新ニ成ルニ及ヒ其指導方法ト
 シテ毎月六回ノ夜學會ヲ開キ尋常高等兩學校中ノ教員
 ヲ選擇シ之レニ教授ヲ囑託シ指導獎勵以テ補習教育ノ
 徹底ヲ期セリ現時夜學會規定並其狀況左ノ如シ

佐川町青年夜學會規定
 一名稱及會場 本會ハ佐川町青年夜學會ト稱シ會場
 一課程表

學科	甲		乙		丙	
	時數	教授	時數	教授	時數	教授
修身	一	一	一	一	全	全
國語	六	六	六	六	全	全
算術	四	四	四	四	全	全
社交上ノ道德						
普通文ノ讀解						
日本文公用文						
日用計算						
全法制ヲ加フルコト						
アルヘシ						
全上簿記ヲ加フルコト						
トアルヘシ						

ヲ佐川尋常小學校ニ置ク
 一組別 會員ノ學力年齢ヲ參酌シテ甲乙丙ノ三組ト
 ス
 一會日及時間 一ヶ月六回トシ一六ノ日ヲ以テ開會
 シ每會二時間トス
 一休會 左ノ場合ハ休會トス
 農商繁忙ノ時期 祝祭日 年末年始休會中 暑中
 休暇中
 一學科 修身國語算術實業法制及武術トス
 但實業ハ農商業トシ家業ニ應ジテ其一ヲ撰ハシム
 武術ハ當分ノ内劍道トシ別ニ時間ヲ定メス臨時之
 ヲ行フコトアルヘシ

實業 一 普通農業 商業一般 一 全 一 全

一講師 夜學會教授擔任ノ爲講師若干名ヲ置キ會長
 之ヲ囑託ス

ロ 夜學會狀況

- 一會員 在籍者毎月平均五十名
- 一出席會員 毎月平均四十三名余
- 一甲部會員 在籍者毎月平均二十余名
- 一出席會員 毎月平均十六名余
- 備考甲部ト稱スルハ高等小學校第三學年ノ卒業生
 ヲ以テ組織セルモノナリ

三 伊藤蘭林獎學財團

沿革 明治三十年四月三日伊藤蘭林先生ノ紀德碑ヲ建
 設スルニ當リ先生ノ薰陶ヲ受ケ又ハ其德望ヲ慕フノ人
 士此舉ヲ贊同シ寄附金ノ總額參百五圓七十錢ヲ得内貳
 百五拾圓七拾錢ヲ建碑費ニ使用シ殘金五拾五圓ハ田中
 伯爵土方法學博士ノ提案勸奨ニ依リ蘭林先生紀德獎學
 資金トナシ建碑發起人總代堀見久庵管理ノ下ニ全三十
 年四月ヨリ三十六年四月迄六年間一割ノ利率ヲ以テ
 増殖シ其利子五圓五十錢ハ毎年尋常高等兩小學校卒業

生全部ニ記念品ヲ授與スルコト、シ毎年三月末ノ證書
 授與式ニ於テ先生ノ德行及獎學資金ノ性質等ヲ説キ物
 品ヲ贈與シテ兒童ノ學業ヲ獎勵セリ然ルニ前記ノ如ク
 一割ノ利子ヲ得ルニハ勢ヒ個人貸附ヲナサルベカラ
 ズ斯クスルトキハ一面又不確實ノ虞アルヲ以テ此際資
 金ヲ增加シ郵便貯金(利子五分四毛)利子ニテ前全樣
 ノ利金ヲ得ンコトヲ希劃シ在京ノ先輩並郷里ノ有志ニ
 就テ寄附ヲ募集シ五十五圓ヲ得テ之ヲ原資ニ投入シ倍
 數ノ基金トナリ三十七、八年ハ五圓五十四錢余ヲ支出
 シテ前全樣記念品ヲ授與シアリシカ兩校共ニ漸々兒童
 ノ増加ニ依リ記念品購入費ニ不足アルヲ以テ第二回ノ
 増資寄附募集ヲナシ百貳拾圓五拾錢トナリ四十年度ニ
 於テハ其支出ヲ多クスルコトヲ得ルニ至レリ而シテ此
 年更ニ田中伯爵ヨリ金五拾圓片岡男爵ヨリ金貳拾圓其
 他町内有志ノ婚姻舉兒年賀任官増俸等ノ慶事ニ依リ記
 念寄附ノ受領ヲナシ年末ニ於テハ基金合計三百拾四圓
 五十錢奈トナリ其利子ニテ優ニ物品ヲ贈與スルコトヲ
 得ルニ至レリ同四十三年五月左記手續ヲ經テ財團法人

トナシタリ

財團法人設立申請

故伊藤蘭林先生ハ佐川町ノ碩儒ニシテ學德共ニ高ク身ヲ後進子弟ノ薰陶ニ委ネ郷黨ノ學風ヲ振興セシ偉人ニ有之候處拙者共深ク先生ノ學風ヲ欽慕シ其ノ恩德ヲ記念センカ爲茲ニ別紙寄附行爲ニヨリ伊藤蘭林獎學財團ヲ設立致シ度候ニ付御許可相成度此段申請候也

明治四十三年四月二十日

高知縣高岡郡佐川町

堀見 久庵

堀見 烈助

弘田 流水

森岡八十吉

川田豊太郎

竹村貞次郎

西田鎌太郎

西村龜太郎

文部大臣小松原英太郎殿

伊藤蘭林獎學財團寄附行爲

第一目的

此財團法人ハ佐川尋常小學校佐川高等小學校（將來學校ノ廢置アルトキハ二校ニ相當スル學校）ノ兒童及卒業生ニ賞品ヲ授與シ品行方正ナル貧生ニ學費ヲ補助シ又ハ貸與シ其他評議員會ニ於テ適當ト認ムル方法ニヨリ修學ヲ獎勵スルヲ以テ目的トス

第二名稱

此財團法人ハ伊藤蘭林獎學財團ト稱ス

第三事務所

本財團ノ事務所ハ高知縣高岡郡佐川町甲七百三十五番地ニ置ク

第四資産

本財團ハ資産金三百七十圓及其利子並設立後贈與遺贈等ニ因リテ取得スル財産ヨリ成ル

資産ハ評議員會ノ決議ニ基キ理事之ヲ管理ス

每事業年度（事業年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月卅一日ニ終ル但初年度ハ設立許可ノ日ヲ以テ始マル）ニ支出スルコトヲ得ヘキ金額ハ前年度末ニ現存スル財産ヨリ生ズル利子ヲ限度トシ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五理事

評議員會ノ議長ハ專務理事ヲ以テ之ニ充テ專務理事事故アルトキハ他ノ理事之ヲ代理スルモノトス

第七 附則

本寄附行爲第三以下ハ評議員會ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニヨリ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

理事氏名 專務理事 堀見久庵 理事 堀見烈助 評議員十二名 氏名略

右申請ニ對シ左ノ通主務大臣ノ許可ヲ得タリ

伊藤蘭林獎學財團設立者西村龜太郎外七名

明治四十三年四月二十日申請財團法人設立ノ件民法第三十四條ニヨリ許可ス

明治四十三年十月五日

文部大臣 小松原英太郎

是レニ依テ須崎區裁判所佐川出張所ニ於テ登記ヲ了シ完全ナル法人組織トナリ基礎確立シ蘭林先生ノ遺徳長ク没スル事ナク吾町ノ教育界ニ裨益ヲ與フル蓋シ鮮少ニアラサルナリ而シテ全年未ニ於ケル資金ハ參百九十七圓五拾貳錢アリ此利子ニ依リテ年々豫期ノ事業ヲ施行シツ、アリシカ明治四十四年一月理事堀見久庵死去

文部大臣 小松原英太郎

本財團ノ理事ハ二名トシ内一名ノ年長者ヲ以テ專務理事トス若同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
理事ノ任期ハ三ケ年トシ其任免ハ評議員會ノ議決ニ依ル
理事ハ寄附者ノ名簿ヲ作り本財團ノ寄附行爲ト共ニ之ヲ永久ニ保存ス
專務理事ハ本財團ノ事務ヲ執行シ每事業年度ノ終ニ於テ前年ノ事務ヲ評議員會ニ報告ス
理事ハ專務理事ヲ補佐シ其事故アルトキ之レニ代ル

第六 評議員

本財團ニ評議員十二名ヲ置ク其任期ハ五ケ年トス評議員ハ寄附者中ヨリ投票ヲ以テ之ヲ選任ス
評議員ニ欠員ヲ生シ半數以上ニ減シタルトキハ補欠選舉ヲ行フモノトス
評議員會ハ毎年事業年度ノ終ニ於テ理事之ヲ招集ス但必要アルキハ臨時之ヲ招集スル事ヲ得評議員五名以上ノ請求アルトキハ理事ハ必評議員會ヲ招集スヘシ
評議員會ノ議事ハ出席員過半數ノ同意ヲ得テ之ヲ決行ス